■科目名			
特別指導演習I			
■英語名			
Special Independent Study I			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目/社会人	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
鳥飼貴司	099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし。			
■授業概要			
※全授業回対面形式で行う予定である。 税法学の論文を数多く読むことで，修士論文のイメージを体得する。			
■学修目標			
修士論文の必要的執筆内容を理解すること。			
■授業計画			
※全授業回「対面授業」の予定である。例外的な状況になった際には、予めmanabaのコースニュースで告知する。 第１回ガイダンス 第２回報告と討論（１） 第３回報告と討論（２） 第４回報告と討論（３） 第５回報告と討論（４） 第６回報告と討論（５） 第７回報告と討論（６） 第８回報告と討論（７） 第９回報告と討論（８） 第１０回報告と討論（９） 第１１回報告と討論（１０） 第１２回報告と討論（１１） 第１３回報告と討論（１２） 第１４回報告と討論（１３） 第１５回まとめ			
■教科書			
特になし。			
■参考書			
金子宏『租税法』弘文堂			
■成績の評価基準			
報告・討論の内容を評価する（100%）。			
■オフィスアワー			
月曜日～金曜日、12：00～12：50（会議などで不在にしている場合もあります）			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
使用するテキストについては、受講生の関心に合わせて追加・変更することもありえる。			

■科目名			
特別指導演習I			
■英語名			
Special Independent Study I			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目/社会人	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
鳥飼貴司	099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし。

■授業概要

税法学の論文を数多く読むことで，修士論文のイメージを体得する。

■学修目標

修士論文の必要的執筆内容を理解すること。

■授業計画

※全授業回「対面授業」の予定である。例外的な状況になった際には、予めmanabaのコースニュースで告知する。

第１回ガイダンス
第２回報告と討論（１）
第３回報告と討論（２）
第４回報告と討論（３）
第５回報告と討論（４）
第６回報告と討論（５）
第７回報告と討論（６）
第８回報告と討論（７）
第９回報告と討論（８）
第１０回報告と討論（９）
第１１回報告と討論（１０）
第１２回報告と討論（１１）
第１３回報告と討論（１２）
第１４回報告と討論（１３）
第１５回まとめ

■教科書

細川 健『租税法修士論文の書き方』　白桃書房

■参考書

金子宏『租税法』弘文堂

■成績の評価基準

受講態度。

■オフィスアワー

月曜日～金曜日、12：00～12：50（会議などで不在にしている場合もあります）

■受講要件

特になし。

■備考

使用するテキストについては、受講生の関心に合わせて追加・変更することもありえる。

■科目名			
特別指導演習I			
■英語名			
Special Independent Study I			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目/社会人	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中島宏	099-285-7633	h-nakaji@leh.kagoshima-i.ac.jp	
■共同担当教員			

■授業概要

刑事法分野に関して、具体的な研究テーマを素材として、先行研究の調べ方、犯罪統計や裁判例など第一次資料の収集方法、学術論文のライティング技法を身につける。この過程を通じて、リサーチペーパーあるいは判例評釈を作成する。

■学修目標

１）先行研究を網羅的にリサーチできるようになる。
２）各種統計や裁判例などの第一次情報を効率的にリサーチできるようになる。
３）学術論文のライティング技法を身につける。
４）学位論文のテーマの発見するための糸口を見出す。

■授業計画

いずれも対面方式で実施する予定である。ただし、新型コロナウィルス感染症の拡大状況に照らして、適宜、遠隔方式に切り替える。

第１回　研究対象とするテーマを検討する
第２回　研究対象テーマの決定
第３回　先行研究のリサーチ（１）
第４回　先行研究のリサーチ（２）
第５回　先行研究の分析（１）
第６回　先行研究の分析（２）
第７回　第一次資料の収集（１）
第８回　第一次資料の収集（２）
第９回　リサーチペーパーまたは判例評釈の執筆（１）
第１０回　リサーチペーパーまたは判例評釈の執筆（２）
第１１回　リサーチペーパーまたは判例評釈の執筆（３）
第１２回　中間報告
第１３回　リサーチペーパーまたは判例評釈の執筆（４）
第１４回　リサーチペーパーまたは判例評釈の執筆（５）
第１５回　最終報告

■教科書

特に定めない。

■参考書

適宜案内する。

■成績の評価基準

最終提出物（リサーチペーパーまたは判例評釈）による。

■オフィスアワー

月曜４限。ただし、院生については常時、研究室を自由に訪問されたい。

■受講要件

専門職業人養成コースの学生を対象とする。

■備考

■科目名			
特別指導演習I			
■英語名			
Special Independent Study I			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目/社会人	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中島宏	099-285-7633	h-nakaji@leh.kagoshima-i.ac.jp	
■共同担当教員			

■授業概要

刑事訴訟法分野に関して、具体的な研究テーマを素材として、先行研究の調べ方、犯罪統計や裁判例など第一次資料の収集方法、学術論文のライティング技法を身につける。この過程を通じて、リサーチペーパーあるいは判例評釈を作成する。

■学修目標

１）先行研究を網羅的にリサーチできるようになる。
２）各種統計や裁判例などの第一次情報を効率的にリサーチできるようになる。
３）学術論文のライティング技法を身につける。
４）学位論文のテーマの発見するための糸口を見出す。

■授業計画

いずれも対面方式で実施する予定である。ただし、新型コロナウィルス感染症の拡大状況に照らして、適宜、遠隔方式に切り替える。

第１回　研究対象とするテーマを検討する
第２回　研究対象テーマの決定
第３回　先行研究のリサーチ（１）
第４回　先行研究のリサーチ（２）
第５回　先行研究の分析（１）
第６回　先行研究の分析（２）
第７回　第一次資料の収集（１）
第８回　第一次資料の収集（２）
第９回　リサーチペーパーまたは判例評釈の執筆（１）
第１０回　リサーチペーパーまたは判例評釈の執筆（２）
第１１回　リサーチペーパーまたは判例評釈の執筆（３）
第１２回　中間報告
第１３回　リサーチペーパーまたは判例評釈の執筆（４）
第１４回　リサーチペーパーまたは判例評釈の執筆（５）
第１５回　最終報告

■教科書

なし

■参考書

なし

■成績の評価基準

最終提出物（リサーチペーパーまたは判例評釈）による

■オフィスアワー

月曜３限。研究室への訪問はこの時間帯に限らずいつでもよい。

■受講要件

専門職業人養成コースの学生を対象とする

■備考

■科目名			
財産法特論			
■英語名			
Lecture of Property Law			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
植本幸子	@leh.kagoshima-u.ac.jp	uemt05（上記と組み合わせること）	
■共同担当教員			
該当無し			
■授業概要			
物権・担保権に関連する問題についての裁判例の分析を行う。			
■学修目標			
・物権・担保権に関連する基本的な論点について理解をし説明することができる。 ・物権・担保権に関連する裁判例について内容を理解しまとめるための基本的知識と技術を身につける。			
■授業計画			
授業計画 ・原則的に、全回、リアルタイムZoom双方向で行う。 ・開講時間割と日程については個別相談に応じるので、メールで相談すること。 ・初回に参加者の学習状況、希望に応じて教材を決定する。 ・大学院の授業であるので原則的に毎回予習と発言が求められる。 ・一例　（内田貴・民法シリーズ使用の場合） 第１回　　ガイダンス 第２回　　物権と債権、物、不動産と動産、主物と従物、物権法定主義 第３回　　物権的請求権 第４回　　所有権の取得 第５回　　占有訴権 第６回　　物権変動１　物権変動の時期、公示と公信、対抗要件（１）（登記） 第７回　　物権変動２　対抗要件（２）、契約以外による不動産物権変動、動産の物権変動 第８回　　用益物権 第９回　　優先権の説明、留置権、先取特権 第１０回　質権、抵当権１（被担保債権） 第１１回　抵当権２（目的物の範囲、物上代位） 第１２回　抵当権３（法定地上権と一括競売） 第１３回　抵当権４（実行前の効力、順位の変更） 第１４回　抵当権５（実行、消滅、根抵当、抵当証券） 第１５回　非典型担保物権 ・初回に民法科目の履修・聴講状況を報告すること。学部既習者は、家族法以外の民法の教科書で所有するものの文献情報を持参すること（現物も持参することが望ましい）。 ・授業計画は例である。取り扱う対象について希望のある者は積極的に相談すること。			
■教科書			
・六法（有斐閣、岩波、三省堂）のいずれか。			
■参考書			
・家庭学習用に法律用語辞典(指定無し)を用意するのがのぞましい。			
■成績の評価基準			
１００％：授業への取り組み態度（発言・予習による準備状況、質問票提出、レポート） ・すべての回に出席するのは履修の前提である。正当理由の有無に関わらず、必ず連絡相談すること。			
■オフィスアワー			
追って指示する			

■受講要件

・初回に出席できない者は事前に必ずメールで相談すること。開講期間より前に相談することが望ましい。

■備考

該当無し

■科目名			
財産法演習			
■英語名			
Seminar of Property Law			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
植本幸子	kagoshima-u.ac.jp（下記と組み合わせよ。タイトル部分に必ず授業名と学年（M1等）・氏名を表記のこと。）	uemt05@leh.	

■共同担当教員

該当無し

■授業概要

財産法に関連する問題についての演習を行う。

■学修目標

財産法に関連する問題について自ら調べ報告することができる。
また、レポート報告、あるいは評釈として文書をまとめることができる。

■授業計画

・開講時間割については個別変更に応じられる可能性があるのでメールで相談すること。
・対面とし、感染状況や体調に応じ、Zoom双方向で行う。
・２０２１年度は、オリジナルの小問を解き、関連する判例を調べる方式で行っている。

第１回　ガイダンスと報告割り当て（対面）
第２回　研究倫理(対面)
第３回　報告と討論(担保物権総論１）(対面)
第４回　報告と討論(担保物権総論２）(対面)
第５回　報告と討論(留置権１）（(対面)
第６回　報告と討論(留置権２）(対面)
第７回　報告と討論(先取特権１）(対面)
第８回　報告と討論(先取特権２）(対面)
第９回　報告と討論(先取特権３）(対面)
第１０回　報告と討論(質権）(対面)
第１１回　報告と討論（抵当権１）(対面)
第１２回　報告と討論(抵当権２）(対面)
第１３回　報告と討論(抵当権３）(対面)
第１４回　報告と討論（根抵当権）(対面)
第１５回　報告と討論(抵当権の処分）(対面)

■教科書

・六法は必ず携行すること。有斐閣、岩波、三省堂のものより適宜選ぶこと。

■参考書

・報告に関連する文献は必ず手元に用意すること。

■成績の評価基準

１００％：授業への取り組み態度（報告、質問票提出、レポート）
・すべての回に出席することが原則となる。

■オフィスアワー

追って指示する。

■受講要件

該当無し

■備考

演習は事前に課題の割り当てを行う必要がある。履修者全員の迷惑となるので、第１回の授業終了後の履修取り

やめや長期欠席は遠慮されたい。

■科目名			
刑事手続法演習			
■英語名			
Seminar of Criminal Procedure			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中島宏	099-285-7633	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

刑事訴訟法およびその周辺領域における具体的な課題について、先行研究と実務の動向をリサーチして考察を加えた研究報告を行う。必要に応じて、訴訟関係人からのインタビュー、訴訟記録の分析、公判傍聴なども行って、刑事法研究の基礎的な手法を身につける。

■学修目標

（１）刑事法研究の基礎的な手法を修得する。
（２）わが国の刑事訴訟における今日的な課題を網羅的に把握する。
（３）刑事訴訟における具体的な課題に対する解決策を構想する。

■授業計画

基本的には対面式で実施するが、受講者の事情を考慮して随時遠隔方式も採り入れる。また、感染症拡大状況など社会情勢に応じて実施形態を変更することがある。その場合には事前に通知する。

第１回　研究方針の策定
第２回　研究課題と研究方法のプレゼンテーション
第３回　学生による報告と討論（１）
第４回　学生による報告と討論（２）
第５回　学生による報告と討論（３）
第６回　学生による報告と討論（４）
第７回　学生による報告と討論（５）
第８回　学生による報告と討論（６）
第９回　学生による報告と討論（７）
第１０回　学生による報告と討論（８）
第１１回　学生による報告と討論（９）
第１２回　学生による報告と討論（１０）
第１３回　報告書の作成（１）
第１４回　報告書の作成（２）
第１５回　まとめ

■教科書

特に指定しない。

■参考書

追って指示する。

■成績の評価基準

平常点（研究報告の水準、発言内容など）100%

■オフィスアワー

月曜３限。この時間に限らず研究室への来訪は自由。

■受講要件

なし

■備考

刑事法の各分野につき一定の知識を有していることを前提とする。

■科目名			
教育と法特論			
■英語名			
Lecture of Law and Education			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
渡邊 弘	099-285-8865	hiroshi1968@gm.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

第一に、「教育法＝教育に関する法」を学び、それに基づいて教育をめぐる法的課題について自ら考える力を涵養することを目的とする。
第二に、「法教育＝法に関する教育」を学び、法に関する教育のあり方について現状を把握するとともに、そのあるべき姿を探る力を涵養することを目的とする。
図書館を積極的に活用して学習を進められたい。
予習課題が課されるので、その課題について毎回確実に取り組むことが求められる。

■学修目標

1. 教育法の基礎的な知識について説明することができる。
2. 教育法の基礎的な知識を活用して、教育における法的課題について、自らの法的見解を提示することができる。
3. 法教育の基礎的な知識について説明することができる。
4. 法教育の基礎的な知識を活用して、法に関する教育について、その目標・内容・方法を具体的に提案することができる。

■授業計画

1. イントロダクション（教育法について、法教育について）
2. 教育法の基本原理
3. 教育を受ける権利（1）教育の外的事項（特に教育の無償について）
4. 教育を受ける権利（2）教育の内的事項（特に教育内容・方法の決定権の所在について）
5. 教育専門職としての教師
6. 教育の民主主義的統制（1）教育委員会制度によるレイマンコントロール
7. 教育の民主主義的統制（2）保護者や地域住民と学校
8. 子どもの権利を保障する（侵害しない）ための教育制度は可能か
9. 法教育の3つの潮流（1）社会科教育研究者・法律実務家と法教育
10. 法教育の3つの潮流（2）司法制度改革と法教育
11. 法教育の実践例（1）「裁判員制度教育」
12. 法教育の実践例（2）刑事手続（特に適正手続）に関する教育
13. 法教育のねらいは何か
14. 法教育の実践例（3）主権者教育
15. 教育法の目的と法教育の目的

■教科書

特にない。レジュメを配布することがある。
manabaを通じて参考文献を紹介するので、それらを積極的に利用すること。

■参考書

manabaを通じて参考文献を紹介する。

■成績の評価基準

予習課題の提出とそれに基づく主体的な授業参加（発言などを含む）：60%
小レポート（2回を予定）：40%

■オフィスアワー

授業終了直後を基本とする（授業を遠隔にて実施するためmanabaを利用すること）。
※その他の日時でも質問などに対応する。

※面会して質問などをしたい場合には、manabaの「個人指導」機能を使って教員へ連絡すること。
※manabaの「個人指導」機能や「掲示板」機能を用いた質問などは、いつでも対応する（返答に少し時間がかかる場合がある）。

■受講要件

特に条件はない。主体的に熱心に学ぶ者を歓迎する。教育法や法教育に関する特別な知識は必要ないが、憲法に関する基礎的な知識があることは望ましい（必須ではない）。

■備考

特になし

■科目名			
教育と法演習			
■英語名			
Seminar of Law and Education			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
渡邊 弘	099-285-7593	fujimura@km.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

本授業では，政治学の基本的な概念や歴史的視座を身につけるために，広い視野で政治学に関連する文献を読み，キー概念を理解し議論を行う。

■学修目標

(1)政治学に関する基本的な概念を身につけ，学術的な議論を行う。
(2)歴史的視座を獲得する。

■授業計画

遠隔授業によって実施します。状況によって対面式の授業に変更になる場合があります。変更やお知らせについてはmanabaを参照してください。

第1回　オリエンテーション
第2回　歴史と現代政治についての考察
第3回　歴史と現代政治についての考察
第4回　歴史と現代政治についての考察
第5回　歴史と現代政治についての考察
第6回　歴史と現代政治についての考察
第7回　歴史と現代政治についての考察
第8回　歴史と現代政治についての考察
第9回　歴史と現代政治についての考察
第10回 歴史と現代政治についての考察
第11回 歴史と現代政治についての考察
第12回 歴史と現代政治についての考察
第13回 歴史と現代政治についての考察
第14回 歴史と現代政治についての考察
第15回　講評

■教科書

開始時に決定する

■参考書

なし

■成績の評価基準

平常点

■オフィスアワー

月曜6時間目

■受講要件

なし

■備考

特になし

■科目名			
法実務演習			
■英語名			
Special Lecture of Laws			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
原田いづみ	099-285-7651	haradaiz@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

社会的マイノリティの人権問題について考える。女性、高齢者、障がい者、性的マイノリティ、外国人、加害者家族など、社会的マイノリティが社会や身の周りでどのような状況に置かれているかを確認し、これらに関する法的問題や裁判例を取り上げ、討議をする。主に受講生からの報告を中心に進める。

■学修目標

・身の周りの社会的マイノリティの存在、状況を把握する。
・社会的マイノリティの人権問題について法的な解決方法を検討する。
・社会的マイノリティの人権問題について、自らが何をできるか考え、提案する。

■授業計画

第１回　　ガイダンス
第２回　　問題提起、討論
第３回　　問題提起、討論
第４回　　問題提起、討論
第５回　　問題提起、討論
第６回　　問題提起、討論
第７回　　問題提起、討論
第８回　　問題提起、討論
第９回　　問題提起、討論
第１０回　問題提起、討論
第１１回　問題提起、討論
第１２回　問題提起、討論
第１３回　問題提起、討論
第１４回　問題提起、討論
第１５回　まとめ
講義形態は、対面型であり、情勢によっては遠隔方式（オンライン、オンデマンド）で行う。

■教科書

適宜指定

■参考書

適宜指定

■成績の評価基準

出席、発表、討論の内容、積極性

■オフィスアワー

月曜６限

■受講要件

特になし

■備考

教員は弁護士であり、新聞記者、地方自治体弁護士などの経験も有しており、これらの経験を基に多角的な問題解決アプローチの可能性を提示する。

■科目名			
民事手続法			
■英語名			
Civil Procedure			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
齋 藤 善 人	099-285-3526	saito@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			

■授業概要

■ 民事に関する手続法は多様である。民事訴訟法をはじめ、民事執行法、民事保全法、破産法、民事再生法といった主要法典のほかにも、民事調停法や仲裁法、ＡＤＲ法など、多彩な法領域／分野である。それゆえ、物理的に限られた時間の中で、それらを網羅的に消化することは不可能であり、ここでは、民事手続の中核といえる「民事訴訟法」の基礎理論の解明を通じて、民事手続法における“ものの考え方”を修得することを念頭に置きたい。具体的には、「訴訟物と既判力の生じる範囲」を一貫した考察対象として設定する予定である。

■学修目標

□ 民事訴訟法の主要な論点に関し、自ら文献を狩猟検索し、それを正しく「読み解く」ことができる。
□ 民事訴訟法の主要な論点に係る判例法理を理解し、説明できる。
□ 民事訴訟法の主要な論点に関し、基礎学力をベースに思考回路を設計し、論理的に説明することができる。

■授業計画

以下のようなテーマに係る問題演習（含、判例研究）を予定。

■ 審判の対象と訴訟物／訴訟物の異同と重複訴訟の禁止
第１講　問題演習（含、判例研究）
第２講　問題演習（含、判例研究）
第３講　問題演習（含、判例研究）

■ 一部請求
第４講　問題演習（含、判例研究）
第５講　問題演習（含、判例研究）
第６講　問題演習（含、判例研究）

■ 処分権主義
第７講　問題演習（含、判例研究）
第８講　問題演習（含、判例研究）
第９講　問題演習（含、判例研究）

■ 既判力の客観的範囲
第１０講　問題演習（含、判例研究）
第１１講　問題演習（含、判例研究）
第１２講　問題演習（含、判例研究）

■ 信義則による後訴の遮断と争点効
第１３講　問題演習（含、判例研究）
第１４講　問題演習（含、判例研究）
第１５講　問題演習（含、判例研究）

以上のようなテーマに係る問題演習（含、判例研究）を予定。
ただし、詳細については、開講前に改めて連絡する予定。

■ なお、この授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動によっては、変更されることもあり得る。

■教科書

■ 野村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法（北樹出版・平成３０）

■参考書

【１】入門書／導入書として

1.木山泰嗣・小説で読む民事訴訟法（法学書院・平成２０）
2.木山泰嗣・小説で読む民事訴訟法2（法学書院・平成２４）
3.山本和彦・よくわかる民事裁判［第2版補訂］（有斐閣・平成２０）
4.中野貞一郎・民事裁判入門［第3版補訂］（有斐閣・平成２４）

【２】基本書／体系書

5.高橋宏志・重点講義民事訴訟法（上）［第2版補訂版］,（下）［第２版］（有斐閣・平成２５,２４）
6.藤田広美・講義民事訴訟［第３版］（東京大学出版会・平成２５）
7.藤田広美・解析民事訴訟［第２版］（東京大学出版会・平成２５）
8.松本博之=上野泰男・民事訴訟法［第８版］（弘文堂・平成２７）
9.伊藤眞・民事訴訟法［第６版］（有斐閣・平成３０）
10.河野正憲・民事訴訟法（有斐閣・平成２１）
11.三木浩一=笠井正俊ほか・LEGAL QUEST民事訴訟法［第２版］（有斐閣・平成２７）
12.和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法（商事法務・平成２４）
13.小島武司・民事訴訟法（有斐閣・平成２５）
14.新堂幸司・新民事訴訟法［第５版］（弘文堂・平成２３）
15.梅本吉彦・民事訴訟法［第４版］（信山社・平成２２）
16.川嶋四郎・民事訴訟法（日本評論社・平成２５）
17.川嶋四郎・民事訴訟法概説［第２版］（弘文堂・平成２８）
18.山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法［第３版］（有斐閣・平成３０）

【３】演習書

19.伊藤眞=山本和彦編・民事訴訟法の争点（有斐閣・平成２１）
20.伊藤眞=加藤新太郎=山本和彦・民事訴訟法の論争（有斐閣・平成１９）
21.遠藤賢治・事例演習民事訴訟法［第３版］（有斐閣・平成２５）
22.長谷部由起子=山本弘=笠井正俊・基礎演習民事訴訟法［第２版］（弘文堂・平成２５）
23.山本和彦編著・Law Practice 民事訴訟法［第２版］（商事法務・平成２７）
24.勅使河原和彦・読解民事訴訟法（有斐閣・平成２７）
25.杉山悦子・民事訴訟法ー重要問題とその解法ー（日本評論社・平成２６）

【４】注釈書／コンメンタール

26.笠井正俊=越山和広編・新コンメンタール民事訴訟法［第２版］（日本評論社・平成２５）
27.兼子一原著／松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志ほか・条解民事訴訟法［第２版］（弘文堂・平成２３）
28.加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタール民事訴訟法１,２（日本評論社・平成２９）

【５】判例教材

29.高橋宏志=高田裕成=畑瑞穂編・民事訴訟法判例百選［第５版］（有斐閣・平成２７）
30.小林秀之編・判例講義 民事訴訟法（弘文堂・平成３１）

■成績の評価基準

■ 平素の授業現場におけるプロセス（起案、レポート等、授業での質疑応答や報告などのパフォーマンス）で評価する。

■オフィスアワー
■ 対面の形式でのオフィスアワーは、当面、実施する予定はない。個別のメールによる対応や、manaba上のスレッドによる対応となろう。
■受講要件
■ 民事実体法（主に民法）について基本的理解があることを前提に授業は進行するので、その点、留意されたい。
■備考
特になし

■科目名			
法実務特論			
■英語名			
Special Lecture of Laws			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
原田いづみ	099-285-7651	haradaiz@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

社会的マイノリティの人権問題について考える。女性、高齢者、障がい者、性的マイノリティ、外国人、加害者家族など、社会的マイノリティが社会や身の周りでどのような状況に置かれているかを確認し、これらに関する法的問題や裁判例を取り上げ、受講生で討議をする。テーマは受講生が疑問に思う問題点も積極的に取り上げていく。

■学修目標

・身の周りの社会的マイノリティの存在、状況を把握する。
・社会的マイノリティの人権問題について法的な解決方法を検討する。
・社会的マイノリティの人権問題について、自らが何をできるか考え、提案する。

■授業計画

第１回　　ガイダンス
第２回　　問題提起、討論
第３回　　問題提起、討論
第４回　　問題提起、討論
第５回　　問題提起、討論
第６回　　問題提起、討論
第７回　　問題提起、討論
第８回　　問題提起、討論
第９回　　問題提起、討論
第１０回　問題提起、討論
第１１回　問題提起、討論
第１２回　問題提起、討論
第１３回　問題提起、討論
第１４回　問題提起、討論
第１５回　まとめ
講義形態は、対面型であり、情勢によっては遠隔方式（オンライン、オンデマンド）で行う。

適宜社会的マイノリティの人権のために活動しているゲストスピーカーも予定している。

■教科書

適宜提示

■参考書

棟居快行ほか『基本的人権の事件簿』第６版（２０１９年、有斐閣）

■成績の評価基準

出席、発表、討論の内容、積極性

■オフィスアワー

月曜６限

■受講要件

特になし

■備考

教員は弁護士であり、新聞記者、地方自治体弁護士などの経験も有しており、これらの経験を基に多角的な問題解決アプローチの可能性を提示する。

■科目名			
社会保障法演習			
■英語名			
Seminar of Social Security Law			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
伊藤周平	099-285-7652	itos@leh.kagoshima-u-ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

日本の社会保障法の現状と課題について、テーマごと（生活保護、年金、医療、介護保険、労災、雇用保険、社会福祉など）に判例研究を行う。

■学修目標

社会保険労務士試験問題、公務員試験問題（公法）に対応できる学力を身につける。

■授業計画

１回　ガイダンス、判例研究の意義
２回　生活保護法の判例研究１、報告と討議
３回　生活保護法の判例研究２、報告と討議
４回　医療保障法の判例研究１、報告と討議
５回　医療保障法の判例研究２、報告と討議
６回　介護保険法の判例研究、報告と討議
７回　労災保険法の判例研究１、報告と討議
８回　労災保険法の判例研究２、報告と討議
９回　雇用保険法の判例研究、報告と討議
10回　年金保険法の判例研究１、報告と討議
11回　年金保険法の判例研究２、報告と討議
12回　児童福祉法の判例研究１、報告と討議
13回　児童福祉法の判例研究２、報告と討議
14回　障害者福祉法の判例研究、報告と討議
15回　まとめ

■教科書

伊藤周平『社会保障法』自治体研究社、2021年

■参考書

特になし。適宜指示する。

■成績の評価基準

平常点

■オフィスアワー

火曜日３時限

■受講要件

特になし

■備考

■科目名			
法人税法			
■英語名			
Tax Law of Corporation			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
森田純弘	099-221-7704	moritajunkohoficina@yahoo.co.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

法人税法を法律を中心にその他会計、政策、その他事業、経営の観点から考察する。事例をもって法人税法の具体的適用場面を実感しながら学習する。

■学修目標

法人税法の法としての全体像を理解する。簿記会計の利益計算と法人税法の所得計算の異同点の把握をする。裁判事例、判例、その他の実務事例から法人税法の基礎の理解を深める。

■授業計画

第1回　ガイダンスと法人税法の法体系上の位置付けと構成（憲法（民・商法）施行令・施行規則、措置法）
第2回　企業会計と所得計算の考え方の基礎
第3回　政策としての法人税法、財政、申告納付、措置法（課税の公平）、法人税法の経営的感覚の視点
第4回　別段の定め　個別論点　受取配当等とその関連するもの
第5回　交際費
第6回　寄附金
第7回　減価償却 1
第8回　減価償却 2
第9回　貸倒損失、引当金、準備金
第10回 給与
第11回 特別控除
第12回 国際税務、タックスヘイブン
第13回 連結納税制度、グループ法人課税制度
第14回 税務調査、不服申立て、訴訟、その他具体的事例
第15回 法人税法のあるべき姿を考える

■教科書

第1回目の講義にて指示

■参考書

講義中にその都度指示

■成績の評価基準

レポート

■オフィスアワー

月曜日19：50～20：40

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
金融の法システム特論			
■英語名			
Lecture of Bank Law			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
志田惣一	099-285-7653	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

この授業では、手形法小切手法に関するテーマを題材として、法律問題の解決のために必要な法律の基礎理論（概念・論理）を体系的に学習します。

■学修目標

（１）有価証券法の基礎的知識を身につける。
（２）法的思考力を身につける。

■授業計画

*本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

１　ガイダンス
２　手形理論
３　手形理論
４　私法原理と手形法
５　偽造と無権代理
６　代理と手形法
７　取締役・会社間の手形行為
８　白地手形
９　白地手形
１０　手形の譲渡方法
１１　裏書の連続
１２　裏書の連続
１３　手形抗弁論
１４　手形抗弁論
１５　手形抗弁林

■教科書

手形小切手判例百選

■参考書

倉沢康一郎・手形判例の基礎
その他、授業中に適宜詳記する。

■成績の評価基準

レポートおよび授業への取り組みを総合的に評価する。

■オフィスアワー

火２（研究室）

■受講要件

とくになし。

■備考

とくになし。

■科目名			
金融の法システム演習			
■英語名			
Seminar of Bank Law			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
志田惣一	285-7637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

この授業では、手形法小切手法に関する裁判例を題材として、法律問題の解決のために必要な法律の基礎理論（概念・論理）を体系的に学習する。

■学修目標

1　有価証券法の知識を身につける。
2　法的思考力を身につける。

■授業計画

01　最判昭和４３年１２月２４日　手形偽造その１
02　最判昭和４４年０４月０３日　手形偽造その２
03　最判昭和４９年０６月２８日　手形偽造その３
04　最判昭和３５年０１月１２日　善意取得その１
05　最判昭和５２年０６月２０日　善意取得その２
06　最判昭和３９年０１月２３日　手形抗弁（原因関係無効の抗弁）
07　最判昭和３４年０７月１４日　手形抗弁（融通手形の抗弁）
08　最判昭和４０年０４月０９日　手形抗弁（人的抗弁その１）
09　最判昭和３７年０５月０１日　手形抗弁（人的抗弁その１）
10　最判昭和３０年０５月３１日　手形抗弁（悪意の抗弁その１）
11　最判平成０７年０７月１４日　手形抗弁（悪意の抗弁その２）
12　最判昭和３５年１０月２５日　手形抗弁（悪意の抗弁その３）
13　最判昭和４５年０７月１６日　手形抗弁（二重無権の抗弁）
14　最判昭和４３年１２月２５日　手形抗弁（権利濫用の抗弁）
15　まとめ

■教科書

手形小切手判例百選

■参考書

倉沢康一郎・手形判例の基礎
その他、授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

レポートおよび授業への取り組みを総合的に評価する。

■オフィスアワー

火曜２限

■受講要件

とくになし。

■備考

とくになし。

■科目名			
人権論演習			
■英語名			
Seminar of Human Rights			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大野友也	099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

人権問題に関する日本の判例を読み、検討をする。取り上げる判例については受講生と相談の上決定する。

■学修目標

１．人権問題に関する日本の判例を知る
２．憲法判例の読み方・分析方法を習得する

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　論文の読み方
第3回　論文を書く際の注意点
第4回　報告（1）
第5回　報告（2）
第6回　報告（3）
第7回　報告（4）
第8回　中間まとめ
第9回　報告（5）
第10回　報告（6）
第11回　報告（7）
第12回　報告（8）
第13回　報告（9）
第14回　報告（10）
15回　まとめ

■教科書

受講生と相談の上、決定する。

■参考書

適宜指示する

■成績の評価基準

平常点で評価する

■オフィスアワー

火曜5限、研究室

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
日本政治史特論			
■英語名			
Lecture of Political History of Japan			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
藤村一郎		fujimura@km.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
本授業では，政治学の基本的な概念を身につけつつ，歴史的趨勢を掴むために，広い視野で政治学ないしは政治史に関連する文献を読み議論を行う。			
■学修目標			
1 政治史研究についての基本的な視座を身につける。 2 政治変動と思想とを統合的に理解しようとする姿勢を身につける。			
■授業計画			
第1回：オリエンテーション 第2回：資料購読と討論（政治史1） 第3回：資料購読と討論（政治史2） 第4回：資料購読と討論（政治史3） 第5回：資料購読と討論（政治史4） 第6回：資料購読と討論（政治史5） 第7回：資料購読と討論（同時代の検討1） 第8回：資料購読と討論（同時代の検討2） 第9回：資料購読と討論（同時代の検討3） 第10回：資料購読と討論（同時代の検討4） 第11回：資料購読と討論（思想史1） 第12回：資料購読と討論（思想史2） 第13回：資料購読と討論（思想史3） 第14回：資料購読と討論（思想史4） 第15回：総括			
■教科書			
なし			
■参考書			
授業の際に適宜紹介します。			
■成績の評価基準			
平常点			
■オフィスアワー			
月曜6時間目 メールで問い合わせてください。			
■受講要件			
なし			
■備考			
特になし			

■科目名			
日本政治史演習			
■英語名			
Seminar of Political History of Japan			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
藤村一郎	099-256-7593	fujimura@km.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

本授業では，政治学の基本的な概念を身につけつつ，歴史的趨勢を掴むために，広い視野で政治学ないしは政治史に関連する文献を読み議論を行います。

■学修目標

1 政治史研究についての基本的な視座を身につける。
2 政治経済の変動とイデオロギーとを統合的に理解しようとする姿勢を身につける。

■授業計画

第1回：オリエンテーション
第2回：資料購読と討論（同時代の検討1）
第3回：資料購読と討論（同時代の検討2）
第4回：資料購読と討論（同時代の検討3）
第5回：資料購読と討論（同時代の検討4）
第6回：資料購読と討論（政治史1）
第7回：資料購読と討論（政治史2）
第8回：資料購読と討論（政治史3）
第9回：資料購読と討論（政治史4）
第10回：資料購読と討論（政治史5）
第11回：資料購読と討論（思想史1）
第12回：資料購読と討論（思想史2）
第13回：資料購読と討論（思想史3）
第14回：資料購読と討論（思想史4）
第15回：総括

■教科書

なし

■参考書

授業の際に適宜紹介します。

■成績の評価基準

平常点

■オフィスアワー

月曜6時間目
メールで問い合わせてください。

■受講要件

なし

■備考

特になし

■科目名			
租税法特論			
■英語名			
Lecture of Tax Law			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
鳥飼貴司	099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし。

■授業概要

金子宏『租税法』を講読し、税法理論上の問題点を発見する。

■学修目標

税法学の基礎理論を身につける。

■授業計画

※全授業回「対面授業」の予定である。

金子宏『租税法〔第23版〕』（弘文堂、2019年）を読む。
税法総論の範囲
第1編　租税法序説　１頁～１８９頁
第2編　租税実体法　第4章　納税義務の成立・承継および消滅　８６３頁～

第1回＝１頁～２５頁
第2回＝２６頁～７７頁
第3回＝７８頁～１２２頁
第4回＝１２３頁～１５２頁
第5回＝１５３頁～１８９頁
第6回＝８６３頁～９０４頁)
第7回＝９０５頁～９５３頁　第３款　更正・決定の直前まで。
第8回＝９５３頁～１０１３頁
第9回＝１０１４頁～１０６８頁
第10回＝１０６９頁～１１４７頁（最後）
第11回　検討と討論１
第12回　検討と討論２
第13回　検討と討論３
第14回　検討と討論４
第15回　まとめ
※今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

■教科書

金子宏『租税法』弘文堂（最新版）
中里実、増井良啓編『租税判例六法』有斐閣
中里実、増井良啓ほか編『租税判例百選』有斐閣

■参考書

谷口勢津夫『税法基本講義』弘文堂
三木義一『よくわかる税法入門』有斐閣
三木義一・前田謙二『よくわかる国際税務入門』有斐閣

■成績の評価基準

授業への取組み（100%）。

■オフィスアワー

月曜日～金曜日、12：00～12：50（会議などで不在にしている場合もあります）

■受講要件

特になし

■備考

使用するテキストについては、受講生の関心に合わせて追加・変更することもありえる。

■科目名			
経営の法システム特論			
■英語名			
Lecture of Law System of Business Administration			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
松田忠大	099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

この授業では、企業活動および企業組織を規律する私法のうち、会社法の領域を学習する。特に、株式会社に焦点をあて、株式会社の意義、設立、株式の意義と機能、株式会社の機関、資金調達を中心に扱うが、企業取引に関する法についても適宜学習することにより、私法上の企業取引を規律する法の内容およびその解釈に関する知識を身につける。

■学修目標

（１）会社法に関する基礎的知識を身につける。
（２）学説および裁判例の理解をとおして、法的思考能力を身につける。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。ただし、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

第1回　ガイダンス【対面形式】
第2回　私法上の企業概念・会社の意義【対面形式】
第3回　会社の法人性【対面形式】
第4回　株式会社の設立（１）【対面形式】
第5回　株式会社の設立（２）【対面形式】
第6回　株式（１）【対面形式】
第7回　株式（２）【対面形式】
第8回　株式（３）【対面形式】
第9回　株式（４）【対面形式】
第10回　株式会社の機関総説・株主総会（１）【対面形式】
第11回　株主総会（２）【対面形式】
第12回　取締役・取締役会（１）【対面形式】
第13回　取締役・取締役会（２）【対面形式】
第14回　監査役・監査役会【対面形式】
第15回　株式会社の資金調達【対面形式】

■教科書

伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征『会社法』（第４版）（有斐閣）

■参考書

授業中に、適宜、必要な参考書を紹介する。

■成績の評価基準

レポートおよび授業への取り組み態度(100%）を総合的に評価する。

■オフィスアワー

毎週火曜日２限

■受講要件

特になし。

■備考

なし。

■科目名			
人権論特論			
■英語名			
Lecture of Human Rights			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大野友也	099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

人権に関する最新の議論を理解するため、文献購読を行なう。

■学修目標

（1）人権についての最新の議論を知る。
（2）人権についての最新の議論につき、批判的に検討する能力を身につける。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　文献講読（1）
第3回　文献購読（2）
第4回　文献購読（3）
第5回　文献購読（4）
第6回　文献購読（5）
第7回　文献購読（6）
第8回　中間まとめ
第9回　文献購読（7）
第10回　文献購読（8）
第11回　文献購読（9）
第12回　文献購読（10）
第13回　文献購読（11）
第14回　文献購読（12）
15回　まとめ

■教科書

受講生と相談して決定する。

■参考書

適宜指示する。

■成績の評価基準

平常点で評価する。

■オフィスアワー

月曜4限目（研究室）

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
経営の法システム演習			
■英語名			
Seminar of Law System of Business Administration			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
松田忠大	099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

この演習では、商法・会社法の領域における諸法律問題について、受講者が各自選択したテーマまたは判例について研究を行い、それを報告する。

■学修目標

（１）商法および会社法に関する知識の定着を図る。
（２）法的思考能力を発展させる。
（３）法的プレゼンテーション能力を身につける。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。ただし、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

第1回：ガイダンス【対面形式】
第2回：学生による研究報告（１）【対面形式】
第3回：学生による研究報告（２）【対面形式】
第4回：学生による研究報告（３）【対面形式】
第5回：学生による研究報告（４）【対面形式】
第6回：学生による研究報告（５）【対面形式】
第7回：学生による研究報告（６）【対面形式】
第8回：学生による研究報告（７）【対面形式】
第9回：学生による研究報告（８）【対面形式】
第10回：学生による研究報告（９）【対面形式】
第11回：学生による研究報告（１０）【対面形式】
第12回：学生による研究報告（１１）【対面形式】
第13回：学生による研究報告（１２）【対面形式】
第14回：学生による研究報告（１３）【対面形式】
第15回：学生による研究報告（１４）【対面形式】

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

授業中に適宜指示する。

■成績の評価基準

報告および授業への取り組み態度（100%）を総合的に評価する。

■オフィスアワー

毎週火曜２限

■受講要件

特になし。

■備考

なし。

■科目名			
法社会学演習			
■英語名			
Seminar of Socio-Legal Studies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
米田憲市	メールで連絡を受け付けます	kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(subject欄に、科目名、氏名、学籍番号を必ず記載すること)	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

「法社会学」とは、法やルールの社会的性質をその状況的事実とともに明らかにすることを志向し、理解を深めようとする研究実践とその成果の総体の呼称である。

この授業では、受講者の研究志向に基づき、法社会学の学問分野の成立・背景から現在までの変遷、法社会学の「教科書」の比較、よく取り上げられる研究主題、法制度にかかるドキュメント、法制度から卑近なルールに至るまでの実証研究などを取り上げて、ディスカッションを通じて理解を深める。

■学修目標

この授業を通じて、法社会学がが法に関する研究分野の中で最も自由な性質を持つ分野であることを実感してもらい、「法についての知的で体験的で実践的な冒険」の一端に触れて、法やルールに関わる場面についての観察力、分析力、説明力を高め、受講者の研究志向との関係で、法社会学の意義を認識することを目標とする。

■授業計画

第１講　ガイダンス：法社会学の研究主題
第２講　演　習
第３講　演　習
第４講　演　習
第５講　演　習
第６講　演　習
第７講　演　習
第８講　演　習
第９講　演　習
第10講　演　習
第11講　演　習
第12講　演　習
第13講　演　習
第14講　演　習
第15講　演　習

演習では、法サービスの提供・確保、日本の法社会学の沿革、法社会学の教科書のいろいろ、法と権力、法と文化、法と言語：立法過程・公文書作成・法解釈、組織論から見る裁判官制度、約束と社会組織のほか、受講者が取り上げたテーマの文献を主題にする。

■教科書

特に指定しない。

■参考書

随時紹介する。

■成績の評価基準

演習時に作成したレジュメや提出物を中心にして、それに加えて平常点で評価する。

■オフィスアワー

メールて適宜連絡して下さい。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
刑事法学特論			
■英語名			
Lecture of Criminology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
上原大祐	099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

刑事司法の流れを踏まえつつ、刑事政策学・犯罪学に関する総論的分野に関する議論を行う。

■学修目標

刑事司法の流れを理解し、その各段階において再犯予防のために行われるべき処遇等に関して政策を立案するための素養を身に着けるために必要な総論的知識を修得する。

■授業計画

※　授業の実施形態については、後日改めて提示する。

第１回：成人の刑事司法手続
第２回：刑罰の種類と意義
第３回：刑事司法機関・少年司法機関の役割
第４回：自由刑の意義と歴史
第５回：施設内処遇の概要
第６回：施設内処遇・各論
第７回：社会内処遇の概要
第８回：更生保護の概要
第９回：執行猶予と仮釈放
第１０回：生活環境調整と就労支援
第１１回：非行少年に対する司法手続
第１２回：少年非行に対する対応
第１３回：多機関連携
第１４回：ペット・パートナーシップ・プログラム
第１５回：まとめ

■教科書

授業中、適宜指示する。

■参考書

授業中に適宜指示する

■成績の評価基準

授業への参加態度等を勘案して評価する【総合評価100%】

■オフィスアワー

月曜12:00～12:50

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
刑事法学演習			
■英語名			
Seminar of Criminology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
上原大祐	099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

刑事政策学・犯罪学に関する各論的分野に関する議論を行う。

■学修目標

刑事法学・犯罪学的知見を総合的に理解し、各種犯罪に対する対策を立案するための素養を身に着けるために必要な各論的知識を修得する。

■授業計画

第１回：犯罪の定義
第２回：わが国の犯罪情勢
第３回：薬物犯罪の現状と問題点
第４回：薬物犯罪者に関する対策
第５回：薬物犯罪者と一部執行猶予制度
第６回：高齢者犯罪の現状と問題点
第７回：高齢者犯罪に関する対策
第８回：司法と福祉
第９回：少年非行の現状と問題点
第１０回：少年非行に関する対策
第１１回：家庭内・近親者間犯罪の現状と対策
第１２回：その他の各種犯罪の現状と対策
第１３回：心神喪失者等医療観察制度
第１４回：保安処分を巡る諸問題
第１５回：まとめ

■教科書

授業中、適宜指示する。

■参考書

授業中、適宜指示する。

■成績の評価基準

授業への参加態度を勘案して評価する【総合評価100%】

■オフィスアワー

月曜12:00～12:50

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
企業再生法			
■英語名			
Insolvency Law			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
齋 藤 善 人	099-285-3526	saito@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

■ 企業再生法とは、文字通りに解すれば、企業（活動）の再生に関する法である。資本主義経済社会における企業活動の再生とは、経済的に苦境に陥った企業の立て直し（再建）に他ならない。経済的に破綻した、あるいは破綻に瀕した主体の経済活動を適正に調整するための法的仕組みが「倒産法」の領域である。

かように経済活動の混迷する場面に適用される倒産法は、その性質上、複雑かつ多様な法分野である。物理的に限られた時間の中で、倒産法制の全体を網羅的に検討することは不可能といえる。そこで、ここでは、倒産法のうち、民事再生法を中核に、適宜破産法の内容を参照しながら、倒産法の主要な論点について、主に判例法理の解明を念頭においた問題演習の形で進めることを考えている。

■学修目標

□ 倒産法の主要な論点に係る検討・議論のため、共通言語として理解が必須の基本的概念を正確に習得する。
□ 倒産法の主要な論点に関する判例の法理を理解する。
□ 倒産法の主要な論点に関し、基礎学力に根ざした思考回路を設計し、論理的に説明することができる。

■授業計画

■ 指定の教科書に沿った項目を並べると以下のようであるが、凡そこの順序に依拠しながら、主要な論点・問題にフォーカスする形で進行したい。

【１】倒産手続の開始（申立て・開始原因・手続開始前の保全処分など）

【２】破産管財人の地位／再生債務者、監督委員

【３】破産債権・財団債権／再生債権・共益債権・一般優先債権

【４】破産財団の範囲／再生債務者財産

【５】否認権（１）詐害行為否認と偏頗行為否認

【６】否認権（２）対抗要件の否認／監督委員による否認権の行使

【７】相殺権（１）自働・受働債権の範囲

【８】相殺権（２）相殺禁止／自働・受働債権取得の時期

【９】別除権（１）別除権と担保権／別除権の権利行使

【10】別除権（２）担保権消滅許可請求／担保権実行中止命令

【11】契約関係続の処理（１）双方未履行の双務契約関係の処理／賃貸借契約

【12】契約関係の処理（２）請負契約・雇用契約・委任契約など

【13】係属中の訴訟手続の処理

【14】破産手続の終結／再生計画案の作成・提出、再生計画の成立、再生計画の遂行および再生手続の終了

【15】破産免責／個人再生手続

■ なお、この授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動によっては、変更されることもあり得る。

■教科書

■ 倉部真由美=高田賢治=上江洲純子・倒産法（有斐閣・平成３０）

■参考書

【１】倒産法制全体を概観するもの

1.山本和彦・倒産処理法入門［第5版］（有斐閣・平成３０）
2.田頭章一・倒産法入門（日本経済新聞社・平成１８）

【２】概説書

3.伊藤眞・破産法・民事再生法［第4版］（有斐閣・平成３０）
4.藤田広美・破産・再生（弘文堂・平成２４）
5.藤本利一=野村剛司編・基礎トレーニング倒産法（日本評論社・平成２５）
6.山本克己編・破産法・民事再生法概論（商事法務・平成２４）
7.谷口安平監修／山本克己=中西正編・レクチャー倒産法（法律文化社・平成２５）
8.山本和彦=中西正=笠井正俊=沖野眞已=水元宏典・倒産法概説［第2版補訂版］（弘文堂・平成２７）
9.中島弘雅・体系倒産法?／破産・特別清算（中央経済社・平成１９）
10.田頭章一・講義 破産法・民事再生法（有斐閣・平成２８）
11.中島弘雅=佐藤鉄男・現代倒産手続法（有斐閣・平成２５）

【３】演習書

12.山本和彦編・倒産法演習ノート［第3版］（弘文堂・平成２８）
13.加藤哲夫=中島弘雅編・ロースクール演習倒産法（法学書院・平成２４）
14.岡正晶ほか監修／植村京子ほか・倒産法の最新論点ソリューション（弘文堂・平成２５）
15.三木浩一=山本和彦編・ロースクール倒産法［第3版］（有斐閣・平成２６）
16.小林秀之=齋藤善人・新論点講義 破産法（弘文堂・平成１９）

【４】論点ごとの解説／論文をまとめたもの

17.櫻井孝一=加藤哲夫=西口元編・倒産処理法制の理論と実務（経済法令研究会・平成１８）
18.山本克己=山本和彦=瀬戸英雄編・新破産法の理論と実務（判例タイムズ社・平成２０）

【５】逐条的解説書／コンメンタール

19.竹下守夫編集代表・大コンメンタール破産法（青林書院・平成１９）
20.伊藤眞=岡正晶=田原睦夫ほか・条解破産法［第2版］（弘文堂・平成２６）
21.園尾隆司=小林秀之編・条解民事再生法［第3版］（弘文堂・平成２５）
22.山本克己=小久保孝雄=中井康之編・新基本法コンメンタール破産法（日本評論社・平成２６）
23.山本克己=小久保孝雄=中井康之編・新基本法コンメンタール民事再生法（日本評論社・平成２７）

【６】判例補助教材

24.伊藤眞=松下淳一編・倒産判例百選［第5版］（有斐閣・平成２５）

25.瀬戸英雄=山本和彦編・倒産判例インデックス［第2版］（商事法務・平成２２）
26.竹内康二=加藤哲夫・倒産判例ガイド［第2版］（有斐閣・平成１１）

■成績の評価基準

■ 平素の授業現場におけるプロセス（起案、レポート等、授業での報告や質疑応答過程などのパフォーマンス）で評価する。

■オフィスアワー

■ 対面の形式でのオフィスアワーは、当面、実施する予定はない。個別のメールによる対応や、manaba上のスレッドによる対応となろう。

■受講要件

■ 民事実体法（主に民法）ならびに民事訴訟法について、基本的理解があることを前提に授業は進行するので、この点、留意されたい。

■備考

■科目名			
社会保障法特論			
■英語名			
Lecture of Social Security law			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
伊藤周平	099-285-7564	itos@leh.kagoshima-u-ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

判例研究、修士論文作成に向けた指導

■学修目標

社会保険労務士試験問題、公務員試験問題（公法）に対応できる学力を身につける。

■授業計画

１回　ガイダンス、修士論文の構想
２回　生活保護法の判例研究１、報告と討議
３回　生活保護法の判例研究２、報告と討議
４回　医療保障法の判例研究１、報告と討議
５回　医療保障法の判例研究２、報告と討議
６回　介護保険法の判例研究、報告と討議
７回　労災保険法の判例研究１、報告と討議
８回　労災保険法の判例研究２、報告と討議
９回　雇用保険法の判例研究、報告と討議
10回　年金保険法の判例研究１、報告と討議
11回　年金保険法の判例研究２、報告と討議
12回　児童福祉法の判例研究１、報告と討議
13回　児童福祉法の判例研究２、報告と討議
14回　障害者福祉法の判例研究、報告と討議
15回　修士論文の指導

■教科書

伊藤周平『社会保障法』自治体研究社、2021年

■参考書

なし。適宜指示する。

■成績の評価基準

報告内容・出席により評価する。

■オフィスアワー

火曜日２時限

■受講要件

なし

■備考

なし

■科目名			
行政の法システム演習			
■英語名			
Seminar of Administrative Law System			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
森尾成之	manabaで受け付けます	manabaで受け付けます	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
行政法に関する諸問題につき、文献、資料を講読する。			
■学修目標			
各自の修士論文作成に向けて、行政法研究の論点なり技法を身につける。			
■授業計画			
第１回　ガイダンス 第２回　解説と報告 第３回　解説と報告 第４回　解説と報告 第５回　解説と報告 第６回　解説と報告 第７回　解説と報告 第８回　解説と報告 第９回　解説と報告 第１０回　解説と報告 第１１回　解説と報告 第１２回　解説と報告 第１３回　解説と報告 第１４回　解説と報告 第１５回　総括			
■教科書			
講義中に適宜指示する。			
■参考書			
講義中に適宜指示する。			
■成績の評価基準			
受講状況を総合的に判断する。			
■オフィスアワー			
講義終了後に適宜対応するが、別に時間をとって対応する場合もある。			
■受講要件			
特になし			
■備考			
オンラインで授業を行う。			

■科目名			
租税法演習			
■英語名			
Seminar of Tax Law			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
鳥飼貴司	099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし。

■授業概要

※全授業回遠隔形式で行う予定である。
租税裁判例を分析して、税法理論上の問題点を発見する。

■学修目標

租税裁判例の構造を理解する。

■授業計画

※全授業回「対面授業」の予定である。例外的な状況になった際には、予めmanabaのコースニュースで告知する。

第１回ガイダンス
第２回報告と討論（１）
第３回報告と討論（２）
第４回報告と討論（３）
第５回報告と討論（４）
第６回報告と討論（５）
第７回報告と討論（６）
第８回報告と討論（７）
第９回報告と討論（８）
第１０回報告と討論（９）
第１１回報告と討論（１０）
第１２回報告と討論（１１）
第１３回報告と討論（１２）
第１４回報告と討論（１３）
第１５回まとめ

■教科書

特になし。

■参考書

金子宏『租税法』弘文堂（最新版）
中里実、増井良啓編『租税判例六法』有斐閣
中里実、増井良啓ほか編『租税判例百選』有斐閣

■成績の評価基準

授業への取組み態度（100%）

■オフィスアワー

月曜日～金曜日、12：00～12：50（会議などで不在にしている場合もあります）

■受講要件

特になし。

■備考

使用するテキストについては、受講生の関心に合わせて追加・変更することもありえる。

■科目名			
法社会学特論			
■英語名			
Lecture of Socio-Legal Studies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
米田憲市			
■共同担当教員			

■授業概要

「法社会学」とは、法やルールの社会的性質をその状況的事実とともに明らかにすることを志向し、理解を深めようとする研究実践とその成果の総体の呼称である。

この授業では、法社会学の体系的理解が得られるように、法社会学の学問分野の成立・背景から現在までの変遷、法社会学の「教科書」の比較的よく取り上げられる研究主題、法制度にかかるドキュメント、法制度から卑近なルールに至るまでなどの実証研究を取り上げて、ディスカッションを通じて理解を深める。

■学修目標

この授業を通じて、法社会学がが法に関する研究分野の中で最も自由な性質を持つ分野であることを実感してもらい、「法についての知的で体験的で実践的な冒険」の一端に触れて、方法論に注目しつつ、法やルールに関わる場面についての観察力、分析力、説明力を高め、受講者の研究志向の中での法社会学の意義を認識することを目標とする。

■授業計画

第１講　ガイダンス：法社会学の研究主題
第２講　特　論
第３講　特　論
第４講　特　論
第５講　特　論
第６講　特　論
第７講　特　論
第８講　特　論
第９講　特　論
第10講　特　論
第11講　特　論
第12講　特　論
第13講　特　論
第14講　特　論
第15講　特　論

特論では、第１講のガイダンスで法社会学の体系的な理解を達成できるようなテーマを、受講者の研究志向に沿って選択して設定する。

■教科書

特に指定しない。

■参考書

随時指示する。

■成績の評価基準

演習時に作成したレジュメや提出物を中心にして、それに加えて平常点で評価する。

■オフィスアワー

■受講要件

特になし

■備考

■科目名			
行政の法システム特論			
■英語名			
Lecture of Administrative Law System			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
森尾成之	manabaで受け付けます	manabaで受け付けます	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
行政法に関する諸問題につき、文献、資料を講読する。			
■学修目標			
各自の修士論文作成に向けて、行政法研究の論点なり技法を身につける。			
■授業計画			
授業計画： 第１回　ガイダンス 第２回　解説と報告 第３回　解説と報告 第４回　解説と報告 第５回　解説と報告 第６回　解説と報告 第７回　解説と報告 第８回　解説と報告 第９回　解説と報告 第１０回　解説と報告 第１１回　解説と報告 第１２回　解説と報告 第１３回　解説と報告 第１４回　解説と報告 第１５回　総括			
■教科書			
特に指定しない。			
■参考書			
必要に応じて適宜指示する。			
■成績の評価基準			
受講状況等を総合的に評価する			
■オフィスアワー			
講義終了後に受付け、必要に応じて日程調整する。			
■受講要件			
特にありません			
■備考			
本年度は「租税法」を専攻する「２年生」（本年度修士論文等を提出予定の者）を対象とする。			

■科目名			
所得税法・消費税法			
■英語名			
Income Tax Law・Consumption Tax Law			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
鳥飼貴司	099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし。

■授業概要

金子宏『租税法』を購読し、税法理論上の問題点を発見する。

■学修目標

所得税法・消費税法の学説・判例を理解する。

■授業計画

※全授業回「対面授業」の予定である。例外的な状況になった際には、予めmanabaのコースニュースで告知する。

金子宏『租税法〔第23版〕』（弘文堂、2019年）を読む。
税法各論
第2編　租税実体法　１９０頁～８６２頁
第1回＝１９０頁～２１８頁　第3項　各種所得の意義と範囲の直前まで。
第2回＝２１８頁～２５９頁　８　譲渡所得の直前まで。
第3回＝２５９頁～３２１頁　第２款　法人税法の直前まで。
第4回＝３２１頁～４０６頁　６　寄附金の直前まで。
第5回＝４０７頁～４６１頁　第7項　法人課税信託の所得に対する法人税の直前まで。
第6回＝４６１頁～５４９頁　第5款　国際取引と所得課税の直前まで。
第7回＝５４９頁～６４９頁　第6款　住民税および事業税の直前まで。
第8回＝６４９頁～７１４頁　第9款　財産の評価の直前まで。
第9回＝７１４頁～７７７頁
第10回＝７７８頁～８６２頁（第2編第3章の最後）
第11回　検討と討論１
第12回　検討と討論２
第13回　検討と討論３
第14回　検討と討論４
第15回　まとめ
※今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

■教科書

金子宏『租税法』弘文堂（最新版）
中里実、増井良啓編『租税判例六法』有斐閣
中里実、増井良啓ほか編『租税判例百選』有斐閣

■参考書

適宜指示する。

■成績の評価基準

授業への取組み態度（100%）

■オフィスアワー

月曜日～金曜日、12：00～12：50（会議などで不在にしている場合もあります）

■受講要件

特になし

■備考

使用するテキストについては、受講生の関心に合わせて追加・変更することもありえる。

■科目名			
行政法務特論			
■英語名			
Lecture of Legal Affairs in the Administration			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
宇那木正寛	285-7628	unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておお手ください。。	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

公共課題に対処するための法政策及びそれを支える行政法理論について、法務の視点も踏まえて授業を行います。

具体的には、教科書（『自治体政策立案入門』）について、毎回、各テーマごとに報告担当者を決め、当該口頭報告及び報告者の作成した資料をもとに参加者間で討論を行います。

担当教員は、地方公共団体の法務担当職員として20年以上にわたり政策立案、法令審査、訴訟等の業務を担当するとともに、地方公共団体の法務執行過程全般にわたって研究を行ってきました。この演習ではこれまでの研究成果や実務での経験も活かしたものとします。

■学修目標

公共課題に対処するために適切な行政手法を選択し、法政策を立案するために必要な知識の修得

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　公共政策の意義
第３回　法の解釈
第４回　憲法と法政策
第５回　法律による行政の原理と法政策
第６回　法政策と条例
第７回　都道府県条例と市町村条例
第８回　法律実施条例
第９回　行政による規範定立
第１０回　立法事実
第１１回　基本的行政手法
第１２回　応用的行政手法
第１３回　行政手法の実効性確保（１）ー許可取消制度等
第１４回　行政手法の実効性確保（２）ー刑罰制度
第１５回　行政上の義務の強制的実現

■教科書

宇那木正寛『自治体政策立案入門』（ぎょうせい、2015）

■参考書

倉阪秀史『政策・合意形成入門』（勁草書房、2012）
岩﨑忠『自治体の公共政策』（学陽書房、2013）

■成績の評価基準

口頭報告内容（70%）、討論への参加状況（30%）により評価します。

■オフィスアワー

火曜日6限目。

■受講要件

行政法総論及び行政救済法を履修していることを前提に講義を行います。

■備考

授業を欠席する場合には、事前に担当教員にメールで連絡してください。また、報告担当者となった場合には、必ず資料を作成してください。

■科目名			
特別指導演習II			
■英語名			
Special Independent Study II			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
鳥飼貴司	099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし。

■授業概要

社会人学生の論文作成について、できるだけ個別指導に近い形で特別指導を行う。

■学修目標

修士論文作成方法を理解する。

■授業計画

※全授業回「対面授業」の予定である。例外的な状況になった際には、予めmanabaのコースニュースで告知する。

第１回ガイダンス
第２回報告と討論（１）
第３回報告と討論（２）
第４回報告と討論（３）
第５回報告と討論（４）
第６回報告と討論（５）
第７回報告と討論（６）
第８回報告と討論（７）
第９回報告と討論（８）
第１０回報告と討論（９）
第１１回報告と討論（１０）
第１２回報告と討論（１１）
第１３回報告と討論（１２）
第１４回報告と討論（１３）
第１５回まとめ

■教科書

特になし

■参考書

金子宏『租税法』（弘文堂）

■成績の評価基準

報告・討論の内容を評価する（100%）。

■オフィスアワー

月曜日～金曜日、12：00～12：50（会議などで不在にしている場合もあります）

■受講要件

特になし

■備考

使用するテキストについては、受講生の関心に合わせて追加・変更することもありえる。

■科目名			
特別指導演習II			
■英語名			
Special Independent Study II			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
鳥飼貴司	099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし。

■授業概要

※全授業回遠隔形式で行う予定である。
社会人学生の論文作成について、できるだけ個別指導に近い形で特別指導を行う。

■学修目標

修士論文作成方法を理解する。

■授業計画

※全授業回「対面授業」の予定である。例外的な状況になった際には、予めmanabaのコースニュースで告知する。

第１回ガイダンス
第２回報告と討論（１）
第３回報告と討論（２）
第４回報告と討論（３）
第５回報告と討論（４）
第６回報告と討論（５）
第７回報告と討論（６）
第８回報告と討論（７）
第９回報告と討論（８）
第１０回報告と討論（９）
第１１回報告と討論（１０）
第１２回報告と討論（１１）
第１３回報告と討論（１２）
第１４回報告と討論（１３）
第１５回まとめ

■教科書

特になし

■参考書

金子宏『租税法』（弘文堂）

■成績の評価基準

報告・討論の内容を評価する（100%）。

■オフィスアワー

月曜日～金曜日、12：00～12：50（会議などで不在にしている場合もあります）

■受講要件

特になし

■備考

使用するテキストについては、受講生の関心に合わせて追加・変更することもありえる。

■科目名			
刑事手続法特論			
■英語名			
Lecture of Criminal Procedure			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中島宏	099-285-7633	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

近年における刑事訴訟の重要判例を講読する。手続きの各段階に対応して、法解釈論上の重要論点を含む判例をそれぞれ取り上げて、学生が調査・研究を行って報告する。また、必要に応じて、当該論点についての最新の学説に踏み込んだ理論分析を行う。

■学修目標

・刑事訴訟法の全体像について正確な知識を得る。
・判例実務の現状と、それに対する学説の動向を把握する。
・判例理論の発展過程から、動態としての刑事訴訟法の姿を明らかにする。
・判例研究の方法論を修得する。

■授業計画

基本的には対面式で実施するが、受講者の事情を考慮して随時遠隔方式も採り入れる。また、感染症拡大状況など社会情勢に応じて実施形態を変更することがある。その場合には事前に通知する。

第１回　捜査の端緒
第２回　任意捜査
第３回　捜索・押収
第４回　逮捕・勾留
第５回　被疑者取調べ
第６回　被疑者の防御活動
第７回　公訴の提起
第８回　訴因
第９回　公判前整理手続き
第１０回　公判手続き
第１１回　違法収集証拠排除法則
第１２回　自白
第１３回　伝聞法則
第１４回　判例評釈の作成（１）
第１５回　判例評釈の作成（２）

■教科書

特に指定しない。

■参考書

講義の中で指示する。

■成績の評価基準

平常点（発言頻度、発言内容など）50%
判例評釈50%

■オフィスアワー

月２限。この時間帯に限らず研究室の訪問は自由。

■受講要件

なし

■備考

特になし

■科目名			
行政法務演習			
■英語名			
Seminar of Legal Affairs in the Administration			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
宇那木正寛	285－7626	unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいてください。。	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

　行政法務特論において修得した知識及び能力をさらに深化させ、法令、条例の立案を行います。
【授業前半】
立法技術の基礎知識について説明します。
【授業後半】
法令の立案演習を行います。
　なお、担当教員は、地方公共団体の法務担当職員として20年以上にわたり政策立案、法令審査、訴訟等の業務を担当するとともに、地方公共団体の法務執行過程全般にわたって研究を行ってきました。この演習ではこれまでの研究成果や実務での経験も活かしたものとします。

■学修目標

公共政策を規範化（立法）するために必要な専門的知識及び能力の修得を目指します。

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　立法技術の基礎（１）ー法制執務の意義
第３回　立法技術の基礎（２）ー法令の構造
第４回　立法技術の基礎（３）ー法文の形式、配字及び用語
第５回　法令の内容（１）ー目的規定
第６回　法令の内容（２）ー実体規定
第７回　法令の内容（３）ー雑則規定
第８回　法令の内容（４）ー附則
第９回　法令の立案演習（１）
第１０回　法令の立案演習（２）
第１１回　法令の立案演習（３）
第１２回　法令の立案演習（４）
第１３回　法令の立案演習（５）
第１４回　法令の立案演習（６）
第１５回　まとめ

■教科書

宇那木正寛『自治体政策立案入門』（ぎょうせい、2015）
石毛正純『法制執務詳解　新版３』（ぎょうせい、2020）
石毛正純『自治立法綱案』（ぎょうせい、2018）

■参考書

山本庸幸『実務立法技術』（商事法務、2006）
法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣、2012）
大島稔彦『立法学ー理論と実務ー』（第一法規、2013）

■成績の評価基準

口頭報告内容（70%）、討論への参加状況（30%）により評価します。。

■オフィスアワー

火曜日6限目。

■受講要件

行政法務特論を受講していることを要件とします。

■備考

授業を欠席する場合には、事前に担当教員にメールで連絡してください。また、報告担当者となった場合には、必ず資料を作成してください。

■科目名			
法律学特別講義（法学専門基礎）			
■英語名			
Special Lecture of Laws:Basic Expertise of Legal Study			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
上原大祐・松田忠大	099-285-7626(上原)、099-285-7653（松田）	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp(上原)、tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp（松田）	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
法学を専門的に学ぶ上で共通して必要とされる司法制度及び法学全般に関する知識を学習し、議論を行う。単純な講義形式のみならず、受講者によるプレゼンテーション形式での授業も行う。			
■学修目標			
大学院で法学を専門的に学んでいく上で必要とされる基礎的知識・素養を身につけることを目的とする。			
■授業計画			
第１回　ガイダンス【対面形式】 第２回　法と裁判の種類と役割【対面形式】 第３回　裁判所制度と法律家の役割　【対面形式】 第４回　民事裁判・壱（民事訴訟の基本構造）【対面形式】 第５回　民事裁判・弐（民事裁判手続の概要）【対面形式】 第６回　家事裁判【対面形式】 第７回　刑事裁判【対面形式】 第８回　行政裁判・憲法裁判【対面形式】 第９回　法規の構造と条文の読み方【対面形式】 第10回　法の概念【対面形式】 第11回　法の構造【対面形式】 第12回　法の目的と使命【対面形式】 第13回　法の効力【対面形式】 第14回　法の分類【対面形式】 第15回　法の運用【対面形式】			
■教科書			
岩志和一郎編著『新版　法学の基礎』（成文堂、２０１０年）			
■参考書			
授業中に必要に応じて、適宜、紹介する。			
■成績の評価基準			
授業への参加態度等を勘案して総合評価する【総合評価100%】			
■オフィスアワー			
月曜12:00～12:50(上原) 火曜２限（松田）			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
なし。			

■科目名			
政治学特論			
■英語名			
Lecture of Politics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
平井一臣	285-8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

政治学に関する思想・理論・分析について解説する。

■学修目標

政治学に関する思想・理論・分析についての近年の動向を理解する。

■授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　政治学の思想（古代）
第3回　政治学の思想（近代）
第4回　政治学の思想（19世紀）
第5回　政治学の思想（20世紀）
第6回　政治学の思想（21世紀）
第7回　政治学の理論（国家論）
第8回　政治学の理論（市民社会論）
第9回　政治学の理論（民主主義論）
第10回　政治学の理論（政治参加論）
第11回　政治学の理論（政治過程論）
第12回　日本政治分析（政官関係）
第13回　日本政治分析（選挙と政党政治）
第14回　日本政治分析（地方政治）
第15回　総括

■教科書

授業開始時に指定する。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

出席(50%)及び平常点(50%)

■オフィスアワー

連絡に応じて適宜対応する。

■受講要件

とくになし

■備考

特になし

■科目名			
政治学演習			
■英語名			
Seminar of Politics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
法学専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
平井一臣	285-8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

現代政治のトピックを取り上げ、関連文献の読解と討論を行う。

■学修目標

現代政治の課題についての理解を深めるとともに、アカデミックなレベルでの議論を行う能力を身につける。

■授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　福祉国家
第3回　新自由主義
第4回　グローバリズム
第5回　ポピュリズム
第6回　ジェンダー
第7回　歴史認識
第8回　核と安全保障
第9回　地方自治
第10回　選挙
第11回　政治参加
第12回　政党と議会
第13回　社会運動
第14回　排外主義
第15回　総括

■教科書

授業開始時に指定する。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

出席(50%)及び平常点(50%)

■オフィスアワー

連絡に応じて適宜行う。

■受講要件

とくになし。

■備考

特になし

■科目名			
Tourism in Island Area			
■英語名			
Tourism in Island Area			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	集中講義	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
萩野誠	7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
N/A			

■授業概要

A characteristic tourism in islands district is an ecotourism.
I comment on this tourism from a point of view, an economic theory.
Particularly, there is two world natural heritage in the remote island of Kagoshima. We should discuss each framework of tourism business.

■学修目標

1. to explain a framework of an ecotourism.
2. to explain a relation an ecotourism with an islands district.

■授業計画

to discuss following theme

1st-5th: Guide tour and Ecotourism
 1st: What is Tourism?: Public Goods
 2nd: Border area of tourism
 3rd: Nature resource and World Heritage
 4rd: Ecotourism and National Park
 5th: Ecotourism in Japan

6th-9th: Ecotourism in Yakushima
 6th: World Heritage Site in Yakushima
 7th: historical approach
 8th: Mononoke approach
 9th: New approach after COVID

10th-12th: Ecotourism in Amami
 10th: some troubles in Amami
 11th: historical approach
 12th: risk maintaining registration

13th-15th: Ecotourism in Koshiki
 13th: geographic aspects
 14th: earth science aspects
 15th: prospects

■教科書

Fennell, D. A.(2020), Ecotourism(5th ed), Routledge.

■参考書

N/A

■成績の評価基準

discussion and presentation(60%)
reports (40%)

■オフィスアワー

break time after each class

Break after one of a class

■受講要件

N/A

■備考

N/A

■科目名			
Anthropological Study of Aging, Gender and Body			
■英語名			
Anthropological Study of Aging, Gender and Body			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中谷純江	099-285-7028	nakatani@gic.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
N/A			

■授業概要

This course aims to understand lives of old people in Japan and the ways in which they are viewed. Focusing on the difference of beliefs and practices surrounding aging, it is discussed how people in different societies see changes in gendered body and selves. Another questions is how the process of aging and its perception has changed by the modernization and development of healthcare technology. Through the cross-cultural comparison and chronological changes, the aging in Japan is explored. The class involves lecture, literature survey and field research in Amami Islands

■学修目標

1. To explore cross-cultural difference of aging
2. To understand lives of old people in Japan
3. To analyse of perception and attitude about aging in Japan
4. To study Japanese society through anthropological lens

■授業計画

The class participation is made face to face by getting together in a room, but online participation is accepted depending on the situation.

1. Field work: Meeting with old people in Amami Islands
2. Field work: Interview on what is Ikigai (purpose in Life) among the elderly.
3. Field work: Interview on what is good death and bad death
4. Lecture: Perspectives to look at aging in Japan, Part 1
5. Lecture: Perspectives to look at aging in Japan, Part 2
6 Literature Survey: Perceptions of Aging across 26 Cultures and their Culture-Level Associates
7. Literature Survey: Active Aging in Japan
8. Lecture: Purpose in Death, Life, and Aging through Japanese Movies
9. Literature Survey: Aging in India (Hotel Sarvation)
10. Lecture: Attachment to Life and Renunciation in India
11. Research Project: Presentation and Discussion
13. Research Project: Presentation and Discussion
14. Concluding Session: Culture and contemporary attitude about Aging
15. Concluding Session: Elderly in Globalisation

■教科書

Traphagan, John W. "Taming Oblivion: Aging Bodies and the Fear of Senility in Japan" Albany: Albany: State University of New York Press, 2000.
Cohen, Lawrence "No Aging in India: Alzheimer's, The Bad Family, and Other Modern Things" University of California Press, 2000.

■参考書

Knight, John and John W. Traphagan "Demographic Change and the Family in Japan's Aging Society". Albany: State University of New York Press, 2003
Hashimoto, Akiko and John Traphagan eds. "Imagined Families, Lived Families: Culture and Kinship in Contemporary Japan". Albany: State University of New York Press. 2008.

■成績の評価基準

Evaluation is made by a presentation of research project (40%) and a final report based on the presentation (60%).

■オフィスアワー

Wednesday afternoon, Appointment needed

■受講要件

English Proficiency

■備考

N/A

■科目名			
Changing Forms of Kinship, Family and Marriage			
■英語名			
Changing Forms of Kinship, Family and Marriage			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中谷純江	099-285-7028	nakatani@gic.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
N/A			

■授業概要

The social structure of family, kinship and community is discussed, based on the comparison between different societies in Asia such as Hindu in India, Han in China, and Japanese villages from Touhoku to Amami. The social structure is related to the functions of family and kin, labour organization, and gender relation, and determines the system of marriage, property management, inheritance, and so on. Considering the differences and similarities of social structure in several Asian societies, we will understand the different principles structuring the societies and common characteristics throughout Asian societies.

■学修目標

1. To learn how to analyse the social structure from the work of Chie Nakane
2. To consider the changes of family and kinship in present Asian societies, using the cross-cultural comparison
3. To look at what is changed and what is not changed in social structure of Asian societies which experienced modernization and globalization.

■授業計画

The class participation is made face to face by getting together in a room, but online participation is accepted depending on the situation.

1. Introduction
2. Cross-cultural comparison: Social Anthropology and its fieldwork
3. Kinship structure: cognate and affine
4. Family structure: system of post-marital residence, inheritance, and succession
5. Descent group in China：patrilineal clan, common property, system of adoption
6. Hindu joint family in India
7. Structure of matrilineal society, Nayar
8. Forms and definitions of family
9. Dozoku and Ie in Japanese villages
10. Hiki in Amami: Structure of non-unilineal descent system
11. Marriage and status: hypergamy and dowry
12. Marriage and alliance：cross-cousin marriage, bride-service, sister-exchange, bride-price
13. Social stratification: Caste system in India
14. Vertical society and horizontal alliance society
15. Dynamism of family and kinship

■教科書

Nakane, C. (1970). Japanese Society. Berkeley, CA: University of California Press.

■参考書

Nakane, C. (1967). Kinship and economic organization in rural Japan. London: Athlete Press.
Nakane, C. (1972). Human relations in Japan: Summary translation of “Tateshakai no Ningen Kankei.” Tokyo: Ministry of Foreign Affairs, Japan.

■成績の評価基準

Evaluation is made by a presentation of research project (40%) and a final report (60%) based on the presentation.

■オフィスアワー

Wednesday afternoon, Appointment needed

■受講要件

English proficiency

■備考

N/A

■科目名			
Community Business in Kagoshima			
■英語名			
Community Business in Kagoshima			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
西村知	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
N/A			
■授業概要			
The subject intends to explain what is community business and how it contributes to the local community. It introduces the cases in Japan and other countries. The students also find community business in their own definition by web surfing. Finally, the lecturer and the students will exchange their idea on the issue to deepen their knowledge.			
■学修目標			
1. Understand the definition of community business 2. Get to know the cases in Japan and other countries 3. Come up with an own approach to community business as a tool for regional development			
■授業計画			
1. Orientation 2-4. Introduction: What is Community Business? 5-7. Community Business in Japan 8-10. Community Business abroad (Philippines and Tanzania) 11-13. Find Community Business on web 14-15. Summary and Discussion			
■教科書			
introduced after opening			
■参考書			
introduced after opening			
■成績の評価基準			
report and discussion(100%)			
■オフィスアワー			
1-2pm on Mondays			
■受講要件			
N/A			
■備考			
N/A			

■科目名			
Food and Agriculture in Islands of the Asia-Pacific Region			
■英語名			
Food and Agriculture in Islands of the Asia-Pacific Region			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
山本宗立	099-285-7391	sotayama@cpi.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
N/A			
■授業概要			
We overview food behavior, agriculture, and plant usage in islands of the Asia-Pacific Region, especially Micronesia, for understanding the current situation and issues in the region from the viewpoint of history, economy, culture, and ethnobotany.			
■学修目標			
1. To learn about crops and plant usage in islands of the Asia-Pacific Region 2. To understand the the current situation and issues in the region from the viewpoint of history, economy, culture, and ethnobotany			
■授業計画			
1. Introduction 2. History of Micronesia 3. Economy of Micronesia 4. Culture of Micronesia 5. Crops 1 6. Crops 2 7. Crops 3 8. Crops 4 9. Plant Usage 1 10. Plant Usage 2 11. Plant Usage 3 12. Plant Usage 4 13. Food Behavior 1 14. Food Behavior 2 15. Conclusion			
■教科書			
introduced after opening			
■参考書			
Kawai, k, R. Terada and S. Kuwahara eds. The Islands of Kagoshima, Kagoshima: Kagoshima University Research Center for the Pacific Islands Kawai, k, R. Terada and S. Kuwahara eds. The Amami Islands, Kagoshima: Kagoshima University Research Center for the Pacific Islands			
■成績の評価基準			
Discussion 30%, Presentation 30%, Research report 40%			
■オフィスアワー			
break time			
■受講要件			
N/A			
■備考			
Classes are conducted in English. Intensive lecture.			

■科目名			
Small Business and Energy System			
■英語名			
Small Business and Energy System			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
市川英孝	099-285-7525	ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
N/A			
■授業概要			
ECO activities aimed at reducing CO2 have become popular due to growing environmental awareness. Effective use of resources is a global agenda. Automobiles that emit large amounts of CO2 and use oil for many parts, not just fuel, will cause significant changes in the purchasing trend of automobiles due to the reduction in CO2 emissions and large fluctuations in gasoline prices. This may mean the future development of an electric vehicle (EV) that does not emit CO2 and replaces oil as energy. In this lecture, we will promote lectures on CO2 reduction and the spread of electric vehicles (EV) that do not depend on oil. Here, various local governments are working on the spread of EVs. Take Yakushima, an island of World Natural Heritage, as an example.			
■学修目標			
Many cities in Japan aim to spread electric cars, but we will discuss the possibility in Yakushima and proceed with lectures including diversion to other regions. We will also consider the promotion of hydroelectric power generation as an alternative energy to oil at a global level, and discuss the direction for CO2 reduction and zero emissions.			
■授業計画			
1st Guidance 2nd EV Efforts in Other Regions (1) 3rd EV Efforts in Other Regions (2) 4th EV Efforts in Other Regions (3) 5th Others Efforts to spread EV in the region (4) 6th Electric vehicle diffusion in Yakushima (1) 7th Electric vehicle diffusion in Yakushima (2) 8th Electric vehicle diffusion in Yakushima (3) No. 9th Electric vehicle diffusion in Yakushima (4) 10th Electric vehicle diffusion in Yakushima (5) 11th Electric vehicle diffusion in Yakushima (6) 12th Electric vehicle diffusion in Yakushima (7) The 13th discussion on electric vehicle diffusion process and alternative energy in Japan and the world (1) The 14th discussion on electric vehicle diffusion process and alternative energy in Japan and the world (2) The 15th Japan And consideration of alternative processes and electric vehicle diffusion process in the world (3) 「今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある」			
■教科書			
introduced after opening			
■参考書			
introduced after opening			
■成績の評価基準			
report(100%)			
■オフィスアワー			
correspondence by email 11am-12am on Wednesdays			
■受講要件			
N/A			
■備考			
N/A			

■科目名			
Practical Training			
■英語名			
Practical Training			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
西村知・市川英孝	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
N/A			
■授業概要			
Field research regarding 'Community Business' and 'Local Energy' in Kagoshima prefecture. We visit several sites to deepen understanding of the two subjects.			
■学修目標			
1. Understand the profile of Community Business in Kagoshima 2. Understand the issue of Local Business in Kagoshima 3. Record the contents of the field studies 4. Think about the challenges regarding the two subjects 5. Make proposals to solve the problems			
■授業計画			
1. Orientation by Prof Nishimura 2-7 Visits to sites regarding Community Business 8 Report on the above fields 9. Orientation by Prof. Ichikawa 10-14 Visits to sites regarding Local Energy 15 Report on the above fields			
■教科書			
introduced after opening			
■参考書			
introduced after opening			
■成績の評価基準			
report (100%)			
■オフィスアワー			
1pm-2pm on Mondays			
■受講要件			
N/A			
■備考			
N/A			

■科目名			
Eco-tourism in Kagoshima			
■英語名			
Eco-tourism in Kagoshima			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
萩野誠	7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
N/A			

■授業概要

At first, we discuss the concept of Guide-Tour.
Guide-Tour is a new category of Tourism, such as Ecotourism, World Heritage Tour and so on. Then we could define the concept of Ecotourism.
Next,
I will focus on 3 target areas, Kirishima, Osumi, Ibusuki.
These areas locate in mainlannd of Kagoshima.
Each area has different history and a business model of tourism.
These ecotourism consist of narrow field and have small impacts on Regional Economy.

This is a model of a Guide-Tour.

■学修目標

1. to explain each model of an ecotourism, a guide-tour
2. to explain history of an ecotourism

■授業計画

1st-5th: Eco-tourism and Guide-tour
 1st: Concept of Guide-tour
 2nd: Ecotourism in Service Industry
 3rd: World Heritage and Gide-tour
 4rd: Micro-tourism and Guide-tour
 5th: Tourism in Kagoshima: historical approach

6th-9th: Kirishima
 6th: Pilgrimage and God and Buddha mixed culture
 7th: Onsen: hot spring area and Villa area
 8th: National Park: 1st registration site in Japan
 9th: Risk of Nature disasters
10th-12th: Osumi
 10th:Tomb of the Emperor:
 11th Kawagoromo: Endemic species: compered with Yakushima
 12th Satoyama: gide-tour for local cultures

13th-15th: Ibusuki
 13th: Legend of Kaimon, Hirakiki
 14th: Lake tour in Ibusuki
 15th: Transportation close relation to Yakushima

■教科書

none

■参考書

Fennell, D. A.(2020), Ecotourism(5th ed), Routledge.

■成績の評価基準
discussion and presentation (70%) 3times reports (10%x3=30%)
■オフィスアワー
Break time after each class pn Zoom
■受講要件
N/A
■備考
N/A

■科目名			
Prehistory of Amami and Okinawa Islands			
■英語名			
Prehistory of Amami and Okinawa Islands			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
髙宮広土	0997-69-4851	takamiya@cpi.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
N/A			
■授業概要			
This course will introduce prehistory of Amami and Okinawa islands, covering roughly ca. 30,000 years ago to 800 years ago.The prehistory of this region is usually subdivided into Paleolithic (30000-10000 BP), Shellmidden(ca. 10000-1000BP) and Gusuku (1000-600BP) periods. If one examines prehistory of this region in the context of world island prehistory, several unique aspects emerges, which are probably understood only in this region in the world.			
■学修目標			
1) To understand importance of island prehistory. 2) To understand prehistory of Amami and Okinawa archipelagos. 3) To understand nature and human group interrelationship. 4) To understand hunter-gatherers and agriculturalists.			
■授業計画			
1) Introduction 2) What Anthropology (tentative) ? 3) Amani field trip (on archaeology, tentative) 4) Amami field trip (on archaeology, tentative) 5) Amami field trip (on archaeology, tentative) 6) Amami field trip (on archaeology, tentative) 7) Amami field trip (on archaeology, tentative) 8) Amami field trip (on archaeology, tentative) 9) Human History (tentative) 10) Islands and Humans(tentative) 11) Ryukyu Prehistory(tentative) 12) Amami and Okinawa prehistory(tentative) 13) When did humans first adapt the Amami/Okinawa archipelagos(tentative) 14) Unique aspects of the Amami and Okinawa prehistory(tentative) 15) Summary This course includes field trip to Amami Island. According to weather and so on, the schedule listed above might change.			
■教科書			
N/A			
■参考書			
N/A			
■成績の評価基準			
class participation 50% report 50%			
■オフィスアワー			
break time			
■受講要件			
N/A			

■備考

During the course period, we will visit archaeological sites and museums.

■科目名			
Practical Training			
■英語名			
Practical Training			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
西村知	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
none			
■授業概要			
This subject is to guide the students on their research topic so that they can conduct field research smoothly. *All the lectures will be done by remote teaching. The students will communicate with the lecturer with Skype and e-mail.			
■学修目標			
1. Clarifying field research topic 2. Deciding the research sites and interviewees 3. Deciding the research methods 4. Conducting field research 5. Collecting and analyzing the data 6. Presentation and discussion with the lecturer and other students 7. Double checking the above			
■授業計画			
1-2. Clarifying field research topic 3-4. Deciding the research sites and interviewees 5-6. Deciding the research methods 7-9. Conducting field research 10-12. Collecting and analyzing the data 13-14. Presentation and discussion with the lecturer and other students 15. Double checking the above			
■教科書			
Introduced after opening the class			
■参考書			
Introduced after opening the class			
■成績の評価基準			
presentation(90%) and reports(10%)			
■オフィスアワー			
from noon to 1 pm on wednesdays			
■受講要件			
N/A			
■備考			
All the instructions will be in English.			

■科目名			
Practical Training			
■英語名			
Practical Training			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択必修科目	集中講義	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
萩野誠	7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
N/A			
■授業概要			
You must set your theme of a report, and select a investigation method and then actually carry out a field work. We will advice you choosing an efficient method and a better field.			
■学修目標			
1. to acheive your report 2. to learn a research method from this experience.			
■授業計画			
1st-3rdth: to set a theme 4th-5th: to select a method 6th-15th: to research in a field			
■教科書			
none			
■参考書			
none			
■成績の評価基準			
to evaluate a report(100%)			
■オフィスアワー			
Break time after each lecture			
■受講要件			
N/A			
■備考			
N/A			

■科目名			
Field Studies			
■英語名			
Field Studies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	実習	2単位	2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
Hagino Makoto	099-285-7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
Vice supervisor.			

■授業概要

Supervisor and vice supervisor supervise matters relating to the field investigation

1st-10th: Field Research
1st: planning a research
2nd: make connections to key persons(1)
3rd: make connections to key persons(2)
4th: collect data(1)
5th: collect data(2)
6th: collect data(3)
7th: evaluate data(1)
8th: evaluate data(2)
9th: collect data(4)
10th: collect data(5)
11th: rough drawing(1)
12th: rough drawing(2)
13th: rough drawing(3)
14th: presentation to the residents
15th: presentation to the residents

■学修目標

Under the supervision of the supervisor and vice supervisor, to carry out a field investigation relating to the island region on a theme chosen by the student, and to complete research outcomes.

■授業計画

For 15 sessions, the supervisor and vice supervisor will supervise matters relating to the field investigation.

■教科書

To be advised by supervisor.

■参考書

To be advised by supervisor.

■成績の評価基準

Result evaluation criteria Overall evaluation from the content of reports, etc(100%).

■オフィスアワー

To be advised by supervisor.

■受講要件

Open only to second year students of Regional Development Course.
Compulsory for Regional Development Course students.

■備考

Classes are conducted in English.

■科目名			
Research Guidance			
■英語名			
Research Guidance			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	演習	2単位	2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
Hagino Makoto	099-285-7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

Vice supervisor.

■授業概要

The supervisor and vice supervisor deputy supervise the research.

■学修目標

To carry out a systematic investigation and research, and complete research outcomes.

■授業計画

For 15 sessions, the supervisor and vice supervisor will supervise matters relating to the investigation and research

1st: guidance: introduce the research field.
2nd: presentation of fundamental conditions about the field.
3rd: method of historical approach
4th: method of economic approach
5th: method of management approach
6th: method of sociological approach
7th: how to make a structure of theoretical framework(1)
8th: how to make a structure of theoretical framework(2):presentation
9th: how to make a structure of theoretical framework(3):presentation
10th: Field report(1): presentation
11th: Field report(2): presentation
12th: Field report(3): modified version
13th: Field report(4): modified version
14th: supervisor's presentation(1)
15th: supervisor's presentation(2)

■教科書

To be advised by supervisor.

■参考書

To be advised by supervisor.

■成績の評価基準

Overall evaluation from the content of reports, etc(100%).

■オフィスアワー

To be advised by supervisor.

■受講要件

Open only to second year students of Regional Development Course.
Compulsory for Regional Development Course students.

■備考

Classes are conducted in English.

■科目名			
Research Guidance			
■英語名			
Research Guidance			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	演習	2単位	2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
Hagino Makoto	099-285-7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
Vice supervisor.			
■授業概要			
The supervisor and vice supervisor deputy supervise the research.			
■学修目標			
To carry out a systematic investigation and research, and complete research outcomes.			
■授業計画			

For 15 sessions, the supervisor and vice supervisor will supervise matters relating to the investigation and research.

1st-2nd: 1st presentations
 1st: presentation of the progress report(1)
 2nd: presentation of the progress report(2)

3rd-4th:
 3rd: presentation of the new version
 4th: presentation of the new version

5th-6th:
 5th: presentation for the interim report
 6th: presentation for the interim report

* after interim report

7th-10th: additional research
 7th: get new data
 8th: get new data
 9th: get new data
10th: get new data
11th: get new data

12th-15th: final version report
12th: presentation of final version report
13th: presentation of final version report
14th: presentation of final version report
15th: presentation of final version report

■教科書

To be advised by supervisor.

■参考書

To be advised by supervisor.

■成績の評価基準

Overall evaluation from the content of reports, etc(100%).

■オフィスアワー

To be advised by supervisor.

■受講要件

Open only to second year students of Regional Development Course.
Compulsory for Regional Development Course students.

■備考

Classes are conducted in English.

■科目名			
Field Studies			
■英語名			
Field Studies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	実習	2単位	2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
Hagino Makoto	099-285-7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

Vice supervisor.

■授業概要

Supervisor and vice supervisor supervise matters relating to the field investigation.

■学修目標

Under the supervision of the supervisor and vice supervisor, to carry out a field investigation relating to the island region on a theme chosen by the student, and to complete research outcomes.

■授業計画

For 15 sessions, the supervisor and vice supervisor will supervise matters relating to the field investigation.

1st-10th: Field Research
1st: planning a research
2nd: make connections to key persons(1)
3rd: make connections to key persons(2)
4th: collect data(1)
5th: collect data(2)
6th: collect data(3)
7th: evaluate data(1)
8th: evaluate data(2)
9th: collect data(4)
10th: collect data(5)
11th: rough drawing(1)
12th: rough drawing(2)
13th: rough drawing(3)
14th: presentation to the residents
15th: presentation to the residents

■教科書

To be advised by supervisor.

■参考書

To be advised by supervisor.

■成績の評価基準

Result evaluation criteria Overall evaluation from the content of reports, etc(100%).

■オフィスアワー

To be advised by supervisor.

■受講要件

Open only to second year students of Regional Development Course.
Compulsory for Regional Development Course students.

■備考

Classes are conducted in English.

■科目名			
研究指導			
■英語名			
Research Guidance			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
各指導教員	各指導教員に確認のこと。	各指導教員に確認のこと。	
■共同担当教員			
副指導教員			
■授業概要			
指導教員と副指導教員により履修指導を含めた研究指導が行われる。			
■学修目標			
計画的な履修、研究を行い、修士論文を完成させる。			
■授業計画			
15回の授業を通して、指導教員、副指導教員が履修、研究に関する指導を行う。			
■教科書			
指導教員により指示される。			
■参考書			
指導教員により指示される。			
■成績の評価基準			
レポート(10%)、報告内容（90%）により総合的に評価する。			
■オフィスアワー			
指導教員により指示される。			
■受講要件			
指導教員が開設する「研究指導」科目のみ受講が可能である。			
■備考			
一般選抜、外国人留学生特別選抜および社会人特別選抜で修士論文により学位を取得する者は必修である。			

■科目名			
研究指導			
■英語名			
Research Guidance			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
各指導教員	各指導教員に確認のこと。	各指導教員に確認のこと。	
■共同担当教員			
副指導教員			
■授業概要			
指導教員と副指導教員により履修指導を含めた研究指導が行われる。			
■学修目標			
計画的な履修、研究を行い、修士論文を完成させる。			
■授業計画			
15回の授業を通して、指導教員、副指導教員が履修、研究に関する指導を行う。			
■教科書			
指導教員により指示される。			
■参考書			
指導教員により指示される。			
■成績の評価基準			
レポート、報告内容などにより総合的に評価する(100%)。			
■オフィスアワー			
指導教員により指示される。			
■受講要件			
指導教員が開設する「研究指導」科目のみ受講が可能である。			
■備考			
一般選抜、外国人留学生特別選抜および社会人特別選抜で修士論文により学位を取得する者は必修である。			

■科目名			
特別講義			
■英語名			
Special Lecture			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目/社会人	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
専攻教務委員	各教員に確認すること。	各教員に確認すること。	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
この授業は社会人特別選抜による入学者を対象に、専門的研究を進める上で必要になる研究方法についての基本的な手法や知識の習得を目的としている。また、専攻各分野の教員が複数で担当し、幅広く必要な知識にふれることができる。			
■学修目標			
1.専門の研究に必要な基礎的な研究手法を習得する。 2.社会科学についての基礎的な知識を獲得する。			
■授業計画			
第１回　ガイダンス 第２回　社会科学の研究手法等について 第３回　社会科学の研究手法等について 第４回　社会科学の研究手法等について 第５回　社会科学の研究手法等について 第６回　社会科学の研究手法等について 第７回　社会科学の研究手法等について 第８回　社会科学の研究手法等について 第９回　社会科学の研究手法等について 第１０回　社会科学の研究手法等について 第１１回　社会科学の研究手法等について 第１２回　社会科学の研究手法等について 第１３回　社会科学の研究手法等について 第１４回　社会科学の研究手法等について 第１５回　まとめ ※詳しい内容はガイダンス等で別途案内する。			
■教科書			
毎回の授業で必要な資料を配付する。			
■参考書			
掲示、または授業中に指示する。			
■成績の評価基準			
教員各自の講義内容に応じた評価方法（例：平常点、レポート等）と基準による(100%)。			
■オフィスアワー			
授業の際に各担当者が伝える。			
■受講要件			
この科目は社会人特別選抜により入学した学生の必修科目である。また、他の選抜方法による入学者も履修できる。			
■備考			
この科目は社会人特別選抜により入学した学生の必修科目である。また、他の選抜方法による入学者も履修できる。			

■科目名			
租税政策論特論			
■英語名			
Tax Policy			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
林田吉恵	099-285-7525	yhayashida@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

税は国や地方の活動を財源面で支えるという重要な役割を果たすだけでなく、課税から納税までのプロセスにおいて、私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。本講義では、望ましい税制を考える際の基準となる原則、税が及ぼす様々な効果、税体系、租税制度、税の構造等を解説することによって、近い将来の増税が不可避となっている状況の中で、今後の税体系・租税制度のあり方を考える上で必要な知識を提供する。

■学修目標

財政に関する基礎知識、基本的概念を自己の言葉で説明でき、また理論的背景についても説明できる。そのうえで、それらの理論や制度を応用できるようにする。

１．わが国における税体系・租税制度に関する知識を習得する。
２．租税制度に関する調査・分析力を養う。
３．今後の税体系・租税制度のあり方について、考える力を養う。

■授業計画

第１回：財政の役割と税の働き（日本の税制の現状と課題、租税原則、税の転嫁と帰着）
第２回：所得税法を考える(1)（控除制度の意義と改革、所得捕捉率格差の実証分析）
第３回：所得税法を考える(2)（所得再分配効果と所得税制）
第４回：所得税法を考える(3)（給付付き税額控除の設計）
第５回：所得税法を考える(4)（金融所得課税一体化の意義と課題）
第６回：法人税法を考える(1)（法人企業所得に関する平均実効税率の計測）
第７回：法人税法を考える(2)（法人企業所得課税と企業設備投資）
第８回：法人税法を考える(3)（企業再編と連結納税制度）
第９回：法人税法を考える(4)（海外直接投資と法人税制）
第１０回：消費税法を考える(1)（消費税の逆進性と複数税率化）
第１１回：消費税法を考える(2)（益税・損税の推計とその要因）
第１２回：消費税法を考える(3)（消費税の価格転嫁に関する実証分析）
第１３回：相続税法・贈与税方を考える(1)（相続税の課税方式と資産再分配効果）
第１４回：相続税法・贈与税方を考える(2)（贈与税制の変遷と住宅投資・住宅建設促進効果）
第１５回：総括

■教科書

『租税の経済分析　望ましい税制をめざして』森　徹、森田雄一著　中央経済社

■参考書

講義内容に応じて、適宜、講義資料を配布する。

■成績の評価基準

講義中の研究報告およびレポートによって(100%)評価する。

「今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性があります」

■オフィスアワー

メールで連絡してください。

■受講要件

学部レベルのマクロ経済学、ミクロ経済学、財政学の知識があることが望ましい。

■備考

特になし。

■科目名			
国際経済システム論特論			
■英語名			
International Economic System			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
日野道啓	099-285-7525	hino@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

国際経済に関する理論と政策について学習し、国際経済の諸問題について分析できるようになることを目的とする。具体的には、国際貿易の利益、貿易交渉、東アジアのFTAの隆盛について取り上げる。

■学修目標

1.国際経済に関する理論を理解することができる。
2.国際経済政策に関する諸問題についてクリティカルシンキングすることができる。

■授業計画

1．ガイダンス　【遠隔形式（Zoom）】
2．発表と討論　【遠隔形式（Zoom）】
3．発表と討論　【遠隔形式（Zoom）】
4．発表と討論　【遠隔形式（Zoom）】
5．発表と討論　【遠隔形式（Zoom）】
6．発表と討論　【遠隔形式（Zoom）】
7．発表と討論　【遠隔形式（Zoom）】
8．発表と討論　【遠隔形式（Zoom）】
9．発表と討論　【遠隔形式（Zoom）】
10．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
11．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
12．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
13．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
14．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
15．総括　　【遠隔形式（Zoom）】

■教科書

受講生と相談の上、決定する。

■参考書

授業時に適宜紹介する。

■成績の評価基準

報告内容(40%)、討論内容(40%)、授業の理解度（20%)

■オフィスアワー

火曜日4限目。メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
日本経済史特論			
■英語名			
Japanese Economic History			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
三浦壮	099-285-8905	miura@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

近現代日本経済の歩みを数量経済史の手法を用いて分析する研究者の著作をもとに読み解いていく。具体的には中村隆英『日本経済：その成長と構造〔第3版〕』を購読する。著者は、理論ではなく実証を重視する。著者の示した歴史像は、マルクス経済学で固められた従来の日本経済の把握方法を打ち崩し、今や日本経済史・日本経済論研究にとって欠かすことのできない流派となりつつある。しかも方法論は極めてシンプルで分かりやすい（数学がわからなくとも理解できる）。受講者は著者の歴史観が、分かりやすく面白いだけでなく、堅実な実証によって支持されていることを読み取ってもらいたい。

■学修目標

１．近代現代における日本経済の発展史に関する知識を習得すること。
２．数量経済史の研究手法について理解すること
３．上記をもとに、現代日本経済を分析する能力を身につけること

■授業計画

第1回　ガイダンス（対面授業）
第2回　発表と議論（対面授業）
第3回　発表と議論（対面授業）
第4回　発表と議論（対面授業）
第5回　発表と議論（対面授業）
第6回　発表と議論（対面授業）
第7回　発表と議論（対面授業）
第8回　発表と議論（対面授業）
第9回　発表と議論（対面授業）
第10回　発表と議論（対面授業）
第11回　発表と議論（対面授業）
第12回　発表と議論（対面授業）
第13回　発表と議論（対面授業）
第14回　発表と議論（対面授業）
第15回　発表と議論（対面授業）
第16回　まとめ（対面方式）

■教科書

受講者と相談して決める。
とくに読みたい本が決まらない場合は，中村隆英『日本経済：その成長と構造〔第3版〕』（1993年、東京大学出版会）を読む。

■参考書

特になし。

■成績の評価基準

議論への参加度（50%）と予備調査の内容（50%）。
無断欠席は1回，連絡があっても3回以上休むと，単位認定の対象外となる。

■オフィスアワー

火曜5限目

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
情報社会論演習			
■英語名			
Informational Society Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
桑原司 Tsukasa Kuwabara	099-285-7581	k8716665@kadai.jp	
■共同担当教員			
なし。			

■授業概要

シンボリック相互作用論の基礎的概念について
社会的構築主義について
社会的世界論について

＜DESCRIPTION＞
On the basic concepts of Symbolic Interactionism
On Social Constructionism
On Social World Perspective

■学修目標

シンボリック相互作用論のパースペクティブを理解し習得する。
シンボリック相互作用論のパースペクティブの適用方法を理解し習得する。
シンボリック相互作用論のパースペクティブの問題点を理解する。

＜GOAL AND OBJECTIVE＞
To understand the perspective of Symbolic Interacionism.
To understand how the perspective should be employed into empirical studies.
To understand problems of the perspective and make hypothetical answers to them.

■授業計画

1)授業で用いるテキストについて【遠隔形式（Zoom）】
2)社会学のシカゴ学派について（上）【遠隔形式（Zoom）】
3)社会学のシカゴ学派について（下）【遠隔形式（Zoom）】
4)ブルーマーのシンボリック相互作用論について【遠隔形式（Zoom）】
5)自己相互作用と行為について【遠隔形式（Zoom）】
6)相互作用とジョイント・アクションについて【遠隔形式（Zoom）】
7)シンボリック相互作用論の方法論について【遠隔形式（Zoom）】
8)準拠集団について【遠隔形式（Zoom）】
9)文化と自己統制について【遠隔形式（Zoom）】
10)社会的世界論について【遠隔形式（Zoom）】
11)選択的反応について【遠隔形式（Zoom）】
12)社会的構築主義（上）【遠隔形式（Zoom）】
13)社会的構築主義（下）【遠隔形式（Zoom）】
14)シンボリック相互作用論の諸課題について【遠隔形式（Zoom）】
15)総括【遠隔形式（Zoom）】

＜LESSON PLAN＞
1) On the textbooks of this course
2) Chicago School of Sociology: I
3) Chicago School of Sociology: II

4) Symbolic Interactionism by Herbert Blumer
5) Action through Self-Interaction
6) Joint Actions through Symbolic Interaction
7) Methodological Position of Symbolic Interactionism
8) Reference Groups as Perspectives
9) Social Control as Self Control
10) Social worlds
11) Selective Responsiveness
12) Social Problems as Collective Behavior
13) Social Constructionism
14) Some problems in the perspective of Symbolic Interactionism
15) Discussion

■教科書

＜REQUIRED TEXT＞
Tsukasa Kuwabara and Kenichi Yamaguchi. An Introduction to the Sociological Perspective of Symbolic Interactionism. http://id.nii.ac.jp/1066/00000183/. 2018-01-12. URL:http://web.archive.org/web/20180112064050/https://megalodon.jp/ref/2018-0112-1539-42/https://nuk.repo.nii.ac.jp:443/?action=repository_uri&item_id=193&file_id=22&file_no=1. Accessed: 2018-01-12. (Archived by WebCite? at http://www.webcitation.org/6wPRNNBb3).

「パースペクティブとしての準拠集団」（http://web.archive.org/web/20190121053337/http://jairo.nii.ac.jp/0016/00010061/en）
Reference Groups as Perspectives (www.jstor.org/stable/2771966)
「集合行動としての社会問題」（http://web.archive.org/web/20181102004016/http://jairo.nii.ac.jp/0016/00003827/en）
Social Problems as Collective Behavior (www.jstor.org/stable/799797)

■参考書

桑原司（2000）『社会過程の社会学』関西学院大学出版会BookPark、ほか（適宜指示）。

＜RECOMMENDED READING＞
Advise in the lecture.

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（100%）。

＜GRADING＞
Assess comprehensively.

■オフィスアワー

水曜5限目

＜OFFICE HOUR＞
Wednesday, 16:10-17:40

■受講要件

なし。

＜QUALIFICATION＞
Nothing in particular.

■備考

特になし。

■科目名			
ミクロ経済学特論			
■英語名			
Microeconomics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
石塚孔信	099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
ミクロ経済学の中・上級レベルのテキストを読み進める。今期は、消費者行動と生産者行動について理解を進めていく。学部で学習した効用最大化問題と利潤最大化問題についてさらに一般化した関数型を用いて理論的に考察していく。			
■学修目標			
ミクロ経済学の学習は、経済モデルを用いて数量的に分析する事が多いために文科系の学生にとってはハードルが高く思われがちである。しかし、そのハードルを超える事ができれば自分で考える事が容易になるという特徴も持っている。演習では自分でそのハードルをこえる能力をつけてもらう。			
■授業計画			
次のようなスケージュールで講義を行なう。講義は全て基本的には対面で行う。 第１回：イントロダクション 第２回～第８回：　消費者行動の理論 第９回～第１４回：生産者行動の理論 第15回：まとめ			
■教科書			
西村和雄・友田康信『経済学ゼミナール上級編』実務教育出版、２０１５年.			
■参考書			
授業中に適宜指示する。			
■成績の評価基準			
授業での報告（８０％）と質問等（２０％）			
■オフィスアワー			
木曜日の3限			
■受講要件			
なし			
■備考			
遠隔授業となるため、授業計画に変更が出てくる可能性があります。			

■科目名			
国際開発経済論特論			
■英語名			
Theory of International Economic Development			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
西村知	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし nobody			
■授業概要			
開発経済学の基礎となる文献を輪読し解説する。 The basic theories on international economic development will be taught by the lecturer (Prof. Nishimura).			
■学修目標			
開発経済学の基礎を学習する。 The aim of the class is to understand the basic theories of international development economics by listing to the lectures.			
■授業計画			
１オリエンテーション（授業内容の解説）（orientation) 2-14 テキストの輪読と教員による解説（lecturers on the theories) 15 テキスト内容の復習（review)			
■教科書			
基本的には開発経済学に関するものであるが、受講生の研究内容に合わせて決定する。 The contents and the texts will be chosen depending on the field of the students.			
■参考書			
授業の開始後に決定する。 Other related reading materials will be introduced after the class starts.			
■成績の評価基準			
授業におけるテキスト報告（50%）と議論の質（50%）（0-100点） The degree of understanding of the theories. (report:50%, discussion:50%)			
■オフィスアワー			
火曜日1時半から２時半 offic e hour: every Thuesday from 13:30 to 14:30			
■受講要件			
なし			
■備考			
なし。			

■科目名			
国際貿易投資論特論			
■英語名			
International Trade and Investment			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
山本一哉（Kazuya Yamamoto）	099-285-7595	yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

海外直接投資及び多国籍企業に関する代表的な論文（日本語及び英語）や日本及び中国企業の国際事業活動に関する論文を分担して報告してもらい、ディスカッションする。

DESCRIPTION：
We will learn about foreign direct investment,multinational companies and international business activities of Japanese and Chinese companies.

■学修目標

１）海外直接投資及び多国籍企業に関する専門的な知識を習得する。
２）日本及び中国の多国籍企業の国際事業活動について理解する。

GOAL AND OBJECTIVE：
1.to learn foreign direct investment and multinational companies.
2.to understand international business activities of Japanese and Chinese multinational companies.

■授業計画

すべて対面で実施する。

第１回　ガイダンス
第２回　論文報告及びディスカッション（直接投資理論）
第３回　論文報告及びディスカッション（直接投資理論）
第４回　論文報告及びディスカッション（直接投資理論）
第５回　論文報告及びディスカッション（多国籍企業論）
第６回　論文報告及びディスカッション（多国籍企業論）
第７回　論文報告及びディスカッション（多国籍企業論）
第８回　論文報告及びディスカッション（日本企業の対外直接投資）
第９回　論文報告及びディスカッション（日本企業の対外直接投資）
第１０回　論文報告及びディスカッション（日本企業の対外直接投資）
第１１回　論文報告及びディスカッション（日本企業の対外直接投資）
第１２回　論文報告及びディスカッション（日本企業の対外直接投資）
第１３回　論文報告及びディスカッション（中国企業の対外直接投資）
第１４回　論文報告及びディスカッション（中国企業の対外直接投資）
第１５回　総括

LESSON PLAN：
１. Guidance
2-14.Presentation and Discussion
15.Review

■教科書

使用しない
REQUIRED　TEXT：none

■参考書

クルーグマン他（山形浩生他訳）『クルーグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第10版〕上:貿易編』丸善出版（2017年）

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（100%）
GRADING：Contribution to class discussion

■オフィスアワー

曜日・時間：講義終了後、場所：研究室
OFFICE HOUR:After the seminar

■受講要件

なし　QUALIFICATION：none

■備考

なし

■科目名			
日本教育史演習			
■英語名			
Japanese History of Education　Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
前田晶子	099-285-7787	maedaaki@edu.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

本演習では、教育史研究のための手法を獲得することを目的として、人口、移動、家族、産育、就学、就労といった基礎概念を整理したうえで、一次資料の読解や分析を行う。社会史研究で扱う資料は公的なものばかりではなく、断片的で私的な資料も対象とするため、それらの資料群から歴史を叙述する方法について、具体的に学んでいく。取り上げる内容については、受講生の関心を踏まえて設定する。

■学修目標

以下の点を到達目標とする。
１．教育学における歴史研究の役割について理解する。
２．一次資料を用いた研究手法を獲得する。

■授業計画

第１回　教育史の課題：イントロダクション
第２回　教育学研究と社会史(1)
第３回　教育学研究と社会史(2)
第４回　教育学研究と社会史(3)
第５回　教育学研究と社会史(4)
第６回　テーマの設定
第７回　資料収集と分析(1)
第８回　資料収集と分析(2)
第９回　資料収集と分析(3)
第10回　資料収集と分析(4)
第11回　資料収集と分析(5)
第12回　資料作成
第13回　発表(1)
第14回　発表(2)
第15回　総括と最終レポート課題提示
期末試験は行わず、指定期日までにレポ ート提出を求める

■教科書

各回に資料を配付する。

■参考書

中内敏夫『中内敏夫著作集４教育の民衆心性』藤原書店1998年
広田照幸他編『福祉国家と教育』昭和堂2013年

■成績の評価基準

本演習では、受講者が個別に課題に取り組むことになるので、その課題の達成状況（60%）と、最終レポート（40%）を併せて評価する。

■オフィスアワー

水曜日12:00～12:40

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
比較教育社会史演習			
■英語名			
History of Education and Society Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
杉原薫	099-285-7789	ka-sugiha@edu.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

近代の欧米諸国を対象とした教育社会史の研究を医療、福祉、ジェンダー、ナショナリズムなどのテーマごとに取り上げ、ディスカッションすることで、教育から社会と国家を捉え、社会と国家から教育の構造と機能について考察する。

■学修目標

１．社会とのつながりのなかで教育を理解することができる。
２．教育の視点から社会の変化を説明することができる。

■授業計画

１．オリエンテーション―社会・国家と教育との関係性について―
２．フランスにおける「公教育」とその多様な担い手
３．前世紀転換期イングランドにおける教育の政治的空間
４．福祉国家と教育の関係をどう考えるか
５．身体教育と国家・カトリック・共和派
６．医学と女子高等教育の相克
７．「医の既存世界」を越える「女性個人の身体」論
８．初期近代イングランドの家政論における家政の統治と子どもの「教育」
９．家族による子どもの健康管理のはじまり
１０．20世紀初頭ドイツにおける母の日と教育
１１．フランス出産奨励運動の子ども観と家族
１２．「福祉を通じた教育」の選別と子ども
１３．未婚の母の救済／非嫡出子の放逐
１４．地域による「精神薄弱児」への支援と排除
１５．まとめ

■教科書

必要な資料は印刷して配布します。

■参考書

望田幸男・橋本伸也編『ネイションとナショナリズムの教育社会史』昭和堂、2004年。
広田照幸・橋本伸也・岩下誠編『福祉国家と教育』昭和堂、2013年。
三時眞貴子・岩下誠ほか『教育支援と排除の比較社会史―「生存」をめぐる家族・労働・福祉』昭和堂、2016年。
小山静子・小玉亮子編著『子どもと教育―近代家族というアリーナ―』日本経済評論社、2018年。
姫岡とし子・長谷川まゆ帆ほか『ジェンダー』ミネルヴァ書房、2008年。

■成績の評価基準

授業への参加度・貢献度：50点
最終レポート：50点

■オフィスアワー

月曜日12：00～12：30、木曜日12：00～12：30
この日以外にもメールでアポを取ってもらえば、対応できます。

■受講要件

日本語テキストを読解し、日本語でのディスカッションに参加できる者。

■備考

特になし。

■科目名			
共生社会の学習論演習			
■英語名			
Learning Theory of Convivial Society Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
平野　拓朗	0992857785	hirano@edu.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

共生社会における学習、及び共生社会へ向けた学習について議論する。具体的には、状況的学習論、文化心理学、文化・歴史的活動理論における協働学習の理論と実践について検討する。

■学修目標

1　共生社会における学習について、現代的課題を認識することができる。
2　共生社会における協働的で創造的な学習について理解することができる。

■授業計画

1　ガイダンス
2　発表と討論
3　発表と討論
4　発表と討論
5　発表と討論
6　発表と討論
7　発表と討論
8　発表と討論
9　発表と討論
10　発表と討論
11　発表と討論
12　発表と討論
13　発表と討論
14　発表と討論
15　総括

■教科書

なし

■参考書

コール，M.（2002）．天野清訳『文化心理学???発達・認知・活動への文化ー歴史的アプローチ』新曜社.レイヴ，J.，& ウェンガー，E.（1993）．佐伯胖訳『状況に埋め込まれた学習???正統的周辺参加』産業図書.
エンゲストローム，Y.（2020）．山住勝広訳『拡張による学習　完訳増補版???発達研究への活動理論からのアプローチ』新曜社.
ヴァルシナー，J.（2013）．サトウタツヤ訳『新しい文化心理学の構築???〈心と社会〉の中の文化』新曜社.

■成績の評価基準

授業への取り組み態度と文献の理解(100%)

■オフィスアワー

月曜日の14時30分から15時30分

■受講要件

なし

■備考

特になし。

■科目名			
教育社会学特論			
■英語名			
Sociology of Education			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
濱沖　敢太郎	099-285-7525	khamaoki@edu.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

日本の学校教育における能力主義の歴史的展開について、経験的な研究の成果にもとづく理解を深める。同時に、日本の教育社会学において「能力主義」という概念が果たしてきた理論的な役割について考察する。その際、北米の教育社会学史における「業績主義」との異同や、研究成果の社会的受容のあり方について考えることを主たる課題としたい。

■学修目標

（１）能力主義をめぐる論争の基本的な構図を理解すること。
（２）能力主義をめぐる社会理論と調査との接合について考えを深めること。

■授業計画

第１回 オリエンテーション
第２回 近代の学としての社会学
第３回 社会学と教育
第４回 教育の社会的機能
第５回 社会学理論の射程
第６回 日本の官僚制と試験
第７回 大衆教育社会における試験
第８回 努力主義の成立条件
第９回 教育問題としての不登校
第10回 日本型メリトクラシーの展望
第11回 地位をめぐる闘争
第12回 学歴貴族の闘い
第13回 性の自己管理
第14回 良妻賢母の系譜
第15回 全体のまとめ

■教科書

指定しない。必要な論文・文献は講義中に指示する。

■参考書

なし

■成績の評価基準

レポート（発表担当＋学期末で100%）で評価する。

■オフィスアワー

水曜５限

■受講要件

なし

■備考

特になし。

■科目名

経済統計論特論

■英語名

Economic Statistics

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
経済社会システム専攻	博士前期課程	

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
松川太一郎	099-285-7525	matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

統計資料を数量的に分析するための基礎的手法と理論を学ぶ。
上記を踏まえて、統計資料の数量的分析による社会・経済現象の認識内容・性質を検討する。
講義内容は教科書欄に示す教科書に基づくが、理解を促進するためにプリントならびに板書を活用する。また、様々な媒体で公表されている統計資料とエクセル等のソフトを用いて、統計資料の数量的分析を実践する。

遠隔授業にあたっては、資料と課題のファイルをマナバで事前に配布し、演習を時間割通りにリアルタ イムでZOOMを通じ た音声＋資料表示の形で実施する。マナバでの連絡に注意すること。また、ZOOMのURL、ID、 パスワードは絶対 外部に漏らさないこと。これが外部に漏れると、部外者による授業妨害を引き起こす恐れが ある。

なお、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

■学修目標

統計資料の数量的分析の方法が、社会科学の理論とどのように結びついて、どのように経済の在り方を映し出すのか、ということを理解して、社会・経済現象を認識するのに適切な統計資料の分析方法を選択できるようにする。

■授業計画

第１回　ガイダンス（リアルタイム型＋課題提出型）
第２回　政府統計の情報性格(1)（リアルタイム型＋課題提出型）
第３回　政府統計の情報性格(2)（リアルタイム型＋課題提出型）
第４回　データの特性値(1)（リアルタイム型＋課題提出型）
第５回　データの特性値(2)（リアルタイム型＋課題提出型）
第６回　データの特性値(3)（リアルタイム型＋課題提出型）
第７回　度数分布(1)（リアルタイム型＋課題提出型）
第８回　度数分布(2)（リアルタイム型＋課題提出型）
第９回　度数分布(3)（リアルタイム型＋課題提出型）
第１０回　多変数データの整理(1)（リアルタイム型＋課題提出型）
第１１回　多変数データの整理(2)（リアルタイム型＋課題提出型）
第１２回　多変数データの整理(3)（リアルタイム型＋課題提出型）
第１３回　経済変数間の関係(1)（リアルタイム型＋課題提出型）
第１４回　経済変数間の関係(2)（リアルタイム型＋課題提出型）
第１５回　経済変数間の関係(3)（リアルタイム型＋課題提出型）

■教科書

田中勝人『経済統計』（第３版）岩波書店、2009年。

■参考書

必要に応じて講義時に適宜紹介する。

■成績の評価基準

学んだ統計資料の数量的分析方法を、自分の関心ある社会・経済領域の統計資料に応用して分析させる宿題を課す。この内容を通して受講者の理解度を判断し、それを基準として成績評価する。課題の提出とそれに基づく講義での討論状況を総合した内容を100%として評価する。

■オフィスアワー

水曜日１限　経済統計論研究室

■受講要件

エクセルの基礎的な使用方法をマスターしていることが必要である。数学に関して、シグマ記号の意味が十分理解できていることが求められる。

■備考

特になし。

■科目名			
現代社会論演習			
■英語名			
Contemporary Society Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
城戸秀之	099-285-7611。	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp。	

■共同担当教員

なし

■授業概要

高度成長期以降、日本社会は大きく変化している。授業では複数のテキストを手がかりに、1980年代以降の現代日本社会の特徴について消費とコミュニケーションに焦点を合わせて考察をおこなう。

■学修目標

1. 社会学の専門知識を習得し、考察に使用できる
2. 現代社会の特徴をとらえて、その事例を示すことができる
3. 現代社会が解決すべき課題を提示できる

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　報告と討論（１）
第３回　報告と討論（２）
第４回　報告と討論（３）
第５回　報告と討論（４）
第６回　報告と討論（５）
第７回　中間討論１
第８回　報告と討論（６）
第９回　報告と討論（７）
第１０回　報告と討論（８）
第１１回　報告と討論（９）
第１２回　報告と討論（１０）
第１３回　報告と討論（１１）
第１４回　中間討論２
第１５回　総括討論

■教科書

森真一『友だちは永遠じゃない』筑摩書房、2014年、ほか。
受講生と相談してテキストを変更することがある。

■参考書

NHK放送文化研究所『現代日本人の意識構造』［第８版］NHK出版、2015年。

■成績の評価基準

報告・討論の内容を評価する（100%）

■オフィスアワー

月曜４限（研究室）

■受講要件

なし

■備考

テキスト、講義生の関心を合わせて追加・変更します。

■科目名			
経営情報論演習			
■英語名			
Management Information Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
萩野誠 HAGIONO, Makoto	7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

ナレッジマネジメントの基礎を研究する。
とくに、ナレッジの具体化をおこなう検索機能を各自開発する。
開発はアクセスベースのSQLでおこなう。

DESCRIPTION:
We must study the basics of knowledge management.
Particularly, we will develop the feature of knowledge
and build our database by access-based SQL.

■学修目標

ディスカッションおよびより深い知見を得るための研究手法を修得する。

GOAL AND OBJECTIVE:
To get some skill to build your database for Knowledge Managemnet.

■授業計画

各自の研究報告による。
報告の結果により、授業の方向を決定する。

LESSON PLAN:
To efficiently manages the progress of your program and to grasp your progress condition.

1st-3rd: management resources
 1st: presentation of management resources
 2nd: presentation of management resources
 3rd: presentation of management resources

4th-7th: property of 'knowledge'
 4th: presentation of knowledge from economics
 5th: presentation of knowledge from management
 6th: presentation of knowledge from small business
 7th: presentation of knowledge from niche market

8th-12th: management of "knowledge"
 8th: presentation from human resources
 9th: presentation from finance
10th: presentation from public sector
11th: presentation from education sector
12th: presentation from information

13th-15th: final presentation

■教科書

なし

REQUIRED TEXT:
none

■参考書

なし
RECOMMENDED READING:
none

■成績の評価基準

GRADING:
The degree of benchmark test for your database(100%).

■オフィスアワー

授業終了後、研究室にて

OFFICE HOUR:
After the seminar

■受講要件

情報に関する知識および簡単なプログラムができることが望ましい

QUALIFICCATION:
Knowledge about the information and simple programing skill.

■備考

特になし。

■科目名			
現代社会論特論			
■英語名			
Contemporary Society			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
城戸秀之	099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

変化する現代社会を論じるには、分析対象の特徴を的確に捉えることが必要になる。

この講義では生活様式の変化に焦点を合わせて社会学の分析ツールをもちいて現代社会の特徴について議論をおこなう。

■学修目標

1. 社会学の専門知識を習得し、分析に使用できる。
2. 社会学の用語をもちいて現代社会を分析することができる。
3. 現代社会の考察すべき特徴を提示できる。

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　報告と討論（１）
第３回　報告と討論（２）
第４回　報告と討論（３）
第５回　報告と討論（４）
第６回　報告と討論（５）
第７回　中間討論１
第８回　報告と討論（６）
第９回　報告と討論（７）
第１０回　報告と討論（８）
第１１回　報告と討論（９）
第１２回　報告と討論（１０）
第１３回　報告と討論（１１）
第１４回　中間討論１
第１５回　総括討論

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

S.バウマン・T.メイ『社会学の考え方』［第2版］筑摩書房、2016年。

■成績の評価基準

報告・討論の内容を評価する（100%）

■オフィスアワー

火曜１限

■受講要件

なし

■備考

使用するテキストについては、受講生の関心に合わせて追加・変更することがある。

■科目名			
農業政策論演習			
■英語名			
Agricultural Policy Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
北﨑浩嗣	099-282-4372	kitazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

本演習では、分析力や論理的思考能力の養成はもちろんのこと、農業調査能力の向上にも目的がある。受講生には、自らのテーマに応じて報告してもらい、そのテーマを詳細にかつ掘り下げていく討論を行いたい。その際、演習担当者も、自らのテーマを挙げ、先例を示すつもりである。

■学修目標

1. 農業調査の専門知識を習得する。
2. 地域農業問題の実例をあげて、その課題と特徴を示すことができる。
3. 農業再生のいくつかの手段を提示できる。

■授業計画

本演習は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　ガイダンス
第２回　発表と討論
第３回　発表と討論
第４回　発表と討論
第５回　発表と討論
第６回　発表と討論
第７回　発表と討論
第８回　発表と討論
第９回　発表と討論
第１０回　発表と討論
第１１回　発表と討論
第１２回　発表と討論
第１３回　発表と討論
第１４回　発表と討論
第１５回　総括

■教科書

演習の事前に、論文、資料等を前もって配布する。
テキスト採用の際は、受講生と相談して、テキストを決定することもある。

■参考書

講義の進展に応じて適宜指示する。

■成績の評価基準

報告の際のプレゼンテーション能力や質疑能力などを総合的に判断した授業参加度(100%)で判定する。

■オフィスアワー

金曜日２時限目、研究室
メール、マナバでの対応可。

■受講要件

特になし

■備考

特になし。

■科目名			
福祉社会学演習			
■英語名			
Welfare Sociology Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
片桐資津子	なし	katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

本演習では、社会調査の理論と実践を学習する。少子高齢化により人口構成と社会システムが激変するなかでどのようにして「社会的事実」を実証的に把握するかということを、調査方法論の観点から学ぶ。

ある問題意識をどのような「調査方法」を用いて明らかにするかという点は、社会科学においてきわめて重要である。とりわけ社会学では、主に量的方法であるアンケート調査と、質的方法であるインタビュー調査、あるいはフィールドワークの手法が採用されることが多い。広義の福祉に関する様々な集団や地域社会において「エヴィデンス（科学的根拠）」を作成するための方法について、「量的方法」と「質的方法」の両側面から修得してもらうことを目指す。

■学修目標

（1）エヴィデンス（科学的根拠）を獲得するための方法を学ぶ。
（2）質的方法と量的方法を概観する。
（3）修士論文の下準備をする。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第3回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第4回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第5回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第6回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第7回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第8回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第9回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第10回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第11回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第12回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第13回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第14回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第15回　まとめ

※基本的にすべての授業は，リアルタイムのオンライン型で実施します。ただし受講生のネット接続といった受講環境や，今後の新型コロナ感染状況次第で，授業回数や内容は変更となる可能性があります.

■教科書

受講生と相談して決定する。

■参考書

適宜、指示する。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（100%）

■オフィスアワー

毎週火曜2

■受講要件

なし

■備考

なし

■科目名			
福祉社会学特論			
■英語名			
Welfare Sociology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
片桐資津子	なし	katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

本特論では，受講生の研究テーマに沿ったかたちで社会学の古典的名著もしくは高品質の最新論文を輪読する。受講生は良質の著作や論文を精読することにより，自らの研究を進めることになる。輪読する論文は福祉関連のものが多くなるが，それは狭義の福祉に限定されるものではない。むしろ家庭，学校，企業，地域社会における「人と人との相互扶助ネットワークのあり方」を「広義の福祉」ととらえて，その現状と変容可能性を探ることになる。

■学修目標

学術的論文の執筆について，以下の8項目に焦点を当てて，その実践を受講生とともに模索することを目指す。(1)問題意識の設定の仕方，(2)研究方法の決め方，(3)先行研究の検討の仕方，(4)調査方法の決め方，(5)分析の仕方，(6)考察の仕方，(7)結論の示し方，(8)今後の課題の提示の仕方。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第3回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第4回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第5回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第6回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第7回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第8回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第9回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第10回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第11回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第12回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第13回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第14回　テキストを素材にレジュメ発表と討論
第15回　まとめ

※基本的にすべての授業は，リアルタイムのオンライン型で実施します。ただし受講生のネット接続といった受講環境や，今後の新型コロナ感染状況次第で，授業回数や内容は変更となる可能性があります.

■教科書

受講生と相談して決定する。

■参考書

適宜，指示する。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（100%）

■オフィスアワー

毎週月曜3

■受講要件

なし

■備考

なし

■科目名			
ミクロ経済学演習			
■英語名			
Microeconomics Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
石塚孔信	099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

ミクロ経済学のテキストを読み進める。前期に引き続いて、消費者行動の応用、生産者行動について理解を深める。学部で学習した効用最大化問題や利潤最大化問題について、さらに考察を深める。

■学修目標

ミクロ経済学の学習は、経済モデルを用いて数量的に分析することが多いために文科系の学生にとってはハードルが高く思われがちである。しかし、そのハードルを超えることができれば自分で考えることが容易になるという特徴も持っている。演習では、自分でそのハードルを超える能力をつけてもらう。

■授業計画

次のようなスケジュールで講義を行う。講義は全て基本的には対面で行う。

第１回：イントロダクション
第２回～第７回：消費者行動の応用
第８回～第１４回：生産者行動の理論
第１５回：まとめ

■教科書

西村和雄・友田康信『経済学ゼミナール上級編』実務教育出版、２０１５年.

■参考書

授業中に適宜指示する。

■成績の評価基準

演習での報告（８０％）と質問等（２０％）

■オフィスアワー

火曜日の3限目

■受講要件

なし

■備考

なし

■科目名			
農業政策論演習			
■英語名			
Agricultural Policy Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
北﨑浩嗣	099-285-7592	kitazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

本講義では、食品偽装事件のいくつかを紹介しながら、川上から川下に至る農産物・食品の流通を分析し、フードシステムに関する理解を深める。さらに、農産物・食品に関する様々な認証制度を取り上げ、その有効性と妥当性を検討する。また、この講義は、全学の食と健康コースに属している。

コロナ対策のため、ズームによるリアルタイム配信授業で対応する。

■学修目標

1. フードシステムに関する専門知識を習得する。
2. 食と農業の課題や特徴を示すことができる。
3. 川上から川下への農産物・食品流通の手段を提示できる。
4. 農産物の認証制度に対する知識を習得する。

■授業計画

第１回　　ガイダンス
第２回～第３回　　食品偽装事件の紹介
第４回～第７回　　フードシステムと流通制度
第８回～第１３回　　農産物の地域ブランドと認証制度
第１４回～第１５回　食と農に関する総括問題

■教科書

講義の一週間前に、論文、資料等を前もって配布する。

■参考書

講義の進展に伴い、適宜指定する。

■成績の評価基準

質疑・討論による授業参加度(100%)で判定する。

■オフィスアワー

金曜日2時間目、研究室

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
経済統計論演習			
■英語名			
Economic Statistics Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
松川太一郎	099-285-7525	matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

統計学の基本文献の精読により、統計学の研究方法を学ぶ。なお、ここでの統計学の研究とは、統計資料の数量的分析ではなく、統計作成過程の成り立ちと性質を客観的に把握する学術的実践を指す。

■学修目標

1. 統計作成過程の論理的把握を志向する統計学の基礎理論を学ぶ。
2. 統計作成過程の成り立ちと性質を客観的に把握するための研究方法を学ぶ。

■授業計画

統計学の基本文献（教科書の欄を参照）を以下のように分けて精読する。
第１回　まえがき、序、第１章 統計情報の諸形態
第２回　第２章 統計情報化と統計家
第３回　第３章 統計情報化と調査目的
第４回　第４章 統計情報化と調査計画
第５回　第５章　統計情報化と集計計画
第６回　第６章　統計調査票
第７回　第７章　7-1　統計的作業過程
第８回　第７章　7-2　統計調査環境
第９回　第８章　統計作成の社会システム
第１０回　第９章　9-1　標本調査の数理と論理
第１１回　第９章　9-2　標本統計資料の吟味
第１２回　第９章　9-3　世論と標本調査
第１３回　第９章　9-4　標本調査と社会体制
第１４回　付論　統計学批判考ー社会科学としての統計学ー　はじめに、1.統計学の視座、2.統計論のために、3.統計作成論のために
第１５回　付論　統計学批判考ー社会科学としての統計学ー　4.かつての素描、5.統計利用と数神性、6.統計利用論を巡って　むすびにかえて

■教科書

大屋祐雪『統計情報論』九州大学出版会、1995年。（鹿児島大学中央図書館所蔵）

■参考書

適宜指定する。

■成績の評価基準

演習時の報告と討論状況を総合した内容を100%として評価する。

■オフィスアワー

火曜１限　経済統計論研究室

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
租税政策論演習			
■英語名			
Tax Policy Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
林田吉恵	099-285-7525	yhayashida@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

税は国や地方の活動を財源面で支えるという重要な役割を果たすだけでなく、課税から納税までのプロセスにおいて、私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。本演習では、望ましい税制を考える際の基準となる原則、税が及ぼす様々な効果、税体系、租税制度、税の構造等について、受講生による報告とディスカッションを中心に進め、今後の税体系・租税制度のあり方について考える場を提供する。

■学修目標

１．わが国における税体系・租税制度に関する知識を習得する。
２．租税制度に関する調査・分析力を養う。
３．今後の税体系・租税制度のあり方について、考える力を養う。

■授業計画

授業計画
第１回：ガイダンス
第２回：報告 ＆ ディスカッション（所得税を考える－制度と構造－）
第３回：報告 ＆ ディスカッション（所得税を考える－所得税と勤労意欲・貯蓄意欲－）
第４回：報告 ＆ ディスカッション（所得税を考える－所得税が抱える諸問題－）
第５回：報告 ＆ ディスカッション（消費税を考える－制度と構造－）
第６回：報告 ＆ ディスカッション（消費税を考える－消費税と消費行動、消費税と逆進性－）
第７回：報告 ＆ ディスカッション（消費税を考える－消費税が抱える諸問題－）
第８回：報告 ＆ ディスカッション（法人税を考える－制度と構造－）
第９回：報告 ＆ ディスカッション（法人税を考える－法人税と経済活力－）
第１０回：報告 ＆ ディスカッション（法人税を考える－法人税が抱える諸問題－）
第１１回：報告 ＆ ディスカッション（相続税と贈与税を考える－制度と構造－）
第１２回：報告 ＆ ディスカッション（相続税と贈与税を考える－富の偏在－）
第１３回：報告 ＆ ディスカッション（地方税を考える－地方税の体系と制度・構造－）
第１４回：報告 ＆ ディスカッション（残された税について）
第１５回：総括

■教科書

とくに指定せず、適宜、講義資料を配布する。

■参考書

特になし。

■成績の評価基準

講義中の研究報告およびレポートによって(100%)評価する。

「今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性があります」

■オフィスアワー

メールで連絡してください。

■受講要件

学部レベルのマクロ経済学、ミクロ経済学、財政学の知識があることが望ましい。

■備考

特になし。

■科目名			
国際貿易投資論演習			
■英語名			
International Trade and Investment Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
山本一哉（Kazuya Yamamoto）	099-285-7595	yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

　海外直接投資及び多国籍企業に関する代表的な論文（日本語及び英語）や日本及び中国企業の国際事業活動に関する論文を分担して報告してもらい、ディスカッションする。
　新型コロナウイルスの感染状況次第でzoomの可能性あり。

DESCRIPTION：
We will learn about foreign direct investment,multinational companies and international business activities of Japanese and Chinese companies.

■学修目標

１）海外直接投資及び多国籍企業に関する専門的な知識を習得する。
２）日本及び中国の多国籍企業の国際事業活動について理解する。
３）修士論文を作成のための基本的な技法を習得する。

GOAL AND OBJECTIVE：
1.to learn foreign direct investment and multinational companies.
2.to understand international business activities of Japanese and Chinese multinational companies.

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　論文報告及びディスカッション、修士論文の個人報告
第３回　論文報告及びディスカッション、修士論文の個人報告
第４回　論文報告及びディスカッション、修士論文の個人報告
第５回　論文報告及びディスカッション、修士論文の個人報告
第６回　論文報告及びディスカッション、修士論文の個人報告
第７回　論文報告及びディスカッション、修士論文の個人報告
第８回　論文報告及びディスカッション、修士論文の個人報告
第９回　論文報告及びディスカッション、修士論文の個人報告
第１０回　論文報告及びディスカッション、修士論文の個人報告
第１１回　論文報告及びディスカッション、修士論文の個人報告
第１２回　論文報告及びディスカッション、修士論文の個人報告
第１３回　論文報告及びディスカッション、修士論文の個人報告
第１４回　論文報告及びディスカッション、修士論文の個人報告
第１５回　総括

LESSON PLAN：
１. Guidance
2-14.Presentation and Discussion
15.Review

■教科書

使用しない
REQUIRED　TEXT：none

■参考書

クルーグマン他（山形浩生他訳）『クルーグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第10版〕上:貿易編』丸善出版（2017年）

■成績の評価基準

授業への取り組み態度(100%)
GRADING：Contribution to class discussion(100%)

■オフィスアワー

曜日・時間：講義終了後、場所：研究室
OFFICE HOUR:After the seminar

■受講要件

なし
QUALIFICATION：none

■備考

なし

■科目名			
総合講義(地球温暖化と代替エネルギー)			
■英語名			
General Lecture			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
市川英孝	099-285-7525	ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

環境に対する意識の高まりから、CO2削減を目的としたECO活動が盛んになっている。資源の有効活用は世界の命題である。CO2を大量に排出し、燃料だけでなく多くの部品に関して石油を使用する自動車では、CO2排出削減や、ガソリン価格の大きな変動により、自動車の購買傾向に大きな変化が起こる。このことはCO2を排出せず、エネルギーとして石油に代替する電気自動車（EV）の今後の発展を意味するのではないか。本講義では、CO2削減ならびに石油に依存しない電気自動車（EV）普及について講義を進める。ここでは、いろいろな自治体でEV普及に関して活動が行われているが、世界自然遺産の島、屋久島を例に挙げる。

■学修目標

電気自動車普及を日本の多くの都市が目指しているが、屋久島でのその可能性を議論し、他の地域への転用を含め講義を進めていく。
また石油の代替エネルギーとしての水力発電等の推進を、世界レベルで考察し、CO2削減ならびにゼロエミッションを目標とする方向性を議論していく。

■授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　他地域でのEV普及の取組み（１）
第3回　他地域でのEV普及の取組み（２）
第4回　他地域でのEV普及の取組み（３）
第5回　他地域でのEV普及の取組み（４）
第6回　屋久島での電気自動車普及について（１）
第7回　屋久島での電気自動車普及について（２）
第8回　屋久島での電気自動車普及について（３）
第9回　屋久島での電気自動車普及について（４）
第10回　屋久島での電気自動車普及について（５）
第11回　屋久島での電気自動車普及について（６）
第12回　屋久島での電気自動車普及について（７）
第13回　日本ならびに世界での電気自動車普及プロセスと代替エネルギーについての考察（１）
第14回　日本ならびに世界での電気自動車普及プロセスと代替エネルギーについての考察（２）
第15回　日本ならびに世界での電気自動車普及プロセスと代替エネルギーについての考察（３）
「今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある」

■教科書

特になし

■参考書

Harvard Business Review ダイヤモンド社

■成績の評価基準

授業への活発な参加ならび発表(100%)

■オフィスアワー

メールにて連絡してください。
水曜2限研究室にて対応する。

■受講要件

屋久島にて授業を行います。後期の初めにオリエンテーションを実施します。

■備考

実地研修前に、ガイダンスを行うので、受講生は、メールにて前もって連絡してください。

■科目名			
コーポレート・ファイナンス特論			
■英語名			
Corporate Finance			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
王鏡凱	7604	kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

コーポレート・ファイナンスの基礎理論を学ぶ．企業の経営資源(人、モノ、お金と情報)の中で，最も汎用性の高いのが“お金”である．企業価値を向上させるお金の流れを作り出すことが，コーポレート・ファイナンスの目的である．コーポレート・ファイナンスの分野から，受講生各自が希望するテーマを設定し，そのテーマについて分析・議論を進めていくものである．

(授業形態：対面形式授業)

*** コロナのため、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。***

■学修目標

コーポレート・ファイナンス特論では，企業価値最大化の観点から，企業の事業戦略(事業価値評価)や財務戦略(資金調達と利益還元)の基礎理論を理解する．

■授業計画

第1回　イントロダクション：財務諸表とキャッシュフローの関係　（対面授業）
第2回　現在価値(1)：キャッシュフローによる記述（対面授業）
第3回　現在価値(2)：成長率付きのキャッシュフローによる記述（対面授業）
第4回　リスク・フリー・レートとリスク・プレミアム（対面授業）
第5回　リスクとリターンの関係：CAPM（対面授業）
第6回　理論価値(1)：JGBと生涯賃金（対面授業）
第7回　理論価値(2)：住宅ローンとPMT関数（対面授業）
第8回　理論価値(3)：DCFとDDM（対面授業）
第9回　理論価値(4)：マルチプル法(PER・EBITDA)（対面授業）
第10回　理論価値(5)：EPSとEVの推定（対面授業）
第11回　市場の効率性と情報の非対称性（対面授業）
第12回　企業の資本構成(1)：加重平均資本コスト(WACC)（対面授業）
第13回　企業の資本構成(2)：MM命題（対面授業）
第14回　企業の資金調達政策（対面授業）
第15回　ペイアウトポリシー(配当政策)と総括（対面授業）

* 授業内容およびテキストについては、受講生研究上の必要性と関心に応じて追加・変更することがある．

* 授業は対面形式である．

*** コロナのため、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある．***

■教科書

森生明,「バリュエーションの教科書」,東洋経済新報社，2016年.
砂川伸幸　笠原真人,「はじめての企業価値評価」,日経文庫,2015年.
また，特定の教科書は指定せず，受講生研究上の必要性と関心に応じて参考書を用いる．

■参考書

1．オリバー・ハート(著),鳥居昭夫(訳)，「企業 契約 金融構造」,慶應義塾大学出版会，2010年.
2．柳川範之，「契約と組織の経済学」，東洋経済新報社，2000年.

3. Jean Tirole, The Theory of Corporate Finance, Princeton University Press, 2006.
4. ポール・ミルグロム（著），ジョン・ロバーツ（著），奥野正寛(訳)，伊藤秀史(訳)，今井晴雄(訳)，西村理(訳)，八木甫(訳)『組織の経済学』NTT出版　1997年.
5. 森生明,「バリュエーションの教科書」,東洋経済新報社，2016年.
6. 砂川伸幸　笠原真人,「はじめての企業価値評価」,日経文庫,2015年.

■成績の評価基準

発表・討論およびレポートによって評価(100%)する.

■オフィスアワー

月曜日・3限目. MANABAの掲示板と電子メールにおいても随時受付しております.

■受講要件

特になし.

■備考

授業内容およびテキストについては，受講生研究上の必要性と関心に応じて追加・変更することがある.

■科目名			
コーポレート・ファイナンス演習			
■英語名			
Corporate Finance Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
王鏡凱	7604	kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

授業形態：全授業は可能である限り対面形式で実施するので，Mask! Must!!
今後のコロナの感染状況やその他の理由により，授業形態を変更する場合がある．

　コーポレート・ファイナンス演習では，企業価値最大化の観点から，企業の事業戦略(事業価値評価)や財務戦略(資金調達と利益還元)の理論を実践する．受講生はコーポレート・ファイナンスの分野から，希望する文献やテキストについて分析・議論を進める．ディスカッションやディベートといった双方向の授業スタイルをとる．

■学修目標

　演習ではコーポレート・ファイナンスの基礎理論を実践する。具体的には企業の事業戦略(事業価値評価)や財務戦略(資金調達と利益還元)の基礎理論を経営分析に応用する。

■授業計画

第1回　イントロダクション：財務3表の関係
第2回　CFのパターン
第3回　財務分析(1)
第4回　財務分析(2)
第5回　戦略分析(1)
第6回　戦略分析(2)
第7回　証券投資への応用(1)：PBR・PER・ROEの関係とEV/EBITDA倍率
第8回　証券投資への応用(2)：DCFとDDM
第9回　証券投資への応用(3)：平均・分散アプローチ：CAPM
第10回　企業の資本構成(1)：加重平均資本コスト(WACC)とMM命題
第11回　企業の資本構成(2)：企業の資金調達政策とMM命題
第12回　企業の資本構成(3)：ペイアウトポリシー(配当政策) とMM命題
第13回　債券の格付けとデフォルト予測
第14回　企業のCash Holdings
第15回　エージェンシー問題の影響と総括

* 授業内容およびテキストについては、受講生研究上の必要性と関心に応じて追加・変更することがある.
授業形態：全授業は可能である限り対面形式で実施するので，Mask! Must!!
*** コロナのため、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある.***

■教科書

森生明,「バリュエーションの教科書」,東洋経済新報社，2016年.
砂川伸幸　笠原真人,「はじめての企業価値評価」,日経文庫,2015年.
また，特定の教科書は指定せず，受講生研究上の必要性と関心に応じて参考書を用いる.

■参考書

1. オリバー・ハート(著),鳥居昭夫(訳)，「企業 契約 金融構造」,慶應義塾大学出版会，2010年.
2. 柳川範之，「契約と組織の経済学」，東洋経済新報社，2000年.
3. Jean Tirole, The Theory of Corporate Finance, Princeton University Press, 2006.
4. ポール・ミルグロム（著），ジョン・ロバーツ（著），奥野正寛(訳)，伊藤秀史(訳)，今井晴雄(訳)，西村理(訳)，八木甫(訳)『組織の経済学』NTT出版　1997年.
5. 森生明,「バリュエーションの教科書」,東洋経済新報社，2016年.

6．砂川伸幸　笠原真人,「はじめての企業価値評価」,日経文庫,2015年.

■成績の評価基準

発表・討論によって評価(100%)する.

■オフィスアワー

月曜日・3限目．MANABAの掲示板と電子メールにおいても随時受付しております.

■受講要件

令和３年度における授業等の実施方針について〔第２版〕より,
１）Mask! Must!!学生も教員も不織布マスクを着用のこと（ウレタンや布製は不可）
２）ワクチン接種を履修の条件にしないこと

*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが，受講生の理解度を考え調整することもある.
授業形態：全授業は可能である限り対面形式で実施するので，Mask! Must!!
今後のコロナの感染状況やその他の理由により，授業形態を変更する場合がある．

■備考

授業内容およびテキストについては，受講生研究上の必要性と関心に応じて追加・変更することがある.

■科目名			
国際開発経済論演習			
■英語名			
Theory of International Economic Development Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
西村知 (Satoru Nishimura)	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし。 none			
■授業概要			
「＊ 遠隔形式でおこなう予定であるが、 状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。」 開発経済学に関する文献を輪読する。 The students will read several books and paper on the theory of international economic development.			
■学修目標			
開発経済学に関する理論，実証研究を理解する。 The aim of the seminor is to understand the basic theories and case studies on international economic development.			
■授業計画			
*manabaで課題を出します。それにこたえるレポートを提出していただきます。 1 オリエンテーション(orientation) 2 テキストの解説 (introduction of the books and paper) 3-14 テキストの輪読 (texts reading) 15　総括 (discussion)			
■教科書			
授業開始後に紹介する。 The texts will be introduced after the seminor starts.			
■参考書			
授業開始後に紹介する。 Other related reading materials are also introduced after the semianor starts.			
■成績の評価基準			
平常点。 degree of understanding the texts(100%)			
■オフィスアワー			
水曜日：１２：００－１３：００ every Wendenesday (1:00-13:00)			
■受講要件			
特になし。 nothing in paticular			
■備考			
日本語、英語の授業　(bilingual: Japanese and English)			

■科目名			
現代社会論演習			
■英語名			
Contemporary Society Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
城戸秀之	099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

高度成長期以降、日本社会は大きく変化している。授業では複数のテキストを手がかりに、1980年代以降の現代日本社会の特徴について消費とコミュニケーションに焦点を合わせて考察をおこなう。

■学修目標

1. 社会学の専門知識を習得し、考察に使用できる
2. 現代社会の特徴をとらえて、その事例を示すことができる
3. 現代社会が解決すべき課題を提示できる

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　報告と討論（１）
第３回　報告と討論（２）
第４回　報告と討論（３）
第５回　報告と討論（４）
第６回　報告と討論（５）
第７回　中間討論１
第８回　報告と討論（６）
第９回　報告と討論（７）
第１０回　報告と討論（８）
第１１回　報告と討論（９）
第１２回　報告と討論（１０）
第１３回　報告と討論（１１）
第１４回　中間討論２
第１５回　総括討論

■教科書

三浦展『「家族」と「幸福」の戦後史』講談社、1999年、ほか。
受講生と相談してテキストを変更することがある。

■参考書

NHK放送文化研究所『現代日本人の意識構造』［第８版］NHK出版、2015年。

■成績の評価基準

報告・討論の内容を評価する（100%）

■オフィスアワー

月曜４限

■受講要件

なし

■備考

テキスト、講義生の関心を合わせて追加・変更します。

■科目名			
情報社会論演習			
■英語名			
Informational Society Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
桑原司 Tsukasa Kuwabara	099-285-7581	k8716665@kadai.jp	
■共同担当教員			
なし。			

■授業概要

認識文脈について
認識文脈の社会構造的条件について
データ対話型理論について

＜DESCRIPTION＞
On the concepts of Awareness Contexts
On the Structural Conditions of each Contexts
On the Grounded Theory Approach

■学修目標

シンボリック相互作用論のパースペクティブを理解し習得する（上級編）。
シンボリック相互作用論のパースペクティブの適用方法を理解し習得する（上級編）。
シンボリック相互作用論のパースペクティブの問題点を理解する（上級編）。

＜GOAL AND OBJECTIVE＞
To understand the perspective of Symbolic Interacionism: Advanced.
To understand how the perspective should be employed into empirical studies: Advanced.
To understand problems of the perspective and make hypothetical answers to them: Advanced.

■授業計画

1)授業で用いるテキストについて【遠隔形式（Zoom）】
2)序論【遠隔形式（Zoom）】
3)閉鎖認識文脈【遠隔形式（Zoom）】
4)疑念認識文脈【遠隔形式（Zoom）】
5)相互虚偽認識文脈【遠隔形式（Zoom）】
6)オープン認識文脈【遠隔形式（Zoom）】
7)週末認識の不完全状態【遠隔形式（Zoom）】
8)終末の直接告知【遠隔形式（Zoom）】
9)事実を知らない家族【遠隔形式（Zoom）】
10)事実を知った家族【遠隔形式（Zoom）】
11)回復不能の問題【遠隔形式（Zoom）】
12)安らぎの問題【遠隔形式（Zoom）】
13)終末認識と看護婦の落ち着き【遠隔形式（Zoom）】
14)認識文脈理論の実践的活用【遠隔形式（Zoom）】
15)認識と社会的相互作用の研究【遠隔形式（Zoom）】

＜LESSON PLAN＞
1) On the textbooks of this course
2) Introduction
3) Closed Awareness
4) Suspicion Awareness
5) Mutual Pretense

6) Open Awareness
7) Discounting Awareness
8) Direct Disclosure of Terminality
9) Unaware Family
10) Aware Family
11) The problem of No Recovery
12) The problem of Comfort
13) Awareness and the Nurse's Composure
14) Practical use of Awareness theory
15) Discussion on the study of social interaction

■教科書

＜REQUIRED TEXT＞
B.グレイザー&A.ストラウス著（木下康人訳）『死のアウェアネス理論と看護』医学書院。
B. G. Glaser and A. L. Strauss, 1965, Awareness of Dying, Aldine.

■参考書

桑原司（2000）『社会過程の社会学』関西学院大学出版会BookPark、ほか（適宜指示）。

＜RECOMMENDED READING＞
Advise in the lecture.

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（100%）。

＜GRADING＞
Assess comprehensively.

■オフィスアワー

水曜5限目

＜OFFICE HOUR＞
Wednesday, 16:10-17:40

■受講要件

なし。

＜QUALIFICATION＞
Nothing in particular.

■備考

特になし。

■科目名			
総合講義（クラウドコンピューティング）			
■英語名			
General Lecture			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
下園幸一	099-285-7477	simozono@cc.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

近年、クラウドコンピューティングというコンピュータの利用形態が普及しつつあり、さまざまなサービスが展開されつつある。本講義では、これらさまざまなサービスを実際にさまざまなデバイス(PC, Netbook, iPad, スマートフォン等)で利用し、日常生活/教育現場/企業内等でどのように有効活用できるかを考え、議論していく。

■学修目標

・クラウドコンピューティングとはどんなものかを理解する
・さまざまなサービスを有効活用できるようになる
・どのようなサービスがあればよいかを議論できる

■授業計画

第01回 チュートリアル
第02回 クラウドコンピューティング概説(1)
第03回 クラウドコンピューティング概説(2)
第04回 クラウドコンピューティング概説(3)
第05回 具体的サービスの利用(A)
第06回 具体的サービスの利用(B)
第07回 具体的サービスの利用(C)
第08回 具体的サービスの利用(D)
第09回 具体的サービスの利用(E)
第10回 具体的サービスの利用(F)
第11回 具体的サービスの利用(G)
第12回 クラウドコンピューティングに関する議論(コスト面)
第12回 クラウドコンピューティングに関する議論(可用性、継続性)
第13回 クラウドコンピューティングに関する議論(セキュリティ面)
第15回 クラウドコンピューティングに関する議論(今後およびIoT)
第16回 授業の総括

・それぞれのサービスの紹介，利点，欠点等の発表をおこなってもらう。

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考文献を用いる。

■参考書

授業中適宜指定する。日本語文献が少ないため、英文の場合もある。

■成績の評価基準

平常点(40%)，発表点(60%)

■オフィスアワー

基本的にメールで随時受け付ける。対面の場合は 木曜3限

■受講要件

なし

■備考

特になし

■科目名			
財務会計論特論			
■英語名			
Financial Accounting			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
澤田成章	099-285-8888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
一般的な会計学のテキストをベースに受講者が設定した論点・テーマについて議論を進める。ただし、受講生との相談によって変更することもあり得る。			
■学修目標			
財務会計上の問題を会計学・会計基準設定・会計実務といった観点から整理し、分析する視点を身につけることが本講義の目的である。			
■授業計画			
第１回～第２回　ガイダンス・テーマの設定 第３回～第14回　報告および分析・議論 第15回　総括			
■教科書			
受講者の財務会計の理解度に応じて検討する。			
■参考書			
特になし。			
■成績の評価基準			
毎回の講義で行う議論への参加度や貢献度をベースに(100%)総合的に判断する。必要に応じてレポートの作成を要求する場合もある。			
■オフィスアワー			
適宜アポイントメントをお願いします。			
■受講要件			
特になし			
■備考			
特になし。			

■科目名			
技術経営演習			
■英語名			
Technology Management Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
市川英孝	099-285-7525	ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

情報ネットワークの進歩とどのように関連しシステムが進歩していくのか、そしてそれがどのように企業活動ならびに消費活動によい影響を与えることが可能か、非常に身近な問題を例に挙げて、課題を設定、報告をする。また、外国文献の輪読も進める。ここでは、各自のプレゼンテーション能力を高めることも大きな目標とする。

Information whether the network advances and how to continue progress related system, determining how it can have a good effect on business and consumption activities. In addition, foreign literature reading circle will also advance. With the major goal to increase their presentation capabilities.

■学修目標

イノベーションが成功するシステムと失敗するシステムとの違いとなる要素をしっかり区別できるようにする。また、今後の日本企業がイノベーションを成功させるために、どのようなシステムを選択するべきかを理解できるようにする。

We intend to be able to properly establish the differences between the successful innovation system elements and those elements that failed. Also, we have been able to learn what kinds of system is best for Japanese companies for successful innovation.

■授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　技術経営に関するケーススタディ（1）
第3回　技術経営に関するケーススタディ（2）
第4回　技術経営に関するケーススタディ（3）
第5回　技術経営に関するケーススタディ（4）
第6回　技術経営に関するケーススタディ（5）
第7回　技術経営に関するケーススタディ（6）
第8回　技術経営に関するケーススタディ（7）
第9回　技術経営に関するケーススタディ（8）
第10回　技術経営に関するケーススタディ（9）
第11回　技術経営に関するケーススタディ（１０）
第12回　技術経営に関するケーススタディ（１１）
第13回　技術経営に関するケーススタディ（１２）
第14回　多くのプロダクトイノベーションをモデルに、それらが生み出されたシステムの考察（1）
第15回　多くのプロダクトイノベーションをモデルに、それらが生み出されたシステムの考察（2）

1　guidance
2　casestudy（1）
3　casestudy（2）
4　casestudy（3）
5　casestudy（4）
6　casestudy（5）
7　casestudy（6）

8　casestudy（７）
9　casestudy（８）
10　casestudy（９）
11　casestudy（１０）
12　casestudy（１１）
13　casestudy（１２）
14　study of the product innovation's system（１）
15　study of the product innovation's system（２）

■教科書

Harvard Business Review　ダイヤモンド社

■参考書

Hitotsubashi Business Review ダイヤモンド社

■成績の評価基準

授業でのレポートならびにプレゼンテーション100%

■オフィスアワー

火曜3限

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
管理会計論特論			
■英語名			
Management Accounting			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
北村浩一	099-285-6296	kitamura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
本講義では，管理会計論に関して各自が希望するテーマを設定し，そのテーマについて分析・議論を進めていくものである。ただし、受講生との相談によって変更することもあり得る。			
■学修目標			
管理会計論の特定領域に関して分析・研究し，分析視角を養う。			
■授業計画			
第１回～第２回 ガイダンス・テーマの設定 第３回～第１４回　報告および分析・議論 第１５回　　総括			
■教科書			
受講者との話し合いにて決める			
■参考書			
随時紹介する			
■成績の評価基準			
発表の内容・議論の内容(100%)			
■オフィスアワー			
毎週木曜，12：30～3：30，研究室			
■受講要件			
特になし			
■備考			
特になし			

■科目名			
国際経済システム論演習			
■英語名			
International Economic System Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
日野道啓	099-285-7525	hino@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

国際環境政策の現状と課題について学習する。具体的には、「貿易と環境」および「投資と環境」について取り上げる。

■学修目標

1.「貿易と環境」および「投資と環境」に関する理論について理解することができる。
2.国際環境政策に関する諸問題についてクリティカルシンキングすることができる。

■授業計画

1．ガイダンス【遠隔形式（Zoom）】
2．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
3．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
4．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
5．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
6．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
7．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
8．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
9．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
10．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
11．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
12．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
13．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
14．発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
15．総括　　【遠隔形式（Zoom）】

■教科書

日野道啓(2019)『環境物品交渉・貿易の経済分析』文眞堂

■参考書

授業時に適宜紹介する。

■成績の評価基準

報告内容(40%)、討論内容(40%)、授業の理解度（20%）

■オフィスアワー

木曜日3限目。メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
経営情報論演習			
■英語名			
Management Information Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
萩野誠 HAGIONO, Makoto	7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

ナレッジマネジメントを情報という立場から研究をする。
後期は知的財産という観点をいれて、従来のデータベース論およびデータベースの経済的価値からアプローチする。

DESCRIPTION:
We should study knowledge management from a point of view, the information theory. Particularly, I consider a database to be intellectual property and evaluate the value. It is our final goal that to learn some technique for evaluation.
Attendance students need the basic knowledge of the database.

■学修目標

GOAL AND OBJECTIVE:
That is to acquire the ability that can consider a database as knowledge property.

■授業計画

毎回、受講生による発表と討論をおこなう。

受講生は毎回文献を収集して、その内容を報告すること

LESSON PLAN:
We will discuss it with announcement due to the attendance life every time.
The attendance students have to report the contents of airticles.

1st-3rd: management database system
 1st: presentation of 1st stage data
 2nd: presentation of 2nd stage data
 3rd: presentation of SQL and COBOL

4th-7th: property of 'database system'
 4th: presentation from economics
 5th: presentation from management
 6th: presentation from small business
 7th: presentation from niche market

8th-12th: creation of making new value
 8th: presentation from human resources
 9th: presentation from finance
10th: presentation from public sector
11th: presentation from education sector

12th: presentation from information

13th-15th: final presentation

■教科書

なし

REQUIRED TEXT:
none

■参考書

なし

RECOMMENDED READING:
none

■成績の評価基準

レポートの準備状況、報告内容等を総合的に勘案する(100%)

GRADING:
I evaluate it with the degree of achievement of knowledge in the discussion and the report(100%).

■オフィスアワー

講義終了後
OFFICE HOUR:
After the seminar

■受講要件

なし

QUALIFICATION:
none

■備考

特になし。

■科目名			
技術経営特論			
■英語名			
Technology Management			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
市川英孝	099-285-7525	ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

現代は多くのシステムが構築、運用されている。そして情報ネットワークの普及により、その応用可能性は大きく広がっている。そこで本講義では、現在までのシステムがどのように設計、運用されてきたのかという根本的要因から、その環境要因を含め理解し、将来の展開を踏まえた上で、どのような発展が可能かという点にまで踏み込み習得を進める。特に、イノベーションに関連した領域を中心に進めていく。

In modern organizations, many kinds of systems are constructed and operated. The spread of information networks and their application possibilities have greatly improved. In this lesson, we will learn about system design up to the present, from the fundamental design and operation to new possibilities including the environmental factors. In particular, we will focus on the area associated with innovation.

■学修目標

システムが成立する過程段階において、必要となる要素を包含しているか適切に判断できる視点を持てるようにする。そして日本型システムと、欧米型システムの形成段階における違いを明確にし、その長所、短所を明確にする。
また、イノベーションにおけるシステムの役割についての洞察力を養う。

In the process of how the system is established, we intend to have a point of view that we can judge the appropriate elements to be required. We will intend to clarify the advantages and disadvantages of differences Japanese-style and Western-style of each system. Also, we intend to feed the insight about the role of the system so as innovation.

■授業計画

第1回　ガイダンス　(オンライン型)
第2回　技術経営に関するケーススタディ（１）　(オンライン型)
第3回　技術経営に関するケーススタディ（２）　(オンライン型)
第4回　技術経営に関するケーススタディ（３）　(オンライン型)
第5回　技術経営に関するケーススタディ（４）　(オンライン型)
第6回　技術経営に関するケーススタディ（５）　(オンライン型)
第7回　技術経営に関するケーススタディ（６）　(オンライン型)
第8回　技術経営に関するケーススタディ（７）　(オンライン型)
第9回　技術経営に関するケーススタディ（８）　(オンライン型)
第10回　技術経営に関するケーススタディ（９）　(オンライン型)
第11回　技術経営に関するケーススタディ（１０）　(オンライン型)
第12回　技術経営に関するケーススタディ（１１）　(オンライン型)
第13回　技術経営に関するケーススタディ（１２）　(オンライン型)
第14回　多くのプロダクトイノベーションをモデルに、それらが生み出されたシステムの考察（１）　(オンライン型)
第15回　多くのプロダクトイノベーションをモデルに、それらが生み出されたシステムの考察（２）　(オンライン型)

1　guidance　(オンライン型)

2　casestudy（１）　(オンライン型)
3　casestudy（２）　(オンライン型)
4　casestudy（３）　(オンライン型)
5　casestudy（４）　(オンライン型)
6　casestudy（５）　(オンライン型)
7　casestudy（６）　(オンライン型)
8　casestudy（７）　(オンライン型)
9　casestudy（８）　(オンライン型)
10　casestudy（９）　(オンライン型)
11　casestudy（１０）　(オンライン型)
12　casestudy（１１）　(オンライン型)
13　casestudy（１２）　(オンライン型)
14　study of the product innovation's system（１）　(オンライン型)
15　study of the product innovation's system（２）　(オンライン型)

「今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある」

■教科書

Harvard Business Review　ダイヤモンド社

■参考書

Hitotsubashi Business Review ダイヤモンド社

■成績の評価基準

各回のレポート発表100%

■オフィスアワー

木曜3限

■受講要件

特になし

■備考

特になし。

■科目名			
日本経済史演習			
■英語名			
Japanese Economic History Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
三浦壮	099-285-8905	miura@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

近代における日本経済の歩みを日本経済史研究の第一人者の著作をもとに読み解いていく。具体的には石井寛治の『日本経済史〔第2版〕』のうち、幕末から明治期にあたる部分を受講者と一緒に読んで行く。著者はマルクス経済学講座派に属する研究者で、明治期以降の日本経済を「絶対王政」の段階にあると把握したうえで、日本資本主義が上から再編成されていく様子を実証的に解明していく。方法論は古典的なものであるが、実証は手堅いものであり、日本経済史を理解するにあたって、必ず通らなければならない金字塔となっている。受講者は著者の考え方を理解したうえで、日本経済の歴史を学術的に理解するよう努められたい。

■学修目標

１．幕末・明治期における日本経済の歩みを理解する
２．マルクス経済学および講座派の歴史理論を理解する。
３．上記をもとに、現代の日本経済を分析する能力を養う。

■授業計画

第1回　ガイダンス（対面授業）
第2回　発表と議論（対面授業）
第3回　発表と議論（対面授業）
第4回　発表と議論（対面授業）
第5回　発表と議論（対面授業）
第6回　発表と議論（対面授業）
第7回　発表と議論（対面授業）
第8回　発表と議論（対面授業）
第9回　発表と議論（対面授業）
第10回　発表と議論（対面授業）
第11回　発表と議論（対面授業）
第12回　発表と議論（対面授業）
第13回　発表と議論（対面授業）
第14回　発表と議論（対面授業）
第15回　発表と議論（対面授業）
第16回　まとめ（対面方式）

■教科書

受講者と相談して決める，
とくに読みたい本が決まらない場合は，石井寛治『日本経済史〔第2版〕』（1991年、東京大学出版会）を読む。

■参考書

特になし。

■成績の評価基準

議論への参加度（50%）と予備調査の内容（50%）。
無断欠席は1回，連絡があっても3回以上休むと，単位認定の対象外となる。

■オフィスアワー

火曜2限目

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
財務会計論演習			
■英語名			
Financial Accounting Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
澤田成章	0992858888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
企業会計は事業活動を映し出す鏡であるといわれ、事業の言語としての側面を持っている。言語の習得には、語彙や文法のインプットだけでなく、読み書きや会話といったアウトプットの訓練を並行して行うことが重要であろう。本演習では、会計の知識を活用して企業行動を分析することを通じて、会計を通じたコミュニケーションの習得を図る。			
■学修目標			
財務会計情報をベースとした企業価値評価を修得することが本演習の目的である。			
■授業計画			
第1回～第2回　ガイダンス 第3回～第14回　報告および分析・議論 第15回　総括			
■教科書			
『新・現代会計入門』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社 『新・企業価値評価』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社			
■参考書			
適宜、指示する。			
■成績の評価基準			
毎回の講義で行う議論への参加度や貢献度をベースに総合的に(100%)判断する。必要に応じてレポートの作成を要求する場合もある。			
■オフィスアワー			
適宜、事前にアポイントメントをとること。			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名

総合講義（エネルギー政策総論）

■英語名

General Lecture

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
経済社会システム専攻	博士前期課程	

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	1～2年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
市川英孝	099-285-7525	ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

エネルギーに関する問題は、どの時代、地域にかかわらず最重要課題である。国の発展とエネルギー政策は密接にかかわっており、その資源国と消費国でのパワーバランスは大きく変化する。また昨今の再生可能エネルギーの普及は世界的規模で広がっており、アメリカでのシェール革命もこれまでの資源国と消費国の関係を変化させる要因となっている。
本授業では、すべての専攻の学生が興味持てる内容とし、また人が持つエネルギーについても着目する。組織や企業が活性化するためには、リソースの有効活用は当然のことである。そのなかでも人が大きな要因になる。カネ、モノが不足していても人の能力によって発展してきたのが戦後日本企業であり、人によって組織が発展することは言うまでもない。そのような事例等も取り上げ、受講学生が新たな側面を理解できる機会としたい。

■学修目標

すべての専攻の学生が興味を持ち、理解できる内容とする。またエネルギーは資源や物理的なものから、人が持つものまで多岐にわたる。エネルギーに関する専門的な内容ではなく、普遍的な事項について取り上げ、広い知見を持てるように授業を進めていき、今後社会に出た際に利用できることを期待する。
本授業はゲストスピーカーを招く機会を設定するの。その際は、3コマ連続となるので、事前に学生には対応できるよう説明を行う。そのため、受講する学生はメールにて連絡するように。

■授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　日本におけるエネルギー政策（１）
第3回　日本におけるエネルギー政策（２）
第4回　日本におけるエネルギー政策（３）
第5回　地域リソースを活用した活性化事業の事例研究（１）
第6回　地域リソースを活用した活性化事業の事例研究（２）
第7回　地域リソースを活用した活性化事業の事例研究（３）
第8回　水資源とその発展、将来への問題点（１）
第9回　水資源とその発展、将来への問題点（２）
第10回　水資源とその発展、将来への問題点（３）
第11回　持続可能な事業を可能にした鹿児島での成功事例（１）
第12回　持続可能な事業を可能にした鹿児島での成功事例（２）
第13回　持続可能な事業を可能にした鹿児島での成功事例（３）
第14回　課題設定、ディスカッション、プレゼン準備
第15回　各学生によるプレゼン

■教科書

特になし

■参考書

Harvard Business Review ダイヤモンド社

■成績の評価基準

各回ごとの最後にレポートと最後のプレゼンテーションにより評価する。(100%)
また積極的に授業で発言することも考慮する。

■オフィスアワー

メールで連絡後、対応する。
水曜2限、研究室で対応する。

■受講要件

水曜午後を予定する、ゲストスピーカーによる授業の場合は3コマ連続になるので、事前に打ち合わせを行い調整する。

■備考

特になし。

■科目名			
総合講義（情報ネットワークとセキュリティ）			
■英語名			
General Lecture			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
下園幸一	099-285-7477	simozono@cc.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

総合講義（情報ネットワークとセキュリティ）

近年、インターネットを中心とする情報ネットワークが急速に至る所に普及しており、生活に欠かせないものとなってきている。それに伴い、情報漏洩といったセキュリティ上のリスクも増加してきている。本講では、インターネットのしくみを解説すると共に、企業、個人でのセキュリティ上のリスクを考え、それに対する対応を解説する。

■学修目標

1．情報ネットワークのしくみを理解する
2．セキュリティ上の問題点を理解する
3．セキュリティ対策をとれる

■授業計画

第01回 チュートリアル
第02回 情報ネットワーク(主にインターネット)の説明(物理構成1)
第03回 情報ネットワーク(主にインターネット)の説明(物理構成2)
第04回 情報ネットワーク(主にインターネット)の説明(論理構成1)
第05回 情報ネットワーク(主にインターネット)の説明(論理構成2)
第06回 情報ネットワーク(主にインターネット)の説明(論理構成3)
第07回 セキュリティ上の問題点の解説と事例研究(1)
第08回 セキュリティ上の問題点の解説と事例研究(2)
第09回 セキュリティ上の問題点の解説と事例研究(3)
第10回 セキュリティポリシーと実施手順の解説(1)
第11回 セキュリティポリシーと実施手順の解説(2)
第12回 セキュリティポリシーと実施手順の解説(3)
第13回 具体例を用いたセキュリティポリシー等の策定実習(1)
第14回 具体例を用いたセキュリティポリシー等の策定実習(2)
第15回 具体例を用いたセキュリティポリシー等の策定実習(3)
第16回 授業の総括

※ 第7回～第9回、第13回～第15回は、受講生に事例発表を行ってもらい、その内容について他の受講生と共に議論を行う。

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

適宜紹介する

■成績の評価基準

毎回の授業中における発表(40%)とレポート(60%)

■オフィスアワー

木曜3限，金曜2限
学術情報基盤センター 4F研究室
メールでは随時受け付けます。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
共生社会の学習論特論			
■英語名			
Learning Theory of Convivial Society			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
平野　拓朗	0992857785	hirano@edu.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

共生社会における学習、及び共生社会へ向けた学習の諸理論について議論する。とりわけ、状況的学習論、文化心理学、文化・歴史的活動理論における協働学習の理論と実践について検討する。

■学修目標

1　共生社会における学習について、現代的課題を認識することができる。
2　共生社会における協働的で創造的な学習について理解することができる。

■授業計画

1　ガイダンス
2　状況的学習論の検討?
3　状況的学習論の検討?
4　状況的学習論の検討?
5　状況的学習論の検討?
6　文化心理学の検討?
7　文化心理学の検討?
8　文化心理学の検討?
9　文化心理学の検討?
10　文化・歴史的活動理論の検討?
11　文化・歴史的活動理論の検討?
12　文化・歴史的活動理論の検討?
13　文化・歴史的活動理論の検討?
14　共生社会の学習論の検討?
15　共生社会の学習論の検討?

■教科書

なし

■参考書

コール，M.（2002）．天野清訳『文化心理学???発達・認知・活動への文化ー歴史的アプローチ』新曜社．
レイヴ，J.，& ウェンガー，E.（1993）．佐伯胖訳『状況に埋め込まれた学習???正統的周辺参加』産業図書．
エンゲストローム，Y.（2020）．山住勝広訳『拡張による学習 完訳増補版???発達研究への活動理論からのアプローチ』新曜社．
ヴァルシナー，J.（2013）．サトウタツヤ訳『新しい文化心理学の構築???〈心と社会〉の中の文化』新曜社．

■成績の評価基準

授業への取り組み態度と文献の理解(100%)

■オフィスアワー

水曜日の10時30分から11時30分

■受講要件

なし

■備考

特になし。

■科目名			
日本教育史特論			
■英語名			
Japanese History of Education			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
前田晶子	099-285-7787	maedaaki@edu.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

本講義では、日本教育史の領域における教育社会史研究の知見を学ぶことを主題とする。具体的には以下のテーマで講義を進めていく。

?民衆の人づくり思想：江戸後期から近代にかけての民衆の人間形成の具体について、当時の日記などの一次資料や人口動態の推移などを手掛かりとして辿る。

?子ども研究の展開：子どもを対象とする研究領域の学説史の展開を取り上げる。江戸期までの小児科書、学習指南書、明治以降の児童研究、児童学などを取り上げる。

?近代教育の課題：公教育の登場による近代教育思想の形成について社会史の観点から論じていく。

本講義を通して、教育史研究の知見を現代の教育状況を読み解く手掛かりとし、教育改革・教育計画に活かす視座を獲得することを目指す。

■学修目標

以下の点を到達目標とする。

１．教育史における社会史の役割を理解する。

２．社会史の研究手法を獲得する。

３．近代教育の特質を歴史的視野から考察する。

■授業計画

第１回　教育社会史の射程

第２回　民衆の人づくり思想(1) 子どもの生存

第３回　民衆の人づくり思想(2) 家族の中の子ども

第４回　民衆の人づくり思想(3) 子どもと労働

第５回　民衆の人づくり思想(4) 老人と子ども

第６回　民衆の人づくり思想：まとめ（レポート課題提示）

第７回　子ども研究の展開(1)「子育て書」の世界

第８回　子ども研究の展開(2) 小児科学の登場

第９回　子ども研究の展開(3)「発達」概念の導入

第10回　子ども研究の展開(4) 児童研究の展開

第11回　子ども研究の展開(5) 1930年代の児童学の課題

第12回　子ども研究の展開：まとめ（レポート課題提示）

第13回　近代教育の課題(1) 制度化過程における課題

第14回　近代教育の課題(2) 制度の周辺領域

第15回　近代教育の課題：まとめ（最終レポート課題提示）

期末試験は行わず、指定期日までにレポ ート提出を求める

■教科書

各回に資料を配付する。

■参考書

『近代日本の人間形成と学校』クレス出版、2013年

■成績の評価基準

授業では、テーマ毎に受講者に対して課題を提示する。その課題の達成状況（50%）と、最終レポート（50%）を併せて評価する。

■オフィスアワー

水曜日12:00～12:40

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
比較教育社会史特論			
■英語名			
History of Education and Society			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
杉原薫	099-285-7789	ka-sugiha@edu.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

社会のありかたと結び付けて近代の欧米諸国における子どもや教育にかかわる歴史的変遷をたどる。その際、国家、政治、経済、階級、ジェンダーなどのキーワードに着目して理解を深めていく。

■学修目標

１．過去における教育にかかわる知識をもとに現代における教育を批判的に分析することができる。
２．教育史という学問分野の意義について説明することができる。

■授業計画

１．オリエンテーション―教育史は何の役に立つのか？―
２．子どもはいつ大人になったのか？
３．誰が子どもを養育するのか？
４．人々はなぜ知識を求めたのか？
５．人々はリテラシーをどのように使ったか？
６．教育は働くこととどのようにかかわってきたか？
７．前半のまとめ―子どもとは？知識とは？―
８．公教育制度は、いつどのようにして創られたのか？？
９．公教育制度は、いつどのようにして創られたのか？？
１０．学校は「子どもが集まり勉強をする場所」なのか？
１１．教育は人々を「市民」にしかた？
１２．教育は人々を「国民」にしたか？
１３．教育は貧困・差別・排除とどのように闘ってきたか？？
１４．教育は貧困・差別・排除とどのように闘ってきたか？？
１５．後半のまとめ―学校とは？教育とは？―

■教科書

岩下誠・三時眞貴子・倉石一郎・姉川雄大『問いからはじめる教育史』有斐閣、2020年。

■参考書

なし

■成績の評価基準

授業への参加度・貢献度：50点(50%)
最終レポート：50点(50%)

■オフィスアワー

月曜日12：00～12：30、木曜日12：00～12：30
この日以外にもメールでアポを取ってもらえば、対応できます。

■受講要件

日本語テキストを読解し、日本語でのディスカッションに参加できる者。

■備考

特になし。

■科目名			
教育社会学演習			
■英語名			
Sociology of Education Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
濱沖　敢太郎	099-285-7525	khamaoki@edu.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

社会調査とデータ分析の方法について理解を深めることを本演習の目的とする。受講者の研究内容に応じた方法を主たる学習内容に吸えることを原則とするが、特に社会調査については調査対象へのアクセスの問題及びデータアーカイブの現状と意義を、テータ分析についてはソフトウェア等を使った実習を重視する。

■学修目標

（１）調査計画にあたって注意すべき事項について理解を深める。
（２）データ分析の基礎的なスキルを習得する。

■授業計画

第１回 オリエンテーション
第２回 テキスト講読（１）
第３回 テキスト講読（２）
第４回 テキスト講読（３）
第５回 テキスト講読（４）
第６回 テキスト講読（５）
第７回 調査計画演習（１）
第８回 調査計画演習（２）
第９回 調査計画演習（３）
第10回 調査計画演習（４）
第11回 データ分析演習（１）
第12回 データ分析演習（２）
第13回 データ分析演習（３）
第14回 データ分析演習（４）
第15回 全体のふりかえり

■教科書

講義中に指示する。

■参考書

・盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣、2004年
・吉村治正『社会調査における非標本誤差』東信堂、2017年
・樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析 第２版』ナカニシヤ出版、2020年
・山田剛史他『Rによるやさしい統計学』オーム出版、2008年

■成績の評価基準

レポート（発表担当分＋学期末で100%）で評価する

■オフィスアワー

水曜５限

■受講要件

なし

■備考

特になし。

■科目名

総合講義（ダイバーシティ人材育成論）

■英語名

General Lecture

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
経済社会システム専攻	博士前期課程	

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	集中講義

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
市川英孝	099-285-7525	ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

長期にわたり組織を持続させることがその使命であるが、その最も重要な構成要因は人にある。人材の育成は組織にとって非常に重要な役割である。ただ多くの組織がその硬直化に悩ませているのはなぜか。以前の企業にとって良い人材とは、企業内教育で同じ価値観を持ち、上からの指示を実直にこなす存在であったが、多くの企業が成長戦略を築くにあたり、グローバル化などの外的要因が複雑化し、明確な将来が見渡せない状況下、これから必要な人材は以前とは大きく異なる。
この授業では、これから求められる人材とはどのようなものか。今後組織で実用とされる人材に変化できることを含め、新しい視点で人材の育成から、必要とされる人材の要因について学習してもらう。

■学修目標

当授業の目的は、多様性を持った人材とは何か、である。多様性＝ダイバーシティを持つ人材がどのようなものか、そして今後の企業にとって必要とされる人材、さらには社会に必要とされる人材について考えてもらうため、外部の人たちに話をしてもらい、現在組織が抱える人材の問題点、その解決策となる人材育成とはなにか、どのような人間を目指すか、といったことを考えてもらう。

■授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　組織における人材とは（1）
第3回　組織における人材とは（2）
第4回　組織における人材とは（3）
第5回　組織における人材とは（4）
第6回　組織がおかれる環境について（1）
第7回　組織がおかれる環境について（2）
第8回　組織がおかれる環境について（3）
第9回　現状を打破する人材とは　（1）
第10回　現状を打破する人材とは　（2）
第11回　現状を打破する人材とは　（3）
第12回　ダイバーシティを持つ人材とは（1）
第13回　ダイバーシティを持つ人材とは（2）
第14回　ダイバーシティを持つ人材とは（3）
第15回　総括

■教科書

なし

■参考書

Harvard Business Review ダイヤモンド社

■成績の評価基準

授業における発言(30%)、レポート(30%)ならびに最終レポート(40%)により評価する。

■オフィスアワー

メールにて対応
午前11時から12時にて研究室で対応

■受講要件

特になし。

■備考

ゲストスピーカーをお願いすることがあるので、授業の日程に変更があります。

■科目名			
総合講義（鹿児島県における世界文化遺産）			
■英語名			
General Lecture			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	集中講義
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
萩野誠	099-285-7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

本講義は、シナリオに基づく実習、世界遺産登録サイトでの実習が講義のほとんどとなっています。

本講義は、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」における鹿児島県の登録地「旧集成館」、「寺山炭窯跡」、「関吉の疎水溝」を対象として、観光に関する知識を習得し、これを組み直す能力をつけることを目指します。

講義は集中講義で３日間ですが、２日間は、大学の講義室でおこない、最後の１日は登録地を巡って、学習成果をプレゼンテーションさせます。受講生のインタープリテーション能力の向上をめざすものです。
なお、授業は原則として、英語でおこなう。また、受講生のプレゼンテーションも英語によります。

なお、大学院講義の形態を理解していない受講生が多数いるようなので、注意事項をのべます。大学院の講義は、基本的に受講生がテーマに応じた報告をおこない、ディスカッション・テーマを提供し、受講生間で理解を深めます。教員は、議論が間違った方向にいかないように修正をおこないます。受講が認められた時点で、報告内容に対する割り当てをおこないます。各テーマにあわせて、PowerPointのスライド１５枚以内にまとめてください。そこには、ディスカッションテーマも記載してください。
今回の授業は、同じテーマで複数の受講生が報告をし、議論を深める形式をとります。

なお、本講義は「鹿児島県世界文化遺産地域通訳案内士」の育成研修に位置付けられています。

■学修目標

1.鹿児島の世界文化遺産の知識を組み直し、自分の解釈をまじえて説明できる。
2.ガイド観光の特徴を理解し実地研修でそれを実行できる。

■授業計画

12月4日(土):鹿児島大学法文学部会議室３号館４階経済コース会議室
1時間目(0850-1020):オリエンテーション、世界遺産の概要(1)萩野・西村・福永・大谷
2時間目(1030-1200):世界遺産の概要(2)萩野・西村・福永・大谷
3時間目(1250-1420):明治日本の産業革命 遺産について(１):鹿児島の遺産について:渡辺
4時間目(1430-1600):明治日本の産業革命 遺産について(２):製鉄:萩野・西村・福永・大谷
5時間目(1610-1740):明治日本の産業革命 遺産について(３):炭鉱、造船：萩野・西村・福永・大谷
6時間目(1810-1940):旅程管理(1):萩野・山崎

12月5日(日):鹿児島大学法文学部会議室３号館４階経済コース会議室
1時間目(0850-1020):鹿児島観光の概要(1):萩野・西村・福永・大谷
2時間目(1030-1200):鹿児島観光の概要(2):萩野・西村・福永・大谷
3時間目(1250-1420):救急救命(1)（損害保険の知識も含む）:萩野
4時間目(1430-1600):救急救命(2):萩野
5時間目(1610-1740):ホスピタリティ・外国 の知識(1):南・萩野
6時間目(1810-1940):ホスピタリティ・外国 の知識(2):南・萩野

12月11日(土):尚古集成館会議室（現地集合）

1時間目(0850-1020):旅程管理(2):山崎・萩野
2時間目(1030-1200):実務研修(1):山崎・萩野
3時間目(1250-1420):実務研修(2):山崎・萩野
4時間目(1430-1600):実務研修(3):山崎・萩野
5時間目(1610-1740):実務研修(4):および講義のまとめと質疑応答:山崎・萩野

■教科書

なし

■参考書

事前に送付された講義資料を前提として、講義を行なうので、熟読すること。

■成績の評価基準

実務研修でのプレゼンテーションの評価による(100%)
受講生は、以下の点を確認すること。

〇履修上の注意事項
1.　大学院の講義について
(ア)　大学院の講義は、原則として大学院生が報告し、教員がコメントをする演習形式です。この講義も大学院の正式科目であり、同様の形態をとります。
(イ)　以下の形式は大学院では普通の講義形態です。これは、通訳ガイドの業務とも共通することが多々あるので、大学院で開講することにしました。
(ウ)　第１回の受講生は、この点が理解されてない方が多かったので、今回は、しっかりと事前に説明します。
2.　今回の講義における受講生の準備等
(ア)　指定された授業において、内容を紹介するプレゼンテーションを英語でおこなう。
?　各講義時間に二人のプレゼンテーションをおこなう。
?　一方がプレゼンテーションをおこなっているとき、もう一方は司会をする。
?　質疑応答含めて３０分、２回以上の担当となる。
?　プレゼンテーションにはパワーポイントを使用する。
1.　スライド２０枚以内（英語・表紙含む）オーバーは認められない。
2.　最後に、ディスカッションテーマを記載する。
?　残りの３０分ではディスカッションテーマについて議論する。
?　質問・コメント等は、全員がプレゼンテーションの間に準備すること。全員に発言を求める。
?　随時、教員・補助者は、コメントする。
?　ディスカッションが終われば、講義は時間前でも終了する。
(イ)　授業は、欠席は認められない。
(ウ)　受講が許可されたのちに、９月下旬までに、各自へ担当時間割とプレゼンテーションの重点について指示をする。担当の変更は受け付けない。同時に、テキストも配布する。
(エ)　なお、パワーポイントのファイルは、かならず授業開始前に提出すること。提出のない場合は、今回の授業を放棄したものとみなし、講義に出席しても単位はでない。授業料も返還できない。
3.　コロナ等の対策について
(ア)　現在のところ、対面授業で実施する予定である。
(イ)　緊急事態宣言等が発令されたときは、急遽、遠隔でおこなうこともある。
(ウ)　ワクチン接種のおわった方は、証明ができるものの提示を要求することもある。
以上

■オフィスアワー

■各授業時間終了直後および講義の最終における質疑応答

■受講要件

次のいずれかの要件を満たす語学力を有することが望ましい。
ア 実用英語技能検定 2級以上
イ TOEIC 650点以上
ウ TOEFLiBT 70点以上
エ その他、上記の者と同等以上の英語力があると認められる者

なお、英語を母国語とするもので科目等履修生を希望するものは、

大学院入学資格相当の日本語能力（N2程度）が望ましい。

■備考

科目等履修を希望する受講生は、以下の注意事項を厳守してください。 まず、４年制大学を卒業していない方は、事前審査が必要となります。そのための説明会を６月３日（木）１０時３０分からと１３時からの２回おこないます。手続きおよび必要書類を示しますので、必ず説明会に出席してください。出願期間は、６月２１日（月）～２３日（水）の予定です。 次に、４年制大学卒業の方および事前審査合格者は、説明会を７月３０日（金）１０時３０分からと１３時からの２回おこないます。手続きおよび必要書類を示しますので、必ず説明会に出席してください。出願期間は、８月１８日（水）～２０日（金）となる予定です。 どちらの説明会も法文学部１号館玄関に場所を掲示しますので、それをみて教室に集まってください。事前の予約は必要ありません。
問い合わせは、 萩野研究室　０９９－２８５－７６０５、mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp となります。メールでの事前問い合わせの方が確実です。 なお、説明会に出席されずに出願者した場合、出願者に不利益が発生することもありますが、大学側は一切の責任を負いません。

■科目名
社会教育思想論演習
■英語名
Social Education Theory Seminar

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
経済社会システム専攻	博士前期課程	地域政策コース

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
農中至	099-285-7603	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

現代日本における社会教育の役割と機能、社会的位置づけに関する理解を深め、その課題と可能性を探求する。暮らしと労働の変化はわれわれの生活に大きな影響を与えており、この過程のなかで社会教育の果たすべき役割や求められる働きも変化してきている。また、暮らしや労働にかかわる諸前提の変容にともなって、教育にかかわる出来事の理解はますます複雑化しつつある。本演習では、近年における教育・発達環境の変化を的確に捉えながら、最新の教育学研究の動向を踏まえつつ、社会教育の今日的な在り方を総合的に吟味する。
※本年度はマナバとZOOMを用いて授業をおこない、内容を一部変更する場合があります。マナバのニュースおよび課題は必ず確認するようにしてください。

■学修目標

・現代日本における社会教育の課題と可能性を理解できるようになる

■授業計画

※対面形式を原則とするが、遠隔授業とする場合があるため、マナバを確認すること。
１：オリエンテーション
２：戦後社会教育の課題とはなにか
３：学校教育と社会教育の関係
４：学習要求の変化と社会教育
５：社会教育研究の展開と社会教育実践
６：暮らしの変化と社会教育-歴史編―
７：暮らしの変化と社会教育-実践編―
８：暮らしの変化と社会教育―理論編―
９：労働の変化と社会教育の課題―歴史編―
１０：労働の変化と社会教育の課題―実践編―
１１：労働の変化と社会教育の課題―理論編―
１２：現代的課題と社会教育の役割―地域づくりとの関係―
１３：現代的課題と社会教育の役割―学校教育との関係―
１４：現代的課題と社会教育の役割―仕事づくりとの関係―
１５：現代的課題と社会教育の役割―人権どの関係―

■教科書

適宜指示する。

■参考書

日本社会教育学会年報・紀要各年版

■成績の評価基準

課題文献の報告内容（60%）、討議への参画状況（20%）、リアクションペーパーでの振り返り（20%）による評価を実施。

■オフィスアワー

水曜日の昼休み中（12時10分から12時50分）

■受講要件

社会教育・生涯学習に関する関心のあるもの

■備考

特になし

■科目名			
青少年文化・社会論特論			
■英語名			
Youth Culture and Society			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
金子満	099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
子どもの権利条約から子どもに関する定義について深く考察する。また、それぞれの発達段階において子どもがどのように地域社会とかかわり、どのような課題を抱えているかについて吟味する。さらに、社会学の視点から子どもをとりまく社会状況について理解を深める。			
■学修目標			
子どもの権利条約から子どもに関する定義について深く考察すると共に、子どもが地域社会においてどのように位置付きながらどのような課題を抱えているかについて吟味する。また社会学の視点から子どもをとりまく社会状況について理解を深めることが本授業の到達目標である。			
■授業計画			
授業計画 第1回：地域社会と子どもの発達特論について（講義とオリエンテーション） 第2回：子ども権利条約を読む? 第3回：子ども権利条約を読む? 第4回：子ども権利条約を読む? 第5回：子どもの発達と地域課題「幼児期を中心に」? 第6回：子どもの発達と地域課題「幼児期を中心に」? 第7回：子どもの発達と地域課題「児童期を中心に」? 第8回：子どもの発達と地域課題「児童期を中心に」? 第9回：子どもの発達と地域課題「青年期を中心に」? 第10回：子どもの発達と地域課題「青年期を中心に」? 第11回：子どもに関する統計と地域社会? 第12回：子どもに関する 統計と地域社会? 第13回：社会的資本（ソーシャルキャピタル）から子どもを考える? 第14回：社会的資本（ソーシャルキャピタル）から子どもを考える? 第15回：総括			
■教科書			
授業中に適宜指示する。			
■参考書			
授業中に適宜指示する。			
■成績の評価基準			
方法：授業中のミニペーパーや口頭発表（４０％）、レポートで実施する期末筆記試験（６０％）			
■オフィスアワー			
日時調整により随時			
■受講要件			
子どもの発達に関心のある者			
■備考			
特になし。			

■科目名			
青少年文化・社会論演習			
■英語名			
Youth Culture and Society Seminar			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
金子満	099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

現代における子どもをとりまく環境について「子ども白書」や各新聞記事等を用いながら深く理解する。さらに、グループを形成し、学校・家庭・地域の各ステージにおける子どもの今日的課題について具体的テーマを設定し、理論研究や各種データを基に発表しながら地域社会と子どもの発達について理解を深める作業を行なう。

■学修目標

現代における子どもをとりまく環境について深く理解しつつ、学校・家庭・地域の各ステージにおける子どもの今日的課題について実際の事例に基づいて検討し、課題解決の方向を吟味し、理解することが本授業の到達目標である。

■授業計画

第1回：地域社会と子どもの発達特論演習について（講義とオリエンテーション）
第2回：「学校編」地域社会とモンスターペアレントへの理解?
第3回：「学校編」地域社会とモンスターペアレントへの理解?
第4回：「学校編」放課後学校の事例から?
第5回：「学校編」放課後学校の事例から?
第6回：「家庭編」青少年事件と家庭?
第7回：「家庭編」青少年事件と家庭?
第8回：「家庭編」ひきこもりを考える?
第9回：「家庭編」ひきこもりを考える?
第10回：「地域編」子どもと地域行事?
第11回：「地域編」子どもと地域行事?
第12回：「地域編」子どもが活躍する地域?
第13回：「地域編」子どもが活躍する地域?
第14回：総括－グループ発表（テーマの設定、現状把握、課題解決の方向）?
第15回：総括－グループ発表（テーマの設定、現状把握、課題解決の方向）?

■教科書

授業中に適宜指示する

■参考書

授業中に適宜指示する

■成績の評価基準

方法：授業中の発言及び積極的な態度（１０％）、グループ発表の内容（３０％）、レポート課題（６０％）以上で評価する。

■オフィスアワー

日時調整をもとに随時

■受講要件

学校地域連携に関する興味関心がある者

■備考

特になし。

■科目名			
社会教育思想論特論			
■英語名			
Social Education Theory			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
経済社会システム専攻	博士前期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
農中至	0992857603	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

近代日本における社会教育の成立に関する研究成果にもとづき、現代にいたるまでの社会教育思想の変遷を辿る。その際、これまでの社会教育の歩みが、学校、労働、生活、経済、産業、文化、環境、暮らしなどの各局面とどのようなかかわりを有するものであるのかについて理解を深めていく。本特論では、公民館などの地域施設、青年団、婦人会、子ども会などの具体的な施設や地域組織にも注目しながら、社会教育思想の誕生・成立から今日までの過程を吟味する。

■学修目標

近現代日本における社会教育の役割と可能性について理解し、社会教育実践・活動の活性化に向けて必要な取り組みを学校教育や住民自治とのかかわりで考えることができるようになる。

■授業計画

※対面形式を原則とするが、遠隔授業とする場合があるため、マナバを確認すること。
１：オリエンテーション（現代的諸課題と社会教育の果たすべき役割）
２：戦前・戦後社会教育における二つの系譜（Adult and Community Education）
３：成人教育と社会教育の関係（成人の学びとしての社会教育）
４：成人の学習論研究と社会教育
５：諸外国からの学習理論の移入と社会教育（諸外国の基礎理論の動向）
６：地域づくりと社会教育の関係（地域学習としての社会教育）
７：地域学習論研究と社会教育
８：日本国内における理論の生成と社会教育（国内における基礎理論の生成）
９：子どもの貧困問題と向き合う社会教育（子どもの困難に社会教育はどうかかわるのか）
１０：若者の発達と若者問題かかわる社会教育（青年期における社会教育の役割）
１１：労働・労働問題と社会教育の関係理解（労働・暮らしと社会教育かかわり）
１２：女性の学習と戦後社会教育の展開（ジェンダー・性と社会教育の関連構造）
１３：高齢者の生きがいと地域の学びづくり（少子高齢化・過疎地と社会教育）
１４：住民自治・地域自治と戦後社会教育実践（地域づくりの展開と学びの諸相）
１５：現代的人権と社会教育実践・活動の関連（人権思想を中核とした社会教育のために）

■教科書

佐藤一子編著『地域学習の創造』（東京大学出版会、2015）

■参考書

牧野篤『「つくる生活」がおもしろい』（さくら舎、2017）
山田定市編著『地域づくりと生涯学習の計画化』（北海道大学出版会、1997）

■成績の評価基準

課題文献の報告内容（60%）、討議への参画状況（20%）、リアクションペーパーでの振り返り（20%）による評価を実施。

■オフィスアワー

水曜日の昼休み中（12時10分から12時50分）

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
人間環境文化論特論			
■英語名			
Course Work in Human and Environmental Studies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	講義	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
兼城糸絵	099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

人間環境文化論を専攻する大学院生の研究テーマは，「環境」，「文化」，「地域」，「人間」などからなる。本講義は必修科目であり，専門性の異なる大学院生が一同に会することになる。しかし，専門が違えども，科学的な追究の意義やその表現法としての論文については，その根底に流れるものとは共通性を持っている。そこで，この講義では学術論文の構造を紹介するとともに，各受講生が自らの研究テーマと方法論について互いに開陳する。それと同時に，自らの研究を位置づける文脈を明確にすることで，他領域の研究史および研究のDisciplineを相互が理解するようにする。よって，この講義では大学院生による情報収集・発表・議論がメインとなる。

■学修目標

専門の異なる研究領域について，その成り立ちや方法論について理解し，互いに共有する。さらに，個々の研究領域における共通性を受講生が自ら見出すことで，科学的な追究の意義や論文構造を知る。このような立場から，自らの専門研究を精緻化することで，研究の幅や視点を拡張することを目標とする。

■授業計画

第 1回　（教員）ガイダンス、受講者の興味関心について情報共有
第 2回　（教員）研究活動の大まかな流れを理解する
第 3回　（教員）研究を実施するうえでの留意点、研究倫理などを中心に
第 4回　（教員）成果報告を行ううえでの留意点、学会発表や論文投稿など
第 5回　（院生）論文抄読１、研究の背景を理解する
第 6回　（院生）論文抄読２、研究の進め方を理解する
第 7回　（院生）論文抄読３、研究上の課題を探る
第 8回　（院生）論文抄読４、具体的な研究計画の立て方を検討する
第 9回　（院生）論文抄読５、研究から導かれる主張・結論の妥当性を考える
第10回　（院生）議論１、あるテーマについて研究背景を整理する
第11回　（院生）議論２、上記テーマの課題を見出す
第12回　（院生）議論３、上記テーマで研究の進め方を考える
第13回　（院生）議論４、上記テーマで研究を具体化する
第14回　（院生）議論５、上記テーマで要旨を書いてみる
第15回　質疑応答・授業の総括

※受講生との相談の上，適宜授業内容やテーマを変更することがある。
※基本的にzoomを使用した遠隔形式で行う。

■教科書

本授業では指定せず、必要に応じて参考書を用いる

■参考書

ポール.J・シルヴァイア（高橋さきの　訳）『できる研究者の論文生産術：どうすれば「たくさん」書けるのか』（講談社、2015）
上野千鶴子『情報生産者になる』（ちくま新書、2018）

■成績の評価基準

講義中のプレゼンテーション（50%）および議論の内容（50%）を評価対象とする。

■オフィスアワー

水曜日2限目

■受講要件

第４回目までに、研究活動を進めるために必要な情報を整理した書籍（各自で選ぶ）を１冊以上読んでおくこと
。
また論文抄読にも取組むため、各自で文献探しを進め、興味をもった文献を第５～９回目に持参すること。
本格的に研究に取り組む前に、まずは知識を広げることを目的とする（ただし必ずしも精読の必要はない）。

■備考

特になし

■科目名			
人文プロジェクト演習			
■英語名			
Humanistic Science Project (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
渡辺芳郎	099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

この授業は、人文科学的アプローチが現実の課題解決にどの程度有効な解決策を示せるかを、実践的に理解することを目的として、各人が有する専門分野の知的資源を現実問題と関連づけ活用する方法を学ぶ。このことを通じて、社会環境に柔軟に対処できるような社会性、国際性、協調性、問題解決能力の涵養を図る。

■学修目標

(1) 人文科学的アプローチを現実の課題との関連づけて活用できるようになる。
(2) 社会性、国際性、協調性、問題解決能力を身につける。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　課題設定(1)：課題の探索
第3回　課題設定(2)：課題の調査
第4回　課題設定(3)：課題の絞り込み
第5回　課題設定(4)：課題の決定
第6回　課題解決の実習(1)：課題関係の情報収集
第7回　課題解決の実習(2)：情報の整理
第8回　課題解決の実習(3)：先行解決方法の検討
第9回　課題解決の実習(4)：課題解決の方法の検討
第10回　課題解決の実習(5)：解決案の作成
第11回　受講生によるプレゼンテーション(1)
第12回　受講生によるプレゼンテーション(2)
第13回　受講生によるプレゼンテーション(3)
第14回　レポート作成
第15回 総括
（対面授業を予定しているが、状況次第では遠隔授業）

■教科書

なし。プリント配布。

■参考書

授業中に指示する。

■成績の評価基準

授業中の課題成果（40%）、プレゼンテーション（40%）、およびレポート（20%）により判断する。

■オフィスアワー

月曜日３限目

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
論文指導			
■英語名			
Dissertation Tutorial			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	講義	2単位	2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
各指導教員	各指導教員に問合せのこと	各指導教員に問合せのこと	
■共同担当教員			
各協力教員			
■授業概要			
専門分野の担当教員が修士論文作成のための指導・助言を行う。			
■学修目標			
それぞれの分野で求められる研究水準に達する修士論文を作成すること			
■授業計画			
第１回～第１５回 　各専門分野の担当教員による個別論文指導			
■教科書			
適宜紹介			
■参考書			
適宜紹介			
■成績の評価基準			
修士論文への取り組みの意欲、データの収集・分析及びその考察、論文としての形式等、総合的に判断し評価する。			
■オフィスアワー			
各指導教員に問い合わせのこと			
■受講要件			
人間環境文化論専攻・国際総合文化論専攻所属院生のみ			
■備考			
人間環境文化論専攻・国際総合文化論専攻　2年次後期必修科目			

■科目名			
論文指導			
■英語名			
Dissertation Tutorial			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	講義	2単位	2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
各指導教員	各指導教員に問い合わせのこと	各指導教員に問い合わせのこと	
■共同担当教員			
各協力教員			
■授業概要			
専門分野の担当教員が修士論文作成のための指導・助言を行う。			
■学修目標			
それぞれの分野で求められる研究水準に達する修士論文を作成すること			
■授業計画			
第１回～第１５回 　各専門分野の担当教員による個別論文指導			
■教科書			
適宜紹介			
■参考書			
適宜紹介			
■成績の評価基準			
修士論文への取り組みの意欲、データの収集・分析及びその考察、論文としての形式等、総合的に判断し評価する。			
■オフィスアワー			
各指導教員に問い合わせのこと			
■受講要件			
人間環境文化論専攻・国際総合文化論専攻所属院生のみ			
■備考			
人間環境文化論専攻・国際総合文化論専攻　2年次後期必修科目			

■科目名			
神経科学特論			
■英語名			
Neuroscience			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
菅野康太	099-285-7624	canno@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

脳と心に関わる行動神経科学・生物学分野の動向を紹介し、受講生自らも文献調査（英文論文）を行い発表する。その発表をもとに、参加者全員で議論をする。遺伝子、分子、神経細胞、神経回路、内分泌、脳と行動という一連のつながりと、それらを解析するための分子生物学、生化学、生理学、組織学、行動解析など、神経科学研究に必要な手法から得られた結果の理解を目指す。最終的に、学会での発表・質疑などの議論を行いうるレベルまでの習熟度を目指す。

■学修目標

（1）行動神経科学分野の英文原著論文を独力で理解できるようになる。
（2）行動神経科学分野の基本的な背景知識を習得し、自ら研究を行う基礎力を得る。
（3）「討論」において、原著論文の内容を発表し、質疑を行う。そのことを通し、実践的なディスカッションをする能力を得る。

■授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　近年の行動神経科学研究の潮流
第3回　近年の実験技術1（行動解析、組織学）
第4回　近年の実験技術2（生化学、分子生物学）
第5回　近年の実験技術3（個体レベルの分子生物学）
第6回　近年の実験技術4（神経活動の操作とイメージング）
第7回　性行動
第8回　　養育行動
第9回　攻撃行動
第10回　疾患モデルにおける社会行動研究
第11回　討論1
第12回　討論2
第13回　討論3
第14回　討論4
第15回　まとめ

■教科書

適宜資料を配布。

■参考書

1．脳神経科学イラストレイテッド（羊土社）
2．脳-分子・遺伝子・生理-（裳華房）
3．カールソン神経科学テキスト（丸善）
4．分子脳科学（化学同人）
5．脳とホルモンの行動学（西村書店）
6．その他、配布資料に記載する（含む原著論文）。

■成績の評価基準

質疑で見られる内容の理解度（50%）、発表内容（50%）。

■オフィスアワー

木曜4限

■受講要件

特になし

■備考

授業外学習として、1回あたり4時間程度が想定される。

■科目名			
消費者心理学特論			
■英語名			
Consumer Psychology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
山﨑真理子	099-285-7631	yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

主に社会心理学の観点から、購買時およびその前後に生起する態度・行動に関わる現象を理解する。
消費者の個人内で生起する心の過程だけでなく、消費者間で、さらに企業や社会と消費者の間で見られる心の過程にも注目する。

■学修目標

特論では、専門書および論文の読解を通して、専門的な視点で身近な行動を捉える力を身につけることを目指す。

■授業計画

本講義は毎回、対面形式で行う予定。
ただし講義形式は、状況により変更する可能性がある。
今後の情報は、基本的にmanaba上で更新。コースニュースやコンテンツ欄を確認。

注：■＝科目担当者回、□＝受講者担当回

■第 1回：オリエンテーション、今後の進め方について相談
■第 2回：心理学研究とは（１）心理学研究法・統計学を簡単に復習
■第 3回：心理学研究とは（２）消費者心理学研究の抄録を手掛かりに
□第 4回：消費者の価値志向（１）ブランド選択
□第 5回：消費者の価値志向（２）マーケット・セグメンテーション
□第 6回：消費者の個人内過程（１）購買の計画性
□第 7回：消費者の個人内過程（２）価格判断
□第 8回：消費者間の個人間過程（１）口コミの効果
□第 9回：消費者間の個人間過程（２）説得的コミュニケーション
□第10回：消費者と企業のコミュニケーション（１）比較広告
□第11回：消費者と企業のコミュニケーション（２）悪徳商法
■第12回：心理学研究とは（３）心理学に特有の問題（実験者効果、デブリーフィングなど）
□第13回：論文読解（１）研究の流れをつかむ
□第14回：論文読解（２）研究方法に注目して
□第15回：論文読解（３）データの解釈に注目して

■教科書

本講義では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

『心理学研究法　心を見つめる科学のまなざし』　高野陽太郎・岡隆（編）　（有斐閣アルマ）

■成績の評価基準

授業中課題100%（期末試験0%）

講義中のプレゼン、ディスカッション、提出物などを評価対象とする。

■オフィスアワー

水曜２限。
メールやmanaba上での連絡も可能です。

■受講要件

特に設けない。
ただし心理学を専攻していない受講者は、特に研究法・統計学に関する自主学習を行うことが望ましい。

■備考

特になし

■科目名

表象文化特論

■英語名

Studies of Culture and Representation

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
人間環境文化論専攻	博士前期課程	

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
井原慶一郎	099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

トッド・マガウアン『クリストファー・ノーランの嘘／思想で読む映画論』（フィルムアート社、2017年）を読み、クリストファー・ノーランの映画作品について考察する。彼の映画で外せないテーマである「フィクション」や「嘘と真実」を通して、全作品を読み解いていく。各作品において「嘘」がどのように中心的な役割を果たし、観客である私たちは、何に翻弄され欺かれ、ノーラン特有の巨大な「嘘」に巻き込まれていくのか。そのようなノーラン映画の構造に着目し、虚構（嘘、仮想、夢、偽装など）を作り込むためにどのような仕掛けを施しているか、その映像と物語の展開の巧みさを、哲学や精神分析理論からも考察する。

■学修目標

クリストファー・ノーランの映画作品についての理解を深める。
哲学や精神分析理論を使って映画を読み解く方法論を理解する。

■授業計画

※本授業は、毎回zoomを用いたリアルタイムの遠隔授業を行う予定である。

(1)イントロダクション

(2)イントロダクション　嘘の倫理学
(3)第１章　真実という罠：『フォロウィング』と完璧な身代わり
(4)第２章　『メメント』と知ろうとしない欲望
(5)
(6)第３章　汚れた警官：『インソムニア』と犯罪捜査の技法
(7)第４章　凡庸なスーパーヒーロー：『バットマン ビギンズ』の政治化されたリアリズム
(8)第５章　『プレステージ』における創造の暴力
(9)第６章　真のヒーローの外観：『ダークナイト』の必要な闇
(10)第７章　『インセプション』における現実放棄の要請
(11)
(12)結び　結果なき嘘
(13)＋第８章　『ダークナイト ライジング』：闇の騎士は本当に立ち上がったのか？
(14)＋第９章　反重力：『インターステラー』とフィクションによる場所からの離脱

(15)結び

■教科書

トッド・マガウアン『クリストファー・ノーランの嘘／思想で読む映画論』（フィルムアート社、2017年）。

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

■成績の評価基準

レポート（30%）と授業への取り組み態度（70%）による。

■オフィスアワー

木曜日・5時限・研究室（共通教育棟2号館2階）

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
生涯発達心理学特論演習			
■英語名			
Life-span Developmental Psychology (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
安部幸志	099-285-7621	k7336046@kadai.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

生涯発達心理学の中でも、老年期に関する最新の論文を紹介する授業である。履修者は自分で論文をまとめた上でレジメを作成し、発表することが求められる。基本的には英語の論文のみ、ここ10年以内に発表された論文の中から選択して発表し、批判的検討の後、各自の研究に知見を活用することを目指す。

■学修目標

（1）生涯発達心理学の最新の研究手法を理解し、活用することが出来る。
（2）自らの研究計画と照らし合わせた問題設定と解決能力を身に付けることが出来る。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。
なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更すする際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回　オリエンテーション
第2回　研究論文の検索方法について
第3回　研究論文を読む際の注意点について
第4回　老年期に関する論文発表
第5回　老年期に関する論文データの批判的検討
第6回　老年期に関する論文データの分析手法
第7回　中間まとめ
第8回　老年期臨床に関する論文発表
第9回　老年期臨床に関する論文データの批判的検討
第10回　老年期臨床に関する論文データの分析手法
第11回　新たな調査計画と分析方略の立案
第12回　予備調査データの分析
第13回　予備調査データの分析結果の批判的検討
第14回　本調査に向けた計画立案
第15回　まとめ

■教科書

なし

■参考書

適宜紹介する。

■成績の評価基準

授業における貢献度：40%
最終レポートまたは調査計画：60%

■オフィスアワー

■受講要件

特になし

■備考

かなり多くの英語論文を読むため、十分な英語能力が必要である。また、調査計画を立案するための統計学的知識が必要である。

■科目名			
コミュニティ援助特論			
■英語名			
Community Psychology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
平田祐太朗	099-285-7540	hirata@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

臨床心理学の中でもコミュニティ援助や臨床心理学的地域援助について詳しく紹介する。特に各テーマを分担し，テキストや論文の購読，発表，討論を行う。ただし，具体的な内容については受講生との相談によって変更することもある。

■学修目標

個人やコミュニティとその中で生じる心理社会的課題に関する理解を深め，多面的な視点から援助について考察することができる。修士論文作成のために必要な知識や視点を得ることを目指す。

■授業計画

1.オリエンテーション
2.コミュニティ援助の歴史
3.コミュニティ援助に関する理論的背景
4.多面的援助アプローチ
5.他職種連携と情報共有
6.コンサルテーション
7.危機介入
8.地域コミュニティにおける予防的介入
9.学校コミュニティの理解と援助
10.児童福祉施設におけるコミュニティの理解と援助
11.不登校児童生徒とコミュニティアプローチ
12.発達障害児童とコミュニティアプローチ
13.コミュニティアプローチとしてのスクールカウンセリング
14.コミュニティアプローチとしての子育て支援
15.総括

■教科書

本授業では特に指定せずに，必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

コミュニティ心理学　地域臨床の理論と実践　山本和郎　東京大学出版
コミュニティ・アプローチ　高畠克子　東京大学出版

■成績の評価基準

授業への参加態度（30%），ディスカッション・プレゼンテーション（30%），発表資料作成（60%）。

■オフィスアワー

月曜2限。ただし事前にメールにて連絡すること。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
コミュニティ援助特論演習			
■英語名			
Community Psychology (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
平田祐太朗	099-285-7540	hirata@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

現代社会においてはコミュニティをめぐるさまざまな心理社会的問題が存在する。このような課題に対して，主に臨床心理学的地域援助の視点から課題の設定を行い，それに対するアプローチ，また研究方法について理解を深める。

■学修目標

1. 学生個人の興味関心に沿った，個人やコミュニティとその中で生じる心理社会的課題に関する理解を深め，多面的な視点から援助について考察することができる。
2. コミュニティ援助に必要な研究法や論文執筆に関する知識や技術を習得し，分析に使用することができる。

■授業計画

1.ガイダンス
2.文献購読?：リサーチクエスチョンの設定
3.文献購読?：リサーチクエスチョンと先行研究の比較
4.文献購読?：方法論
5.研究計画作成?：リサーチクエスチョンの臨床的意義の検討
6.研究計画作成?：リサーチクエスチョンの臨床実践への応用可能性の検討
7.研究計画作成?：事例研究法
8.研究計画作成?：面接調査法
9.研究計画作成?：実践型研究
10.研究計画作成?：データ収集
11.研究計画作成?：データ分析法
12.研究成果発表とディスカッション?：問い
13.研究成果発表とディスカッション?：方法・結果
14.研究成果発表とディスカッション?：考察
15.総括

■教科書

本授業特に指定せず必要に応じて参考書を用いる

■参考書

現実に介入しつつ心に関わる　田嶌誠一　金剛出版　2010
臨床心理行為　氏原寛編　創元社　2003
質的研究入門　ウヴェ・フリック著　春秋社　2011

■成績の評価基準

研究計画発表など（80%）及びディスカッション（２０%）

■オフィスアワー

月曜1限。ただし事前にメールにて連絡すること。

■受講要件

■備考

使用するテキストは受講生の関心に合わせて追加・変更することがある。

■科目名			
東南アジア地域関係特論			
■英語名			
Southeast Asia Area Relations			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
黒田景子	099-285-8908	aminah@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
東南アジアに関する論文を受講生が購読し，それをともに講評する形式をとる。 テーマにより英文購読あり			
■学修目標			
東南アジアに関する専門知識をえられる。地域研究法を習得できる。			
■授業計画			
１回目　　オリエンテーション ２回目　購読の技法講義 ３回目～１４回目　購読発表の解析と指導。			
■教科書			
授業で適宜指示			
■参考書			
授業で適宜指示			
■成績の評価基準			
日常の発表と討論を評価する			
■オフィスアワー			
e-mailにより随時連絡すること。			
■受講要件			
地域研究と東南アジアに関する専門知識を欲していること。			
■備考			
特になし			

■科目名			
産業・組織心理学特論演習			
■英語名			
Industrial & Organizational Psychology (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
榊原良太	099-258-7519	sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

産業・組織心理学について、現在の研究動向や実社会の問題を踏まえた上で、研究テーマを選択し、国内外の論文や統計データなどを参照しながら、実際の実験・調査を進めていく。研究で得たデータをもとに、論文の執筆や発表の準備を進めていく。

■学修目標

(1)産業・組織心理学の知見に基づき、実社会の問題を的確に捉えることができる
(2)問題の把捉・改善へ向けた適切な調査計画を立てることができる
(3)調査結果に基づき、問題改善の方策を論文の形でまとめることができる

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　オリエンテーション（講義の進め方）
第２回　実社会の問題を探る(1)（文献調査）
第３回　実社会の問題を探る(2)（さまざまな指標を調べる）
第４回　実社会の問題を探る(3)（調査の対象・目的を決める）
第５回　調査研究(1)（調査計画を立てる）
第６回　調査研究(2)（調査に使用する変数を決める）
第７回　調査研究(3)（分析の方針を定める）
第８回　調査研究(4)（調査データの分析）
第９回　調査研究(5)（データの考察）
第１０回　論文作成(1)（問題・目的）
第１１回　論文作成(2)（方法）
第１２回　論文作成(3)（結果）
第１３回　論文作成(4)（考察）
第１４回　成果報告
第１５回　まとめ

予習：事前にmanabaに提示された論文を読む（学習に関わる標準的時間は約 2 時間）
復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は 2 時間）

■教科書

特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

山口 裕幸・髙橋 潔・芳賀 繁・竹村 和久 『経営とワークライフに生かそう！ 産業・組織心理学 改訂版』、有斐閣アルマ、2020年

■成績の評価基準

講義への取り組み(50%)と最終的なレポート・報告書(50%)によって評価する。対面・リモートの違いによる評価基準は変更はない。

■オフィスアワー

金曜４限の時間

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
比較文明特論			
■英語名			
Comparative Civilization			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
尾崎孝宏	099-285-8878	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
文化人類学系の査読つき論文を多読する。 『文化人類学研究（旧民族学研究）』『国立民族学博物館研究報告』に収録された論文を、いくつかのトピックに沿って収集・多読する。これによって、かつて日本の文化人類学でいかなるトピックが、いかなる方向性から議論されたかを概括する。			
■学修目標			
文化人類学において扱われてきたトピックと議論の方向性の歴史を、実際の論文の議論をトレースすることで体得する。また、学術論文を読むことによって、学術論文のフォーマットを体得する。			
■授業計画			
本授業は、毎回遠隔方式で行う予定である。 第1回：授業ガイダンス 第2回：リーディングリストの作成 第3回：文献購読とディスカッション（第1クルーその1） 第4回：文献購読とディスカッション（第1クルーその2） 第5回：文献購読とディスカッション（第1クルーその3） 第6回：文献購読とディスカッション（第2クルーその1） 第7回：文献購読とディスカッション（第2クルーその2） 第8回：文献購読とディスカッション（第2クルーその3） 第9回：文献購読とディスカッション（第3クルーその1） 第10回：文献購読とディスカッション（第3クルーその2） 第11回：文献購読とディスカッション（第3クルーその3） 第12回：文献購読とディスカッション（第4クルーその1） 第13回：文献購読とディスカッション（第4クルーその2） 第14回：文献購読とディスカッション（第4クルーその3） 第15回：まとめ			
■教科書			
指定しない。			
■参考書			
授業中に適宜紹介する。			
■成績の評価基準			
授業への貢献度（50%）、レポート（50%）			
■オフィスアワー			
金曜日昼休み、研究室 それ以外の時間は事前予約のこと			
■受講要件			
特になし			
■備考			
特になし			

■科目名			
消費者心理学特論演習			
■英語名			
Consumer Psychology (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
山﨑真理子	099-285-7631	yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

特論演習は、消費者心理学をテーマに、受講者自身の研究を実施するための実践力を磨く場とする。
人の心を対象とする研究を進めるには、様々な留意事項が存在する。
研究倫理、研究法などの観点においても専門的な能力を高めることを目指す。

■学修目標

特論演習では、修士論文執筆に向けて必要となる総合的なスキルの向上を目指す。

■授業計画

本講義は毎回、対面形式で行う予定。
ただし講義形式は、状況により変更する可能性がある。
今後の情報は、基本的にmanaba上で更新。コースニュースやコンテンツ欄を確認。

注：■＝科目担当者回、□＝受講者担当回

■第 1回：オリエンテーション、今後の進め方について相談
■第 2回：心理学研究とは（１）消費者心理学研究の抄録を手掛かりに
■第 3回：心理学研究とは（２）研究の実施＆結果の解釈＜第４部＞
■第 4回：修論に向けて（１）修論の進め方のポイント
□第 5回：修論に向けて（２）文献Aの紹介＆修論への発展案の検討
□第 6回：修論に向けて（３）文献Bの紹介＆修論への発展案の検討
□第 7回：心理学研究法（１）実証＜第１部＞相関と因果、各研究法の特徴
□第 8回：心理学研究法（２）実験＜第２部＞独立変数の操作、従属変数の測定
□第 9回：心理学研究法（３）実験＜第２部＞剰余変数の統制、様々な実験法
□第10回：心理学研究法（４）実験＜第２部＞心理学に特有な問題
□第11回：心理学研究法（５）観察＜第３部＞質問紙調査法
□第12回：心理学研究法（６）観察＜第３部＞観察法、面接法
□第13回：修論に向けて（４）発展案の再検討
□第14回：修論に向けて（５）修正案のプレゼン、ディスカッション
■第15回：修論に向けて（６）研究報告のポイント

■教科書

本講義では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

『心理学研究法　心を見つめる科学のまなざし』　高野陽太郎・岡隆（編）　（有斐閣アルマ）

■成績の評価基準

講義中課題100%（期末試験0%）

講義中のプレゼン、ディスカッションの他、レポートなど提出物を評価対象とする。

■オフィスアワー

水曜２限。
メールでのやり取りがスムーズです。

■受講要件

特に、以下の関連科目の履修が望ましい。

「心理学研究法特論」「心理統計法特論」他、心理学関連科目。

■備考

特になし

■科目名			
文化人類学特論			
■英語名			
Cultural Anthropology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
兼城糸絵	099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

東アジアの文化や社会に関して、人類学の古典的な研究から最新の研究まで含めて紹介し、東アジアで行われている研究の動向を把握する。

■学修目標

授業のテーマ及び到達目標
1．文化人類学の理論に関する専門知識を習得することができる。
2．東アジア社会に関する知識を習得し、同地域に対する人類学的な理解を深める

■授業計画

第１回：ガイダンス（授業の説明、使用する文献について）
第２回：東アジア・フィールドワーク論（１）：欧米・日本の研究者を中心に
第３回：東アジア・フィールドワーク論（２）：ネイティブ・アンソロポロジストを中心に
第４回：家族・親族（１）中国・台湾・香港
第５回：家族・親族（２）韓国・日本
第６回：宗教（１）世界宗教の展開
第７回：宗教（２）民間信仰
第８回：国家とエスニシティ（１）中国の場合
第９回：国家とエスニシティ（２）台湾の場合
第１０回：植民地主義
第１１回：移民（１）国内移動をめぐる問題
第１２回：移民（２）華僑の世界
第１３回：観光と文化
第１４回：民族誌と表象・展示
第１５回：総合討論

※基本的に対面形式で行うが、状況によって遠隔形式に切り替えることもある。
※授業内容は参加者の研究関心や進度によって変更されることもあります。

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

岸上信啓（編）2018　『はじめて学ぶ文化人類学：人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房。
上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大　2017　『東アジアで学ぶ文化人類学』昭和堂。

■成績の評価基準

講義中のディスカッション（50%）および講義中に課す課題の成果（50%）によって評価する。

■オフィスアワー

水曜日昼休み（12時-13時）

■受講要件

文化人類学に関心がある学生であれば、専門分野は問わない。

■備考

特になし

■科目名			
文化人類学特論演習			
■英語名			
Cultural Anthropology (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
兼城糸絵	099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

民族誌について書かれた文献を講読しながら、文化人類学の理論や基礎概念、研究動向に対する理解を深める。そして、自身の研究に関する文献リストと主要文献のレビューを作成する。

■学修目標

授業のテーマ及び到達目標
１．文化人類学の研究動向を体系的に習得する。
２．理論的背景にもとづいたレビューの作成方法を習得する。

■授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：レビュー論文の書き方に関する講義
第３回：民族誌の読解と議論（第1クールその1）
第４回：民族誌の読解と議論（第1クールその2）
第５回：民族誌の読解と議論（第1クールその3）
第６回：民族誌の読解と議論（第1クールその4）
第７回：民族誌の読解と議論（第2クールその1）
第８回：民族誌の読解と議論（第2クールその2）
第９回：民族誌の読解と議論（第2クールその3）
第１０回：民族誌の読解と議論（第2クールその4）
第１１回：民族誌の読解と議論（第3クールその1）
第１２回：民族誌の読解と議論（第3クールその2）
第１３回：民族誌の読解と議論（第3クールその3）
第１４回：民族誌の読解と議論（第3クールその4）
第１５回：これからの民族誌と人類学（講義）

※基本的に対面形式で行いますが、状況によって遠隔形式へ変更することもあります。
※受講者の研究関心や進度によって、内容が変更されることもあります。

■教科書

岸上信啓（編）2018　『はじめて学ぶ文化人類学：人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房。
綾部恒雄（編）1984　『文化人類学15の理論』中公新書。
綾部恒雄（編）2006　『文化人類学20の理論』弘文堂。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

授業中に課される課題（50%）と質疑応答（50%）

■オフィスアワー

水曜日昼休み（12時-13時）

■受講要件

文化人類学に関心がある学生であれば、専門分野は問わない。

■備考

特になし

■科目名			
文化人類学特論演習			
■英語名			
Cultural Anthropology (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
兼城糸絵	099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

文化人類学の諸理論について書かれた文献を講読しながら、文化人類学の理論や基礎概念、研究動向に対する理解を深める。

■学修目標

１．文化人類学の理論を体系的に習得する。
２．理論的背景にもとづいたレビューの作成方法を習得する。

■授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：社会・文化進化論と文化概念
第３回：文化伝播論
第４回：機能主義
第５回：文化とパーソナリティ
第６回：構造人類学
第７回：認識人類学
第８回：経済人類学と構造主義歴史人類学
第９回：象徴人類学
第１０回：解釈人類学
第１１回：エスニシティ論
第１２回：ナショナリズム・国家論
第１３回：ポストコロニアル人類学
第１４回：存在論的人類学（１）マリリン・ストラザーンを中心に
第１５回：存在論的人類学（２）ティム・インゴールドを中心に

※受講者の研究関心や進度によって、内容が変更されることもあります。
※本講義は基本的に対面形式で行うが、状況によっては遠隔形式にすることもある。

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる

■参考書

岸上信啓（編）2018　『はじめて学ぶ文化人類学：人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房。
綾部恒雄（編）1984　『文化人類学15の理論』中公新書。
綾部恒雄（編）2006　『文化人類学20の理論』弘文堂。

■成績の評価基準

授業中に課される課題（50%）と質疑応答（50%）

■オフィスアワー

水曜日昼休み（12時-13時）

■受講要件

文化人類学に関心をもつ者であれば、専門分野は問わない。

■備考

特になし

■科目名			
臨床心理援助特論演習			
■英語名			
Clinical Psychology(seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
飯田昌子	099-285-8884	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

心理療法には様々な技法があるが、そこには共通した目標がある。本授業の目的は，事例研究を通して、心理療法で起こっていること、「臨床心理行為」とはいかなることかについて実践的理解を深めることである。授業内容は，心理臨床に関する国内外の文献講読についてグループディスカッションを行う。

■学修目標

（１）「臨床心理行為」とは何かについて理解を深める
（２）事例研究の方法について理解する

■授業計画

※本授業は，毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお，授業形態については，種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は，予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回　ガイダンス
第2回　「臨床心理行為」に関する基本的理解について
第3回　心理臨床の独自性とは何か
第4回　心理臨床家のアイデンティティ
第5回　心理効果について
第6回　「言語化」について
第7回　援助専門職としての心理士
第8回　コミュニティに根ざした援助専門職の協働モデル
第9回　多職種連携
第10回　チーム医療・チーム学校
第11回　現代社会と心理臨床（１）：貧困
第12回　現代社会と心理臨床（２）：薬物依存
第13回　現代社会と心理臨床（４）：セクシュアリティ
第14回　現代社会と心理臨床（５）：HIV感染症
第15回　まとめ

期末試験は行わず，指定期日までにレポート等の提出を求める

■教科書

本授業では特に指定せず，必要に応じて参考書を用いる

■参考書

田嶌誠一『臨床心理行為:心理臨床家でないとできないこと』創元社　2003年

■成績の評価基準

「臨床心理行為」について説明できる技術を修得したか等の観点から，発表資料（70%），プレゼンテーション力（30%）により，総合的に評価する。

■オフィスアワー

月曜4限。ただし事前に研究室に連絡すること。連絡方法については授業中に指示する。授業直後であれば質問に応じる。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
神経科学特論演習			
■英語名			
Neuroscience (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
菅野康太	099-285-7624	canno@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

脳と心に関わる行動神経科学分野、生物学分野の英文論文を精読し、実験手法レベルまでの理解を目指す。精読した文献について参加者全員での議論も行う。さらに、受講者自身による新たな仮説の構築や研究計画の立案も行う。最終的な目標は、この分野の研究計画、実験の実施およびデータ解析を、自身で遂行するための実践的な能力を得ることである。

■学修目標

（1）行動神経科学分野の英文原著論文を独力で理解できるようになる。
（2）行動神経科学分野の基本的な背景知識を習得し、自ら研究を行う基礎力を得る。
（3）自ら行動神経科学の実験研究を立案・実施出来るようになる。

■授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　発表と討論1
第3回　発表と討論2
第4回　発表と討論3
第5回　発表と討論4
第6回　発表と討論5
第7回　実験計画案の議論1
第8回　　実験計画案の議論2
第9回　実験計画案の議論3
第10回　実験計画の実践1
第11回　実験計画の実践2
第12回　実験計画の実践3
第13回　実験データに対する議論1
第14回　実験データに対する議論2
第15回　まとめ

■教科書

特になし。適宜資料を配布する。

■参考書

特になし。

■成績の評価基準

質疑から見られる内容の理解度（50%）と発表や議論の内容（50%）。

■オフィスアワー

木曜4限

■受講要件

特になし

■備考

授業外学習として、1回あたり4時間程度が想定される。

■科目名

社会言語特論

■英語名

Sociolinguistics

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
人間環境文化論専攻	博士前期課程	

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
太田一郎	099-285-7566	iota@leh.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

社会やメディアに見られる言語現象を社会言語学的視点から捉える視点を学ぶ。今学期は，定延利之著『コミュニケーションと言語におけるキャラ』を講読し，日本語と人間観，コミュニケーションとキャラ，などの論点をもとに考える。

■学修目標

1. 言語学の知識に基づいてことばの問題を捉えることができる
2. 言語学の技法を使って自ら研究ができる
3. 調査等の結果をもとに分析することができる

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定であるが，海外からの留学生の来日状況に応じて遠隔授業とすることもある。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回 ガイダンス
第2回 問題意識
第3回 「キャラ」「キャラクタ」の概論
第4回 伝統的な人間観の限界
第5回 意図を前提とするコミュニケーションの問題
第6回 伝統的な人間観の浸透の実態
第7回 良き市民の「お約束」
第8回 「キャラ」の誕生
第9回 キャラ論への反論
第10回 キャラに関わる行動
第11回 キャラの発動
第12回 発話キャラクタを分けるもの
第13回 キャラの付与
第14回 キャラとは何か
第15回 まとめ

■教科書

定延利之著『コミュニケーションと言語におけるキャラ』2020 三省堂

■参考書

定延利之編集『「キャラ」概念の広がりと深まりに向けて』2018 三省堂
定延利之著『コミュニケーションへの言語的接近』2018 ひつじ書房
定延利之著『日本語社会 のぞきキャラくり』2011 三省堂
金水敏著『ヴァーチャル日本語 役割語の謎 』2003 岩波書店

■成績の評価基準

議論への参加など（50%）
学期末レポート（50%）

■オフィスアワー

月曜5限（研究室）

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
多文化交流特論			
■英語名			
Multicultural Relations			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中島祥子	099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

この授業では異文化間コミュニケーションの理論と実践について、基本的な文献を購読し、異文化間で生じるさまざまな障壁について、実例をもとに分析を行うことを目的とする。

■学修目標

・多文化社会の様相を知り、文化とコミュニケーションの関係性について説明することができる。
・異文化コミュニケーションの研究分野について説明することができる。
・実際のコミュニケーションにおける言語行動と非言語行動のパターンについて学び、異文化間のコミュニケーション・スタイルの相違性を説明することができる。
・異文化コミュニケーションのさまざまな研修の種類について説明することができる。

■授業計画

今学期は、リアルタイム配信によるオンライン授業を基本とする。なお、状況により変更する可能性もある。

第１回：オリエンテーション（本授業の目的と概要）
第２回：文化とコミュニケーション
第３回：異文化コミュニケーションとは？
第４回：異文化コミュニケーションの基礎要因
第５回：異文化コミュニケーションの方法論
第６回：異文化間でのトラブルとトラブル理論
第７回：留学生の事例研究
第８回：言語コミュニケーション
第９回：非言語コミュニケーション
第10回：異文化ビジネス・コミュニケーション（１）「交渉」
第11回：異文化ビジネス・コミュニケーション（２）「駐在・契約」
第12回：異文化研修の種類と実際
第13回：日本独自の異文化コミュニケーション理論
第14回：言語コミュニケーションとしての通訳・翻訳
第15回：まとめ
（期末試験は行わない）

■教科書

小坂貴志（2007）『異文化コミュニケーションのAtoZ』研究社

■参考書

石井敏他（2013）『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書

■成績の評価基準

（1）発表（レジュメ作成も含む）（30%）、（2）議論への参加（30%）、（3）期末レポート（40%）で総合評価する。

■オフィスアワー

木曜日5限（研究室）。他の時間帯でも都合があえば適宜応じます。メールなどで連絡をとってください。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
多文化交流特論演習			
■英語名			
Multicultural Relations (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中島祥子	099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

異文化間コミュニケーション及び異文化間教育関係の基本図書や論文を批判的に読むこととを目的とする。また、具体的な研究テーマに沿った文献から、研究方法やデータ収集方法を学ぶ。

■学修目標

１．異文化間コミュニケーション及び異文化間教育関係の基本図書や論文を批判的に読み、問題点を指摘することができる。
２．さまざまな調査方法を学び、具体的なテーマに沿ったデータ取集を選ぶことができる。
３．文献の要点を適切な表現で文章としてまとめ、さらに口頭で説明することができる。

■授業計画

今年度はZoomを利用した遠隔授業（オンライン型）で授業を実施する予定である。しかし、状況により、流動的であるため、予定通りにいかない場合もある。

第１回：オリエンテーション（授業概要とスケジュールにについて。受講生の人数により変更の可能性あり）
第２回：基本図書の紹介と発表方法及び分担について
第３回：学生のよる発表（１）
第４回：学生のよる発表（２）
第５回：学生のよる発表（３）
第６回：学生のよる発表（４）
第７回：中間総括
第８回：学生のよる発表（５）
第９回：学生のよる発表（６）
第10回：学生のよる発表（７）
第11回：学生のよる発表（８）
第12回：論文講読（１）
第13回：論文講読（２）
第14回：論文講読（３）
第15回：まとめ
（試験は行わない）

■教科書

本授業では教科書は指定しないが、参考文献や論文を適宜用いて授業を行う。

■参考書

ヘンリー・スペンサー＝オーティー編著（2004）『異文化理解の語用論』研究社
石原紀子編著ほか（2015）『多文化理解の語学教育―語用論的指導への招待―』研究社　など

■成績の評価基準

(1) 授業への取り組み方（受講中の発言、振り返り、宿題などを含む）30%、（2）発表30%、（3）期末レポート40%で総合評価する。

■オフィスアワー

木曜日５限。これ以外にもメールで事前に日時を相談し、Zoomによる個別相談として対応することも可能。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
学習・行動心理学特論			
■英語名			
Psychology of Learning and Behavioral Processes			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
富原一哉	099-285-7536	tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

我々を取り巻く環境は常に変化している。この流動化した環境でうまく生きていくためには，我々は常に新しいことを学んで行動していかねばならない。本年度の講義では，この学習のメカニズムについて行動学的，生理学的に概説した上で，系統発生的および個体発生的見地から，学習の適応機構としての位置付けを考察する。授業では，単に講義を聴くのみではなく，毎回，レポーターが与えられたテーマについて調べてきたことを発表し，それをもとに全体で討論を行う。したがって履修学生は授業への積極的な参加が求められる。ただし、具体的な内容については受講生との相談によって変更することもある。

■学修目標

（１）学習と行動の基礎的メカニズムについて，比較心理学的／神経科学的視点から考察できる。
（２）学習と行動の科学的研究についての理解を深める。

■授業計画

第１回　ガイダンス(ZOOMによるオンライン型)
第２回　学習の定義と分類(ZOOMによるオンライン型)
第３回　古典的条件づけの基礎理論(ZOOMによるオンライン型)
第４回　古典的条件づけの諸現象と応用(ZOOMによるオンライン型)
第５回　道具的条件づけの基礎理論(ZOOMによるオンライン型)
第６回　道具的条件づけの諸現象と応用(ZOOMによるオンライン型)
第７回　認知的学習(ZOOMによるオンライン型)
第８回　社会的学習(ZOOMによるオンライン型)
第９回　学習の諸理論１（古典的学習理論）(ZOOMによるオンライン型)
第１０回　学習の諸理論２（現代の学習理論）(ZOOMによるオンライン型)
第１１回　学習・記憶のメカニズム１（神経機構の基礎）(ZOOMによるオンライン型)
第１２回　学習・記憶のメカニズム１（海馬とシナプス可塑性）(ZOOMによるオンライン型)
第１３回　学習の生物学的制約(ZOOMによるオンライン型)
第１４回　学習の適応的機能(ZOOMによるオンライン型)
第１５回　全体のまとめ(ZOOMによるオンライン型)

＊授業はリアルタイム型(オンライン型)で実施する。なお，今後の状況次第で授業回数や内容，形式は変更となる可能性がある。

■教科書

授業の最初で受講生と相談してテキストを決定する。

■参考書

メイザー，J．E.（磯他訳）『メイザーの学習と行動』二瓶社
藤田　統編著『動物の行動と心理学』教育出版
近藤保彦他編　『脳とホルモンの行動学　ー行動神経内分泌学への招待ー』　2010　西村書店
J.ピネル著　佐藤他訳『ピネル　バイオサイコロジー　ー脳　心と行動の神経科学』2005　西村書店
Becker et al.(eds.) 『Behavioral Endocrinology (2nd ed.) 』 2002 MIT Press: Cambridge.
M．R．パピーニ（比較心理学研究会訳）2005　『パピーニの比較心理学』　北大路書房
J．N．Crawley 著（高瀬他　監訳）　2012　『トランスジェニック・ノックアウトマウスの行動解析』 西村書店

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（発表70%、討論30%）による。

■オフィスアワー

月曜２限。
ただし、事前にメールにて連絡のこと。

■受講要件

特になし

■備考

なし。

■科目名			
生涯発達心理学特論			
■英語名			
Life-span Developmental Psychology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
安部幸志	099-285-7621	k7336046@kadai.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

生涯発達心理学のうち、特に老年期に焦点を当てて議論を展開する。また、高齢者本人だけでなく、家族の問題や介護スタッフの問題についても議論を行い、現代社会における高齢者に関するトピックを心理学的視点から理解することを目指す。

■学修目標

（1）現代社会における高齢者問題について、心理学的視点から解説できる。
（2）家族介護者や介護スタッフのストレスに関する知識を習得し、最新の研究を理解できる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。
なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更すする際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回　オリエンテーション
第2回　現代社会における高齢者問題
第3回　高齢者の認知機能
第4回　加齢と身体機能
第5回　加齢と注意・記憶
第6回　高齢者の英知
第7回　高齢者を対象とした調査の特徴
第8回　高齢者を対象としたデータ分析の特徴
第9回　認知症の特徴
第10回　認知症患者と家族
第11回　家族介護者のストレス
第12回　家族とスタッフの介護ストレスの研究方法
第13回　介護ストレスへの介入方法
第14回　終末期と悲嘆
第15回　まとめ

■教科書

なし

■参考書

適宜紹介する

■成績の評価基準

授業における討論参加度：40%
最終レポート：60%

■オフィスアワー

■受講要件

特になし

■備考

英語の文献を用いる。文献を理解するための統計学的知識を備えているか、その努力をすることが求められる。

■科目名			
産業・組織心理学特論			
■英語名			
Industrial & Organizational Psychology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
榊原良太	099-258-7519	sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

産業・組織心理学の諸領域について、基礎的な知識だけでなく、最新の研究知見を論文や文献講読で学びながら、実社会の問題を把捉し、解決するための方法を考える。必要に応じて、実際の企業や組織を対象に調査を実施し、統計解析に基づいたデータの解釈を行った上で、問題改善のための方策提言なども行う。

■学修目標

(1)産業・組織心理学の最新の知見を獲得し、それを説明することができる
(2)得た知見をもとに、問題へアプローチするための基礎的な実験・調査計画を立てられる
(3)様々な統計解析を用いて、適切にデータを分析することができる
(4)データをもとに、問題改善のための提言を行うことができる

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　オリエンテーション(講義の進め方、文献の紹介)
第２回　産業・組織心理学の基礎
第３回　文献講読(1)（組織行動に関する最新論文）
第４回　文献講読(2)（メンタルヘルス領域に関する最新論文）
第５回　文献講読(3)（消費者行動に関する最新論文）
第６回　文献講読(4)（キャリア形成に関する最新論文）
第７回　文献講読(5)（採用に関する最新論文）
第８回　文献講読(6)（人間工学に関する最新論文）
第９回　産業・組織心理学における統計解析(1)（統計の基礎）
第１０回　産業・組織心理学における統計解析(2)（多変量データの扱い方）
第１１回　産業・組織心理学における統計解析(3)（複雑なデータ分析とその解釈）
第１２回　実験・調査(1)（研究計画）
第１３回　実験・調査(2)（データの収集と解析）
第１４回　実験・調査(3)（データに基づいた問題改善への低減）
第１５回　まとめ

予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約 2 時間）
復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は 2 時間）

■教科書

特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

山口 裕幸・髙橋 潔・芳賀 繁・竹村 和久 『経営とワークライフに生かそう！ 産業・組織心理学 改訂版』、有斐閣アルマ、2020年

■成績の評価基準

講義への取り組み(50%)と最終的なレポート・報告書(50%)によって評価する。対面・リモートの違いによる評価基準は変更はない。

■オフィスアワー

金曜５限の時間

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
心身医学特論演習			
■英語名			
Psychosomatic Medicine (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
米田孝一	内線7663	yoneda@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
心身医学は心と身体に関わる医学領域である。身体、心、その人を取り巻く環境を含めた理解が必要である。この特論演習では心身医学に関わる各自の研究テーマに即した論文抄読、データ検討を行う。			
■学修目標			
修士論文の作成に向けた研究計画を立てることができる。 学会学術集会での発表することができる。 英文での論文投稿ができる。			
■授業計画			
1．心身医学について 2．各自の関心領域 3．研究テーマの設定 4．論文抄読（1） 5．論文抄読（2） 6．論文抄読（3） 7．論文抄読（4） 8．論文抄読（5） 9．研究計画（1） 10．研究計画（2） 11．研究計画（3） 12．研究計画（4） 13．研究計画（5） 14．研究計画（6） 15．まとめと中間発表			
■教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
■参考書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて論文を用いる。			
■成績の評価基準			
各回の参加度、レポート、発表内容を総合的に評価する。			
■オフィスアワー			
月曜日２限			
■受講要件			
心身医学領域の研究テーマを持っていること。 毎回英語論文・専門書を複数読み、レポートと発表を行えること。			
■備考			
特になし			

■科目名			
心身医学特論			
■英語名			
Psychosomatic Medicine			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
米田孝一	内線7663	yoneda@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
心身医学は心と身体に関わる医学領域である。身体、心、その人を取り巻く環境を含めた理解が必要である。この特論では英文原書、論文抄読を行いながら、心身症について理解を深めていく。			
■学修目標			
心身医学領域の疾患の理解ができる。 英語で心身医学に関するレポートが書ける。			
■授業計画			
1．心身医学とは 2．神経 3．循環器 4．呼吸器 5．内分泌 6．消化器 7．ストレス 8．　PTSD 9．摂食障害 10．身体症状症 11．心理検査 12．心理療法 13．薬物療法 14．症例検討 15．総まとめ			
■教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
■参考書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて論文を用いる。			
■成績の評価基準			
授業への参加度、各回の課題遂行度、レポート等により総合的に評価する。			
■オフィスアワー			
月曜日２限			
■受講要件			
心理査定学、解剖学、生理学についての基礎知識があること。英語の専門書・論文が読めること。毎回日本語または英語で発表を行えること。			
■備考			
特になし			

■科目名			
表象文化特論演習			
■英語名			
Studies of Culture and Representation (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
井原慶一郎	099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし。			
■授業概要			
Jacqueline Furby & Stuart Joy (ed), The Cinema of Christopher Nolan: imagining the impossible (Wallflower Press, 2015)を精読する。			
■学修目標			
クリストファー・ノーランの映画作品についての理解を深める。 映画の作家論、作品論についての英語論文を読み解くことができる英語力を身につける。			
■授業計画			
(1)イントロダクション (2)(3)(4)論文1を読む (5)(6)(7)論文2を読む (8)(9)(10)論文3を読む (11)(12)(13)(14)論文4を読む (15)結び ※zoomを使った遠隔授業を実施予定			
■教科書			
Jacqueline Furby & Stuart Joy (ed), The Cinema of Christopher Nolan: imagining the impossible (Wallflower Press, 2015).			
■参考書			
トッド・マガウアン『クリストファー・ノーランの嘘／思想で読む映画論』（フィルムアート社、2017年）。			
■成績の評価基準			
レポート（30%）と授業への取り組み態度（70%）による。			
■オフィスアワー			
木曜日・5時限・研究室（共通教育棟2号館2階）			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
心理学研究法特論			
■英語名			
Psychological Research			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
横山春彦	099-285-7535	yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

授業は毎回対面形式で行う予定であるが、授業形態については種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。なお、予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）、復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）を行うことが必修である。

本授業は心理学の研究対象であるヒト・動物の行動をどのように取り扱い、どのような研究が可能で、その結果どのような知見が得られるかにつき、実践的に学習する人間環境文化論の専門科目となる。既述の通り、授業は全15回対面で進める予定であるが、受講生はシラバス、manabaを適宜利用の上、十分な予習、復習を行うことが求められる。全15回のうち第1回から第7回までは要因（独立変数、従属変数、剰余変数）や統計処理（統計的仮説の検定）など研究の基礎的事項について、また第8回から第15回は具体的な実験研究について、心理学研究法の具体的な理解を深めることが求められます。

■学修目標

学修目標は以下の３点である。

1. 特定の研究に関して従属変数、独立変数が適切に把握でき、かつ適切にプレゼンテーションできる。
2. データ収集に適切な剰余変数の統制ができ、かつその必要性等を適切にプレゼンテーションできる。
3. データについて適切な統計処理ができ、かつ結果の解釈等につき適切にプレゼンテーションできる。

■授業計画

授業は毎回対面形式で行う予定であるが、授業形態については種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。なお、予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）、復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）を行うことが必修である。

第１回 要因（従属変数、独立変数、剰余変数）、他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第２回 従属変数（比例尺度、順序尺度、名義尺度）、他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第３回 独立変数（被験者間・被験者内要因、水準）、他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第４回 １要因の影響（主効果、有意水準、帰無仮説）、他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第５回 ２要因の影響（１次交互作用）、他（他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第６回 ３要因の影響（２次の交互作用）、他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第７回 統計処理の意味の再確認（分散分析）、他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第８回 重さの弁別（重量弁別、精神物理学的測定法）、他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第９回 様々な心理学研究法の紹介、他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第10回 鏡映描写、他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第11回 心的回転（直線・曲線回帰）、他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第12回 記憶走査、他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第13回 錯視（観察距離、視角、輝度）、他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第14回 ストループ効果、他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第15回 2点閾、他（大学の学び、身近な動植物・のらねこ研究）
第16回 期末レポート（期日までにレポートを作成し提出する。提出記述は授業内で予め通知する）

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて以下に示す参考書を用いる。

■参考書

高野陽太郎・岡隆編　心理学研究法　有斐閣　2017年

■成績の評価基準

期末試験は行わず、指定期日までにレポートを提出を求める。なお、成績評価については、manabaによる毎週の予習・復習などの行うべき課題の取り組み状況（20%）、ショートレポートに対する評価（20%）、及び期末レポートの成績（60%）によって評価する。

■オフィスアワー

毎週水曜日午前8：30～10：30。なお、manabaでの投稿・質問等は随時受けつける。

■受講要件

予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（約2時間）、復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（約2時間）を必要とする。重複履修は認めない。

■備考

授業毎に予習（約2時間）、復習（約2時間）が必要となる。

■科目名			
心身医学特論演習			
■英語名			
Psychosomatic Medicine (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
米田孝一	内線7663	yoneda@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
心身医学は心と身体に関わる医学領域である。身体、心、その人を取り巻く環境を含めた理解が必要である。この特論演習では心身医学に関わる各自の研究テーマに即した論文抄読、データ検討を行う。			
■学修目標			
修士論文の作成に向けた研究計画を立てることができる。 学会学術集会での発表することができる。 英文での論文投稿ができる。			
■授業計画			
1．データミーティング(1) 2．データミーティング(2) 3．データミーティング(3) 4．データミーティング(4) 5．データミーティング(5) 6．データミーティング(6) 7．データミーティング(7) 8．データミーティング(8) 9．データミーティング(9) 10．データミーティング(10) 11．関連研究のreview（1） 12．関連研究のreview（2） 13．関連研究のreview（3） 14．関連研究のreview（4） 15．総まとめ			
■教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
■参考書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて論文を用いる。			
■成績の評価基準			
各回の参加度、レポート、発表内容を総合的に評価する。			
■オフィスアワー			
月曜日２限			
■受講要件			
心身医学領域の研究テーマを持っていること。 毎回英語論文・専門書を複数読み、レポートと発表を行えること。			
■備考			
特になし			

■科目名			
環境地理学特論演習			
■英語名			
Environmental Geography (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
永迫俊郎	099-285-7850	nagasako@edu.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

人間ー自然関係に着目する環境地理学の視座から，地域・経験・郷土/故郷に関わる領域の院生と自由闊達な議論を行い，また週末に現地体験学習を組み込んで，座学とフィールドの両面において協働の成果を得ることをめざす.

■学修目標

1) 諸学の交差点ともいわれる地理学の間口の広さを活かして，各自が属する専門領域内に留まらないダイナミックな意見交換ができること.
2) 先行研究をしっかりと読み込み的確な要約をし，今後の研究課題を指摘できること．一見異質なものが関係しあうことに気付いたり，他の視点・視野に立って突破口を見つけられること.
3) 自分の足で歩いて場に即して考える力を養成するとともに，現地に身を置き理性と感性を研ぎ澄まし全身で把握するというフィールドワークの醍醐味に近づけること.

■授業計画

本授業は，毎回対面形式で実施する予定である．週末に3回実施する予定の野外授業を除いた12回分は次のように計画している.

第1回　オリエンテーション
第2回　永迫の発表
第3回　各自の研究紹介（1巡目）
第4回　各自の研究紹介（2巡目）
第5回　文献紹介（1巡目）
第6回　文献紹介（2巡目）
第7回　ゲストスピーカーによる発表
第8回　文献紹介（3巡目）
第9回　文献紹介（4巡目）
第10回　野外授業の発表
第11回　各自の修士論文発表（経過・成果）（1巡目）
第12回　各自の修士論文発表（経過・成果）（2巡目）

■教科書

本授業ではとくに指定せず，必要に応じて参考書を用いる

■参考書

授業で適宜紹介する．野外授業の目的地・内容については，鹿児島大学リポジトリで次の拙稿を参照されたい.
永迫俊郎（2018）野外授業・巡検の実践例とそれらの教育的意義．鹿児島大学教育学部研究紀要教育科学編，第69巻

■成績の評価基準

ゼミ・野外授業における積極性と理解度（配分30%），発表（配分70%）で評価する

■オフィスアワー

木曜日3限をオフィスアワーとする．上記のメールアドレスでも対応する.

■受講要件

週末に3回行う現地体験学習の際に必要となる交通費等は，受講者各自の実費負担となる．学生傷害保険など各自での保険加入が望まれる.

■備考

授業形態については，新型コロナウイルス感染症の影響，その他の理由により変更する可能性がある．受講者数

やゲストスピーカーの都合などに応じて，授業内容や順番も変更の可能性がある．変更する際は，予めmanabaや授業時間内に告知する．

■科目名			
人文地域特論演習			
■英語名			
Human Geography (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
小林善仁	099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

受講者が個々の関心に合わせて歴史地理学の論文を選び、その内容の紹介を行い、参加者全員で議論する。
なお、絵図類を用いた景観研究に関する論文を主として扱う。また、野外観察を行い、現地にて議論を行う。

■学修目標

1. 人文地域に関する専門知識を修得できる。
2. 歴史地理学や絵図に関する研究課題・研究方法を修得できる。
3. 絵図を用いて地域の歴史景観を復原することができる。

■授業計画

第１回：ガイダンス
第2回～第14回：個人発表・討論
第15回：総括

■教科書

学生と相談して決める。

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（個人発表）
期末レポートの作成

■オフィスアワー

授業終了後。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
東南アジア地域関係特論			
■英語名			
Southeast Asia Area Relations			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
黒田景子	099-285-8908	aminah@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
東南アジアに関する論文を受講生が購読し，それをともに講評する形式をとる。 テーマにより英文購読あり			
■学修目標			
東南アジアに関する専門知識をえられる。地域研究法を習得できる。			
■授業計画			
１回目　　オリエンテーション ２回目　購読の技法講義 ３回目～１４回目　購読発表の解析と指導。			
■教科書			
授業で適宜指示			
■参考書			
授業で適宜指示			
■成績の評価基準			
日常の発表と討論を評価する			
■オフィスアワー			
火曜２限			
■受講要件			
地域研究と東南アジアに関する専門知識を欲していること。			
■備考			
特になし			

■科目名			
東南アジア地域関係特論演習			
■英語名			
Southeast Asia Area Relations (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
黒田景子	099-285-8908	aminah@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
東南アジアに関する論文を受講生による購読し，内容に関して討議する。 英文購読の場合あり。 留学生の場合は，正確な日本語の論文の読み方とその解釈について指導する。			
■学修目標			
東南アジアについての専門的知見を得る。			
■授業計画			
１回目　オリエンテーション ２回目　資料の指示と解説 ３回目～15回目　購読とまとめを討議する。			
■教科書			
授業中適宜指示する			
■参考書			
授業中適宜指示する			
■成績の評価基準			
日常発表と討論を評価する。			
■オフィスアワー			
火曜３限			
■受講要件			
東南アジアに関する専門知識を必要とすること。			
■備考			
特になし			

■科目名			
社会心理学特論			
■英語名			
Social Psychology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大薗博記	099-285-7538	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

近年社会心理学の分野で注目されている、進化心理学と文化心理学について詳しく紹介する。複数のテキストを用いて講読、発表、討論を行い、それらを通して、人間の普遍性と多様性について社会心理学の視点から考察する。ただし、具体的な内容については受講生との相談によって変更することもある。

■学修目標

人の心理と社会現象との関係を分析するために社会心理学の知識と研究法を習得すること、人間関係などの個人の問題から文化摩擦などの社会問題までを、多面的な視点から考察できるようになることを目標とする。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回：オリエンテーション
第２回：進化理論
第３回：血縁淘汰と家族
第４回：性淘汰と配偶行動
第５回：協力関係（１）限定交換
第６回：協力関係（２）一般交換
第７回：協力関係（３）社会的ジレンマ
第８回：精神病理の進化的起源
第９回：文化的自己観
第１０回：認知スタイルの文化差
第１１回：感情の文化差
第１２回：文化差の起源（１）名誉の文化
第１３回：文化差の起源（２）社会的流動性
第１４回：文化差の起源（３）遺伝子と文化の共進化
第１５回：まとめ

■教科書

「複雑さに挑む社会心理学　改訂版（亀田達也・村田光二　有斐閣、2010）」

■参考書

「進化と人間行動（長谷川寿一・長谷川眞理子　東京大学出版会,2010）」「自己と感情（北山忍　共立出版,1998）」その他、適宜紹介する。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（発表(50%)、討論への参加(50%)）により評価する。

■オフィスアワー

火曜３限

■受講要件

特になし

■備考

授業では毎回討論を行うので、履修学生は討論への積極的な参加が求められる。

■科目名			
宗教学特論演習			
■英語名			
Religions (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
兼城糸絵	099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

論文作成にむけたスキルアップセミナー。特に、個別の研究課題、研究方法の妥当性、得られたデータの分析等について、批判的に検討していく。

■学修目標

修士論文を書くにあたって必要なスキルを身につけることができる。

■授業計画

第1回：オリエンテーション
第２回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第1クルーその1）
第３回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第1クルーその2）
第４回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第1クルーその3）
第５回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第2クルーその1）
第６回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第2クルーその2）
第７回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第2クルーその3）
第８回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第3クルーその1）
第９回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第3クルーその2）
第１０回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第3クルーその3）
第１１回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第4クルーその1）
第１２回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第4クルーその2）
第１３回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第4クルーその3）
第１４回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（来年度へ向けた準備作業等）
第１５回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（長期休暇中の研究計画の確認）

※基本的に遠隔形式（オンライン型）で行う

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる

■参考書

講義中に適宜提示する

■成績の評価基準

報告内容や議論への参加度にもとづいて評価する（100%）。

■オフィスアワー

水曜日昼休み（12時-13時）

■受講要件

文化人類学・宗教文化論もしくは近接分野で修士論文を執筆しようとする者が望ましい。

■備考

特になし

■科目名			
社会心理学特論演習			
■英語名			
Social Psychology (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大薗博記	099-285-7538	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
日本国内外の複数の研究論文を取り上げる。その内容を学生がまとめ、発表した上で批判的に検討し、新たな研究計画を立案していく。その中で、実践的に研究の進め方を学ぶ。			
■学修目標			
社会心理学の知識と研究法を習得し、人の心理と社会のダイナミックな関係について考察できるようになること、適切な研究手法を立案できるようになることを目標とする。			
■授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。 第１回：オリエンテーション 第２回：日本語論文の発表と討論（１） 第３回：日本語論文の発表と討論（２） 第４回：日本語論文の発表と討論（３） 第５回：日本語論文の発表と討論（４） 第６回：新たな実験計画の立案（１） 第７回：新たな実験計画の立案（２） 第９回：英文論文の発表と討論（１） 第１０回：英文論文の発表と討論（２） 第１１回：英文論文の発表と討論（３） 第１２回：英文論文の発表と討論（４） 第１３回：新たな研究計画の立案（３） 第１４回：新たな研究計画の立案（４） 第１５回：まとめ			
■教科書			
特になし。			
■参考書			
授業の中で、適宜紹介する。			
■成績の評価基準			
授業への取り組み態度（発表(50%)、討論への参加(50%)）により評価する。			
■オフィスアワー			
火曜３限			
■受講要件			
特になし			
■備考			
授業では毎回討論を行うので、履修学生は討論への積極的な参加が求められる。			

■科目名			
社会心理学特論演習			
■英語名			
Social Psychology (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大薗博記	099-285-7538	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

日本国内外の複数の研究論文を取り上げる。その内容を学生がまとめ、発表した上で批判的に検討し、新たな研究計画を立案していく。その中で、実践的に研究の進め方を学ぶ。

■学修目標

社会心理学の知識と研究法を習得し、人の心理と社会のダイナミックな関係について考察できるようになること、適切な研究手法を立案できるようになることを目標とする。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回：オリエンテーション
第２回：日本語論文の発表と討論（１）
第３回：日本語論文の発表と討論（２）
第４回：日本語論文の発表と討論（３）
第５回：日本語論文の発表と討論（４）
第６回：新たな実験計画の立案（１）
第７回：新たな実験計画の立案（２）
第９回：英文論文の発表と討論（１）
第１０回：英文論文の発表と討論（２）
第１１回：英文論文の発表と討論（３）
第１２回：英文論文の発表と討論（４）
第１３回：新たな研究計画の立案（３）
第１４回：新たな研究計画の立案（４）
第１５回：まとめ

■教科書

特になし。

■参考書

授業の中で、適宜紹介する。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（発表(50%)、討論への参加(50%)）により評価する。

■オフィスアワー

金曜３限

■受講要件

特になし

■備考

授業では毎回討論を行うので、履修学生は討論への積極的な参加が求められる。

■科目名			
人文地域特論			
■英語名			
Human Geography			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
小林善仁	099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

地理学、とくに歴史地理学の問題・関心・研究方法について講義し、九州各地と日本の諸地域の比較を通じて歴史地理学の視点から南九州の地域的特性を考える。

■学修目標

1. 歴史地理学の専門知識を修得できる。
2. 歴史地理学的な課題の発見と分析ができる。
3. 人文地域の共通性と地域的特性を理解することができる。

■授業計画

基本的に遠隔方式（オンライン型）で行う予定であるが、状況によっては対面形式に変更する可能性がある。その際には、事前にmanabaのコースニュースと授業内で告知する。

第1回　ガイダンス【オンライン型】
第2回　歴史地理学の研究手法?【オンライン型】
第3回　歴史地理学の研究手法?【オンライン型】
第4回　歴史地理学の研究手法?【オンライン型】
第5回　歴史地理学の研究資料?【オンライン型】
第6回　歴史地理学の研究資料?【オンライン型】
第7回　歴史地理学の研究資料?【オンライン型】
第8回　地名の研究法?【オンライン型】
第9回　地名の研究法?【オンライン型】
第10回　鹿児島の歴史地理―近世?【オンライン型】
第11回　鹿児島の歴史地理―近世?【オンライン型】
第12回　鹿児島の歴史地理―近代?【オンライン型】
第13回　鹿児島の歴史地理―近代?【オンライン型】
第14回　鹿児島の歴史地理―近代?【オンライン型】
第15回　フィールドワーク【対面型】

■教科書

学生と相談して決める。

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

■成績の評価基準

期末レポート

■オフィスアワー

授業終了後。

■受講要件

特になし

■備考

内容と関連したフィールドワークを実施する。

■科目名			
人文地域特論演習			
■英語名			
Human Geography (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
小林善仁	099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

受講者が個々の関心に合わせて歴史地理学の論文を選び、その内容の紹介を行い、参加者全員で議論する。
なお、歴史地理学の景観復原的手法を用いた研究に関する論文を主として扱う。また、野外観察を行い、現地にて議論を行う。

■学修目標

1. 人文地域に関する専門知識を修得できる。
2. 歴史地理学や絵図に関する研究課題・研究方法を修得できる。
3. 歴史景観の復原を通じて、過去の地域の地理的特性を理解することができる。

■授業計画

遠隔方式（オンライン型）で行う予定であるが、状況によっては対面形式に変更する可能性がある。その際には、事前にmanabaのコースニュースと授業内で告知する。

第１回：ガイダンス　【オンライン型】
第2回～第14回：個人発表・討論　【オンライン型】
第15回：総括　【課題提出型】

■教科書

学生と相談して決める。

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（個人発表）
期末レポートの作成。

■オフィスアワー

授業終了後。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
比較文明特論演習			
■英語名			
Comparative Civilization (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
尾崎孝宏	099-285-8878	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

修士論文のライティング＝アップセミナー。
各自のテーマに即し、資料収集・方法論・具体的な論述方法について指導を行う。

■学修目標

修士論文作成に必要な各種スキルを体得する。

■授業計画

本授業は、毎回遠隔方式で行う予定である。
第１回　授業ガイダンス
第２回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第1クルーその1）
第３回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第1クルーその2）
第４回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第1クルーその3）
第５回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第2クルーその1）
第６回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第2クルーその2）
第７回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第2クルーその3）
第８回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第3クルーその1）
第９回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第3クルーその2）
第１０回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第3クルーその3）
第１１回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第4クルーその1）
第１２回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第4クルーその2）
第１３回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第4クルーその3）
第１４回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（後期へ向けた準備作業）
第１５回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（含：夏休みの課題）

■教科書

指定しない。

■参考書

各自の研究テーマに応じて紹介する。

■成績の評価基準

授業への貢献度（60%）、研究成果の質（40%）

■オフィスアワー

金曜日昼休み、研究室
それ以外の時間は事前予約のこと

■受講要件

文化人類学および隣接分野での修士論文を執筆予定であること。

■備考

特になし

■科目名			
物質文化特論演習			
■英語名			
Material Culture (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
渡辺芳郎	099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

学生が論文をひとつ選び，その内容をレジュメにまとめるとともに，論文の持つ問題点・疑問点を最低３点挙げ，議論する。

■学修目標

取り上げた論文の論理構造について批判的検討を加えることにより，自らの修士論文執筆にあたって必要な技術を身につけることができる。

■授業計画

(1)ガイダンス
(2)報告と討議1
(3)報告と討議2
(4)報告と討議3
(5)報告と討議4
(6)報告と討議5
(7)報告と討議6
(8)報告と討議7
(9)報告と討議8
(10)報告と討議9
(11)報告と討議10
(12)報告と討議11
(13)報告と討議12
(14)報告と討議13
(15)報告と討議14
（対面を予定しているが状況次第で遠隔）

■教科書

なし

■参考書

なし

■成績の評価基準

平常点（70%）・レポート（30%）

■オフィスアワー

月曜日３限目

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
学習・行動心理学特論演習			
■英語名			
Psychology of Learning and Behavioral Processes (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
富原一哉	099-285-7536	tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

心理学研究において不可欠である行動の質的・量的分析手法の修得を目指す。特にこの授業では、行動神経内分泌学における先行研究を精読することにより研究手法に対する理解を深め、さらに学生自らが新たな実験計画を立て、実施・分析することで実践的修得を行う。

■学修目標

（１）行動神経内分泌学的研究についての知識を習得する
（２）心理学における実験的研究技法についての最新の知識を得る。
（３）自ら問題設定を行い、それを心理学的に研究するための方法を身につける。

■授業計画

第１回：ガイダンス(ZOOMによるオンライン型)
第２回：行動の生理学的基礎（脳と神経系）(ZOOMによるオンライン型)
第３回：行動の生理学的基礎（シナプスと神経伝達物質）(ZOOMによるオンライン型)
第４回：行動の生理学的基礎（ホルモンと神経調節因子）(ZOOMによるオンライン型)
第５回：個体行動の神経内分泌的基盤（学習と記憶）(ZOOMによるオンライン型)
第６回：個体行動の神経内分泌的基盤（不安と恐怖）(ZOOMによるオンライン型)
第７回：個体行動の神経内分泌的基盤（睡眠と覚醒）(ZOOMによるオンライン型)
第８回：社会行動の神経内分泌的基盤（攻撃行動）(ZOOMによるオンライン型)
第９回：社会行動の神経内分泌的基盤（性行動）(ZOOMによるオンライン型)
第１０回：社会行動の神経内分泌的基盤（養育行動）(ZOOMによるオンライン型)
第１１回：適応と進化のメカニズム（社会生物学と進化心理学）(ZOOMによるオンライン型)
第１２回：適応と進化のメカニズム（自然淘汰と性淘汰）(ZOOMによるオンライン型)
第１３回：適応と進化のメカニズム（親的投資と繁殖戦略）(ZOOMによるオンライン型)
第１４回：適応と進化のメカニズム（遺伝子と行動）(ZOOMによるオンライン型)
第１５回：まとめ(ZOOMによるオンライン型)

＊授業の回数や内容は変更となる可能性がある。

■教科書

授業の最初で受講生と相談してテキストを決定する。

■参考書

Becker et al.(eds.) 『Behavioral Endocrinology (2nd ed.) 』 2002 MIT Press: Cambridge.
Wyatt 『Pheromones and Animal Behavior』 2003 Cambridge University Press: New York.

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（発表70%、討論30%）による。

■オフィスアワー

月曜２限。
ただし、事前にメールにて連絡のこと。

■受講要件

比較心理学，神経科学，動物行動学のいずれかの基礎知識を有することが望ましい。

■備考

なし。

■科目名			
物質文化特論			
■英語名			
Material Culture Studies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
渡辺芳郎	099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

近年，急速に発展している近世考古学について，そのもっとも盛んなフィールドである江戸遺跡の事例を元にしながら，概説する。また鹿児島県下における近世考古学の状況についてもあわせて講義する。

■学修目標

(1)近世考古学の概要について理解できる
(2)鹿児島の近世考古学について理解できる
(3)考古学における近世考古学の意味について理解できる

■授業計画

(1)ガイダンス
(2)江戸遺跡出土の陶磁器について(1)：食膳具
(3)江戸遺跡出土の陶磁器について(2)：貯蔵具・運搬具
(4)江戸遺跡出土の陶磁器について(3)：灯火具・暖房具
(5)江戸遺跡出土の陶磁器について(4)：茶道具
(6)江戸遺跡出土の陶磁器について(5)：趣味具・玩具
(7)江戸遺跡出土の陶磁器について(6)：生産地・年代
(8)江戸遺跡出土の土器について(1)：土器の種類
(10)江戸遺跡出土の土器について(2)：土器の機能
(11)江戸遺跡出土の木器・漆器について(1)：食膳具
(12)江戸遺跡出土の木器・漆器について(2)：貯蔵具・運搬具他
(13)鹿児島における近世考古学について(1)：調査研究史
(14)鹿児島における近世考古学について(2)：現状と課題
(15)　考古学における近世考古学の役割
（対面授業を予定しているが、状況次第では遠隔授業）

■教科書

江戸遺跡研究会編2001『図説江戸考古学研究事典』柏書房ほか
※上記テキストについてはコピーを配布します

■参考書

なし

■成績の評価基準

平常点（50%）・レポート(50%）

■オフィスアワー

月曜日３限目

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
考古学地域特論			
■英語名			
Regional Archaeology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中村直子	099-285-7270	k8315479@kadai.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

南九州は日本列島の南部に位置し、南西諸島島嶼部とも隣接している。また、世界有数の火山地帯でもあり、南九州先史時代文化にこれらの地理的な特徴が大きく影響している。本授業では、南九州の縄文時代から古墳時代の文化変遷や特徴について、発掘調査の成果や出土品の解析をもとに解説する。

■学修目標

（１）南九州の地理的特徴について、説明することができる。
（２）南九州先史時代の時代区分とその変遷について説明することができる。
（３）南九州先史時代の生業活動とその変遷について説明することができる
（４）南九州縄文時代・弥生時代・古墳時代それぞれにおける南九州の文化的な特徴を説明することができる。

■授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：先史時代の時期区分と地域区分
第３回：南九州の地形的特徴
第４回：縄文時代開始期の南九州
第５回：縄文時代アカホヤ火山灰の文化的影響とその後
第６回：縄文時代から弥生時代の栽培植物
第７回：南九州における水田稲作農耕の開始
第８回：南九州弥生時代の集落と構造
第９回：南九州古墳時代の集落と構造
第10回：南九州弥生時代の葬墓制
第11回：南九州における古墳の築造
第12回：南九州における古墳以外の葬墓制
第13回：南九州弥生時代・古墳時代の社会階層
第14回：南九州における古代社会の開始
第15回：南九州の先史時代における文化的特徴
期末試験は行わず、指摘義日までにレポート提出を求める

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

担当教員が適宜指示する。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（40%）・レポート（60%）

■オフィスアワー

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
言語文化特論演習			
■英語名			
Language and Culture (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
太田一郎	099-285-7566	iota@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

言語と地域・社会・文化に関わる諸問題に関する文献講読や実習などにより、言語データの分析・考察の方法を学ぶ。地域方言，社会方言，電子ネットワークの言語を中心に，現代の言語現象一般について研究を進めていくうえでの議論を十分展開できるように、文献や過去の調査結果の批判的検討を行うこと，試行的なフィールドワークを行うこともある。受講生の研究テーマに応じて、資料調査や方法論、学術論文の書き方を指導する。

■学修目標

1. 言語学の知識に基づいてことばの問題を捉えることができる
2. 言語学の知識や技法を使って自ら研究ができる
3. 調査等の結果をもとに分析することができる

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定であるが，海外からの留学生の来日状況に応じて遠隔授業とすることもある。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回 ガイダンス(授業概要,成績評価,レポート提出方法，分担の説明など)
第2回：学生による発表（１）
第3回：学生による発表（２）
第4回：学生による発表（３）
第5回：学生による発表（４）
第6回：学生による発表（５）
第7回：学生のよる発表（５）
第8回：中間総括
第9回：学生のよる発表（６）
第10回：学生のよる発表（７）
第11回：学生のよる発表（８）
第12回：論文講読（１）
第13回：論文講読（２）
第14回：論文講読（３）
第15回：まとめ

受講生の研究テーマや関心を考慮して、内容を一部変更することもある。

■教科書

指定しない

■参考書

授業中に指示する

■成績の評価基準

平常点（出席および議論への参加度）50%
文献の報告・発表 50%

■オフィスアワー

月曜3限

■受講要件

言語学に関心のある者

■備考

特になし

■科目名			
言語文化特論			
■英語名			
Language and Culture			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
太田一郎	099-285-7566	iota@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

最近の社会言語学の理論を学び，言語現象の分析のための視点を養うことを目指す。今学期は，文化としてのことばの捉え方を，文化とディスコースの関連を取り扱う文献の購読を通して学ぶ。授業は文献の講読，受講生の報告などをもとに進める。

■学修目標

1. 言語学の知識に基づいてことばの問題を捉えることができる
2. 言語学の知識や技法を使って自ら研究ができる
3. 調査等の結果をもとに分析することができる

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定であるが，海外からの留学生の来日状況に応じて遠隔授業とすることもある。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回 ガイダンス
第2回 学問としての言語人類学1：文化的システムとしてのことば
第3回 学問としての言語人類学2：言語能力をめぐって
第4回 言語相対論1：認知と言語
第5回 言語相対論2：メタファーと認知
第6回 コミュニケーションの民族誌1：デル・ハイムズ
第7回 コミュニケーションの民族誌2：その貢献
第8回 発話の問題：語用論と日英語比較
第9回 言語社会化1：文法の知識と文化の知識
第10回 言語社会化2：書きことばの社会化
第11回 社会の変化とことば
第12回 指標性と社会
第13回 メディア研究と言語人類学1：文化としてのメディア
第14回 メディア研究と言語人類学2：コミュニケーションの問題
第15回 まとめ
（内容や順序は変更することもある）

■教科書

井出里咲子ほか（編）「言語人類学への招待：ディスコースから文化を読む」（ひつじ書房）

■参考書

適宜指示する

■成績の評価基準

平常点（出席および議論への参加度）50%
学期中のレポート 50%

■オフィスアワー

月曜3限

■受講要件

なし

■備考

特になし

■科目名

認知心理学特論

■英語名

Cognitive Psychology

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
人間環境文化論専攻	博士前期課程	

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
横山春彦	099－285－7535	yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

授業は毎回対面形式で行う予定であるが、授業形態については種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。なお、予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）、復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）を行うことが必修である。

本授業は、心理学の研究対象であるヒト・動物の行動のうち、感覚などその手掛かりとして機能する部分に焦点を当てた、人間環境文化論の専門授業となります。私たちにとって感覚は唯一の情報の入り口であり、また自身を実体のあるものとして感知させる重要な働きである。一方、そうした感覚の活動を生み出すのは神経系の作用であるが、インパルスの伝導・伝達を基本とするニューロンがどのようにそれを可能とするのか、そこには依然として大きな謎がある。本講義ではこうした感覚に関するトピックを毎回いくつか取り上げて解説する。それにより受講生自身、人の認知機能の機序及びその障害に関して理解を深め、基本的な説明ができることが目標となる。なお、補足的に私たちを取り巻く身近な環境に生息する動植物等についても具体的な観察記録を交えつつ話題を提供する。

■学修目標

学修目標は以下の3点である。
1.感覚の重要性と不思議さについて理解でき、かつそれを効果的にプレゼンテーションできる。
2.感覚の様々な現象につき基本的な説明ができ、かつそれを効果的にプレゼンテーションできる。
3.感覚現象やそのメカニズムにつき仮説が提起でき、かつそれを効果的にプレゼンテーションできる。

■授業計画

授業は毎回対面形式で行う予定であるが、授業形態については種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。なお、予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）、復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）を行うことが必修である。

第１回 感覚・知覚・認知の概念、他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第２回 聴覚のしくみ、他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第３回 味覚・嗅覚のしくみ、他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第４回 皮膚感覚のしくみ、他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第５回 視覚の成立条件、他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第６回 色覚研究の歴史、他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第７回 眼球運動、静止網膜像、恒常性、他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第８回 ﾍﾞﾂｮﾙﾄ・ﾌﾞﾘｭｯｹ現象、進出色、後退色、他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第９回 形の知覚（ゲシュタルト要因）、他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第10回 幾何学的錯視、他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第11回 動きの知覚、他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第12回 視覚性定位障害、半測空間無視、他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第13回 視覚失認、立体視障害、他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第14回 反復視、相貌失認、他他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第15回 クオリア問題、他（大学での学び、身近な動植物・のらねこ研究等）
第16回 期末試験（期日までにレポートを作成し提出する。なお提出期日は予め授業内で通知する。）

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて以下に示す参考書を用いる。

■参考書

犬塚美輪　認知心理学の視点　サイエンス社　2018
御領謙・菊池正・江草浩幸・伊集院睦雄・服部雅史・井関龍太　認知心理学への招待　サイエンス社2016
原田悦子　認知心理学　サイエンス社　2015

■成績の評価基準

期末試験は行わず、指定期日までにレポートを提出を求める。なお、成績評価については、manabaによる毎週の予習・復習などの行うべき課題の取り組み状況（20%）、ショートレポートに対する評価（20%）、及び期末レポートの成績（60%）によって評価する。

■オフィスアワー

毎週水曜日午前8：30～10：30。なお、manabaでの投稿等は随時受け付ける。

■受講要件

予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（約2時間）、復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（約2時間）を必要とする。重複履修は認めない。

■備考

授業ごとに予習（約2時間）、復習（約2時間）が必要となる。なお、重複履修は認めない。

■科目名

学習・行動心理学特論演習

■英語名

Psychology of Learning and Behavioral Processes (seminar)

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
人間環境文化論専攻	博士前期課程	

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
富原一哉	099-285-7536	tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

心理学研究において不可欠である行動の質的・量的分析手法の修得を目指す。特にこの授業では、比較認知科学および進化心理学における先行研究を精読することにより研究手法に対する理解を深め、さらに学生自らが新たな実験計画を立て、実施・分析することで実践的修得を行う。

■学修目標

(1)行動の比較認知科学および進化心理学研究についての知識を習得する
(2)心理学における実験的研究技法についての最新の知識を得る。
(3)自ら問題設定を行い、それを心理学的に研究するための方法を身につける。

■授業計画

第１回：ガイダンス(ZOOMによるオンライン型)
第２回：行動研究の基礎（観察法）(ZOOMによるオンライン型)
第３回：行動研究の基礎（実験法）(ZOOMによるオンライン型)
第４回：行動研究の基礎（生理的研究法）(ZOOMによるオンライン型)
第５回：個体行動の基盤（反射と走性）(ZOOMによるオンライン型)
第６回：個体行動の基盤（学習と記憶）(ZOOMによるオンライン型)
第７回：個体行動の基盤（不安と恐怖）(ZOOMによるオンライン型)
第８回：社会行動の基盤（攻撃行動）(ZOOMによるオンライン型)
第９回：社会行動の基盤（性行動）(ZOOMによるオンライン型)
第１０回：社会行動の基盤（養育行動）(ZOOMによるオンライン型)
第１１回：行動の適応と進化(ZOOMによるオンライン型)
第１２回：遺伝子と淘汰(ZOOMによるオンライン型)
第１３回：協力と競争(ZOOMによるオンライン型)
第１４回：性差と発達(ZOOMによるオンライン型)
第１５回：まとめ(ZOOMによるオンライン型)

＊授業の回数や内容は変更となる可能性がある。

■教科書

授業の最初に受講生と相談してテキストを決定する。

■参考書

Heyes & Huber (ed.) 2000 『The Evolution of Cognition』MIT Press.
D. M. Buss 2011 『Evolutionary Psychology -The New Science of the Mind 4th edition』Pearson.

■成績の評価基準

授業への取り組み態度(発表70%、討論30%)による。

■オフィスアワー

月曜2限。 ただし、事前にメールにて連絡のこと。

■受講要件

比較心理学，神経科学，動物行動学のいずれかの基礎知識を有することが望ましい。

■備考

なし

■科目名			
認知心理学特論演習			
■英語名			
Cognitive Psychology (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
横山春彦	099-285-7535	yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

本授業は毎回対面で行う予定であるが、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際はよめmanabaのコースニュースや授業内で通知する。また、予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）、復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）を行うことが必修となる。

前期の演習に続き、修士論文の完成に必要な作業を継続して進める。修士論文の完成に至る以下の4点が本授業の概要である。

1.修論データの収集（実験・調査の実施）
2.修論データの分析と結果のまとめ・考察
3.本論及びレジュメの作成とその検討
4.発表の準備

■学修目標

授業の概要に従い、学習目標は以下の4点である。

1.データ収集（実験・調査の実施）が充分行われ、かつその内容が適切にプレゼンテーションできる。
2.データ分析と結果のまとめ・考察が充分に行われ、かつその内容が適切にプレゼンテーションできる。
3.本論・レジュメの作成とその検討が充分に行われている。
4.発表の準備が充分に行われている。

■授業計画

本授業は毎回対面で行う予定であるが、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際はよめmanabaのコースニュースや授業内で通知する。また、予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）、復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）を行うことが必修となる。

第１回　データ収集の方法（実験・調査）についての再確認と問題点の検討
第２回　データ収集の方法（実験・調査）についての最終確認
第３回　予備実験・調査の実施
第４回　予備実験・調査における問題点の整理と今後の検討
第５回　本実験・本調査の実施
第６回　本実験・本調査の実施（継続）
第７回　データ分析と結果のまとめ
第８回　データ分析と結果のまとめ（継続）
第９回　結果のまとめと考察
第10回　本論とレジュメの検討（問題と目的を中心に）
第11回　本論とレジュメの検討（方法を中心に）
第12回　本論と本論とレジュメの検討（問題と目的を中心に）
第13回　本論とレジュメの検討（考察を中心に）
第14回　発表に向けての準備
第15回　発表の実施と問題点の整理
第16回　期末試験（期日までにレポートを作成し提出する。なお、提出期日は予め授業内で通知する。）

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて以下に示す参考書を用いる。

■参考書

高野陽太郎・岡隆編　心理学研究法　有斐閣　2017年

■成績の評価基準

期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。なお、成績評価については、manabaによる毎週の予習・復習など行うべき課題の取り組み状況（20%）、ショートレポートに対する評価（20%）及び、期末レポートの成績（60%）によって評価する。

■オフィスアワー

毎週水曜日午前8：30～10：30。なお、質問等manabaによる投稿等は随時受け付ける。

■受講要件

人間環境文化論専攻に所属する院生のうち、認知心理学研究室にて修士論文の作成を行う院生に限る。予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（約2時間）、復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（約2時間）を必要とする。

■備考

担当者　鹿児島大学法文学部人文学科心理学コース　准教授　横山春彦

■科目名			
比較文明特論演習			
■英語名			
Comparative Civilization (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
尾崎孝宏	099-285-8878	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

修士論文のライティング＝アップセミナー。
各自のテーマに即し、資料収集・方法論・具体的な論述方法について指導を行う。

■学修目標

修士論文作成に必要な各種スキルを体得する。

■授業計画

本授業は、毎回遠隔方式で行う予定である。
第１回　授業ガイダンス
第２回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第1クルーその1）
第３回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第1クルーその2）
第４回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第1クルーその3）
第５回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第2クルーその1）
第６回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第2クルーその2）
第７回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第2クルーその3）
第８回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第3クルーその1）
第９回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第3クルーその2）
第１０回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第3クルーその3）
第１１回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第4クルーその1）
第１２回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第4クルーその2）
第１３回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第4クルーその3）
第１４回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（来年度へ向けた準備作業）
第１５回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（含：春休みの課題）

■教科書

指定しない。

■参考書

各自の研究テーマに応じて紹介する。

■成績の評価基準

授業への貢献度（60%）、研究成果の質（40%）

■オフィスアワー

金曜日昼休み、研究室
それ以外の時間は事前予約のこと

■受講要件

文化人類学および隣接分野での修士論文を執筆予定であること。

■備考

特になし

■科目名			
東南アジア地域関係特論演習			
■英語名			
Southeast Asia Area Relations (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
黒田景子	099-285-8908	aminah@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
東南アジアの諸問題，地域研究，歴史の分野に関する論文を読み，発表討議する 英文購読の場合あり。 非英語圏の留学生の場合は，日本語による授業			
■学修目標			
東南アジアと地域研究についての知見をえられる			
■授業計画			
第1回　ガイダンス 第2～15回　文献を読み，分析しつつ，発表をする。			
■教科書			
授業で適宜指示			
■参考書			
授業で適宜指示			
■成績の評価基準			
日常の発表と討論を評価する。			
■オフィスアワー			
火曜３限目			
■受講要件			
東南アジアや地域研究の方法について興味をもつもの			
■備考			
特になし			

■科目名			
心理統計法特論			
■英語名			
Statistical Method in Psychology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
富原一哉	099-285-7536	tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

現代心理学では、データの分析においても、論文の講読においても、統計法の知識を欠かすことはできない。本講義では、心理学統計法の修得ため、各統計手法の理論的解説のみではなく、実際のデータ処理のトレーニングにも比重を置く。また、多変量解析など、複雑に関連する複数の要因についての解析手法を中心に取り上げるため、履修学生はその前段階である心理統計の基礎についてすでに理解していることが望まれる。

■学修目標

（１）現在心理学研究における主な統計手法に関して理解する。
（２）心理学研究のための統計手法を適切に運用する能力を身につける。

■授業計画

第１回　　記述統計と推測統計（対面型）
第２回　　多要因の分散分析と共分散分析1（対面型）
第３回　　多要因の分散分析と共分散分析2（対面型）
第４回　　多変量解析の概要（対面型）
第５回　　重回帰分析１（対面型）
第６回　　重回帰分析２（対面型）
第７回　　主成分分析（対面型）
第８回　　因子分析1（対面型）
第９回　　因子分析2（対面型）
第１０回　クラスター分析（対面型）
第１１回　判別分析（対面型）
第１２回　正準相関分析（対面型）
第１３回　効果量と検出力（対面型）
第１４回　ベイズ統計学（対面型）
第１５回　まとめ（対面型）

授業は情報端末室にて対面型で実施する。

■教科書

森・吉田編著　『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』　1990　北大路書房
小塩著　『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 第３版』　2018　東京図書

■参考書

適宜紹介する。

■成績の評価基準

毎週の課題（小テスト）により評価する（100%）。

■オフィスアワー

月曜２限（研究室）。　ただし、事前にメールにて連絡のこと。

■受講要件

心理統計法の基礎知識を有することが望ましい。

■備考

なし

■科目名			
考古学地域特論			
■英語名			
Regional Archaeology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中村直子	099-285-7270	k8315479@kadai.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

須恵器は、４世紀終わりに日本列島ではじめて開始された本格的窯業技術である。古墳時代には、各地首長の古墳祭祀の道具として急速に全国に普及し、古代には役所や寺院での祭祀具や給食食器、貯蔵具として主に使用された。南九州での須恵器生産の開始は、８世紀後半になるが、これは南九州への律令体制の波及と連動し、須恵器の普及と須恵器生産の開始は、古墳時代の南九州の社会的状況が反映されている。

本授業では、南九州の須恵器の普及と須恵器生産遺跡から、南九州での初期的窯業生産の状況を解説する。

■学修目標

（１）須恵器の製作技術や土器との違いについて説明できる。
（２）須恵器の種類と変遷について説明できる。
（３）南九州の古墳時代の須恵器の出土状況について説明できる。
（４）南九州における須恵器生産遺跡について説明できる。
（５）南九州・南西諸島における古代須恵器の分布状況について説明できる。

■授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：古墳時代・古代の時期区分と地域区分
第３回：須恵器と土器の製作技術
第４回：須恵器の形式
第５回：須恵器の編年
第６回：古墳時代の須恵器生産
第７回：南九州古墳時代の須恵器の出土状況
第８回：九州における須恵器生産の状況
第９回：九州における須恵器生産の事例　牛頸窯跡
第10回：南九州の須恵器窯跡　鶴峯窯跡
第11回：南九州の須恵器窯跡　岡野窯跡
第12回：南九州の須恵器窯跡　中岳山麓窯跡群
第13回：南九州から南西諸島の古代須恵器の分布状況
第14回：南九州における古代社会と須恵器生産
第15回：南九州における須恵器生産の様相
期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

担当教員が適宜指示する。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（40%）,レポート（60%）

■オフィスアワー

■受講要件

担当教員の指示にしたがって、授業資料や参考文献等を読み、授業内容について理解を深めること。

■備考

特になし

■科目名			
宗教学特論			
■英語名			
Religions			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
兼城糸絵	099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
本講義では、宗教をテーマとした民族誌の輪読を通じて、宗教人類学の基礎知識を身につけることを目標とする。受講生は教員が指定する本を精読し、自身のフィールドワーク経験を踏まえて発表・議論を行う。			
■学修目標			
・宗教人類学の理論について理解を深める。 ・フィールドワークで得られたデータを文章化するプロセスを理解し、「文化を書く」という行為が持つ意味について考える。			
■授業計画			
第１回：オリエンテーション 第２回：論文の書き方・レジュメの作り方について 第３回：課題図書に関するレクチャー、分担決め 第４回：　発表と議論１ 第５回：発表と議論２ 第６回：発表と議論３ 第７回：発表と議論４ 第８回：発表と議論５ 第９回：発表と議論６ 第１０回：発表と議論７ 第１１回：発表と議論８ 第１２回：発表と議論９ 第１３回：発表と議論１０ 第１４回：発表と議論１１ 第１５回：本講義のまとめ ※本講義では教員による講義も行うが、基本的に演習形式で進めていく。なお、受講生の研究テーマや関心を考慮して、テーマ・内容を変更することもある。 ※本講義は基本的に対面形式で行うが、状況に応じて遠隔形式にすることもある。			
■教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる			
■参考書			
講義中に適宜提示する。			
■成績の評価基準			
発表・議論への参加度で評価する（100%）			
■オフィスアワー			
水曜日昼休み（12時-13時）			
■受講要件			
宗教人類学に関心がある者であれば、専門分野は問わない。			
■備考			
特になし			

■科目名			
臨床心理援助特論演習			
■英語名			
Clinical Psychology(seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
飯田昌子	099-285-8884	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

近年子ども虐待や不登校児、高齢者や精神障害者、末期がん患者等への対応として、心理社会的支援を含んだ「ケア」の方向性へと視野を拡げている。本授業の目的は，この「心理的ケア」において、臨床心理学が果たすべき役割について理解を深めることである。授業内容は，心理臨床に関する国内外の文献講読についてグループディスカッションを行う。

■学修目標

（１）臨床心理士の協働作業とはなにかについて理解する
（２）臨床心理士に求められる資質について事例研究から理解する

■授業計画

※本授業は，毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお，授業形態については，種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は，予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回　ガイダンス
第2回　医療のなかの心理臨床について
第3回　発表と討論1：不登校現象とはなにか
第4回　発表と討論2：不登校児及び家族への心理的援助
第5回　発表と討論3：子ども虐待について
第6回　発表と討論4：虐待を受けた子どもの心理
第7回　発表と討論5：虐待を受けた子どもへの心理的援助
第8回　発表と討論6：高齢者の心理
第9回　発表と討論7：地域で取り組む高齢者への心理的援助
第10回　発表と討論8：福祉施設従事者の心理
第11回　発表と討論9：ターミナルケア
第12回　発表と討論10：ターミナル期の患者への心理的援助
第13回　発表と討論11：自殺
第14回　発表と討論12：自殺予防対策に心理士が果たすべき役割
第15回　総括

期末試験は行わず，指定期日までにレポート等の提出を求める

■教科書

本授業では特に指定せず，必要に応じて参考書を用いる

■参考書

田嶌誠一『臨床心理行為:心理臨床家でないとできないこと』創元社　2003年

■成績の評価基準

レポート（70%）及びプレゼンテーション力（30%）により，総合的に評価する

■オフィスアワー

月曜４限。研究室。ただし事前に連絡すること。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
臨床心理援助特論			
■英語名			
Clinical Psychology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
飯田昌子	099-285-8884	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

人間のコミュニケーションは複雑な過程であるが、心理療法においては、そうしたコミュニケーション過程の複雑さとどのように関わるかがもっとも重要な問題である。
本授業の目的は，精神療法における治療構造と人間観について取り上げ、精神療法におけるさまざまな理論への理解を深め、「人間をいかに捉えるか」について議論を行うことである。
授業内容は，毎回担当者が分担箇所を発表し、それをもとに全体で討論を行なうこととする。

■学修目標

（１）精神療法における様々な治療構造を理解する
（２）臨床心理学の研究について理解を深める

■授業計画

※本授業は，毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお，授業形態については，種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は，予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回：ガイダンス
第2回：精神療法の構造について（１）；精神分析的アプローチ
第3回：精神療法の構造について（２）；認知行動療法
第4回：精神療法の構造について（３）；思春期心理臨床
第5回：児童・思春期における諸問題（１）；分離不安
第6回：児童・思春期における諸問題（２）；不登校問題
第7回：児童・思春期における諸問題（３）；児童虐待
第8回：マーラーの分離個体化とボーダーライン（１）；正常な自閉期
第9回：マーラーの分離個体化とボーダーライン（２）；正常な共生期
第10回：マーラーの分離個体化とボーダーライン（３）；分離-個体化期
第11回：臨床心理学的アセスメント（１）；面接
第12回：臨床心理学的アセスメント（２）；観察
第13回：解釈の実際について（１）；逆転移
第14回：解釈の実際について（２）；抵抗
第15回：総括

期末試験は行わず，指定期日までにレポート等の提出を求める。

■教科書

本授業では特に指定せず，必要に応じて参考書を用いる

■参考書

田嶌誠一『現実に介入しつつ心に関わる[展開編]-多面的援助アプローチの実際』金剛出版
2016年

■成績の評価基準

毎回のレポート（70%）と期末レポート（30%）、授業への取り組み態度などを総合的に評価する

■オフィスアワー

月曜４限。研究室。ただし事前に連絡すること。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
宗教学特論演習			
■英語名			
Religions (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
兼城糸絵	099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
修士論文のブラッシュアップセミナー。受講者がそれぞれの研究についてプレゼンテーションを行い、それに対して参加者全員で批判的検討を行う。			
■学修目標			
修士論文作成に必要な技術を習得することができる。			
■授業計画			
第1回：オリエンテーション 第２回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第1クルーその1） 第３回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第1クルーその2） 第４回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第1クルーその3） 第５回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第2クルーその1） 第６回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第2クルーその2） 第７回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第2クルーその3） 第８回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第3クルーその1） 第９回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第3クルーその2） 第１０回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第3クルーその3） 第１１回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第4クルーその1） 第１２回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第4クルーその2） 第１３回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（第4クルーその3） 第１４回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（来年度へ向けた準備作業等） 第１５回　修士論文作成に関わる個別的な質疑応答（長期休暇中の研究計画の確認） ※基本的に遠隔形式（オンライン型）で行う			
■教科書			
本授業では指定せず、必要に応じて参考書を用いる			
■参考書			
適宜指示する			
■成績の評価基準			
出席と報告内容、議論への参加度など総合的に評価する（100%）。			
■オフィスアワー			
随時（事前にアポイントをとること）			
■受講要件			
文化人類学お・宗教文化論および隣接分野にて論文を執筆する予定の者が望ましい。			
■備考			
特になし			

■科目名			
社会言語特論演習			
■英語名			
Sociolinguistics (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
太田一郎	099-285-7566	iota@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

最近の言語と社会や文化の関係についての研究から，言語現象の分析のための視点を養うことを目指す。今学期は，ことばのバリエーションの捉え方を，「新敬語 マジヤバイっす」（中村桃子著，白澤社）の購読を通して，ことばとアイデンティティおよびメディアとことば関連の問題を考える。授業は文献の講読，受講生の報告などをもとに進める。

■学修目標

1．社会言語学の専門的知識にもとづき，ことばと社会の問題を自ら発見・分析することができる
2．言語,社会,文化の様々な現象を関連付けて捉えることができる

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定であるが，海外からの留学生の来日状況に応じて遠隔授業とすることもある。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回 ガイダンス(授業概要,成績評価,レポート提出方法の説明など)
第2回 「ス体」ということば使い1：その形成過程
第3回 「ス体」ということば使い2：ス体の社会的意味とイデオロギー
第4回 男子大学生の「ス」の使い方1：量的分析結果
第5回 男子大学生の「ス」の使い方2：質的分析結果
第6回 メディアのことば1：ことばの越境（language crossing）
第7回 メディアのことば2：ことばの本物性（autheticity）
第8回 メディアのことば3：mediation と mediatization
第9回 ウェブサイトにおける「ス」1：「ス」の評価
第10回 ウェブサイトにおける「ス」2：レスに見る「ス」の違い
第11回 テレビCMの男性の「ス」体1：「軽さ」と男性性
第12回 テレビCMの男性の「ス」体2：「ス」の勢い
第13回 テレビCMの女性の「ス」体1：実際の女性の「ス」体
第14回 テレビCMの女性の「ス」体2：新しい女性性の表出
第15回 まとめ
（内容や順序は変更することもある）

■教科書

中村桃子著『新敬語 マジヤバイっす』（白澤社）

■参考書

授業中に紹介する

■成績の評価基準

議論への参加など 50%
学期末レポート 50%

■オフィスアワー

月曜5限（研究室）

■受講要件

言語学に関心のある人

■備考

特になし

■科目名			
島嶼学概論I			
■英語名			
Island Studies I			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
髙宮広土・山本宗立	099-285-7391	sotayama@cpi.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

東南アジア島嶼部を含む南太平洋多島域は、文化的・自然的に連なるスペクトラムである。この多島域は大小様々な島々からなり、自然環境は変化に富み、人々の生活ぶりはその自然および歴史に根ざした感化環境と深く結びついている。日本も太平洋に面し、多くの島々からなる島国で、南太平洋多島域と自然的・文化的に深く結びついている。鹿児島県は長崎県に次いで島の数が多く（605島）、南北600kmに28の有人島が広がる．離島面積と離島人口は全国第1位で、有数の離島県である。これらの離島は、温暖で豊かな自然環境、伝統文化、郷土料理など個性に満ちた島々である。島特有の課題も多い。これらの多島域を、植物と生活との関わりあいも含めて多面的に理解し、深い洞察力を養うことを目指している。

■学修目標

日本からアジア・太平洋に至る島々における人々の生活や社会、文化、植物とのかかわりあいについて考察し、島嶼域の特徴を理解する。

■授業計画

1．島嶼概説・オリエンテーション
2．日本とアジア・太平洋の島の植物１
3．日本とアジア・太平洋の島の植物２
4．日本とアジア・太平洋の島の植物３
5．日本とアジア・太平洋の島の植物４
6．日本とアジア・太平洋の先史時代における島嶼環境とヒト1
7．日本とアジア・太平洋の先史時代における島嶼環境とヒト２
8．日本とアジア・太平洋の先史時代における島嶼環境とヒト３
9．日本とアジア・太平洋の先史時代における島嶼環境とヒト４

10．三島村を多面的に捉える（硫黄島で講義）１
11．三島村を多面的に捉える（硫黄島で講義）２
12．三島村を多面的に捉える（硫黄島で講義）３
13．三島村を多面的に捉える（硫黄島で講義）４
14．三島村を多面的に捉える（硫黄島で講義）５
土日（7月7日～8日、予備日7月14日～15日）を使ってフェリーみしまで硫黄島に出かけて講義をおこなう．
産業･医療･教育・文化などについて島の状況の理解を深める．

15．　硫黄島に関する感想と総括

■教科書

必要に応じて指定する

■参考書

島の先史学―パラダイスではなかった沖縄諸島の先史時代―（高宮広土、ボーダーインク）
ミクロネシアを知るための58章（印東道子編著、明石書店）
栽培植物と農耕の起源（中尾佐助、岩波書店）

■成績の評価基準

講義内容に関係したレポートの提出を3回予定している。このレポートで成績の評価を行う。

■オフィスアワー

■受講要件

1/3以上の欠席は評価対象外とする。講義の一部を三島村硫黄島で実施し、講義への出席は必須とする。

■備考

特になし

■科目名			
ポピュラーカルチャー特論			
■英語名			
Popular Culture			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
太田純貴	099-285-7576	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

ポピュラーカルチャーを論じるための有益な視点・理論となる「メディア考古学」と呼ばれる、理論的アプローチについて講義を行う。また、それに関連・隣接する諸理論や概念についても学ぶ。

■学修目標

修士論文の作成を最終目的として見据え、それに必要な知識や視点を分野横断的に修得する。
アカデミックな文章で論理的な文章を作成できる。

■授業計画

第1回　ガイダンス　（課題提出型）
第2回　メディア考古学の背景　（課題提出型）
第3回　メディア考古学の展開　（リアルタイム型）
第4回　メディア考古学の問題意識　（リアルタイム型）
第5回　メディア考古学の射程　（リアルタイム型）
第6回　エルキ・フータモとメディア考古学　（リアルタイム型）
第7回　メディア考古学とクルティウスの文学理論　（リアルタイム型）
第8回　メディア考古学とトポス概念　（リアルタイム型）
第9回　メディア考古学と元型理論　（リアルタイム型）
第10回　メディア考古学とメディア論―マクルーハンの影響　（リアルタイム型）
第11回　メディア考古学とメディア論―ベンヤミンの影響　（リアルタイム型）
第12回　メディア考古学と視覚文化論―ヴァールブルクの影響　（リアルタイム型）
第13回　メディア考古学とメディアアート　（リアルタイム型）
第14回　メディア考古学とメディアアーティスト　（リアルタイム型）
第15回　総括　（リアルタイム型）

※リアルタイム型講義は、課題提出型・オンデマンド型、教室での通常講義に変更になる可能性がある。

■教科書

授業中に指示する

■参考書

授業中に指示する

■成績の評価基準

受講態度

■オフィスアワー

火曜2限

■受講要件

特になし

■備考

受講生と相談の上、適宜授業内容やテーマを変更することがある。

■科目名			
自然環境特論演習			
■英語名			
Physical Geography (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
吉田明弘	099-285-7543	akitan@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

受講生が外国文献の内容を紹介・発表し，それを基にして議論する。この演習では第四紀における自然環境を形成した気候変動に関する文献を中心にして演習を進める。また，必要に応じて野外観察を実施し，議論を行う。

■学修目標

この演習では外国文献を触れることで，研究に必要な文献調査や専門英語を習得すると共に，海外における最新の研究動向を把握することを目標とする。この演習を通して，第四紀の自然環境，とくに古植生学・古気候学について幅広い知識を身につけると共に，研究上の様々な問題点を議論することで，学位論文の執筆に必要な研究能力を養う。

■授業計画

第１回：ガイダンスと発表順の決定
第２回：受講生の発表と討論１（Paleoclimatology and modern challenges11）
第３回：受講生の発表と討論２（Paleoclimatology and modern challenges 2）
第４回：受講生の発表と討論３（Paleoclimatology and modern challenges 3）
第５回：受講生の発表と討論４（Methods in Paleoclimatology 1）
第６回：受講生の発表と討論５（Methods in Paleoclimatology 2）
第７回：受講生の発表と討論６（Deep time: climate from 3.8 billion to 65 million years ago 1）
第８回：受講生の発表と討論７（Deep time: climate from 3.8 billion to 65 million years ago 2）
第９回：受講生の発表と討論８（Cenozonic climate 1）
第10回：受講生の発表と討論９（Cenozonic climate 2）
第11回：受講生の発表と討論10（Orbital climate 1）
第12回：受講生の発表と討論11（Orbital climate 2）
第13回：受講生の発表と討論12（Glacial millennial climate 1）
第14回：受講生の発表と討論13（Glacial millennial climate 2）
第15回：まとめ
※授業内容は受講生の関心に応じて適宜変更する可能性がある。

■教科書

Cronin T. M.,2009, Paleoclimates -undersatanding climate change past and present-. Columbia University Press.

■参考書

適宜，授業中に紹介する。

■成績の評価基準

成績評価は，授業へ取り組む姿勢，発表と討論を総合的に評価する。

■オフィスアワー

随時

■受講要件

特になし

■備考

前期の自然環境特論も合わせて履修することが望ましい。

■科目名			
自然環境特論演習			
■英語名			
Physical Geography (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
吉田明弘	099-285-7543	akitan@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

受講生が外国文献の内容を紹介・発表し，それを基にして議論する。この演習では第四紀における自然環境を形成した気候変動に関する文献を中心にして演習を進める。また，必要に応じて野外観察を実施し，議論を行う。

■学修目標

この演習では外国文献を触れることで，研究に必要な文献調査や専門英語を習得すると共に，海外における最新の研究動向を把握することを目標とする。この演習を通して，第四紀の自然環境，とくに古植生学・古気候学について幅広い知識を身につけると共に，研究上の様々な問題点を議論することで，学位論文の執筆に必要な研究能力を養う。

■授業計画

第１回：ガイダンスと発表順の決定
第２回：受講生の発表と討論１（Paleoclimatology and modern challenges 1）
第３回：受講生の発表と討論２（Paleoclimatology and modern challenges 2）
第４回：受講生の発表と討論３（Paleoclimatology and modern challenges 3）
第５回：受講生の発表と討論４（Methods in Paleoclimatology 1）
第６回：受講生の発表と討論５（Methods in Paleoclimatology 2）
第７回：受講生の発表と討論６（Deep time: climate from 3.8 billion to 65 million years ago 1）
第８回：受講生の発表と討論７（Deep time: climate from 3.8 billion to 65 million years ago 2）
第９回：受講生の発表と討論８（Cenozonic climate 1）
第10回：受講生の発表と討論９（Cenozonic climate 2）
第11回：受講生の発表と討論10（Orbital climate 1）
第12回：受講生の発表と討論11（Orbital climate 2）
第13回：受講生の発表と討論12（Glacial millennial climate 1）
第14回：受講生の発表と討論13（Glacial millennial climate 2）
第15回：まとめ
※授業内容は受講生の関心に応じて適宜変更する可能性がある。

■教科書

Cronin T. M.,2009, Paleoclimates -undersatanding climate change past and present-. Columbia University Press.

■参考書

適宜，授業中に紹介する。

■成績の評価基準

成績評価は，授業へ取り組む姿勢，授業中の発表と討論を総合的に評価する。

■オフィスアワー

随時

■受講要件

特になし

■備考

前期の自然環境特論も合わせて履修することが望ましい。

■科目名			
自然環境特論			
■英語名			
Physical Geography			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
吉田明弘	099-285-7543	akitan@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
日本列島，九州における地形環境の長期的変化（百年，千年，万年オーダー）にかかわる諸問題について講義を行う。とくに，この講義では地形形成の過程を時空間的な視点で捉えられるとともに，他地域との比較から地形形成や地質構造の地域性や共通性について解説を行う。なお，この講義では，適宜野外観察を行う。			
■学修目標			
九州の地形環境は，内作用・外作用の様々な地形営力によって形成されてきた。これら地形は百年，千年，万年の時間オーダーで変化し，形成されてきた。さらに，南九州だけでなく，隣接する他地域の地形形成にも影響を及ぼしてきた。そこで，本講義では日本列島，九州の地形を中心として，その長期的な変化を時空間的な視点で捉えられる能力を身に着ける。さらに，これらの事例研究を通し，日本列島の各地域における地形変化と関連させながら，地域性と共通性を読み解く応用的な能力を養う。			
■授業計画			
第１回：日本列島における自然環境の骨格 第２回：日本列島の誕生と地質構造 第３回：九州の地質構造と大地形 1（プレートテクトニクス） 第４回：九州の地質構造と大地形 2（付加帯堆積物） 第５回：九州の地質構造と大地形 3（火山フロントと構造線） 第６回：北部九州の中～小地形 1（地塊） 第７回：北部九州の中～小地形 2（石炭） 第８回：北部九州の中～小地形 3（博多湾の発達史） 第８回：中部九州の中～小地形 1（地溝帯の火山群） 第９回：中部九州の中～小地形 2（阿蘇山の火砕流台地） 第10回：中部九州の中～小地形 3（筑紫平野と有明海） 第11回：南部九州の中～小地形 1（鹿児島地溝帯） 第13回：南部九州の中～小地形 2（シラス台地） 第14回：南部九州の中～小地形 3（宮崎平野） 第15回：授業の総括 ※授業内容は受講生の関心に応じて適宜変更する可能性がある。			
■教科書			
受講生と相談の上で決定し，適宜プリントを配布する。			
■参考書			
適宜，授業中に紹介する			
■成績の評価基準			
授業への取り組む姿勢（30%）と期末レポート70%を総合的に評価する。			
■オフィスアワー			
随時			
■受講要件			
特になし			
■備考			
特になし			

■科目名			
ポピュラーカルチャー特論演習			
■英語名			
Popular Culture (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
太田純貴	099-285-7576	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

ポピュラーカルチャーに関わる個別的事象を論じるだけでなく、そうした事象を論じるためのさまざまな理論的アプローチについても取り上げる。また、そうした理論的アプローチ自体についても批判的に検証する。以上の内容に関しては、文献の精読と受講生の発表・議論をメインとして行なう。場合によれば、外国語文献（特に英語）を選択し、精読を行なう。

■学修目標

修士論文の作成を最終目的として見据え、それに必要な知識や議論を展開するための論理構造を、文献の精読を通して涵養する。

■授業計画

第1回　ガイダンス（課題提出型）
第2回　文献講読・発表・議論―先行研究／研究者の整理（課題提出型）
第3回　文献講読・発表・議論―先行研究の傾向の把握（課題提出型）
第4回　文献講読・発表・議論―先行研究で問題とされてきたポイントの整理（オンライン型）
第5回　文献講読・発表・議論―先行研究自体の問題点の抉り出し（オンライン型）
第6回　文献講読・発表・議論―先行研究の射程の見極め（オンライン型）
第7回　文献講読・発表・議論―先行研究批判のための方法論の整理（課題提出型）
第8回　文献講読・発表・議論―先行研究の批判（オンライン型）
第9回　文献講読・発表・議論―先行研究の乗り越え（オンライン型）
第10回　文献講読・発表・議論―先行研究に対する自身の考察の構築（オンライン型）
第11回　文献講読・発表・議論―自身の考察に導入した批判的視点の解説（課題提出型）
第12回　文献講読・発表・議論―自身の考察に用いた方法論の解説（オンライン型）
第13回　文献講読・発表・議論―自身の考察の射程についての見極め（課題提出型）
第14回　質疑応答（オンライン型）
第15回　総括　（課題提出型）

※リアルタイム型講義は、課題提出型・オンデマンド型、教室での通常講義に変更になる可能性がある。

■教科書

授業中に指示する

■参考書

授業中に指示する

■成績の評価基準

受講態度

■オフィスアワー

火曜2限

■受講要件

特になし

■備考

受講生と相談の上、適宜授業内容やテーマを変更することがある。

■科目名			
自然環境特論			
■英語名			
Physical Geography			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
吉田明弘	099-285-7543	akitan@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

第四紀学を中心とした自然環境の長期的変化（百年，千年，万年オーダー）にかかわる諸問題について自然地理学的な視点から講義を行う。これらの問題の解明には，過去の自然環境を知るための手掛かりが必要であり，そのために自然科学的な手法（編年学，古環境学など）が必要である。この講義では，これらの手法について解説を行う。適宜，野外観察を行う。

■学修目標

本講義では，第四紀における基礎知識を身に着ける。この中では，第四紀の自然環境を読み解ために必要である古気候学，年代学，古生物学などの自然科学的な原理や方法の習得を目指す。この習得を通して，自然環境の相互作用を理解する土台を形成すると共に，学位論文の執筆に必要な知識や研究能力を獲得することを目標とする。

■授業計画

第１回：第四紀の気候変動１（氷期の発見）
第２回：第四紀の気候変動２（氷河・氷床地形と氷期－間氷期サイクル）
第３回：第四紀の気候変動３（氷床コアと海洋コアによる酸素同位体比の変動）
第４回：第四紀の気候変動４（ミランコビッチ・サイクル）
第５回：第四紀の気候変動５（日本列島における気候変動）
第６回：第四紀の年代学１（年輪年代学の基礎）
第７回：第四紀の年代学２（年輪年代法による年代決定）
第８回：第四紀の年代学３（火山灰編年の基礎）
第９回：第四紀の年代学４（環境変動の編年に有効な火山灰）
第10回：第四紀の年代学５（火山灰同定法）
第11回：第四紀の年代学６（放射性炭素年代測定の原理）
第12回：第四紀の年代学７（較正曲線と較正年代）
第13回：第四紀の日本列島における環境変動１（植生復元の原理と基礎）
第14回：第四紀の日本列島における環境変動２（花粉分析法）
第15回：第四紀の日本列島における環境変動３（木材化石の分析方法）
※授業内容は受講生の関心に応じて適宜変更する可能性がある。

■教科書

受講生と相談の上で決定し，適宜プリントを配布する。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

授業への取り組む姿勢（30%）と期末レポート（70%）を総合的に評価する。

■オフィスアワー

随時

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
ポピュラーカルチャー特論演習			
■英語名			
Popular Culture (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
太田純貴	099-285-7576	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

ポピュラーカルチャーに関わる個別的事象を論じるだけでなく、そうした事象を論じるためのさまざまな理論的アプローチについても取り上げる。また、そうした理論的アプローチ自体についても批判的に検証する。以上の内容に関しては、文献の精読と受講生の発表・議論をメインとして行なう。場合によれば、外国語文献（特に英語）を選択し、精読を行なう。

■学修目標

修士論文の作成を最終目的として見据え、それに必要な知識や議論を展開するための論理構造を、文献の精読を通して涵養する。

■授業計画

第1回　ガイダンス（リアルタイム型）
第2回　文献講読・発表・議論―先行研究／研究者の整理（リアルタイム型）
第3回　文献講読・発表・議論―先行研究の傾向の把握（リアルタイム型）
第4回　文献講読・発表・議論―先行研究で問題とされてきたポイントの整理（リアルタイム型）
第5回　文献講読・発表・議論―先行研究自体の問題点の抉り出し（リアルタイム型）
第6回　文献講読・発表・議論―先行研究の射程の見極め（リアルタイム型）
第7回　文献講読・発表・議論―先行研究批判のための方法論の整理（リアルタイム型）
第8回　文献講読・発表・議論―先行研究の批判（リアルタイム型）
第9回　文献講読・発表・議論―先行研究の乗り越え（リアルタイム型）
第10回　文献講読・発表・議論―先行研究に対する自身の考察の構築（リアルタイム型）
第11回　文献講読・発表・議論―自身の考察に導入した批判的視点の解説（リアルタイム型）
第12回　文献講読・発表・議論―自身の考察に用いた方法論の解説（リアルタイム型）
第13回　文献講読・発表・議論―自身の考察の射程についての見極め（リアルタイム型）
第14回　質疑応答（リアルタイム型）
第15回　総括　（リアルタイム型）

※リアルタイム型講義は、課題提出型・オンデマンド型、教室での通常講義に変更になる可能性がある。

■教科書

授業中に指示する

■参考書

授業中に指示する

■成績の評価基準

受講態度

■オフィスアワー

火曜2限

■受講要件

特になし

■備考

受講生と相談の上、適宜授業内容やテーマを変更することがある。

■科目名			
認知心理学特論演習			
■英語名			
Cognitive Psychology (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
横山春彦	099-285-7535	yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

本授業は毎回対面で行う予定であるが、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は予めmanabaのコースニュースや授業内で通知する。また、予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）、復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）を行うことが必修となる。

本授業では、興味ある先行研究の要約と紹介、修士論文における問題と目的の検討、修士論文の研究方法についての検討（実験ならデザイン、課題・装置、被験者等をどうするか。調査ならデザイン、質問紙、調査者等をどうするか等）、実施に向けての準備について（必要に応じの検討（て予備実験・予備調査等も行う場合がある）及び、レジュメの作成とその修正等を行う。

■学修目標

学修目標は以下の2点である。

1. 興味ある先行研究を適切に要約でき、かつ文書化できるとともに口頭でプレゼンテーションできる。
2. 研究問題や目的、また研究に必要な装置や設定について具体的にプレゼンテーションできる

■授業計画

本授業は毎回対面で行う予定であるが、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は予めmanabaのコースニュースや授業内で通知する。また、予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約2時間）、復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は2時間）を行うことが必修となる。

第１回　オリエンテーション（今後の学修計画について）
第２回　興味ある先行研究の要約と紹介（1）
第３回　興味ある先行研究の要約と紹介（2）
第４回　興味ある先行研究の要約と紹介（3）
第５回　修士論文の問題と目的の検討
第６回　修士論文の問題と目的の再検討
第７回　修士論文の問題と目的の再々検討3
第８回　修士論文の問題と目的の確定
第９回　修士論文の研究方法の検討
第10回　修士論文の研究方法の再検討
第11回　修士論文に研究方法の確定
第12回　修士論文に関するレジュメの作成
第13回　修士論文に関するレジュメの作成と修正
第14回　修士論文計画の発表準備（1）
第15回　修士論文計画の発表準備（2）
第16回　期末試験（期日までにレポートを作成し提出する形式で行う）

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて以下の参考書を用いる。

■参考書

高野陽太郎・岡隆編　心理学研究法　有斐閣　2017

■成績の評価基準

期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。なお、成績評価については、manabaによる毎週の予

習・復習など行うべき課題の取り組み状況（20%）、ショートレポートに対する評価（20%）及び、期末レポートの成績（60%）によって評価する。

■オフィスアワー

毎週水曜日午前8：30～10：30。なお、manabaでの投稿等は随時受けつける

■受講要件

人間環境文化論専攻に所属する院生のうち、認知心理学研究室にて修士論文の作成を行う院生に限る。予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（約2時間）、復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（約2時間）を必要とする。

■備考

授業毎に予習（約2時間）・復習（約2時間）を要する。

■科目名			
神経科学特論演習			
■英語名			
Neuroscience (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
菅野康太	099-285-7624	canno@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

脳と心に関わる行動神経科学分野、生物学分野の英文論文を精読し、実験手法レベルまでの理解を目指す。精読した文献について参加者全員での議論も行う。さらに、受講者自身による新たな仮説の構築や研究計画の立案も行う。最終的な目標は、この分野の研究計画、実験の実施およびデータ解析を、自身で遂行するための実践的な能力を得ることである。

■学修目標

（1）行動神経科学分野の英文原著論文を独力で理解できるようになる。
（2）行動神経科学分野の基本的な背景知識を習得し、自ら研究を行う基礎力を得る。
（3）自ら行動神経科学の実験研究を立案・実施出来るようになる。

■授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　発表と討論1
第3回　発表と討論2
第4回　発表と討論3
第5回　発表と討論4
第6回　発表と討論5
第7回　実験計画案の議論1
第8回　　実験計画案の議論2
第9回　実験計画案の議論3
第10回　実験計画の実践1
第11回　実験計画の実践2
第12回　実験計画の実践3
第13回　実験データに対する議論1
第14回　実験データに対する議論2
第15回　まとめ

■教科書

特になし。適宜資料を配布する。

■参考書

特になし。

■成績の評価基準

質疑から見られる内容の理解度（50%）と発表や議論の内容（50%）。

■オフィスアワー

木曜4限

■受講要件

特になし

■備考

授業外学習として、1回あたり4時間程度が想定される。

■科目名			
産業・組織心理学特論演習			
■英語名			
Industrial & Organizational Psychology (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
榊原良太	099-258-7519	sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

産業・組織心理学について、現在の研究動向や実社会の問題を踏まえた上で、研究テーマを選択し、国内外の論文や統計データなどを参照しながら、実際の実験・調査を進めていく。研究で得たデータをもとに、論文の執筆や発表の準備を進めていく。

■学修目標

(1)産業・組織心理学の知見に基づき、実社会の問題を的確に捉えることができる
(2)問題の把捉・改善へ向けた適切な調査計画を立てることができる
(3)調査結果に基づき、問題改善の方策を論文の形でまとめることができる

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　オリエンテーション（講義の進め方）
第２回　実社会の問題を探る(1)（文献調査）
第３回　実社会の問題を探る(2)（さまざまな指標を調べる）
第４回　実社会の問題を探る(3)（調査の対象・目的を決める）
第５回　調査研究(1)（調査計画を立てる）
第６回　調査研究(2)（調査に使用する変数を決める）
第７回　調査研究(3)（分析の方針を定める）
第８回　調査研究(4)（調査データの分析）
第９回　調査研究(5)（データの考察）
第１０回　論文作成(1)（問題・目的）
第１１回　論文作成(2)（方法）
第１２回　論文作成(3)（結果）
第１３回　論文作成(4)（考察）
第１４回　成果報告
第１５回　まとめ

予習：manabaに掲載された授業資料を事前に予習する（学習に関わる標準的時間は約 2 時間）
復習：授業で提示された学習内容を振り返り、学習内容の復習を行う（標準的時間は 2 時間）

■教科書

特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

金井 篤子 『産業・組織心理学を学ぶ: 心理職のためのエッセンシャルズ』、北大路書房、2019年

■成績の評価基準

講義への取り組み(50%)と最終的なレポート・報告書(50%)によって評価する。対面・リモートの違いによる評価基準は変更はない。

■オフィスアワー

金曜４限

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
消費者心理学特論演習			
■英語名			
Consumer Psychology (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
山﨑真理子	099-285-7631	yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
心理学研究の実施手順を確認しながら、各段階で必要となるスキルの向上を目指す。			
■学修目標			
特論演習では、修士論文執筆に向けて必要となる総合的なスキルの向上を目指す。			
■授業計画			

本講義は毎回、対面形式で行う予定。
ただし講義形式は、状況により変更する可能性がある。
今後の情報は、基本的にmanaba上で更新。コースニュースやコンテンツ欄を確認。

注：■＝科目担当者回、□＝受講者担当回

■第 1回：オリエンテーション、今後の進め方について相談
■第 2回：心理学研究とは（１）研究倫理について
■第 3回：心理学研究とは（２）研究報告について
□第 4回：研究の準備（１）課題設定と関連文献の整理
□第 5回：研究の準備（２）具体的な研究手順の検討
□第 6回：研究の準備（３）結果の予測、研究計画全体の見直し
□第 7回：研究の実施（１）データ収集
□第 8回：研究の実施（２）データ入力
□第 9回：研究の実施（３）データ分析
□第10回：研究の実施（４）データの解釈
□第11回：研究の報告（１）口頭発表の準備
□第12回：研究の報告（２）口頭発表の練習
□第13回：研究の報告（３）口頭発表の改善
□第14回：研究の報告（４）論文執筆の準備
□第15回：総括

■教科書

本講義では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

『心理学研究法　心を見つめる科学のまなざし』　高野陽太郎・岡隆（編）　（有斐閣アルマ）

■成績の評価基準

講義中課題100%（期末試験0%）
講義中のプレゼン、ディスカッションの他、レポートなど提出物を評価対象とする。

■オフィスアワー

水曜２限。
メールでのやり取りがスムーズです。

■受講要件

特に、以下の関連科目の履修が望ましい。
「心理学研究法特論」「心理統計法特論」他、心理学関連科目。

■備考

特になし

■科目名			
生涯発達心理学特論演習			
■英語名			
Life-span Developmental Psychology (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
安部幸志	099-285-7621	kojiabe@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

生涯発達心理学の中でも、老年期に関する最新の論文を紹介する授業である。履修者は自分で論文をまとめた上でレジメを作成し、発表することが求められる。基本的には英語の論文のみ、ここ10年以内に発表された論文の中から選択して発表し、批判的検討の後、各自の研究に知見を活用することを目指す。

■学修目標

（1）生涯発達心理学の最新の研究手法を理解し、活用することが出来る。
（2）自らの研究計画と照らし合わせた問題設定と解決能力を身に付けることが出来る。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。
なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更すする際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回　オリエンテーション
第2回　研究論文の検索方法について
第3回　研究論文を読む際の注意点について
第4回　老年期に関する論文発表
第5回　老年期に関する論文データの批判的検討
第6回　老年期に関する論文データの分析手法
第7回　中間まとめ
第8回　老年期臨床に関する論文発表
第9回　老年期臨床に関する論文データの批判的検討
第10回　老年期臨床に関する論文データの分析手法
第11回　新たな調査計画と分析方略の立案
第12回　予備調査データの分析
第13回　予備調査データの分析結果の批判的検討
第14回　本調査に向けた計画立案
第15回　まとめ

■教科書

なし

■参考書

授業時に適宜指示する

■成績の評価基準

授業における貢献度：40%
最終レポートまたは調査計画：60%

■オフィスアワー

■受講要件

特になし

■備考

かなり多くの英語論文を読むため、十分な英語能力が必要である。また、調査計画を立案するための統計学的知識が必要である。

■科目名			
コミュニティ援助特論演習			
■英語名			
Community Psychology (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
平田祐太朗	099-285-7525（法文学部学生係）	hirata@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

現代社会においてはコミュニティをめぐる心理社会的問題が存在する。このような課題に対して，主に臨床心理学的地域援助の視点から課題の設定を行い，それに対するアプローチ，また研究方法について実際の調査や実践を通して明らかにする。

■学修目標

個人やコミュニティとその中で生じる心理社会的課題に関する理解を深め，多面的な視点から援助について考察することができる。修士論文作成のために必要な知識や視点を得ることを目指す。

■授業計画

本授業は対面形式で行う予定である。なお，授業形態については，種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

1.ガイダンス
2.文献購読?：リサーチクエスチョンの設定
3.文献購読?：リサーチクエスチョンと先行研究の比較
4.文献購読?：方法論
5.研究計画作成?：リサーチクエスチョンの臨床的意義の検討
6.研究計画作成?：リサーチクエスチョンの臨床実践への応用可能性の検討
7.研究計画作成?：事例研究法
8.研究計画作成?：面接調査法
9.研究計画作成?：実践型研究
10.研究計画作成?：データ収集
11.研究計画作成?：データ分析法
12.研究成果発表とディスカッション?：問い
13.研究成果発表とディスカッション?：方法・結果
14.研究成果発表とディスカッション?：考察
15.総括

■教科書

本授業では特に指定せずに，必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

その場で関わる心理臨床　田嶌誠一　遠見書房
質的研究の考え方　研究方法論からSCATによる分析まで　大谷尚　名古屋大学出版

■成績の評価基準

発表への取り組みやとグループでのディスカッションへの取り組み態度（40%），作成された研究計画や

■オフィスアワー

月曜1限。ただし，事前に連絡を行うこと。

■受講要件

特になし

■備考

使用するテキストは受講生の関心に合わせて追加・変更することがある。

■科目名			
多文化交流特論演習			
■英語名			
Multicultural Relations (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中島祥子	099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

異文化間コミュニケーション及び異文化間教育関係の基本図書や論文を批判的に読むことを目的とする。具体的なテーマに沿った文献から、研究方法やデータ収集方法を学ぶ。今年度は日本語の配慮表現を取り上げながら、異文化間に生じるコミュニケーション・ギャップなどを取り上げる。

■学修目標

１．異文化間コミュニケーション及び異文化間教育関係の基本図書や論文を批判的に読み、問題点を指摘することができる。
２．さまざまな調査方法を学び、具体的なテーマに沿ったデータ取集を選ぶことができる。
３．文献の要点を適切な表現で文章としてまとめ、さらに口頭で説明することができる。

■授業計画

今学期は、リアルタイム配信によるオンライン授業を基本とする。なお、状況により変更する可能性もある。

第１回：オリエンテーション（授業概要とスケジュールにについて。受講生の人数により変更の可能性あり）
第２回：基本図書の紹介と発表方法及び分担について
第３回：学生のよる発表（１）
第４回：学生のよる発表（２）
第５回：学生のよる発表（３）
第６回：学生のよる発表（４）
第７回：中間総括
第８回：学生のよる発表（５）
第９回：学生のよる発表（６）
第10回：学生のよる発表（７）
第11回：学生のよる発表（８）
第12回：論文講読（１）
第13回：論文講読（２）
第14回：論文講読（３）
第15回：まとめ

■教科書

本授業では特に教科書は指定しないが、参考書や論文などを適宜利用する。

■参考書

山岡政紀ほか（2011）『コミュニケーションと配慮表現』明治書院
山岡政紀編（2019）『日本語の配慮表現のげ3んりと諸相』くろしお出版　など

■成績の評価基準

(1) 授業への取り組み方（受講中の発言、振り返り、宿題などを含む）30%、（2）発表30%、（3）期末レポート40%で総合評価する。

■オフィスアワー

木曜日5限（研究室）。他の時間帯でも都合があえば適宜応じます。メールなどで連絡をとってください。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
物質文化特論			
■英語名			
Material Culture Studies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
渡辺芳郎	099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

近年の近世陶磁史の考古学的研究の成果について、鹿児島におけるそれを含みながら講義する。

■学修目標

(1)近世陶磁史の考古学的研究の成果を理解する。
(2)鹿児島における近世陶磁史の考古学的研究の成果を理解する。

■授業計画

(1)近世考古学史
(2)陶磁器と考古学（課題提供型）
(3)肥前陶磁器の研究成果?－陶器の始まり－
(4)肥前陶磁器の研究成果?－磁器生産の始まり－
(5)肥前陶磁器の研究成果?－海外輸出－
(6)福岡の陶磁器の研究成果
(7)山口の陶磁器の研究成果
(8)熊本の陶磁器の研究成果
(9)鹿児島の陶磁器の研究成果?－朝鮮系製陶技術の在地化－
(10)鹿児島の陶磁器の研究成果?－藩窯製品の展開－
(11)鹿児島の陶磁器の研究成果?－薩摩磁器の生産と流通－
(12)南西諸島における陶磁器流通
(13)沖縄の陶磁器の研究成果－薩摩焼の技術伝播－
(14)九州陶磁器技術の伝播
(15)まとめ
（対面授業を予定しているが、状況次第では遠隔授業）

■教科書

なし

■参考書

九州陶磁学会編2000『九州陶磁の編年』

■成績の評価基準

平常点（50%）・レポート（50%）

■オフィスアワー

月曜日３限目

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
物質文化特論演習			
■英語名			
Material Culture (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
渡辺芳郎	099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

学生が論文をひとつ選び，その内容をレジュメにまとめるとともに，論文の持つ問題点・疑問点を最低３点挙げ，議論する。

■学修目標

取り上げた論文の論理構造について批判的検討を加えることにより，自らの修士論文執筆にあたって必要な技術を身につけることができる。

■授業計画

(1)ガイダンス
(2)報告と討議1
(3)報告と討議2
(4)報告と討議3
(5)報告と討議4
(6)報告と討議5
(7)報告と討議6
(8)報告と討議7
(9)報告と討議8
(10)報告と討議9
(11)報告と討議10
(12)報告と討議11
(13)報告と討議12
(14)報告と討議13
(15)報告と討議14

■教科書

なし

■参考書

なし

■成績の評価基準

平常点（50%）、レポート（50%）

■オフィスアワー

月曜日３限目

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
書籍文化特論			
■英語名			
Book Culture			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
竹岡健一	099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

目的：本授業は、19世紀末以降、欧米の書籍文化において重要な役割を果たした廉価図書販売組織であるブッククラブについて理解を深めることを目的とする。
内容：19世紀末以降のドイツにおけるブッククラブの発展、ブッククラブの種類と特色、およびブッククラブと民族主義のかかわりについて詳しく考察する。
方法：講義形式で進め、毎回の授業でミニレポートを課す。受講者は、授業で学んだ事柄について、学期末にレポートを提出する。

■学修目標

１．ブッククラブの発展過程について説明できる。
２．ブッククラブの種類とその特色について説明できる。
３．ブッククラブと民族主義のかかわりを説明できる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回：オリエンテーション：授業の概要と学修目標の確認
第２回：ブッククラブの発展（１）　ワイマール共和国時代の隆昌
第３回：ブッククラブの発展（２）　ブッククラブと伝統的な書籍販売
第４回：ブッククラブの発展（３）　1960年代から1980年代の隆昌
第５回：ブッククラブの発展（４）　ベルテルスマン読書愛好会における二段階販売
第６回：ブッククラブの発展（５）　ベルテルスマン読書愛好会における経営の多角化
第７回：ブッククラブの発展（６）　公共圏の解体とブッククラブ
第８回：ブッククラブの発展（７）　ブッククラブと日本の出版文化
第９回：様々なブッククラブ（１）　市民的ブッククラブと特殊な読者を持つブッククラブ
第１０回：様々なブッククラブ（２）　宗教的ブッククラブと保守的・国家主義的ブッククラブ
第１１回：様々なブッククラブ（３）　左翼的労働者ブッククラブと書籍販売のブッククラブ
第１２回：ブッククラブと民族主義（１）　ドイツ家庭文庫の成立と発展
第１３回：ブッククラブと民族主義（２）　ドイツ家庭文庫における本の装飾的価値
第１４回：ブッククラブと民族主義（３）　ドイツ家庭文庫のナチス時代の活動
第１５回：授業のまとめとふりかえり：身についた事柄の確認
期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。

■教科書

・竹岡健一『ブッククラブと民族主義』（九州大学出版会、2017年）
・竹岡健一「＜公共圏の解体＞とブッククラブ」（日本独文学会『ドイツ文学』第160号、109～124頁、2020年）
・竹岡健一「ドイツのブッククラブと日本の出版文化」（「かいろす」の会『かいろす』第54号、19～38頁、2016年）

■参考書

・和田敦彦『読書の歴史を問う』（笠間書院、2014年）
・柴野京子『書物の環境論』（弘文堂、2012年）
・柴野京子『書棚と平台―出版流通というメディア』（弘文堂、2009年）

・HAB『本と流通』（エイチアンドエスカンパニー、2016年）
・永嶺重敏『雑誌と読者の近代』（日本エディタースクール出版部、1997年）

■成績の評価基準

授業中に課すミニレポートを60%、期末レポートを40%とする。

■オフィスアワー

月曜2限

■受講要件

なし。

■備考

なし。

■科目名			
書籍文化特論演習			
■英語名			
Book Culture (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
竹岡健一	099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

目的：本授業は、書籍文化に関する専門的な研究を行うための高度な能力を身につけることを目的とする。
内容：書籍の歴史に関する文献の批判的な講読と討論を行い、書籍文化を研究するための高度な視点や問題意識を学んだ上で、これを実践する。
方法：文献の講読と討論の後、授業で学んだ事柄を踏まえて、学習者自らが書籍文化に関するテーマについて調査を行い、レポートを作成する。

■学修目標

１．先行文献を批判的に読解し、それについて討論することができる。
２．書籍文化を研究するための視点や問題意識を説明できる。
３．書籍文化に関する調査とレポートの作成ができる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回：オリエンテーション：授業の概要と学修目標の確認
第２回：書籍文化に関する文献の講読と討論（１）　出版と書籍販売の歴史
第３回：書籍文化に関する文献の講読と討論（２）　再版制度と著作権
第４回：書籍文化に関する文献の講読と討論（３）　電子書籍とインターネット販売
第５回：書籍文化に関する文献の講読と討論（４）　図書館の役割とデジタルアーカイブ
第６回：書籍文化に関する文献の講読と討論（５）　古書店の役割と新古書店
第７回：書籍文化に関する文献の講読と討論（６）　書籍の装丁とパラテクスト
第８回：書籍文化に関する文献の講読と討論（７）　メディアミックスと小説投稿サイト
第９回：書籍文化に関する文献の講読と討論（８）　読書の大衆化と廉価版
第１０回：書籍文化に関する文献の講読と討論（９）　書籍販売の商業主義と公共性
第１１回：書籍文化に関する文献の講読と討論（１０）　書籍の検閲とビブリオコースト
第１２回：書籍文化に関する文献の講読と討論（１１）　戦争と読書のかかわり
第１３回：書籍文化に関する文献の講読と討論（１２）　読書の場と読書教育
第１４回：書籍文化に関する文献の講読と討論（１３）　ベストセラーと文学賞
第１５回：授業のまとめとふりかえり：身についた事柄の確認
期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

・和田敦彦『読書の歴史を問う』（笠間書院、2014年）
・柴野京子『書棚と平台―出版流通というメディア』（弘文堂、2009年）
・HAB『本と流通』（エイチアンドエスカンパニー、2016年）
・湯浅俊彦 『電子出版学入門―出版メディアのデジタル化と紙の本の行方』（出版メディアパル、2015年）
・歌田明弘『電子書籍の時代は本当に来るのか』（筑摩書房、2010年）
・石川徹也『つながる図書館・博物館・文書館』（東京大学出版会、2011年）
・加藤信哉『ラーニング・コモンズ』（勁草書房、2012年）
・原田安啓『中世イスラムの図書館と西洋―古代の知を回帰させ、文字と書物の帝国を築き西洋を覚醒させた

人々』（日本図書刊行会、2015年）
・鹿島茂『神田神保町書肆街考』（筑摩書房、2017年）
・小田光雄『ブックオフと出版業界』（論創社、2008年）
・鈴木成一『装丁を語る』（イースト・プレス、2010年）
・小浜朋子/林左和子「＜ユニバーサルデザイン絵本ワークショップ＞の可能性と今後の展望」（『静岡文化芸術大学研究紀要』第16 巻、2016年、129～132頁）
・松田隆美編『貴重書の挿絵とパラテクスト』（慶応義塾大学出版会、2012）
・本間理絵「近代メディアミックスの形成過程―春陽堂書店とラヂオドラマ研究会との連携を中心に」（『出版研究』第48号、2017年、85～108頁）
・吉田悟美『ケータイ小説がウケる理由』（マイコミ新書、2008年）
・佐藤卓己『キングの時代　国民大衆雑誌の公共性』（岩波書店、2020年）
・長友千代治『近世の読書』（青裳堂書店、1987年）
・デイヴィッド・E・フィッシュマン『ナチスから図書館を守った人たち―囚われの司書、詩人、学者の闘い』（原書房、2019年）
・モリー・グプティル・マニング『戦地の図書館：海を越えた一億四千万冊』（東京創元社、2016年）
・鵜飼哲夫『芥川賞の謎を解く』（文藝春秋、2015年）
・川口 則弘 『直木賞物語』（バジリコ株式会社、2014年）

■成績の評価基準

文献の講読と討論を６０％、期末レポートを４０％とする。

■オフィスアワー

月曜２限

■受講要件

なし。

■備考

なし。

■科目名			
音楽教育文化特論			
■英語名			
Music Education and Culture			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
今由佳里	099-285-7897	kon@edu.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

日本と諸外国における音楽の学びについて、歴史や背景、内容、方法を比較研究していく。また、日本の伝統的な音楽である箏や三味線、雅楽等の稽古における学びの方法についても取り上げて考察する。

■学修目標

音楽教育をめぐる問題の把握および課題の解決にむけて、（１）日本と諸外国における音楽の学びについて理解する、（２）日本の伝統的な音楽における学びの方法について理解する、を目標とする。

■授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：子どもの発達と音楽嗜好
第３回：日本と諸外国における音楽の学びに関する文献講読と討論（１）
第４回：日本と諸外国における音楽の学びに関する文献講読と討論（２）
第５回：日本と諸外国における音楽の学びに関する文献講読と討論（３）
第６回：日本と諸外国における音楽の学びに関する文献講読と討論（４）
第７回：日本の伝統的な音楽における学びの方法（１）
第８回：日本の伝統的な音楽における学びの方法（２）
第９回：日本の伝統的な音楽における学びの方法（３）
第10回：日本の伝統的な音楽における学びの方法（４）
第11回：日本の伝統的な音楽における学びの方法（５）
第12回：日本の伝統的な音楽における学びの方法（７）
第13回：日本の伝統的な音楽における学びの方法（８）
第14回：日本の伝統的な音楽における学びの方法（９）
第15回：総括

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。

■教科書

適宜資料を配布する。

■参考書

水野信男『地球音楽紀行』音楽之友社，2003
田村和紀夫『音楽とは何か　ミューズの扉を開く七つの鍵』講談社，2012

■成績の評価基準

授業中の取り組みと口頭発表（70%）、期末レポート（30%）
欠席が全講義数の３分の１を越えた場合は評価の対象としない。

■オフィスアワー

月曜12：00～12：50

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
生涯学習特論			
■英語名			
Lifelong Learning			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
久保田治助	099-285-7849	kbuota@edu.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

社会教育・生涯学習の諸分野について、現代の社会教育・生涯学習の課題と歴史的変遷を説明し、社会教育・生涯学習の新しい学習論、学習者・市民の参画論、NGO・NPOなどの役割、社会教育計画、PTA、学校行事や部活動などの学校外活動や放課後子供教室、学校地域連携など多角的に論じる。特に学校教育と社会教育の関係を明らかにし、その意義について分析する。

■学修目標

本年度は、社会教育の本質を踏まえて、社会教育論を深めることがテーマである。社会教育・生涯学習に関する基礎文献の理解と、社会教育学の基本的理論・用語について理解すること。その上で、社会教育学の理論を用いて討議を行う。

■授業計画

＊受講人数によるが、基本的に本授業は毎回対面形式で行うが、それ以外の場合は事前に連絡をする。

1.オリエンテーション
2.社会教育論の理論
3.社会教育論の歴史
4.社会教育論の法制度
5.子どもをめぐる社会教育の現状：法制度
6.子どもをめぐる社会教育の現状：地域的課題
7.若者をめぐる社会教育の現状：青少年教育
8.若者ををめぐる社会教育の現状：教育福祉
9.若者ををめぐる社会教育の現状：地域的課題
10.男女共同参画ををめぐる社会教育の現状
11.地域社会をめぐる公民館の現状
12.生涯スポーツをめぐる社会教育の現状：地域スポーツ・少年団等
13.生涯スポーツをめぐる社会教育の現状：部活動
14.高齢者をめぐる教育福祉の現状
15.社会的排除をめぐる社会教育の問題
16.期末レポート

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる

■参考書

辻浩『現代教育福祉論: 子ども・若者の自立支援と地域づくり』ミネルヴァ書房 、2017年
を使用します。
オリエンテーションの際に、再度、参考書の紹介をします。

■成績の評価基準

授業内での発表（2回）（50%）、最終レポート（50%）の成績による。

■オフィスアワー

一度、メール（kbuota@edu.kagoshima-u.ac.jp）等で相談すること。
研究室は、郡元キャンパスの教育学部内、文系研究棟5階です。

■受講要件

積極的に参加すること。授業では、レジュメを用いて１～２回程度発表を行うため、その準備を行うこと。

■備考

特になし

■科目名

行動臨床心理学特論

■英語名

Behavioral Clinical Psychology

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
人間環境文化論専攻	博士前期課程	

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
肥後祥治		higosho@edu.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

心理支援の技法としての行動心理学的アプローチである認知・行動療法に焦点をあてる。臨床場面での汎用性が高い行動分析の習得を基本に据えながら、他の技法の理解を深めていく。また、行動分析の臨床への適用においてじゅうような観察法・一事例実験計画法の基礎の理解と習得を目指す。

■学修目標

1. 臨床心理学の方法論の中での行動分析の位置づけを理解する。
2. 行動分析の基礎理論の理解と臨床場面での応用の方法論について理解する。
3. 一事例実験計画法の基本を理解し、質問に対して答えることができる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定であるが、状況によっては、遠隔授業への変更も想定している。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

1. 臨床心理学の系譜の中の行動心理学的アプローチ
2. 行動分析の基礎理論1　（三項随伴性、強化の概念、正の強化と負の強化）
3. 行動分析の基礎理論2　（行動の機能）
4. 行動の形成技法1　（強化の臨床場面での適用）
5. 行動の形成技法2　（課題分析とチェインニング）
6. 行動形成法の事例研究　（自閉スペクトラム症のコミュニケーション行動の形成）
7. 行動の低減技法1　（他行動分化強化）
8. 行動の低減技法2　（先行刺激操作と消去）
9. 行動の低減技法3　（機能的コミュニケーション訓練）
10. 行動低減法の事例研究　（自傷行動への取り組み）
11. 自立活動への行動分析の示唆
12. 行動分析の効果の査定1　（観察法）
13. 行動分析の効果の査定2　（一事例実験計画法）
14. 行動分析のケースフォームレーション
15. 行動分析のシミュレーション事例に対する討議

■教科書

1. 子どもたちの抱える行動上の問題への挑戦．肥後祥治．明治図書．2010
2. 豊かな生活につながるコミュニケーションを育てる．肥後祥治．明治図書．2010

■参考書

1. ことばと行動－言語の基礎から臨床まで．浅野俊夫・山本淳一責任編集．ブレーン出版.2001.
2. 応用行動分析学入門．小林重雄監修.学苑社.1997.

■成績の評価基準

授業評価には以下の3つの柱を設定している。
1. 教科書の内容に関する受講生によるプレゼンが課されるので、そのプレゼンに対する評価。(50%)
2. 事例研究においては、学術論文雑誌から事例を抽出しての発表が行われるが、そのプレゼン対する評価(20%)
3. 授業終了後の最終レポートの評価(30%)

■オフィスアワー

木曜日3限

■受講要件

なし

■備考

特になし

■科目名			
環境地理学特論			
■英語名			
Environmental Geography			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
永迫俊郎	099-285-7850	nagasako@edu.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

系統地理学と地誌学を両輪とする地理学において，主体を取り巻くものと定義される環境は重要なキーワードである．地表上で多彩に展開される人間と自然の関わり合いに注目して，環境観・世界観さらには価値観について解説する．

■学修目標

1）環境論から迫った世界観ならびに価値観について，自分自身に引き付けて理解し，今後の生き方に活かせること．
2）人間と自然の関係について，時代的展開および空間スケールの側面から記述できること．
3）野外観察や授業内で提示する素材を通して，身近にあふれる楽しさや大局観（縦横無尽な認識軸の設定）に触れ，自らの世界像を豊かにできること．

■授業計画

本授業は，毎回対面形式で実施する予定である．週末もしくは夏期休暇中に2回実施する予定の野外授業を除いた13回分は次のように計画している．
第1回　地理ケーキ＆授業のねらい
第2回　コロナ禍を機に世界を考える
第3回　数字は分かりやすいが，騙されやすい
第4回　八俣の遠呂智は退治されてよかったのか
第5回　「もののけ姫」にみる自然観-(i)
第6回　「もののけ姫」にみる自然観-(ii)
第7回　シラスは悪者なのか？
第8回　中村哲さんが到達された境地
第9回　「PK」が教えてくれる人間の性-(i)
第10回　「PK」が教えてくれる人間の性-(ii)
第11回　環境リテラシー
第12回　環境観の一般性と地域性
第13回　染み付いた価値観の源流

■教科書

本授業ではとくに指定せず，必要に応じて参考書を用いる

■参考書

福井勝義編（1996）「水の原風景：自然と心をつなぐもの」．TOTO出版
中村哲（2020）「希望の一滴 中村哲、アフガン最期の言葉」．西日本新聞社
この他，授業中に適宜紹介する．野外授業の目的地・内容については，鹿児島大学リポジトリで次の拙稿を参照されたい．
永迫俊郎（2018）野外授業・巡検の実践例とそれらの教育的意義．鹿児島大学教育学部研究紀要教育科学編，第69巻

■成績の評価基準

毎回実施する平常点レポート（配分40%）と中間・期末レポート（配分20+40%）で評価する

■オフィスアワー

木曜日3限をオフィスアワーとする．上記のメールアドレスでも対応する．

■受講要件

週末もしくは夏期休暇中に2回行う野外観察の際に必要となる交通費等は，受講者各自の実費負担となる．学生

傷害保険など各自での保険加入が望まれる．

■備考

授業形態については，新型コロナウイルス感染症の影響，その他の理由により変更する可能性がある．変更する際は，予めmanabaや授業時間内に告知する．

■科目名			
書籍文化特論			
■英語名			
Book Culture			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
竹岡健一	099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

目的：本授業は、19世紀末以降、欧米の書籍文化において重要な役割を果たした廉価図書販売組織であるブッククラブについて理解を深めることを目的とする。
内容：19世紀末以降のドイツにおけるブッククラブの発展、ブッククラブの種類と特色、およびブッククラブと民族主義のかかわりについて詳しく考察する。
方法：講義形式で進め、毎回の授業でミニレポートを課す。受講者は、授業で学んだ事柄について、学期末にレポートを提出する。

■学修目標

１．ブッククラブの発展過程について説明できる。
２．ブッククラブの種類とその特色について説明できる。
３．ブッククラブと民族主義のかかわりを説明できる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回：オリエンテーション：授業の概要と学修目標の確認
第２回：ブッククラブの発展（１）　ワイマール共和国時代の隆昌
第３回：ブッククラブの発展（２）　ブッククラブと伝統的な書籍販売
第４回：ブッククラブの発展（３）　1960年代から1980年代の隆昌
第５回：ブッククラブの発展（４）　ベルテルスマン読書愛好会における二段階販売
第６回：ブッククラブの発展（５）　ベルテルスマン読書愛好会における経営の多角化
第７回：ブッククラブの発展（６）　公共圏の解体とブッククラブ
第８回：ブッククラブの発展（７）　ブッククラブと日本の出版文化
第９回：様々なブッククラブ（１）　市民的ブッククラブと特殊な読者を持つブッククラブ
第１０回：様々なブッククラブ（２）　宗教的ブッククラブと保守的・国家主義的ブッククラブ
第１１回：様々なブッククラブ（３）　左翼的労働者ブッククラブと書籍販売のブッククラブ
第１２回：ブッククラブと民族主義（１）　ドイツ家庭文庫の成立と発展
第１３回：ブッククラブと民族主義（２）　ドイツ家庭文庫における本の装飾的価値
第１４回：ブッククラブと民族主義（３）　ドイツ家庭文庫のナチス時代の活動
第１５回：授業のまとめとふりかえり：身についた事柄の確認
期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。

■教科書

・竹岡健一『ブッククラブと民族主義』（九州大学出版会、2017年）
・竹岡健一「＜公共圏の解体＞とブッククラブ」（日本独文学会『ドイツ文学』第160号、109～124頁、2020年）
・竹岡健一「ドイツのブッククラブと日本の出版文化」（「かいろす」の会『かいろす』第54号、19～38頁、2016年）

■参考書

・和田敦彦『読書の歴史を問う』（笠間書院、2014年）
・柴野京子『書物の環境論』（弘文堂、2012年）
・柴野京子『書棚と平台―出版流通というメディア』（弘文堂、2009年）

・HAB『本と流通』（エイチアンドエスカンパニー、2016年）
・永嶺重敏『雑誌と読者の近代』（日本エディタースクール出版部、1997年）

■成績の評価基準

授業中に課すミニレポートを60%、期末レポートを40%とする。

■オフィスアワー

月曜2限

■受講要件

なし。

■備考

なし。

■科目名			
書籍文化特論演習			
■英語名			
Book Culture (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
竹岡健一	099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

目的：本授業は、書籍文化に関する専門的な研究を行うための高度な能力を身につけることを目的とする。
内容：書籍の歴史に関する文献の批判的な講読と討論を行い、書籍文化を研究するための高度な視点や問題意識を学んだ上で、これを実践する。
方法：文献の講読と討論の後、授業で学んだ事柄を踏まえて、学習者自らが書籍文化に関するテーマについて調査を行い、レポートを作成する。

■学修目標

１．先行文献を批判的に読解し、それについて討論することができる。
２．書籍文化を研究するための視点や問題意識を説明できる。
３．書籍文化に関する調査とレポートの作成ができる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回：オリエンテーション：授業の概要と学修目標の確認
第２回：書籍文化に関する文献の講読と討論（１）　出版と書籍販売の歴史
第３回：書籍文化に関する文献の講読と討論（２）　再版制度と著作権
第４回：書籍文化に関する文献の講読と討論（３）　電子書籍とインターネット販売
第５回：書籍文化に関する文献の講読と討論（４）　図書館の役割とデジタルアーカイブ
第６回：書籍文化に関する文献の講読と討論（５）　古書店の役割と新古書店
第７回：書籍文化に関する文献の講読と討論（６）　書籍の装丁とパラテクスト
第８回：書籍文化に関する文献の講読と討論（７）　メディアミックスと小説投稿サイト
第９回：書籍文化に関する文献の講読と討論（８）　読書の大衆化と廉価版
第１０回：書籍文化に関する文献の講読と討論（９）　書籍販売の商業主義と公共性
第１１回：書籍文化に関する文献の講読と討論（１０）　書籍の検閲とビブリオコースト
第１２回：書籍文化に関する文献の講読と討論（１１）　戦争と読書のかかわり
第１３回：書籍文化に関する文献の講読と討論（１２）　読書の場と読書教育
第１４回：書籍文化に関する文献の講読と討論（１３）　ベストセラーと文学賞
第１５回：授業のまとめとふりかえり：身についた事柄の確認
期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

・和田敦彦『読書の歴史を問う』（笠間書院、2014年）
・柴野京子『書棚と平台―出版流通というメディア』（弘文堂、2009年）
・HAB『本と流通』（エイチアンドエスカンパニー、2016年）
・湯浅俊彦 『電子出版学入門―出版メディアのデジタル化と紙の本の行方』（出版メディアパル、2015年）
・歌田明弘『電子書籍の時代は本当に来るのか』（筑摩書房、2010年）
・石川徹也『つながる図書館・博物館・文書館』（東京大学出版会、2011年）
・加藤信哉『ラーニング・コモンズ』（勁草書房、2012年）
・原田安啓『中世イスラムの図書館と西洋―古代の知を回帰させ、文字と書物の帝国を築き西洋を覚醒させた

人々』（日本図書刊行会、2015年）
・鹿島茂『神田神保町書肆街考』（筑摩書房、2017年）
・小田光雄『ブックオフと出版業界』（論創社、2008年）
・鈴木成一『装丁を語る』（イースト・プレス、2010年）
・小浜朋子/林左和子「＜ユニバーサルデザイン絵本ワークショップ＞の可能性と今後の展望」（『静岡文化芸術大学研究紀要』第16 巻、2016年、129～132頁）
・松田隆美編『貴重書の挿絵とパラテクスト』（慶応義塾大学出版会、2012）
・本間理絵「近代メディアミックスの形成過程―春陽堂書店とラヂオドラマ研究会との連携を中心に」（『出版研究』第48号、2017年、85～108頁）
・吉田悟美『ケータイ小説がウケる理由』（マイコミ新書、2008年）
・佐藤卓己『キングの時代　国民大衆雑誌の公共性』（岩波書店、2020年）
・長友千代治『近世の読書』（青裳堂書店、1987年）
・デイヴィッド・E・フィッシュマン『ナチスから図書館を守った人たち―囚われの司書、詩人、学者の闘い』（原書房、2019年）
・モリー・グプティル・マニング『戦地の図書館：海を越えた一億四千万冊』（東京創元社、2016年）
・鵜飼哲夫『芥川賞の謎を解く』（文藝春秋、2015年）
・川口 則弘 『直木賞物語』（バジリコ株式会社、2014年）

■成績の評価基準

文献の講読と討論を６０％、期末レポートを４０％とする。

■オフィスアワー

月曜2限

■受講要件

なし。

■備考

なし。

■科目名			
音楽教育文化特論演習			
■英語名			
Music Education and Culture (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
今由佳里	099-285-7897	kon@edu.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
日本と諸外国における音楽の学びについて、歴史や背景、内容、方法を比較研究していく。また、リトミックやコダーイシステム、オルフメソッド等の海外の音楽教育メソッドについても取り上げて考察する。			
■学修目標			
音楽教育をめぐる問題の把握および課題の解決にむけて、（１）日本と諸外国における音楽の学びについて理解する、（２）海外の音楽教育メソッドについて理解する、を目標とする。			
■授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。 第１回：オリエンテーション 第２回：日本と諸外国における音楽の学び（１） 第３回：日本と諸外国における音楽の学び（２） 第４回：日本と諸外国における音楽の学び（３） 第５回：日本と諸外国における音楽の学び（４） 第６回：日本と諸外国における音楽の学び（５） 第７回：日本と諸外国における音楽の学び（６） 第８回：日本と諸外国における音楽の学び（７） 第９回：日本と諸外国における音楽の学び（８） 第10回：日本と諸外国における音楽の学び（１ 第11回：海外の音楽教育メソッド（１） 第12回：海外の音楽教育メソッド（２） 第13回：海外の音楽教育メソッド（３） 第14回：海外の音楽教育メソッド（４） 第15回：総括			
■教科書			
適宜資料を配布する。			
■参考書			
水野信男『地球音楽紀行』音楽之友社，2003 田村和紀夫『音楽とは何か　ミューズの扉を開く七つの鍵』講談社，2012			
■成績の評価基準			
授業中の取り組みと口頭発表（70%）、期末レポート（30%） 欠席が全講義数の３分の１を越えた場合は評価の対象としない。			
■オフィスアワー			
月曜12:00～12:50			
■受講要件			
特になし			
■備考			
特になし			

■科目名			
生涯学習特論演習			
■英語名			
Lifelong Learning (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
久保田治助	099-285-7849	kubota@edu.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

社会教育・生涯学習の基礎的理論と実践の歴史的変遷について踏まえた上で、特に学校地域連携や学校教育と社会教育の接続について、多くの実践や近年の理論研究の動向をとりあげつつ、個別に検討を行ってゆく。そのために、社会教育・生涯学習における基本文献を網羅的に検討し、地域や学校の実態に即して現代的課題を分析しつつ、グループ討議・個人発表等によって理解を深める。

■学修目標

本年度は、特に教育福祉を中心に、社会教育論を深めることがテーマである。したがって、社会教育のなかでも、社会的排除の対象とみなされる福祉的擁護の必要な子供や障害児/者などに関する社会教育・生涯学習に関する基礎文献の理解と、社会教育学の基本的理論・用語について理解すること。その上で、社会教育学の理論を用いて討議を行う。

■授業計画

*受講人数によるが、基本的に本授業は毎回対面形式で行うが、それ以外の場合は事前に連絡をする。

1.オリエンテーション
2.社会教育論の基礎：法制度
3.社会教育論の基礎：思想と実践の歴史
4.社会教育論の基礎：社会的排除の学習論
5.子育て・母親支援の現状の現状
6.子どもをめぐる社会教育の現状：
7.若者をめぐる社会教育の現状：青少年教育
8.若者ををめぐる社会教育の現状：教育福祉
9.若者ををめぐる社会教育の現状：子ども・若者NPO
10.男女共同参画ををめぐる社会教育の現状
11.地域社会をめぐる公民館の現状
12.生涯スポーツをめぐる社会教育の現状
13.地域保健とコミュニティケアの現状
14.高齢者をめぐる教育福祉の現状
15.社会的排除をめぐる社会教育の問題
定期試験

＊人数によるが、基本的には対面で行うが、それ以外の場合は事前に連絡をする。

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる

■参考書

辻浩『現代教育福祉論: 子ども・若者の自立支援と地域づくり』ミネルヴァ書房 、2017年 を使用します。
オリエンテーションの際に、再度、参考書の紹介をします。

■成績の評価基準

授業内での発表(2回)(50%)、最終レポート(50%)の成績による。

■オフィスアワー

一度、メール(kbuota@edu.kagoshima-u.ac.jp)等で相談すること。 研究室は、郡元キャンパスの教育学部内、文系研究棟5階です。

■受講要件

積極的に参加すること。授業では、レジュメを用いて１～２回程度発表を行うため、その準備を行うこと。

■備考

特になし

■科目名

行動臨床心理学特論演習

■英語名

Behavioral Clinical Psychology (Seminar)

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
人間環境文化論専攻	博士前期課程	

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
肥後祥治	7767	higosho@edu.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

行動分析を基礎におく行動心理学の立場から、個人に対する臨床およびコミュニィーに対する臨床の展開について議論をすすめていく。その切り口として、コミュニケーション行動の形成、強度行動障害への対応、保護者トレーニング、支援者間コミュニケーション、地域に根ざしたリハビリテーションをテーマとしていく。

■学修目標

1. 臨床場面での行動分析の適用可能性を理解することができる。
2. 授業で扱われる適用事例に関して行動分析の関与を明確に説明できる。
3. 心理臨床の場面において、行動分析的なアプローチを構想できる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定であるが、状況によっては、遠隔授業への変更も想定している。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

1. 行動分析の基礎1　（行動の形成技法の確認）
2. 行動分析の基礎2　（行動の低減技法の確認）
3. コミュニケーション行動の形成1　（音声コミュニケーション行動の形成）
4. コミュニケーション行動の形成2　（非音声コミュニケーション行動の形成）
5. コミュニケーション行動の形成3　（高次コミュニケーション行動の形成）
6. 強度行動障害への対応1　（強度行動障害の概念と臨床像）
7. 強度行動障害への対応2　（行動分析からのアプローチ）
8. 強度行動障害への対応3　（強度行動障害支援事業）
9. 保護者支援へのアプローチ1　（臨床心理学における保護者の位置づけ）
10. 保護者支援へのアプローチ2　（行動分析から保護者トレーニング）
11. 保護者支援へのアプローチ3　（CBRにもとづく保護者トレーニングの再設計）
12. 支援者間コミュニケーション1　（ワークショップの設計）
13. 支援者間コミュニケーション2　（ワークショップの実際）
14. 地域に根ざしたリハビリテーション
15. 行動分析の臨床場面への適用可能性

■教科書

1. 子どもたちの抱える行動上の問題への挑戦．肥後祥治．明治図書．2010
2. 豊かな生活につながるコミュニケーションを育てる．肥後祥治．明治図書．2010
3. 強度行動障害のある人の「暮らし」を支える．牛谷正人・肥後祥治・福島龍三郎編．強度行動障害支援者養成研修［基本研修・実践研修］テキスト．中央法規．2020

■参考書

1. ことばと行動－言語の基礎から臨床まで．浅野俊夫・山本淳一責任編集．ブレーン出版.2001.
2. 応用行動分析学入門．小林重雄監修.学苑社.1997.
3. ＣＢＲ地域に根ざしたリハビリテーション－障害のある人の完全参加を目指すシステムづくり－．田口順子監修．明石書店．2008
4. 復興へ人づくりから～全国大学ボランテア教員15名による特別講義～．いわて高等教育コンソーシアム編．いわて高等教育コンソーシアム事務局．2013.

■成績の評価基準

授業評価には以下の3つの柱を設定している。
1. 受講生は、関連文献の内容に関するプレゼンへの課される。そのプレゼンに対する評価。(60%)
2. 演習における積極的参加度への評価(30%)
3. 実際の臨床場面へ見学等への参加（10%）

■オフィスアワー

木曜日3限

■受講要件

なし

■備考

特になし

■科目名

現代メディア文化特論演習

■英語名

Culture in Modern Society (seminar)

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
人間環境文化論専攻	博士前期課程	

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
櫻井芳生	099-285-7544	sakurai.yoshio@nifty.com

■共同担当教員

■授業概要

現代のテクノロジー・自然科学と、文化諸科学との関連を、さまざまな視点から考察をおこなう。あわせて、修士論文執筆に必要な基本的な研究能力の陶冶をめざす。
授業は、桜井執筆の論文ほか複数のテキストを手がかりにして、参加者の報告と討論によってすすめていく。また、受講者には、一期につき、二本程度、英語論文の紹介をしてもらう予定。ただし詳細な内容については受講生のテーマ・関心などと相談して変更することもある。
また学部生と議論の機会を設けることもある。
★授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある

■学修目標

1. テクノロジー・自然科学と文化の関連について科学的知識を習得する。
2. テクノロジー・自然科学とヒトの文化とを関連づけて分析する能力を身につける。
3. 修士論文執筆のための基本的な知的作法・ノウハウを身につける。
4. 英語論文の検索、読解になれる。

■授業計画

第１回ガイダンス
第２回報告と討論
第３回報告と討論
第４回報告と討論
第５回報告と討論
第６回報告と討論
第７回中間総括
第８回報告と討論
第９回報告と討論
第１０回報告と討論
第１１回報告と討論
第１２回報告と討論
第１３回報告と討論
第１４回総括討論
第１５回総括討論
★授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある
■教科書

■教科書

とくになし。櫻井のウェブページの諸文献をみてください。

■参考書

参加者のテーマ・関心におうじて授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

平常点（出席、報告、発言、受講態度）

■オフィスアワー

木曜５限後、（研究室）
　メールで予約のこと：sakurai.yoshio@nifty.com

■受講要件

■備考

■科目名			
スポーツ心理学特論			
■英語名			
Sport Psychology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	集中講義
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
藤田勉	099-285-7758	t-fujita@edu.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

スポーツ心理学の文献講読により基礎的な知識を身に付けると共に，スポーツにおける心理学的問題に対する解決に向けたアプローチを考えていく．文献講読の際には，海外で出版された著書や論文を使用する．

■学修目標

１）スポーツ心理学における最新の研究成果について説明することができる．
２）先行研究で得られた知見から問題に対するアプローチを提案することができる．

■授業計画

１）オリエンテーション，授業の内容及び進め方の説明
２）スポーツ心理学の研究領域
３）スポーツ心理学の研究法
４）運動制御の理論
５）運動学習の理論
６）動機づけ理論（自己決定理論）
７）動機づけ理論（達成目標理論）
８）動機づけ理論（動機づけ雰囲気）
９）動機づけ理論（エンパワリングコーチング）
１０）動機づけ理論（自動動機理論）
１１）非認知能力
１２）社会的促進と社会手抜き
１３）自己調整学習
１３）メンタルトレーニング（イメージ法）
１４）メンタルトレーニング（呼吸法）
１５）スポーツカウンセリング

■教科書

本授業では特に指定せず，必要に応じて参考書を用いる．

■参考書

西田保（2013）スポーツモチベーション　大修館書店.
杉原隆（2011）生涯スポーツの心理学　福村出版.

■成績の評価基準

講義への取り組み(60%)とレポート(40%)で評価する．

■オフィスアワー

月曜日の９時から１２時まで

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
スポーツ心理学特論演習			
■英語名			
Sport Psychology (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	集中講義
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
藤田勉	099-285-7758	t-fujita@edu.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
スポーツ心理学における最新の研究成果から，最近の研究で用いられている手法を学び，実際に同様の研究計画を立案して遂行する．			
■学修目標			
１）スポーツ心理学における最新の研究手法を説明することができる． ２）実習を通して，立案した研究計画を自律的に遂行することができる．			
■授業計画			
１）オリエンテーション，授業の内容及び進め方の説明 ２）質問紙法の実際 ３）尺度の作成 ４）質問紙で収集したデータの分析 ５）質問紙で得られた結果の解釈 ６）実験法の実際 ７）実験計画の立案 ８）実験法で収集したデータの分析 ９）実験法で得られた結果の解釈 １０）面接法の実際 １１）面接法の計画 １２）面接法で収集したデータの分析 １３）面接法で得られた結果の解釈 １４）論文の構成 １５）研究成果の発表			
■教科書			
本授業では特に指定せず，必要に応じて参考書を用いる．			
■参考書			
岸学（2012）SPSSによるやさしい統計学第２版　オーム社． 徳永幹雄（2004）体育・スポーツの心理尺度　不昧堂．			
■成績の評価基準			
講義への取り組み(60%)とレポート(40%)で評価する．			
■オフィスアワー			
月曜日の９時から１２時まで			
■受講要件			
特になし			
■備考			
特になし			

■科目名			
マスコミ特論演習			
■英語名			
Seminar on Mass Media Studies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
宮下正昭	090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
鹿児島市内で見聞できる報道の現場を案内し、その後は取材・執筆の実習・添削を繰り返す。毎回、その週の社会事象を扱った記事やテレビニュースなども紹介し論議し、マスコミのありようを考える。			
■学修目標			
ネットを含めたマスコミ報道のありようをとらえなおすことで、社会のありようを見つめなおす判断力をつける。 この社会でどのように生きればいいのか考える機縁にもしたい。 将来、記者になるためだけでなく、尋ねること、伝えることの難しさ、大切さを身に着けてもらい、あらゆる職業に就いても役立つ機会とする。			
■授業計画			
第１回　オリエンテーション 第２－５回　裁判見学、記者クラブ見学、南日本新聞社見学など 第６－１４回　事件報道、まちづくり報道、話題もの報道など取材・執筆・添削を行う。 毎回前半では、その週のトピックも記事やテレビニュースから取り上げ、論議する。 第１５回　記者のスタンス　まとめ			
■教科書			
なし			
■参考書			
「犯罪報道の犯罪」（浅野健一著　学陽書房） 「法服の王国　上・下」（黒木亮著　産経新聞出版） 「予断　えん罪高隅事件」（宮下正昭著　筑摩書房）など随時提示			
■成績の評価基準			
毎回の授業態様（５０％）と期末レポート（５０％）			
■オフィスアワー			
金曜午後。事前に連絡を。			
■受講要件			
社会への関心、人間への好奇心をもって、日々のニュースを見聞すること			
■備考			
特になし			

■科目名			
マスコミ特論演習			
■英語名			
Seminar on Mass Media Studies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
宮下正昭	２８５－７２０３	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
前期同様、取材・執筆・添削を各テーマごとに繰り返す。 毎回、その週に問題となった社会的現象を一緒に考え、マスコミのありようも論じる。			
■学修目標			
社会の動きを知る。そのうえで尋ねる、伝えることの難しさ、大切さを身に着けてもらう。 将来記者になるためだけではなく、どのような職業に就いても必要な術を修得してもらう。			
■授業計画			
第１回　　オリエンテーション 第２－１４回　　テーマを分けて取材・執筆・添削実習。 テーマによっては現場を見に行く。 毎回、前半はその週のトピックを新聞記事などから提示、マスコミのありようも含め論議する。 第１５回　　まとめ			
■教科書			
なし			
■参考書			
随時、紹介する			
■成績の評価基準			
毎回の授業態様（５０％）と期末レポート（５０％）			
■オフィスアワー			
金曜午後　事前に連絡を			
■受講要件			
新聞、テレビ、ネットなど日々のニュースをこまめにチェックする			
■備考			
特になし			

■科目名			
マスコミ特論			
■英語名			
Special Lecture on Mass Media Studies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
宮下正昭	090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
『取材と報道』（２０１８　新聞協会）を基に事件・事故報道のありよう、取材源の秘匿問題、記者クラブのありようなどを討議する。			
■学修目標			
メデャアのありようを知ることから社会の知る手立てとする。			
■授業計画			
第１回　　オリエンテーション 第２～１４回　　『取材と報道』を基に各課題を話し合う 第１５回　　まとめ			
■教科書			
『取材と報道　改訂第５版』（２０１８年　日本新聞協会）			
■参考書			
「新聞と戦争」（朝日新聞出版） 「テレビは戦争をどう描いてきたか」（桜井均著、岩波書店） 「それでも日本人は「戦争」を選んだ」（加藤陽子著、朝日出版社） 「聖堂の日の丸」（宮下正昭著、南方新社）			
■成績の評価基準			
毎回の授業態様（５０％）と期末レポート（５０％）			
■オフィスアワー			
金曜午後。事前に連絡を。			
■受講要件			
新聞、テレビ、ネットで日々のニュースを関心を持ってチェックする			
■備考			
教科書を購入する必要はない。授業に必要な部分はコピーして配布する			

■科目名			
考古学特論演習			
■英語名			
Japanese Archaeology (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
石田智子	099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

考古学研究の方法論にかかわる英語で書かれた基礎文献を学生が分担して訳出し、考古学的論点の内容を確認することで、現代考古学の諸理論や基本概念の理解を深める。また、出席者全員で議論することで、各自の研究対象や考古学的実践をより広い視野で相対化することを目指す。

■学修目標

考古学研究に必要となる基礎的な方法論を学ぶ。英語文献の読解を通じて、現代考古学の諸理論や基本概念を理解するとともに、各自の研究対象や考古学的実践を相対化する能力を身につける。この過程で、修士論文執筆に必要な思考能力や技術を養う。

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２・３回　「1 Ethnoarchaeology: its nature, origins, and history」の読解・討論
第４・５回　「2 Theorizing ethnoarchaeology and analogy」の読解・討論
第６・７回　「3 Fieldwork and ethics」の読解・討論
第８・９回　「4 Human residues: enterning the archaeological context」の読解・討論
第１０・１１回　「5 Fauna and subsistence」の読解・討論
第１２・１３回　「6 Studying artifacts: functions, operating sequences, taxonomy」の読解・討論
第１４・１５回　「7 Style and the marking of boundaries: contrasting regional studies」の読解・討論

■教科書

Nicholas Davis and Carol Kramer. 2001. Ethnoarchaeology in action. Cambridge University Press: UK.

■参考書

授業中に適宜紹介し、資料を配付する。

■成績の評価基準

授業中の発表および発言　１００％

■オフィスアワー

授業終了後３０分。質問や相談等があれば、manabaの個別指導、E-mail、研究室でも随時受け付けます。

■受講要件

予習：課題文献を読解し、内容を要約する。標準的時間は２時間。
復習：文献や議論の内容を振り返り、学習内容を復習する。標準的時間は２時間。

■備考

特になし

■科目名			
考古学特論			
■英語名			
Japanese Archaeology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
石田智子	099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

考古資料から「社会」を直接読みとることは不可能である。しかしながら、過去の社会の再構築は考古学において重要な課題であり、そのための分析方法や社会理論の理解・修得が求められる。本講義では、社会の複雑化プロセスを対象とした考古学・人類学研究にかかわる文献を読解し、学生の報告と合わせて講義を行うことで、社会変化モデルの基礎的な概念の理解を深める。さらに、受講生各自の研究対象と比較することで、社会理論と考古学的実践の統合を図る。

■学修目標

考古資料の解析を通じて、過去の人類社会の構造や変化を解明する方法を修得する。特に、社会の複雑化プロセスに関する先行研究の成果を理解し、受講生各自の研究対象を比較・相対化する能力を身につける。

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　社会の複雑化過程に関する研究史
第３回　社会構造・組織・集団
第４回　生業と居住形態からみた社会（１）狩猟採集社会
第５回　生業と居住形態からみた社会（２）農耕社会
第６回　生業と居住形態からみた社会（３）狩猟採集社会と農耕社会の関係
第７回　社会の階層化（１）人口
第８回　社会の階層化（２）灌漑
第９回　社会の階層化（３）戦争
第１０回　社会の階層化（４）長距離交易
第１１回　社会の階層化（５）祭祀儀礼
第１２回　国家の形成（１）都市の成立
第１３回　国家の形成（２）中心と周縁
第１４回　国家の形成（３）国家の形成過程
第１５回　まとめ

■教科書

受講生と相談の上、決定する。

■参考書

植木武編1996『国家の形成』，三一書房.
岩崎卓也監修『現代の考古学』（全７巻），朝倉書店.
その他、授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

授業中の発言および提出物　１００％

■オフィスアワー

授業終了後３０分。質問や相談等があれば、manabaの個別指導、E-mail、研究室でも随時受け付けます。

■受講要件

予習：課題文献を読解し、内容を要約する。標準的時間は２時間。
復習：文献や議論の内容を振り返り、学習内容を復習する。標準的時間は２時間。

■備考

特になし

■科目名

考古学特論演習

■英語名

Japanese Archaeology (seminar)

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
人間環境文化論専攻	博士前期課程	文化政策コース

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
石田智子	099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

考古学研究の方法論にかかわる英語で書かれた文献を学生が分担して訳出し、考古学的論点の内容を確認することで、現代考古学の諸理論や基本概念、考古事象の解析方法の理解を深める。また、出席者全員で議論することで、各自の研究対象や考古学的実践をより広い視野で相対化することを目指す。

■学修目標

考古学研究に必要となる、考古事象の解析方法を学ぶ。英語文献の読解を通じて、現代考古学の諸理論や基本概念を理解するとともに、各自の研究対象や考古学的実践を相対化する能力を身につける。この過程で、修士論文執筆に必要な思考能力や技術を養う。

■授業計画

※授業は対面形式で実施予定。ただし、状況によっては遠隔形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　ガイダンス
第２・３回　「1 Introduction: the nature of material cultures」の読解・討論
第４・５回　「2 Ethnicity and symbolism in Baringo」の読解・討論
第６・７回　「3 Maintaining the boundaries」の読解・討論
第８・９回　「4 Disrupting the boundaries」の読解・討論
第１０・１１回　「5 Within the boundaries」の読解・討論
第１２・１３回　「6 Hunter-gatherers and pastoralists on the Leroghi plateau」の読解・討論
第１４・１５回　「7 A state of symbiosis and conflict: the Lozi」の読解・討論

■教科書

Ian Hodder. 1982. Symbols in action. Cambridge University Press: UK.

■参考書

授業中に適宜紹介し、資料を配付する。

■成績の評価基準

授業中の発表および発言　１００％

■オフィスアワー

授業終了後３０分。質問や相談等があれば、manabaの個別指導、E-mail、研究室でも随時受け付けます。

■受講要件

予習：課題文献を読解し、内容を要約する。標準的時間は２時間。
復習：文献や議論の内容を振り返り、学習内容を復習する。標準的時間は２時間。

■備考

特になし

■科目名			
考古学特論			
■英語名			
Japanese Archaeology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
人間環境文化論専攻	博士前期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
石田智子	099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

現代考古学においては、文化人類学、社会学、自然科学などの関連諸分野の成果を理解し、考古学的実践と統合することが重要である。考古学徒関連諸分野の学際研究にかかわる文献を読解し、学生の報告と合わせて講義を行うことで、基礎的な概念の理解を深める。さらに、考古学における活用方法について議論することで、過去の人類社会の構造や変化を解明する方法を修得する。

■学修目標

考古資料の解析を通じて、過去の人類社会の構造や変化を解明する方法を修得する。特に、現代考古学を実践する上で重要となる関連諸分野（文化人類学、社会学、自然科学など）の成果を理解し、活用する能力を身につけることを目的とする。

■授業計画

※授業は対面形式で実施予定。ただし、状況によっては遠隔形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　ガイダンス
第２回　考古学と文化人類学１：社会・文化
第３回　考古学と文化人類学２：環境
第４回　考古学と文化人類学３：祭祀儀礼
第５回　考古学と文化人類学４：物質文化
第６回　考古学と文化人類学５：人間関係
第７回　考古学と社会学１：社会構造
第８回　考古学と社会学２：社会集団
第９回　考古学と社会学３：社会成層
第１０回　考古学と社会学４：コミュニケーション
第１１回　考古学と自然科学１：年代測定
第１２回　考古学と自然科学２：産地
第１３回　考古学と自然科学３：材質・技法
第１４回　考古学と自然科学４：保存科学
第１５回　まとめ

■教科書

受講生と相談の上、決定する。

■参考書

授業中に適宜紹介し、資料を配付する。

■成績の評価基準

授業中の発言および提出物　６０％
期末レポート　４０％

■オフィスアワー

授業時間終了後３０分。質問や相談等があれば、manabaの個別指導、E-mail、研究室でも随時受け付けます。

■受講要件

予習：課題文献を読解し、内容を要約する。標準的時間は２時間。
復習：文献や議論の内容を振り返り、学習内容を復習する。標準的時間は２時間。

■備考

特になし

■科目名			
国際総合文化論特論			
■英語名			
Course Work in International Cultural Studies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	演習	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
丹羽謙治	099-285-8904	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
人文学研究における古典をいくつか取り上げて読み進める。人文学の専門分野の歴史を当該分野の古典を読むことで見つめ直す。また、受講者の専門領域にかかる研究の代表的な著作について発表を行う。			
■学修目標			
1.各分野の著名な文献について知識を持つ。 2.他分野の方法について正しい理解を有し、自己の分野を相対化する。			
■授業計画			
【すべて対面方式で実施】なお、コロナ感染症の拡大により遠隔に切り替えることがある。 第１回　イントロダクション 第２回　歴史研究の古典について 第３回　日本文学研究の古典について 第４回　日本近代文学研究の古典について 第５回　民俗学研究の古典について 第６回　メディア研究の古典について 第７回　学生の発表 第８回　学生の発表 第９回　学生の発表 第10回　学生の発表 第11回　学生の発表 第12回　学生の発表 第13回　学生の発表 第14回　学生の発表 第15回　総括			
■教科書			
なし			
■参考書			
なし			
■成績の評価基準			
発表（80%）および授業への積極的な参加姿勢（20%）で評価する。			
■オフィスアワー			
月曜13時30分～14時20分			
■受講要件			
国際総合文化論専攻の１年生に限る。			
■備考			
manabaの指示や情報を確認すること。			

■科目名			
人文プロジェクト演習			
■英語名			
Humanistic Science Project (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
渡辺芳郎	099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

この授業は、人文科学的アプローチが現実の課題解決にどの程度有効な解決策を示せるかを、実践的に理解することを目的として、各人が有する専門分野の知的資源を現実問題と関連づけ活用する方法を学ぶ。このことを通じて、社会環境に柔軟に対処できるような社会性、国際性、協調性、問題解決能力の涵養を図る。

■学修目標

(1) 人文科学的アプローチを現実の課題との関連づけて活用できるようになる。
(2) 社会性、国際性、協調性、問題解決能力を身につける。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　課題設定(1)：課題の探索
第3回　課題設定(2)：課題の調査
第4回　課題設定(3)：課題の絞り込み
第5回　課題設定(4)：課題の決定
第6回　課題解決の実習(1)：課題関係の情報収集
第7回　課題解決の実習(2)：情報の整理
第8回　課題解決の実習(3)：先行解決方法の検討
第9回　課題解決の実習(4)：課題解決の方法の検討
第10回　課題解決の実習(5)：解決案の作成
第11回　受講生によるプレゼンテーション(1)
第12回　受講生によるプレゼンテーション(2)
第13回　受講生によるプレゼンテーション(3)
第14回　レポート作成
第15回 総括
（対面授業を予定しているが、状況次第では遠隔授業）

■教科書

なし。プリント配布。

■参考書

授業中に指示する。

■成績の評価基準

授業中の課題成果（40%）、プレゼンテーション（40%）、およびレポート（20%）により判断する。

■オフィスアワー

月曜日３限目

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
論文指導			
■英語名			
Dissertation Tutorial			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	講義	2単位	2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
各指導教員	各指導教員に問い合せのこと	各指導教員に問い合せのこと	
■共同担当教員			
各協力委員			
■授業概要			
専門分野の担当教員が修士論文作成のための指導・助言を行う			
■学修目標			
それぞれの分野で求められる研究水準に達する修士論文を作成すること。			
■授業計画			
第１回～第１５回 　各専門分野の担当教員による個別論文指導			
■教科書			
適宜紹介			
■参考書			
適宜紹介			
■成績の評価基準			
修士論文への取り組みの意欲、データの収集・分析及びその考察、論文としての形式等、総合的に判断し評価する。			
■オフィスアワー			
各指導教員に問い合わせのこと			
■受講要件			
人間環境文化論専攻・国際総合文化論専攻所属院生のみ			
■備考			
人間環境文化論専攻・国際総合文化論専攻　2年次後期必修科目			

■科目名			
論文指導			
■英語名			
Dissertation Tutorial			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	講義	2単位	2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
各指導教員	各指導教員に問い合わせのこと	各指導教員に問い合わせのこと	
■共同担当教員			
各協力教員			
■授業概要			
専門分野の担当教員が修士論文作成のための指導・助言を行う。			
■学修目標			
それぞれの分野で求められる研究水準に達する修士論文を作成すること。			
■授業計画			
第１回～第１５回 　各専門分野の担当教員による個別論文指導			
■教科書			
適宜紹介			
■参考書			
適宜紹介			
■成績の評価基準			
修士論文への取り組みの意欲、データの収集・分析及びその考察、論文としての形式等、総合的に判断し評価する。			
■オフィスアワー			
各指導教員に問い合わせのこと			
■受講要件			
人間環境文化論専攻・国際総合文化論専攻所属院生のみ			
■備考			
人間環境文化論専攻・国際総合文化論専攻　2年次後期必修科目			

■科目名			
ヨーロッパ・アメリカ比較社会史特論演習			
■英語名			
Comparative History of Western Society (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
藤内哲也	099-285-8863	ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

中世～近世のヨーロッパ史に関する外国語の史料や研究文献を読んでいきます（受講生によっては、日本語の資料や文献を読むこともありえます）。具体的なテーマは受講者との相談により決定します。単に日本語に置き換えて意味を理解するだけでなく、論文全体の趣旨を的確に把握し、その問題設定や分析手法、論証過程などを検討して、修士論文作成に必要な歴史学研究のスキルを身につけましょう。

■学修目標

１．ヨーロッパ史研究におけるさまざまな問題についての理解を深める
２．歴史研究の視点や手法について理解する
３．修士論文作成に必要な外国語文献の読解能力を高める

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行います。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業中に通知します。

第１回　ガイダンス・テーマ決定
第２回　文献読解・報告・討論(1)
第３回　文献読解・報告・討論(2)
第４回　文献読解・報告・討論(3)
第５回　文献読解・報告・討論(4)
第６回　文献読解・報告・討論(5)
第７回　文献読解・報告・討論(6)
第８回　文献読解・報告・討論(7)
第９回　文献読解・報告・討論(8)
第１０回　文献読解・報告・討論(9)
第１１回　文献読解・報告・討論(10)
第１２回　文献読解・報告・討論(11)
第１３回　文献読解・報告・討論(12)
第１４回　文献読解・報告・討論(13)
第１５回 まとめと展望

■教科書

とくに指定しません。適宜プリント等を配布します。

■参考書

金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年
そのほかの文献は授業中に適宜紹介します

■成績の評価基準

報告、討論などにより、総合的に判断します（100%）

■オフィスアワー

金曜４限（メールにてアポをとること）

■受講要件

とくになし

■備考

とくになし

■科目名			
近代思想特論演習			
■英語名			
Modern Thought (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
柴田健志	285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
スピノザ『エチカ』第一部の読解			
■学修目標			
スピノザの存在論の理解			
■授業計画			
１　ガイダンス ２　『エチカ』第一部定理１～３ ３　『エチカ』第一部定理４～６ ４　『エチカ』第一部定理７～８ ５　『エチカ』第一部定理９～１０ ６　『エチカ』第一部定理１１～１３ ７　『エチカ』第一部定理１４～１６ ８　『エチカ』第一部定理１７～２０ ９　『エチカ』第一部定理２０～２４ １０『エチカ』第一部定理２５～２７ １１『エチカ』第一部定理２７～３０ １２『エチカ』第一部定理３０～３２ １３『エチカ』第一部定理３３～３５ １４『エチカ』第一部定理３６ １５　まとめ 対面			
■教科書			
スピノザ『エチカ』上・下　岩波文庫			
■参考書			
なし			
■成績の評価基準			
2,000字以上のレポートによります。評価のポイントは、（1）問題提起の的確さ30%（2）結論の妥当性30%（3）論理の整合性40%、以上3点です。			
■オフィスアワー			
月曜・３限			
■受講要件			
特になし			
■備考			
特になし			

■科目名			
アジア文化史特論演習			
■英語名			
Cultural History of Asia (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大田由紀夫	099-285-7560	ota@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
本演習では、中国明代初期の財政史に関する漢籍資料を読解し、当時の財政システムについて考察を進めていく。			
■学修目標			
1. 漢文読解力のための基礎的技術を習得する。 2. 基本的な史料操作が行える。			
■授業計画			
第１回　　ガイダンス 第２回～１５回　　明代初期諸史料の講読 ※なお、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
■教科書			
プリントを配布。			
■参考書			
演習中に適宜指示する。			
■成績の評価基準			
授業態度40%、史料理解度等60%			
■オフィスアワー			
授業・会議等以外であればいつでも可。			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
日本文化特論演習			
■英語名			
Japanology (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
丹羽謙治	099-285-8904	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

江戸時代には数多くの浮世絵・絵本が刊行された。本演習では、菊池容斎の著作や浮世絵をとりあげながら、それぞれの絵の典拠や描かれた〈モノ〉や〈コト〉について、受講者が調査した結果を持ち寄り、討議を行う。

■学修目標

１．近世から近代にかけての絵画（特に歴史画）について習熟する。
２．古典文学や当世風俗について正しい認識を得る。

■授業計画

【対面方式で実施する】ただし、コロナ感染症拡大状況によって遠隔方式に切り替える。

第１回　導入
第２回　近世絵画について
第３回　菊池容斎について
第４回　『前賢故実』読解の例
第５回　学生による発表（巻６　藤原道長・源顕基）
第６回　学生による発表（巻６　源俊賢・藤原行成）
第７回　学生による発表（巻６　藤原公任・藤原斉信）
第８回　学生による発表（巻６　藤原保昌・大中臣輔親）
第９回　学生による発表（巻６　藤原範永・藤原正則）
第10回　学生による発表（巻６　大江挙周・和邇部用枝）
第11回　学生による発表（巻６　藤原実資・源頼信）
第12回　学生による発表（巻６　安部則任妻・清原武則）
第13回　学生による発表（巻６　安部宗任・源経成）
第14回　学生による発表（巻６　藤原正家・源隆国）
第15回　まとめ

■教科書

プリントを配布する。

■参考書

国立国会図書館デジタルライブラリー『前賢故実』巻６

■成績の評価基準

授業時の発表態度（２０％）と期末レポート（８０％）

■オフィスアワー

水曜日　17時40分～18時00分　共通教育棟2号館3階　日本近世文学研究室

■受講要件

特になし

■備考

受講生にあわせ内容を変更することがある。

■科目名			
比較文学特論			
■英語名			
Comparative Literature			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
井原慶一郎	099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

本講義では、大江健三郎著『キルプの軍団』（1988）を取り上げ、大江がいかにディケンズ文学を読み、それを自らの作品に取り入れたのかを考察する。併せて、同時期に書かれた『新しい文学のために』を読み、文学理論についても学ぶ。

■学修目標

1．比較文学の方法論を習得する。
2．大江作品とディケンズ文学との関係性を具体的に指摘できる。
3．1980年代以降の大江文学の方向性が理解できる。

■授業計画

※本授業は、毎回対面授業を行う予定である。

第１回目　　イントロダクション
第２回目　　響きあう父と子
第３回目　　信仰を持たない者の祈り
第４回目　　Reading Week
第５回目　　『キルプの軍団』書評
第６回目　　Reading Week
第７回目　　『新しい文学のために』と『キルプの軍団』
第８回目　　カーニバルとグロテスク・リアリズム（１）
第９回目　　カーニバルとグロテスク・リアリズム（２）
第１０回目　　インタビュー、鼎談
第１１回目　　評論
第１２回目　　小説のなかの子供
第１３回目　　病からの恢復
第１４回目　　語りの構造
第１５回目　　まとめ

■教科書

大江健三郎『キルプの軍団』岩波文庫（2018）。

■参考書

大江健三郎『新しい文学のために』岩波新書（1988）。

■成績の評価基準

レポート（30%）と授業への取り組み態度（70%）による。

■オフィスアワー

木曜日・5時限・研究室（共通教育棟2号館2階）
※オフィスアワーは当面実施しない。

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
日本文化史特論演習			
■英語名			
Japanese Cultural History(seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
金井静香	099-285-7553	kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

主に島津荘域の中世に関する史料・史跡などについて検討することにより、南九州の荘園公領制と中世文化の関係について考察する。島津荘が広がっていた薩摩・大隅・日向の三ヵ国内をいくつかの地域に分け、各域内の中世史を整理して跡づけるとともに、関係史料の読解を行う。

■学修目標

(1) 漢文史料を読み下し解釈する能力を養う。
(2) 史料に基づき考察する能力を養う。
(3) 日本中世史研究の方法に習熟する。

■授業計画

※本授業は、毎回対面方式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　ガイダンス
第２回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（１）
第３回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（２）
第４回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（３）
第５回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（４）
第６回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（５）
第７回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（６）
第８回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（７）
第９回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（８）
第１０回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（９）
第１１回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（１０）
第１２回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（１１）
第１３回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（１２）
第１４回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（１３）
第１５回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（１４）

■教科書

本授業において読解する史料は、授業の際に受講者とともに選定する。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

史料の読み下し及び現代語訳（35%）、発表及び討論（35%）、授業への取り組み態度（30%）

■オフィスアワー

月曜日５限

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
思想文化特論演習			
■英語名			
Thought and Culture (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
近藤和敬	099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
近現代のヨーロッパ哲学の近年の動向と問題意識を、論文の読解を通じて理解する。			
■学修目標			
近現代のヨーロッパ哲学の研究動向を理解し、自らの研究を位置づけられるようになること			
■授業計画			
１．ガイダンス（ZOOM） ２～１５．教員、学生による論文の紹介と議論（ZOOM）			
■教科書			
なし			
■参考書			
授業中に適宜指示する			
■成績の評価基準			
授業への参加と期末のレポート			
■オフィスアワー			
随時			
■受講要件			
特になし			
■備考			
特になし			

■科目名			
思想文化特論演習			
■英語名			
Thought and Culture (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
近藤和敬	099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
近現代哲学の最新の研究動向について議論する			
■学修目標			
近現代哲学の近年の動向について理解し、自らの研究を文脈に位置づけられるようになること。			
■授業計画			
１．ガイダンス ２～１５．教員、学生による論文の紹介と議論			
■教科書			
なし			
■参考書			
授業中に適宜指示する。			
■成績の評価基準			
授業への参加の度合いと期末のレポート			
■オフィスアワー			
随時			
■受講要件			
なし			
■備考			
特になし			

■科目名			
思想文化特論			
■英語名			
Thought and Culture			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
近藤和敬	099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
近代批判という観点から、ドゥルーズとガタリの「内在の哲学」について解説する。			
■学修目標			
ドゥルーズとガタリの思想について理解し、その問題意識などを学ぶこと。			
■授業計画			
１．ガイダンス（ZOOM＋OD） ２．ドゥルーズの思想の概要（ZOOM＋OD） ３～７．「内在」概念の考古学（ZOOM＋OD） ８～１０．「擬製的創造」について（ZOOM＋OD） １１～１５．『哲学とは何か』について（ZOOM＋OD）			
■教科書			
ドゥルーズ、ガタリ（財津理訳）『哲学とは何か』河出書房新社、2012 近藤和敬『〈内在の哲学〉へ』青土社、2019年。 近藤和敬『ドゥルーズとガタリの『哲学とは何か』を精読する』（講談社）2020年。			
■参考書			
授業中に適宜指示する			
■成績の評価基準			
期末のレポートと授業参加			
■オフィスアワー			
随時			
■受講要件			
特になし			
■備考			
特になし			

■科目名			
現代ドイツ文学特論演習			
■英語名			
Contemporary German Literature (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
竹岡 健一	099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

目的：本授業は、ドイツ語圏の現代文学を研究するために必要な読解力を身につけることと、それを通じてドイツ語圏の現代文学の特色に精通することを目的とする。
内容：ドイツ語圏を代表する文芸作品や文献を精読することによって高度な読解力を養い、それを通してドイツ語圏の現代文学の特性を学ぶ。
方法：テキストの訳読と討論による。

■学修目標

１．現代ドイツ文学の作品や文献を自ら講読することができる。
２．現代ドイツ文学の特色を説明することができる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　オリエンテーション：授業の概要と学修目標の確認
第２回　テキストの訳読と討論（１）　フーゴー・フォン・ホーフマンスタール
第３回　テキストの訳読と討論（２）　ライナー・マリーア・リルケ
第４回　テキストの訳読と討論（３）　トーマス・マン
第５回　テキストの訳読と討論（４）　ヘルマン・ヘッセ
第６回　テキストの訳読と討論（５）　ハンス・カロッサ
第７回　テキストの訳読と討論（６）　ローベルト・ムズィール
第８回　テキストの訳読と討論（７）　シュテファン・ツヴァイク
第９回　テキストの訳読と討論（８）　フランツ・カフカ
第１０回　テキストの訳読と討論（９）　ヘルマン・ブロッホ
第１１回　テキストの訳読と討論（１０）　ベルトルト・ブレヒト
第１２回　テキストの訳読と討論（１１）　ハインリヒ・ベル
第１３回　テキストの訳読と討論（１２）　ギュンター・グラス
第１５回　授業のまとめとふりかえり：身についた事柄の確認
期末試験は行わず、平素の授業への取り組み態度により評価する。

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

・Mario Andreotti: Die Struktur der modernen Literatur: neue Formen und Techniken des Schreibnes: Erzaehlprosa und Lyrik: mit einem Glossar zu literarischen, linguistischen und pjilosophischen Grundbegriffen. Haupt, 2014.
・Ingo Irsigler: Einfuehrung in die Literatur der Wiener Moderne. WBG, 2015.
・Wilhelm Kosch (Hrsg.): Deutsches Literatur-Lexikon: das 20. Jahrhundert: biographisch-bibliographisches Handbuch. De Gruyter, 2021.
・David E. Wellbery (Hrsg.): Eine neue Geschichte der deutschen Literatur. Wbg Theiss, 2019.
・Horst Brunner: Literarisches Leben: Studien zur deutschen Literatur. E. Schmidt, 2018.
・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）
・深見茂編『ドイツ文学を学ぶ人のために』（世界思想社、1991年）

■成績の評価基準

テキストの訳読と討論を100%する。

■オフィスアワー

月曜2限

■受講要件

なし。

■備考

なし。

■科目名			
中国語学特論			
■英語名			
Chinese Linguistics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
三木夏華	0992857502	sanmu@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

統語論、語用論などに関する文献、論文の講読を行い、関連する諸問題について考察する。

■学修目標

１．統語論、語用論などの専門知識を習得する。
２．日本語だけでなく、中国語などの外国語で書かれた資料を読むことにより、外国語の読解力を向上させる。

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回講読（対面）
第3回講読（対面）
第4回講読（対面）
第5回講読（対面）
第6回講読（対面）
第7回講読（対面）
第8回講読（対面）
第9回講読（対面）
第10回講読（対面）
第11回講読（対面）
第12回講読（対面）
第13回講読（対面）
第14回　講読（対面）
第15回　総括

■教科書

講義中に紹介する。

■参考書

受講生の関心に応じて授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

平常点（出席、発表、受講態度）100%　。

■オフィスアワー

木曜２限

■受講要件

ある程度の日本語能力（日本語での質疑応答、発表が可能）と中国語の運用能力（中国語の論文購読が可能）がある受講生に限る。

■備考

特になし

■科目名			
中国文学特論			
■英語名			
Chinese Literature			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
高津孝	099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

ヨーロッパが、ギリシャ以来の文学理論の伝統を有するように、中国も二千年を越える長い文学理論の歴史を有する。中国文学理論の歴史を概観し、新たな問題意識のもとに、中国の古典文学理論を問い直し、中国文学理論の諸問題について詳細な検討を加えていく。

■学修目標

１，中国文学理論史の展開を理解する。
２，中国文学理論の基礎資料の内容に習熟する。
３，中国文学理論研究における問題点を理解する。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　導入
第２回　先秦の文学批評
第３回　漢代の文学批評
第４回　魏晋南北朝の文学批評：典論論文
第５回　魏晋南北朝の文学批評：文賦
第６回　魏晋南北朝の文学批評：文心雕龍
第７回　魏晋南北朝の文学批評：詩品
第８回　隋唐五代の文学批評
第９回　宋金元の文学批評：文学否定論
第１０回　宋金元の文学批評：蘇軾
第１１回　宋金元の文学批評：滄浪詩話
第１２回　明清の文学批評：李卓吾と公安派
第１３回　明清の文学批評：明清の三詩説
第１４回　明清の文学批評：桐城派古文
第１５回　まとめ

■教科書

周勲初著『中国古典文学批評史』（高津孝訳、勉誠出版、2007年）を使用する。また、受講生と相談してテキストを決定することがある。

■参考書

蒋寅　『古典詩学的現代詮釈』（中華書局、2003年）

■成績の評価基準

レポート（50%）と平常点（50%）による。平常点は出席、報告、受講態度である。

■オフィスアワー

金曜日・2限・中国文学研究室

■受講要件

特になし。

■備考

授業の計画は、受講生の研究テーマや関心を考慮して変更することもある。

■科目名			
中国言語文化特論演習			
■英語名			
Language and Culture of China (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中筋健吉	099-285-8893	k9553471@kadai.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

本演習では、梁・昭明太子撰『文選』を李善注と五臣注を比較しつつ講読することを通じて、古典文献の読解や関係する諸資料についての知識を習得、またそれらの検索方法を身につけることを目的とする。

今季は前漢・揚雄の「羽獵賦」（巻８）の前年度の終了時の続きから講読する。

■学修目標

1. 古典文献（特に『文選』）の読解力を習得する。
2. 作品の背後にある時代背景や文学史的知識を習得する。
3. 関連する諸資料についての知識を習得し、それらの検索方法を身につける。
4. レポート、論文制作にいたるテーマの選定や調査、報告のスキルを身につける。

■授業計画

第１回　ガイダンスと『文選解題』（１）
第２回　『文選解題』（２）
第３回　「羽獵賦」発表と討論（１）
第４回　「羽獵賦」発表と討論（２）
第５回　「羽獵賦」発表と討論（３）
第６回　「羽獵賦」発表と討論（４）
第７回　「羽獵賦」発表と討論（５）
第８回　「羽獵賦」発表と討論（６）
第９回　「羽獵賦」発表と討論（７）
第10回　「羽獵賦」発表と討論（８）
第11回　「羽獵賦」発表と討論（９）
第12回　「羽獵賦」発表と討論（10）
第13回　「羽獵賦」発表と討論（11）
第14回　「羽獵賦」発表と討論（12）
第15回　まとめ

■教科書

『文選』（清・胡克家本）　授業に先立ってプリントを配布する。

■参考書

『全釈漢文大系　文選』（花房英樹編訳　集英社刊）
『新釈漢文大系　文選』（明治書院刊　原田種茂）等。
その他については授業中適宜紹介する。

■成績の評価基準

毎回の発表とレジュメ(50%)および期末レポート(50%)の結果を考慮して総合的に評価する。

■オフィスアワー

不在時以外随時。但し事前にメールでご連絡ください。

■受講要件

特になし。

■備考

受講生や授業の状況に応じて計画内容を変更することもある。

■科目名			
イギリス文学特論			
■英語名			
English Literature			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大和高行	099-285-7570	yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

本講では、18～20世紀イギリス文学に関する基本的な文献を講読し、検討を行う。講読する文献は国内外の単行本および雑誌論文から選ぶ予定だが、何を読むかは受講生と相談の上決める。

■学修目標

１、18～20世紀イギリス文学研究の動向を理解する
２、18～20世紀イギリス文学の方法と諸問題について述べることができる
３、修士論文作成に必要な英語読解能力を養う

■授業計画

第1回 ガイダンス(ZOOMによるオンライン型)
第2回 発表と討論(1)(ZOOMによるオンライン型)
第3回 発表と討論(2)(ZOOMによるオンライン型)
第4回 発表と討論(3)(ZOOMによるオンライン型)
第5回 発表と討論(4)(ZOOMによるオンライン型)
第6回 発表と討論(5)(ZOOMによるオンライン型)
第7回 発表と討論(6)(ZOOMによるオンライン型)
第8回 発表と討論(7)(ZOOMによるオンライン型)
第9回 発表と討論(8)(ZOOMによるオンライン型)
第10回 発表と討論(9)(ZOOMによるオンライン型)
第11回 発表と討論(10)(ZOOMによるオンライン型)
第12回 発表と討論(11)(ZOOMによるオンライン型)
第13回 発表と討論(12)(ZOOMによるオンライン型)
第14回 発表と討論(13)(ZOOMによるオンライン型)
第15回 総括(ZOOMによるオンライン型)

＊オンライン型講義は教室での通常講義に変更になる可能性がある。

■教科書

・The Girl's Own Paper, vols. 1-4, Eureka Press
・The Englishwoman's Year Book and Directory, 1899-1916, Part 1, アーティナ・プレス
・The Englishwoman's Year Book and Directory, 1899-1916, Part 2, アーティナ・プレス
・吉田徹夫(監修)『映画で楽しむイギリスの歴史』東京、金星堂、2010年。

■参考書

・井野瀬久美惠『興亡の世界史 大英帝国という経験』(講談社学術文庫)東京、講談社、2017年。
・鹿児島近代初期英国演劇研究会(訳)『王政復古期シェイクスピア改作戯曲選集』福岡、九州大学出版会、2018年。
・吉田徹夫(監修)『映画で楽しむイギリスの歴史』東京、金星堂、2010年。
その他、授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

レポート（60%）と平常点（40%）。

■オフィスアワー

水曜日9:15～10:15、大和研究室（法文学部棟１号館４階）。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
現代ヨーロッパ・アメリカ文化特論演習			
■英語名			
Modern European and American Cultural Studies (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
梁川英俊	099-285-8891	yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

現代の欧米諸国の文化に関する英語及び仏語による文献を講読し、討論を行う。テーマについては受講生と相談のうえで決める。

■学修目標

(1) ヨーロッパ文化に関する理解を深める
(2) 異文化理解に必要な感度を養う
(3) 文献を整理・読解する能力を養う

■授業計画

●本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

第１回：　ガイダンス（課題提出型授業）
第２回～第１５回：　外国語文献講読及び討論（課題提出型授業）

なお、今後の状況によっては授業回数・授業内容の見直しもあり得る。

■教科書

必要に応じて適宜、指定する。

■参考書

必要に応じて適宜、指定する。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（50%）＋課題提出（50%）

■オフィスアワー

授業当日の昼休み。場所は研究室。

■受講要件

なし

■備考

授業形態はコロナウイルス感染症の影響、その他の理由で変更することがある。

■科目名			
現代ヨーロッパ・アメリカ文化特論			
■英語名			
Modern European and American Cultural Studies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
梁川英俊	099-285-8891	yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

●本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

近現代のヨーロッパの文化現象のなかから幾つかのトピックを選び、文献・映像・録音等の資料をもとにその歴史的・思想的な背景を検討し、あわせて西欧文化の特質に関する理解を養う。テーマについては受講生と相談のうえで決める。

■学修目標

（１）ヨーロッパ文化に関する理解を深める
（２）異文化理解に必要な感度を養う

■授業計画

第１回　　ガイダンスとテーマ決定
第２回～第１４回　報告と討論
第１５回　　まとめ

■教科書

必要に応じて適宜、指定する。

■参考書

必要に応じて適宜、指定する。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（50%）＋期末試験（50%）

■オフィスアワー

授業当日の昼休み。場所は研究室。

■受講要件

なし

■備考

授業形態はコロナウイルス感染症の影響、その他の理由で変更することがある。

■科目名			
日本文化史特論演習			
■英語名			
Japanese Cultural History(seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
金井静香	099-285-7553	kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

主に島津荘域の中世に関する史料・史跡などについて検討することにより、南九州の荘園公領制と中世文化の関係について考察する。鹿児島県をいくつかの地域に分け、各域内の中世史を整理して跡づけるとともに、関係史料の読解を行う。

■学修目標

(1) 漢文史料を読み下し解釈する能力を養う。
(2) 史料に基づき考察する能力を養う。
(3) 日本中世史研究の方法に習熟する。

■授業計画

※本授業は、毎回対面形式でおこなう予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　ガイダンス
第２回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（１）
第３回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（２）
第４回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（３）
第５回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（４）
第６回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（５）
第７回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（６）
第８回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（７）
第９回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（８）
第１０回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（９）
第１１回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（１０）
第１２回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（１１）
第１３回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（１２）
第１４回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（１３）
第１５回　南九州の荘園公領制と中世文化に関する史料の読解、討論（１４）

■教科書

本授業において読解する史料は、授業の際に受講者とともに選定する。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

史料の読み下し及び現代語訳（35%）、発表及び討論（35%）、授業への取り組み態度（30%）

■オフィスアワー

あらかじめアポイントをとること。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
日本文化史特論			
■英語名			
Japanese Cultural History			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
金井静香	099-285-7553	kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
荘園公領制の研究は、日本中世の政治史・社会史・文化史といった幅広い研究分野と関わりを持ちつつ進展している。本授業では、日本中世史の論文を精読し、広義の中世文化が土地制度の構造からどのような影響を受けていたかを考察する。			
■学修目標			
(1) 荘園公領制と中世文化の関係について理解する。 (2) 日本史研究の方法や成果を学ぶ。 (3) 日本史研究の課題について考察する。			
■授業計画			
※本授業は、毎回対面方式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。 第１回　ガイダンス 第２回　荘園公領制と中世文化に関する講義（１） 第３回　荘園公領制と中世文化に関する発表と討論（１） 第４回　荘園公領制と中世文化に関する発表と討論（２） 第５回　荘園公領制と中世文化に関する発表と討論（３） 第６回　荘園公領制と中世文化に関する発表と討論（４） 第７回　荘園公領制と中世文化に関する発表と討論（５） 第８回　荘園公領制と中世文化に関する発表と討論（６） 第９回　荘園公領制と中世文化に関する講義（２） 第１０回　荘園公領制と中世文化に関する発表と討論（７） 第１１回　荘園公領制と中世文化に関する発表と討論（８） 第１２回　荘園公領制と中世文化に関する発表と討論（９） 第１３回　荘園公領制と中世文化に関する発表と討論（１０） 第１４回　荘園公領制と中世文化に関する発表と討論（１１） 第１５回　荘園公領制と中世文化に関する発表と討論（１２）			
■教科書			
本授業において精読する論文は、授業の際に受講者とともに選定する。			
■参考書			
授業中に適宜紹介する。			
■成績の評価基準			
発表（35%）、レポート（35%）、授業への取り組み態度（30%）			
■オフィスアワー			
月曜日５限			
■受講要件			
特になし			
■備考			
特になし			

■科目名			
日本語構造特論演習			
■英語名			
Linguistic Structure of Japanese (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
内山弘	099-285-8906	pon@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

テーマ：日本語資料を読むII

本演習では、いくつかの著名な文献資料を取り上げ、実際に本文を読解しつつ、さまざまな面からアプローチして日本語資料としての資料性を追究する。

■学修目標

・文献日本語史の研究方法についての知識が得られる。
・様々な文献資料を読むことで資料性の違いを実地に学ぶことができる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回：ガイダンス
第２回：今昔物語集その１
第３回：今昔物語集その２
第４回：類聚名義抄その１
第５回：類聚名義抄その２
第６回：日本書紀私記その１
第７回：日本書紀私記その２
第８回：下官集
第９回：平家物語（増補系）
第１０回：平家物語（語り系）その１
第１１回：平家物語（語り系）その２
第１２回：キリシタン資料その１
第１３回：キリシタン資料その２
第１４回：狂言台本その１
第１５回：狂言台本その２

■教科書

適宜資料を配布する。

■参考書

特に定めない。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（100%）

■オフィスアワー

金曜４限（事前にメールでアポイントを取れば他の時間でも可能）

■受講要件

特に定めない。

■備考

受講生の研究テーマや関心を考慮して授業計画を変更することがある。

■科目名			
アジア文化史特論演習			
■英語名			
Cultural History of Asia (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大田由紀夫	099-285-7560	ota@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
本演習では、前期に引き続いて中国明代初期の財政史に関する漢籍資料を読解し、当時の財政システムについて考察を進めていく。			
■学修目標			
1. 漢文読解力のための基礎的技術を習得する。 2. 基本的な史料操作が行える。			
■授業計画			
第１回　　ガイダンス 第２回～１５回　明代初期諸史料の講読 ※なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知する。			
■教科書			
史料プリントを配布。			
■参考書			
授業において適宜指示する。			
■成績の評価基準			
授業態度40%、史料読解度60%			
■オフィスアワー			
授業・会議等以外であればいつでも可。			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
アジア文化史特論			
■英語名			
Cultural History of Asia			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大田由紀夫	099-285-7560	ota@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

本講では、中国近世史研究（特に明代史研究）に関する研究文献等を幾つか取り上げ、現在この分野においてどのような研究が展開されているのかについて議論する予定である。ただし、受講生との相談によって内容を変更することもあり得る。

■学修目標

1. 近世中国の歴史に関する基礎的知識を習得する。
2. 中国近世史研究の現状を理解してその課題の一端を提示できる。

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　中国史の特質その１
第３回　中国史の特質その２
第４回　近世中国史研究の現在その１
第５回　近世中国史研究の現在その２
第６回　社会その１
第７回　社会その２
第８回　都市と農村その１
第９回　都市と農村その２
第１０回　中国と東アジアその１
第１１回　中国と東アジアその２
第１２回　東アジア諸社会の比較その１
第１３回　東アジア諸社会の比較その２
第１４回　東アジア諸社会の比較その３
第１５回　まとめ

※なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知する。

■教科書

特になし。

■参考書

授業において適宜指示する。

■成績の評価基準

授業理解度60%、発言評価点40%

■オフィスアワー

授業・会議等以外であればいつでも可。

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
日本語構造特論			
■英語名			
Linguistic Structure of Japanese			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
内山弘	099-285-8906	pon@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			

■授業概要

テーマ：近代語概説

日本語を古代語と近代語に区分する場合、近代語はさらに中世語、近世語、近現代語に区分される。高等学校の教科で言えば、中世語と近世語は古文、近現代語は現代文に相当するが、前者は中古語から近現代語へと移行する過渡期の言語であり、中世語～近現代語を近代語として連続的に見ていくことで古文と現代文を有機的に捉えることが可能になる。

本講義では、近代語を「中世語」「近世語」「近現代語」の三つに分け、それぞれ部門ごとに概説していく。

■学修目標

・近代語を通時的に見ていくことで近代語についての総合的・体系的な知識を得ることができる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回：はじめに――古代語から近代語へ
第２回：前期中世語（１）――院政・鎌倉期の資料その１
第３回：前期中世語（２）――院政・鎌倉期の資料その２
第４回：前期中世語（３）――院政・鎌倉期の音韻・表記
第５回：前期中世語（４）――院政・鎌倉期の文法と語彙
第６回：後期中世語（１）――南北朝・室町期の資料その１
第７回：後期中世語（２）――南北朝・室町期の資料その２
第８回：後期中世語（３）――南北朝・室町期の音韻・表記
第９回：後期中世語（４）――南北朝・室町期の文法
第１０回：後期中世語（５）――南北朝・室町期の語彙
第１１回：近世語（１）――近世語の資料
第１２回：近世語（２）――近世語の音韻・表記
第１３回：近世語（３）――近世語の文法・語彙
第１４回：近現代語（１）――共通語と現代仮名遣の成立
第１５回：近現代語（２）――その他

■教科書

適宜資料を配布する。

■参考書

特に定めない。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（100%）

■オフィスアワー

金曜５限（事前にメールでアポイントを取れば他の時間でも可能）

■受講要件

1・2期または3・4期連続で受講することが望ましい。

■備考

受講生の研究テーマや関心を考慮して授業計画を変更することがある。

■科目名			
中国言語文化特論			
■英語名			
Language and Culture of China			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中筋健吉	099-285-8893	k9553471@kadai.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

「文選研究」
　本講では現存する中国古典総集の梁・昭明太子撰『文選』を取り上げ、この書に関わる諸研究を概観し、もって「文選研究」の現況理解につとめたい。
　授業では屈守元『文選導讀』（巴蜀書社・1993年）をテキストとして、『文選』編纂の経緯をめぐる研究状況を概観する。

■学修目標

１．『文選』に関する知識を習得する。
２．中国文学史に関する知識を習得する。
３．中国文学の歴史的、文化的背景を理解する。

■授業計画

第１回　ガイダンス / 「文選解題」（１）
第２回　「文選解題」(２)
第３回　『文選』成立のプロセスに関わる研究状況（１）
第４回　『文選』成立のプロセスに関わる研究状況（２）
第５回　『文選』編纂者に関わる研究状況(１)
第６回　『文選』編纂者に関わる研究状況(２)
第７回　『文選』編纂者に関わる研究状況(３)
第８回　『文選』成立年代に関わる研究状況(１)
第９回　『文選』成立年代に関わる研究状況(２)
第10回　『文選』収録の諸文体に関わる研究状況
第11回　『文選』収録の著名作品に関わる研究状況(１)
第12回　『文選』収録の著名作品に関わる研究状況(２)
第13回　『文選』と他の文学批評書、総集に関わる研究状況（１）
第14回　『文選』と他の文学批評書、総集に関わる研究状況（２）
第15回　まとめ

■教科書

屈守元『文選導讀』（巴蜀書社・1993年）。また、資料として授業中適宜プリントを配布する。

■参考書

清水凱夫『新文選学の検討』、岡村繁『文選の研究』、その他、授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

毎回の出席を前提とし、学期中（適宜）ならびに学期末のレポートによる総合評価。

■オフィスアワー

特に指定はしないが、来室にあたっては事前にアポイントをとっていただくとありがたい。

■受講要件

特になし。

■備考

受講生や授業の状況に応じて計画内容を変更することもある。

■科目名			
比較文学特論演習			
■英語名			
Comparative Literature (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
井原慶一郎	099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

前期の授業に基づき、『キルプの軍団』の主人公が作中でディケンズの『骨董屋』(1840-1)を読んでいた読み方を参考にして、『骨董屋』を精読する。

■学修目標

１．英文の読解力を涵養する。
２．文学作品を日本語に翻訳できる。
３．ディケンズ文学の魅力について説明できる。

■授業計画

第1回　イントロダクション
第2回　『骨董屋』精読(1)
第3回　『骨董屋』精読(2)
第4回　『骨董屋』精読(3)
第5回　『骨董屋』精読(4)
第6回　『骨董屋』精読(5)
第7回　『骨董屋』精読(6)
第8回　『骨董屋』精読(7)
第9回　『骨董屋』精読(8)
第10回　『骨董屋』精読(9)
第11回　『骨董屋』精読(10)
第12回　『骨董屋』精読(11)
第13回　『骨董屋』精読(12)
第14回　『骨董屋』精読(13)
第15回　まとめ

※zoomを使った遠隔授業を実施予定

■教科書

The Old Curiosity Shop, Penguin Classics, 1985.

■参考書

大江健三郎『キルプの軍団』講談社文庫（2007）。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度による。

■オフィスアワー

木曜日・5時限・研究室（共通教育棟2号館2階）

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
ヨーロッパ・アメリカ比較社会史特論演習			
■英語名			
Comparative History of Western Society (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
藤内哲也	099-285-8863	ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

中世～近世のヨーロッパ史に関する外国語の史料や研究文献を読んでいきます（受講生によっては、日本語の資料や文献を読むこともあります）。具体的なテーマは受講者との相談により決定します。単に日本語に置き換えて意味を理解するだけでなく、論文全体の趣旨を的確に把握し、その問題設定や分析手法、論証過程などを検討して、修士論文作成に必要な歴史学研究のスキルを身につけていきましょう。

■学修目標

１．ヨーロッパ史研究におけるさまざまな問題についての理解を深める
２．歴史研究の視点や手法について理解する
３．修士論文作成に必要な外国語文献の読解能力を高める

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行います。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業中に通知します。

第１回　ガイダンス
第２回　文献読解の方法
第３回　文献読解（１）
第４回　報告・討論（１）
第５回　文献読解（２）
第６回　報告・討論（２）
第７回　文献読解（３）
第８回　報告・討論(３）
第９回　文献読解（４）
第１０回　報告・討論（４）
第１１回　文献読解（５）
第１２回　報告・討論（５）
第１３回　文献読解（６）
第１４回　報告・討論（６）
第１５回 まとめと展望

■教科書

とくに指定しません。適宜プリント等を配布します

■参考書

金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年
その他の文献は授業中に紹介します

■成績の評価基準

報告、討論などへの参加等により、総合的に判断します（100%）

■オフィスアワー

金曜４限（メールにてアポをとること）

■受講要件

とくになし

■備考

とくになし

■科目名			
英語構造特論			
■英語名			
Linguistic Structure of English			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
末松信子	099-285-7572	suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

本講義では後期近代英語の統語法に関する論文を読み、英語の構造およびその変遷について学ぶ。

■学修目標

1．英語史の流れを述べることができる。
2．後期近代英語の特徴について述べることができる。
3．現代英語の構造を英語史と関連づけて理解することができる。

■授業計画

＊対面形式でおこなう予定であるが、状況によっては遠隔形式に変更となる可能性がある。
授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回　ガイダンス
第２回　The decline of the BE-perfect, linguistic relativity, and grammar writing in the nineteenth century
第３回 Let's not, let's don't and don't let's in British and American English
第４回　Do we got a difference? Divergent developments of semi-auxiliary (have) got (to) in British and American English
第５回　From contraction to construction? The recent life of 'll
第６回 Books that sell - mediopassives and the modification 'constraint'
第７回 Beyond mere syntactic change: a micro-analytical study of various and numerous
第８回 Culturally conditioned language change? A multivariate analysis of genitive constructions in ARCHER
第９回 On the changing status of that-clauses
第１０回 Variability in verb complementation in Late Modern English: finite vs. non-finite patterns
第１１回 Opposite developments in composite predicate constructions: the case of take advantage of and make use of
第１２回 Constrained confusion: the gerund/participle distinction in Late Modern English
第１３回 If you choose/like/prefer/want/wish: the origin of metalinguistic and politeness functions
第１４回 Epistemic parentheticals with seem: Late Modern English in focus
第１５回　Syntactic stability and change in nineteenth-century newspaper language

■教科書

プリントを配布する。

■参考書

必要に応じて適宜、指示する。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（４０％）
レポート（６０％）

■オフィスアワー

水曜日10:00～12:00

■受講要件

特になし

■備考

使用するテキストについては、受講生の関心に合わせて変更することがある。

■科目名			
日本社会史特論			
■英語名			
Japanese Social History			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
佐藤宏之	099-285-7846	h-sato@edu.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

ジェンダーという概念はおよそ４０年前に登場し、さまざまな分野に適用されて、その分野の研究に画期的な変化を与え、同時にジェンダー概念自体も深化してきた。実際にジェンダーの研究で歴史はどう書き換えられるのだろうか。歴史学におけるジェンダー概念の必要性を確認し、今後の研究の方向性を模索したい。

参加者が毎回一人ずつテキスト・参考文献の担当部分について報告し、そのあと全員で討論する。授業１コマにつき、参加者１人の個別報告（30分程度）を求め、質疑応答を行ったのち、コメントする。

■学修目標

・歴史学研究の最先端の研究を批判的に読み込み、歴史を読み解く力を身につける。
・研究の到達点や論点をあきらかにし、今後の研究の方向性や課題について理解を深める。
・現代社会の秩序や価値観を相対化する眼を養う。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更するさいは、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回：ガイダンス・報告分担の決定
第２回：担当者による報告と討論(1)
第３回：担当者による報告と討論(2)
第４回：担当者による報告と討論(3)
第５回：担当者による報告と討論(4)
第６回：担当者による報告と討論(5)
第７回：担当者による報告と討論(6)
第８回：担当者による報告と討論(7)
第９回：担当者による報告と討論(8)
第10回：担当者による報告と討論(9)
第11回：担当者による報告と討論(10)
第12回：担当者による報告と討論(11)
第13回：担当者による報告と討論(12)
第14回：担当者による報告と討論(13)
第15回：担当者による報告と討論(14)
第16回：期末レポート

■教科書

『歴史評論』第672号（「歴史におけるジェンダー研究の現在」）、第684号（「子育ての歴史」）、第747号（「奥」からみる近世武家社会）、第748号（「歴史認識とジェンダー」）の４冊を各自購入のこと。

■参考書

『新体系日本史9　ジェンダー史』（山川出版社、2014年）、『歴史を読み替える　ジェンダーから見た日本史』（大月書店、2015年）
※授業内で適宜論文を紹介するので積極的に読んで授業に臨むこと。

■成績の評価基準

１）授業での報告・討論（50%）、２）期末レポート（50%）によって評価する。

■オフィスアワー

金曜4限（事前にメールにて連絡をすること）

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
ドイツ語圏音楽文化特論			
■英語名			
Music culture in German-speaking countries			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
梅林郁子	099-285-7899	ume@edu.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

●全15回の授業を対面形式で実施予定（コロナウイルス感染拡大予防等のため、遠隔に変更の可能性がある）

ドイツ・リートは18世紀後半から20世紀前半に発展した、音楽における主要な一ジャンルである。本授業では、リートの詩と音楽（歌唱とピアノ、または歌唱とオーケストラ）を総合的に捉えながら、各作曲者の作品を分析的に考察することで、各作曲者の作曲技法とともに、ジャンルの持つ特性とその変遷を理解する。

■学修目標

1．18世紀後半から20世紀前半における、ドイツ語圏の作曲者の、リート作曲法を理解する。
2．リートのジャンルとしての発展を理解する。

■授業計画

第　１回：古典派以前のリート 1
第　２回：古典派以前のリート 2
第　３回：古典派以前のリート 3
第　４回：古典派のリート
第　５回：W．A．モーツァルト
第　６回：L．v．ベートーヴェン
第　７回：ロマン派のリート
第　８回：F．シューベルト
第　９回：R．シューマン
第１０回：J．ブラームス
第１１回：H．ヴォルフ
第１２回：G．マーラー
第１３回：R．シュトラウス　他
第１４回：20世紀以降のリート
第１５回：A．シェーンベルク　他

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

石多正男．2014.『歌曲(リート)と絵画で学ぶドイツ文化史:中世・ルネサンスから現代まで』慶應義塾大学出版会．　他

■成績の評価基準

期末レポート課題（80%程度）と授業への積極的な参加態度（20%程度）で、総合的に評価する。

■オフィスアワー

水４限（研究室は、教育学部音美棟２階）

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
比較文化特論			
■英語名			
Intercultural Theory			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
與倉アンドレーア	099-285-7578	yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
文学を通して比較文化を学ぶ。			
■学修目標			
比較文化に関する知識を得て、比較文化への理解を深める。			
■授業計画			
履修する学生の興味にあわせてテキストと文献を決めて授業を進めていく。 授業の進め方は、文学のテキストおよび関連する文献を受講生とともに読み進め、 適宜受講生に発表させる形態をとる。 Depending on the participating students the material used and the language during class may be German or English.			
■教科書			
開講時に指示する。			
■参考書			
開講時に指示する。			
■成績の評価基準			
発表とレポートなどに基づき、総合的に評価する。			
■オフィスアワー			
月曜日3限。あるいは、e-mailでappointmentをとってください。			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし			

■科目名			
現代ドイツ文学特論演習			
■英語名			
Contemporary German Literature (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
竹岡健一	099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

目的：本授業は、ドイツ語圏の現代文学を研究するために必要な読解力を身につけることと、それを通じてドイツ語圏の現代文学の特色に精通することを目的とする。
内容：ドイツ語圏を代表する文芸作品や文献を精読することによって高度な読解力を養い、それを通してドイツ語圏の現代文学の特性を学ぶ。
方法：テキストの訳読と討論による。

■学修目標

１．現代ドイツ文学の作品や文献を自ら講読することができる。
２．現代ドイツ文学の特色を説明することができる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　オリエンテーション：授業の概要と学修目標の確認
第２回　テキストの訳読と討論（１）　フーゴー・フォン・ホーフマンスタール
第３回　テキストの訳読と討論（２）　ライナー・マリーア・リルケ
第４回　テキストの訳読と討論（３）　トーマス・マン
第５回　テキストの訳読と討論（４）　ヘルマン・ヘッセ
第６回　テキストの訳読と討論（５）　ハンス・カロッサ
第７回　テキストの訳読と討論（６）　ローベルト・ムズィール
第８回　テキストの訳読と討論（７）　シュテファン・ツヴァイク
第９回　テキストの訳読と討論（８）　フランツ・カフカ
第１０回　テキストの訳読と討論（９）　ヘルマン・ブロッホ
第１１回　テキストの訳読と討論（１０）　ベルトルト・ブレヒト
第１２回　テキストの訳読と討論（１１）　ハインリヒ・ベル
第１３回　テキストの訳読と討論（１２）　ギュンター・グラス
第１５回　授業のまとめとふりかえり：身についた事柄の確認
期末試験は行わず、平素の授業への取り組み態度により評価する。

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

・Mario Andreotti: Die Struktur der modernen Literatur: neue Formen und Techniken des Schreibnes:Erzaehlprosa und Lyrik: mit einem Glossar zu literarischen, linguistischen und pjilosophischen Grundbegriffen. Haupt, 2014.
・Ingo Irsigler: Einfuehrung in die Literatur der Wiener Moderne. WBG, 2015.
・Wilhelm Kosch (Hrsg.): Deutsches Literatur-Lexikon: das 20. Jahrhundert: biographisch-bibliographisches Handbuch. De Gruyter, 2021.
・David E. Wellbery (Hrsg.): Eine neue Geschichte der deutschen Literatur. Wbg Theiss, 2019.
・Horst Brunner: Literarisches Leben: Studien zur deutschen Literatur. E. Schmidt, 2018.
・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）
・深見茂編『ドイツ文学を学ぶ人のために』（世界思想社、1991年）

■成績の評価基準

テキストの訳読と討論を100%する。

■オフィスアワー

月曜2限

■受講要件

なし。

■備考

なし。

■科目名			
現代ヨーロッパ・アメリカ文化特論演習			
■英語名			
Modern European and American Cultural Studies (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
梁川英俊	099-285-8891	yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
●本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。 現代の欧米諸国の文化に関する英語及び仏語による文献を講読し、討論を行う。テーマについては受講生と相談のうえで決める。			
■学修目標			
(1) ヨーロッパ文化に関する理解を深める (2) 異文化理解に必要な感度を養う (3) 文献を整理・読解する能力を養う			
■授業計画			
第１回：　ガイダンス 第２回～第１５回：　外国語文献講読及び討論			
■教科書			
特に指定せず、必要に応じて適宜指定する。			
■参考書			
特に指定せず、必要に応じて適宜指定する。			
■成績の評価基準			
授業への取り組み態度（50%）＋期末試験（50%）			
■オフィスアワー			
授業当日の昼休み。場所は研究室。			
■受講要件			
特になし			
■備考			
授業形態はコロナウイルス感染症の影響、その他の理由で変更することがある。			

■科目名			
英語指導法特論			
■英語名			
Teaching English as a Second Language			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
Steve Cother	Office extn 7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

This course will look at the basic theories of language and language teaching. It will cover the theories of TEFL and a review of the current issues in the area. It will also deal with practical teaching ideas and how to prepare teaching materials.

This class is a continuation of 特論演習

Unless there is a change in the current situation, this class will be online.

■学修目標

We will examine different teaching methods as well as look at example lessons and samples from current teaching materials. The course should provide you with the basic knowledge necessary for conducting English language classes. Each week a different chapter from the textbook will be examined.

The class will be held realtime on Zoom

■授業計画

Week 1 Introduction
Week 2 Chapter 12: Teaching language construction
Week 3 Chapter 13: Teaching grammar
Week 4 Chapter 14: Teaching vocabulary
Week 5 Chapter 15: Teaching pronunciation
Week 6 Chapter 16: Teaching language skills
Week 7 Chapter 17: Teaching Reading
Week 8 Chapter 17: Teaching Reading
Week 9 Chapter 18: Teaching listening
Week 10 Chapter 18: Teaching listening
Week 11 Chapter 19: Teaching Writing
Week 12 Chapter 19: Teaching Writing
Week 13 Chapter 20: Teaching Speaking
Week 14 Chapter 20: Teaching Speaking
Week 15 Chapter 22: Evaluation & tests

■教科書

The Practice of English Language Teaching. (Longman)
(It has also be used in the first semester.)

■参考書

TBA

■成績の評価基準

Classwork/homework 30%
a final 3,000 word essay in English. 70%

■オフィスアワー

Anytime is ok, but please mail me first to make sure I will be in

■受講要件

This class is taught entirely in English. The final paper will aslo be in English. As a rough guide, English skills equivalent to 800 points on TOEIC would be appropriate.

■備考

You will be given regular homework that will include preparation for the following class or revision of what we have done in class. You should expect the homework to take over four hours to complete each week.

■科目名			
日本文化特論			
■英語名			
Japanology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
丹羽謙治	099－285-8904	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

学生および研究者が調査研究を行うのに必要となる研究施設、図書館について考える。
近代になって公共図書館が各地で建設されてきたが、それは民衆にいかに啓蒙するか、書物をいかに届けるかという格闘の歴史でもあった。資料の保存の問題や読書空間の問題など複数の視点から図書館問題を考える。一部、学生による調査発表を行う。

■学修目標

図書館の歴史について正しい認識をもつ。
資料保存と活用の矛盾した関係について独自の考えを持てるようにする。

■授業計画

【すべて対面方式で実施】なお、コロナ感染症拡大によっては遠隔方式に切り替えるとともに実施地調査を中止して別の内容にすることがある。

第１回　イントロダクション
第２回　近代図書館の歴史概説
第３回　日本の図書館の歴史概説
第４回　鹿児島の図書館の歴史概説―明治期―
第５回　鹿児島の図書館の歴史概説―大正期―
第６回　鹿児島の図書館の歴史概説―昭和（戦前）期―
第７回　鹿児島の図書館の歴史概説―戦後期―
第８回　九州各地の図書館（北部九州）
第９回　九州各地の図書館（南部九州）
第10回　図書館の実地調査―大学図書館
第11回　図書館の実地調査ー大学図書館貴重書について―
第12回　図書館の実地調査報告―鹿児島大学附属図書館―
第13回　図書館の実地調査報告―鹿児島県立図書館―
第14回　現代の図書館の在り方について
第15回　まとめ

■教科書

プリントを配布

■参考書

『鹿児島県立図書館史』（鹿児島県立図書館、１９９０年）
その他は授業中に紹介する。

■成績の評価基準

期末レポート（１００％）。

■オフィスアワー

月曜13時30分～14時20分

■受講要件

特になし。

■備考

履修者の状況によって内容を変更することがある。

■科目名			
英語構造特論演習			
■英語名			
Linguistic Structure of English (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
末松信子	099-285-7572	suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
本演習では、英語学に関する基本的な文献、論文の精読を行い、英語の構造およびその変遷について学ぶ。何を読むかは、受講者と相談の上で決める。			
■学修目標			
1．英文を正確に読み、要約することができる。 2．英語の構造に関して、論理的かつ説得力のあるレポートを作成する。			
■授業計画			
＊対面形式でおこなう予定であるが、状況によっては遠隔形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。 第1回　ガイダンス 第2～14回　発表と討論 第15回　総括			
■教科書			
適宜、指示する。			
■参考書			
必要に応じて適宜、指示する。			
■成績の評価基準			
レポート（６０％） 授業への取り組み態度（４０％）			
■オフィスアワー			
水曜日10:00～12:00			
■受講要件			
特になし			
■備考			
使用するテキストについては、受講生の関心に合わせて変更することがある。			

■科目名			
イギリス文学特論演習			
■英語名			
English Literature (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大和高行	099-285-7570	yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

本演習では、18～20世紀のイギリス文学作品やそれらに関する論文を精読しながら、イギリス18～20世紀の文化について学ぶ。何を読むかは、受講者と相談の上で決める。

■学修目標

(1)英語学術論文を正確に読解することができる
(2)18～20世紀のイギリス文学とイギリスの文化の特徴について述べることができる

■授業計画

第1回 ガイダンス(ZOOMによるオンライン型)
第2回 発表と討論(1)(ZOOMによるオンライン型)
第3回 発表と討論(2)(ZOOMによるオンライン型)
第4回 発表と討論(3)(ZOOMによるオンライン型)
第5回 発表と討論(4)(ZOOMによるオンライン型)
第6回 発表と討論(5)(ZOOMによるオンライン型)
第7回 発表と討論(6)(ZOOMによるオンライン型)
第8回 発表と討論(7)(ZOOMによるオンライン型)
第9回 発表と討論(8)(ZOOMによるオンライン型)
第10回 発表と討論(9)(ZOOMによるオンライン型)
第11回 発表と討論(10)(ZOOMによるオンライン型)
第12回 発表と討論(11)(ZOOMによるオンライン型)
第13回 発表と討論(12)(ZOOMによるオンライン型)
第14回 発表と討論(13)(ZOOMによるオンライン型)
第15回 総括(ZOOMによるオンライン型)

＊オンライン型講義は教室での通常講義に変更になる可能性がある。

■教科書

・Catherine Alexander (ed.), Bibliotheca Georgiana, Unit 7: Giants of the Age: Johnson and Garrick (Keero Microforms / Maruzen).

■参考書

・井野瀬久美惠『興亡の世界史 大英帝国という経験』(講談社学術文庫)東京、講談社、2017年。
・鹿児島近代初期英国演劇研究会(訳)『王政復古期シェイクスピア改作戯曲選集』福岡、九州大学出版会、2018年。
・吉田徹夫(監修)『映画で楽しむイギリスの歴史』東京、金星堂、2010年。
その他、授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

レポート（50%）と平常点（50%）。

■オフィスアワー

水曜日9:15～10:15、大和研究室（法文学部棟１号館４階）。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
近代思想特論演習			
■英語名			
Modern Thought (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
柴田健志	285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
スピノザ『エチカ』第二部の読解			
■学修目標			
スピノザの知識論の理解			
■授業計画			
１　ガイダンス ２　『エチカ』第二部定理１～５ ３　『エチカ』第二部定理５～８ ４　『エチカ』第二部定理９～１３ ５　『エチカ』第二部定理１４～１６ ６　『エチカ』第二部定理１７～１８ ７　『エチカ』第二部定理１９～２４ ８　『エチカ』第二部定理２５～３０ ９　『エチカ』第二部定理３０～３５ １０『エチカ』第二部定理３５～４０ １１『エチカ』第二部定理４１～４３ １２『エチカ』第二部定理４４～４５ １３『エチカ』第二部定理４６～４７ １４『エチカ』第二部定理４８～４９ １５　まとめ 対面			
■教科書			
スピノザ『エチカ』上・下　岩波文庫			
■参考書			
なし			
■成績の評価基準			
2,000字以上のレポートによります。評価のポイントは、（1）問題提起の的確さ30%（2）結論の妥当性30%（3）論理の整合性40%、以上3点です。			
■オフィスアワー			
月曜・３限			
■受講要件			
なし			
■備考			
特になし			

■科目名			
アメリカ文学特論演習			
■英語名			
American Literature (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
竹内勝徳	285-8874	takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

アメリカ文学をテーマとした論文執筆のための指導を行う。受講生が自分で研究対象となる文学作品を決定して、参考文献にあたり、ディスカッションを行い、それらの成果をまとめてレポートを作成する。

■学修目標

（１）英語の読解力、作文力を向上させる。
（２）批判的な思考力をみにつける。
（３）アメリカ文学について理解を深める。
（４）論文執筆の具体的な手法をみにつけ、それを生かしてレポートを作成する。

■授業計画

第1回オリエンテーション(online)
第2回課題設定(online)
第3回文献精読(online)
第4回文献精読(online)
第5回文献精読(online)
第6回プレゼンテーション(online)
第7回プレゼンテーション(online)
第8回プレゼンテーション(online)
第9回プレゼンテーション(online)
第10回論文指導(online)
第11回論文指導(online)
第12回論文指導(online)
第13回論文指導(online)
第14回論文指導(online)
第15回総括(online)

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

授業中に指示する。

■成績の評価基準

授業中の発表30%、プレゼンテーション30%、レポート40%

■オフィスアワー

月曜の昼休み。

■受講要件

英語力の向上に意欲をもっていること。

■備考

授業外では４時間ほど課題資料やテキストを事前に読解し、授業での指摘について事後に再度確認することが望まれる。

■科目名			
アメリカ文学特論			
■英語名			
American Literature			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
竹内勝徳	285-8874	takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
19世紀後半のアメリカ合衆国の時代背景や社会の変容に触れながら、自然主義作家であるマーク・トウェイン、ヘンリー・ジェイムズ、ケイト・ショパン等の文学の特質について述べる。それによってアメリカ小説で用いられる英語の特徴や同時代の文化や社会との関連を学んでもらう。講義の中では、小説作品の原文やそれらを原作とした映画作品を鑑賞する。			
■学修目標			
（１）英語の読解力を向上させる。 （２）批判的な思考力をみにつける。 （３）アメリカの自然主義について理解を深める。 （４）論文執筆の具体的な手法をみにつける。			
■授業計画			
第１回　自然主義とは何か（１）（ラインビデオ） 第２回　自然主義とは何か（２）（ラインビデオ） 第３回　自然主義とは何か（３）（ラインビデオ） 第４回　自然主義とは何か（４）（ラインビデオ） 第５回　トウェインについて（１）（ラインビデオ） 第６回　トウェインについて（２）（ラインビデオ） 第７回　トウェインについて（３）（ラインビデオ） 第８回　ドライサーについて（４）（ラインビデオ） 第９回　トウェインについて（１）（ラインビデオ） 第１０回　ジェイムズについて（２）（ラインビデオ） 第１１回　ジェイムズについて（３）（ラインビデオ） 第１２回　ショパンについて（１）（ラインビデオ） 第１３回　ショパンについて（２）（ラインビデオ） 第１４回　ショパンについて（３）（ラインビデオ） 第１５回　まとめ（ラインビデオ） レポート作成			
■教科書			
授業中に指示する。			
■参考書			
授業中に指示する。			
■成績の評価基準			
授業中の発表30%、プレゼンテーション30%、レポート40%。			
■オフィスアワー			
月曜の昼休み。			
■受講要件			
英語力の向上に意欲をもっていること。			
■備考			
授業外では４時間ほど課題資料やテキストを事前に読解し、授業での指摘について事後に再度確認することが望まれる。			

■科目名			
近代思想特論			
■英語名			
Modern Thought			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
柴田健志	285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

ライプニッツ『モナドロジー』の読解

■学修目標

ライプニッツの形而上学の理解

■授業計画

１　ガイダンス
２　『モナドロジー』１～６
３　『モナドロジー』７～１５
４　『モナドロジー』１６～２５
５　『モナドロジー』２６～３５
６　『モナドロジー』３６～４５
７　『モナドロジー』４６～５５
８　『モナドロジー』５６～６５
９　『モナドロジー』６６～７５
１０『モナドロジー』７６～８０
１１『モナドロジー』８１～８３
１２『モナドロジー』８４～８６
１３『モナドロジー』８７～８８
１４『モナドロジー』８９～９０
１５まとめ

対面

■教科書

ライプニッツ『モナドロジー』岩波文庫

■参考書

なし

■成績の評価基準

2,000字以上のレポートによります。評価のポイントは、（1）問題提起の的確さ30%（2）結論の妥当性30%（3）論理の整合性40%、以上3点です。

■オフィスアワー

月曜・３限

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
現代ドイツ文学特論			
■英語名			
Contemporary German Literature			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
竹岡健一	099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

目的：本授業の目的は、現代ドイツ語圏の文学とその研究方法に関して理解を深めることにある。
内容：19世紀以降のドイツ語圏を代表する作家・作品、およびそれを理解する上で必要な分析方法や思想・歴史などについて詳しく考察する。
方法：資料を批判的に講読し、討論を行う。また、受講者は、授業で学んだ事柄について、学期末にレポートを作成する。

■学修目標

１．現代ドイツ語圏の代表的な作家・作品の特徴を述べることができる。
２．現代ドイツ語圏の文学を研究するための方法論について、自らの考えを述べることができる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　ガイダンス：授業の概要と学修目標の確認
第２回　資料の講読と討論（１）　世紀転換期のドイツ語圏の文学
第３回　資料の講読と討論（２）　第一次世界大戦前夜のドイツ語圏の文学
第４回　資料の講読と討論（３）　ワイマール共和国時代の文学
第５回　資料の講読と討論（４）　ナチス時代の文学
第６回　資料の講読と討論（５）　旧西ドイツの文学
第７回　資料の講読と討論（６）　旧東ドイツの文学
第８回　資料の講読と討論（７）　オーストリア・スイスの戦後文学
第９回　資料の講読と討論（８）　ドイツ再統一後の文学
第１０回　資料の講読と討論（９）　文学研究の方法論（１）　精神分析批評
第１１回　資料の講読と討論（１０）　文学研究の方法論（２）　フェミニズム批評
第１２回　資料の講読と討論（１１）　文学研究の方法論（３）　ロシア・フォルマリズム
第１３回　資料の講読と討論（１２）　文学研究の方法論（４）　構造主義
第１４回　資料の講読と討論（１３）　文学研究の方法論（５）　受容理論
第１５回　授業のまとめとふりかえり：身についた事柄の確認
期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

・川島隆編『現代ドイツ文学協会の揺らぎ』（日本独文学会研究叢書111号、2015年）
・鷲山恭彦『文学に写る歴史意識：現代ドイツ文学考』（共栄書房、2013年）
・松村朋彦『五感で読むドイツ文学』（鳥影社、2017年）
・浜崎桂子『ドイツの＜移民文学＞：他者を演じる文学テクスト』（彩流社、2017年）
・香田芳樹編著『＜新しい人間＞の設計図：ドイツ文学・哲学から読む』（青灯社、2015年）
・平野篤司『ゲーテからツェッラーンへ：ドイツ文学における詩と批評』（四月社、2014年）
・三原芳秋・渡邊英理・鵜戸聡編『＜クリティカル・ワード＞文学理論：読み方を学び文学と出会いなおす』（フィルムアート社、2020年）
・武田悠一『読むことの可能性：文学理論への招待』（彩流社、2017年）

・蓼沼正美『超入門！現代文学理論講座』（筑摩書房、2015年）
・西田谷洋『文学理論』（ひつじ書房、2014年）
・ピーター・バリー『文学理論講義・新しいスタンダード』（ミネルヴァ書房、2014年）

■成績の評価基準

資料の講読と討論を60%、期末レポートを40%とする。

■オフィスアワー

月曜2限

■受講要件

なし。

■備考

なし。

■科目名			
日本社会史特論演習			
■英語名			
Japanese Social History (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
佐藤宏之	099-285-7846	h-sato@edu.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

歴史研究は史料に書かれていることを正確に解釈し、その内容を他の史料と比較検討し、過去の歴史を再構成していくことにある。

本授業では、日本近世史研究における政治史関連史料を読み込み、近世史料の理解・解釈力と近世史研究の課題を発見する力を養うことをめざす。共通の史料を輪読し、受講者全員で討論することを通して、政治課題の一端をあきらかにし、近世の日本社会の特質を考察する。

「風のしるへ」をテキストに使用し、毎回、担当者に報告してもらい、質疑応答・討論を行う。報告者は史料を読んで不明の語句や人名、地名などを調べて現代語訳をし、その記事に関する考察を行う。

この「風のしるへ」は、旗本森山家の女性りさが自ら書いた記録であり、りさが江戸城大奥と薩摩藩島津家との間の架け橋となり、手紙など情報のやりとりの仲介役として働いた具体的な内容が記されている。

■学修目標

・近世史料の理解力・解釈力を身につける。
・近世史研究の課題を発見する力を養う。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更するさいは、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回：ガイダンス・報告分担の決定
第２回：担当者による報告と討論(1)
第３回：担当者による報告と討論(2)
第４回：担当者による報告と討論(3)
第５回：担当者による報告と討論(4)
第６回：担当者による報告と討論(5)
第７回：担当者による報告と討論(6)
第８回：担当者による報告と討論(7)
第９回：担当者による報告と討論(8)
第10回：担当者による報告と討論(9)
第11回：担当者による報告と討論(10)
第12回：担当者による報告と討論(11)
第13回：担当者による報告と討論(12)
第14回：担当者による報告と討論(13)
第15回：担当者による報告と討論(14)
第16回：期末レポート

■教科書

畑尚子『島津家の内願と大奥』（同成社、2018年）を各自購入のこと。

■参考書

畑尚子『徳川政権下の大奥と奥女中』（岩波書店、2009年）、福田千鶴『近世武家社会の奥向構造』（吉川弘文館、2018年）
※授業内で適宜論文を紹介するので積極的に読んで授業に臨むこと。

■成績の評価基準

報告、討論などへの参加等により、総合的に判断します(100%)。

■オフィスアワー

金曜4限（事前にメールにて連絡をすること）

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
ドイツ語圏音楽文化特論演習			
■英語名			
Music culture in German-speaking countries (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
梅林郁子	099-285-7899	ume@edu.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

●全15回の授業を対面形式で実施予定（コロナウイルス感染拡大予防等のため、遠隔に変更の可能性がある）

バロック時代の初めにイタリアで生まれたオペラは、古典主義の時代に入り、ドイツ語圏でも発展を遂げた。本授業では、ドイツ・オペラの台本と音楽の関わりを総合的に捉えながら、各作曲者の作品を考察することで、ドイツ・オペラの特性とその変遷を理解する。

■学修目標

１．ドイツ・オペラのジャンルとしての特性を理解する。
２．ドイツ・オペラの歴史的変遷を理解する。

■授業計画

第　１回：バロック：オペラの誕生（モンテヴェルディ）
第　２回：バロック：イタリア・オペラとイギリス・オペラ（ヘンデルとゲイ）
第　３回：古典主義　：モーツァルト《魔笛》
第　４回：古典～ロマン主義：ベートーヴェン《フィデリオ》
第　５回：ロマン主義：ヴェーバー《魔弾の射手》
第　６回：ロマン主義：マルシュナー《ハンス・ハイリング》
第　７回：ロマン主義：ヴァーグナー《さまよえるオランダ人》
第　８回：ロマン主義：ヴァーグナー《ニーベルングの指輪》１
第　９回：ロマン主義：ヴァーグナー《ニーベルングの指輪》２
第１０回：ロマン主義：J．シュトラウス?世《こうもり》
第１１回：ロマン主義：フンパーディンク《ヘンゼルとグレーテル》
第１２回：20世紀：R．シュトラウス《サロメ》
第１３回：20世紀：R．シュトラウス《ばらの騎士》
第１４回：20世紀：レハール《メリー・ウィドー》
第１５回：20世紀：ベルク《ルル》

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

井形ちづる他．2019.『まとめてわかる！ドイツ・オペラの名曲：ドイツ、オーストリアのオペラからオペレッタまで』音楽之友社．他

■成績の評価基準

期末レポート課題（80%程度）と授業への積極的な参加態度（20%程度）で、総合的に評価する。

■オフィスアワー

水４限（研究室は、教育学部音美棟２階）

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
日本政治宗教史特論演習			
■英語名			
Japanese Political and Sacred History (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
日隈正守	099-285-7847	kuma@edu.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

日本社会においては、前近代政治権力と宗教勢力との関係は密接であった。我々に身近な鹿児島県域の国一宮でった神社に伝わる文書を講読し、当時の政治権力を有した国司や守護と鎌倉末期に薩摩国一宮となった新田八幡宮(現新田神社)との関係を考察する。

■学修目標

1.歴史を学ぶ意義を確認した上で、中世史料がどのようなものであるか理解する。
2.中世史料の講読する力を養う。
3.史料を講読し、考える力を身に着ける。

■授業計画

１.授業の概要、歴史を学ぶ意義。
２.古文書とは。
３.古記録とは(1)。
４.古記録とは(2)。
５.編纂物とは。
６.史料講読(1)。
７.史料講読(2)。
８.史料講読(3)。
９.史料講読(4)。
10.史料講読(5)。
11.史料講読(6)。
12.史料講読(7)。
13.史料講読(8)。
14.史料講読(9)。
15.史料講読(10)。

■教科書

特になし。但し調べる上で佐藤進一『(新版)古文書学入門』(法政大学出版局)は必要である。

■参考書

随時授業中紹介する。

■成績の評価基準

平素の課題提出状態約10割。

■オフィスアワー

金曜日２限目

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
倫理思想特論			
■英語名			
Ethics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
新名隆志		niina@edu.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

主に倫理思想に関わる哲学的文献を講読し，その内容について議論を通して理解と考察を深める。正確な読解を基本とし，内容の批判的検討を行いながら研究上の論点を明確化することに努める。

■学修目標

1. 倫理思想に関わる専門文献を読解する力を身につける。
2. 倫理思想上の問題について理解を深める。
3. 哲学的論点について議論する力を身につける。

■授業計画

本授業は対面形式で行う予定であるが，授業形態を変更する際は，manabaや授業内において通知する。

第1回：オリエンテーション
第2回：文献講読と討論
第3回：文献講読と討論
第4回：文献講読と討論
第5回：文献講読と討論
第6回：文献講読と討論
第7回：文献講読と討論
第8回：文献講読と討論
第9回：文献講読と討論
第10回：文献講読と討論
第11回：文献講読と討論
第12回：文献講読と討論
第13回：文献講読と討論
第14回：文献講読と討論
第15回：総括

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考文献を紹介する。

■参考書

特に指定せず，必要に応じて紹介する。

■成績の評価基準

レジュメと討論（積極性・論理性・説得性など）に基づいて評価する。

■オフィスアワー

月曜5限
業務が入ることもあるので事前連絡があると確実。

■受講要件

なし

■備考

特になし

■科目名			
外国語論文指導 II			
■英語名			
Academic Writing in English II			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
與倉アンドレーア	099-285-7578	yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
This class is meant to be a continuation of Prof Cother's class. It is possible though to start from the winter semester.			
■学修目標			
This class aims at strengthening students' ability to write academic papers in English.Various exercises to increase vocabulary, learning how to structure essays etc.will be the main activities.			
■授業計画			
Adjusting to the participants' level appropriate texts and topics will be chosen. Students will be asked to write short assignments. These will be discussed in class and techniques to improve form, structure and stilistics of the essays will be the focus.			
■教科書			
Will be decided during the first session.			
■参考書			
Will be decided during the first session.			
■成績の評価基準			
Based on written assignments.			
■オフィスアワー			
月曜日２限。あるいは、e-mailで事前にappointmentを取ってください。			
■受講要件			
none			
■備考			
特になし			

■科目名			
英語構造特論演習			
■英語名			
Linguistic Structure of English (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
末松信子	099-285-7572	suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
本演習では、英語学に関する基本的な文献、論文の精読を行い、英語の構造およびその変遷について学ぶ。			
■学修目標			
1．英文を正確に読み、要約することができる。 2．英語の構造に関して、論理的かつ説得力のあるレポートを作成する。			
■授業計画			
＊対面形式でおこなう予定であるが、状況によっては遠隔形式に変更となる可能性がある。 授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。 第1回　ガイダンス 第2～14回　発表と討論 第15回　総括			
■教科書			
適宜、指示する。			
■参考書			
必要に応じて適宜、指示する。			
■成績の評価基準			
レポート（６０％） 授業への取り組み態度（４０％）			
■オフィスアワー			
水曜日10:00～12:00			
■受講要件			
特になし			
■備考			
使用するテキストについては、受講生の関心に合わせて変更することがある。			

■科目名			
中国文学特論演習			
■英語名			
Chinese Literature (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
高津孝	099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

中国古典文学を理解するためには、テキストの詳細な読解を行うことが必要である。この演習では、北宋の詩人蘇軾の詩集に清朝の考証学者が施した注を精密に読解する。

■学修目標

１，中国古典詩の読解に習熟する。
２，種々の工具書の使用に慣れる。
３，中国古典文法の深い理解に到達する。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　導入　使用テキストの説明
第２回　『蘇文忠公詩合註』の読解1
第３回　『蘇文忠公詩合註』の読解2
第４回　『蘇文忠公詩合註』の読解3
第５回　『蘇文忠公詩合註』の読解4
第６回　『蘇文忠公詩合註』の読解5
第７回　中間考察と討論1
第８回　『蘇文忠公詩合註』の読解6
第９回　『蘇文忠公詩合註』の読解7
第10回　『蘇文忠公詩合註』の読解8
第11回　『蘇文忠公詩合註』の読解9
第12回　『蘇文忠公詩合註』の読解10
第13回　『蘇文忠公詩合註』の読解11
第14回　中間考察と討論2
第15回　討論3

■教科書

『蘇文忠公詩合註』（上海古籍出版社、2001年）を使用する。また、受講生と相談してテキストを決定することがある。

■参考書

中国詩人選集二集、小川環樹注 『蘇軾』上，下（岩波書店、1962年）
漢詩大系、 近藤光男［訳］著『蘇軾』（集英社、1964年）
鑑賞中国の古典、村上哲見・浅見洋二著『蘇軾・陸游』（角川書店、1989年）
小川環樹・ 山本和義[編訳]著 『蘇東坡詩集』第1冊 - 第4冊（筑摩書房、1983年）
續國譯漢文大成『蘇東坡詩集』（国民文庫刊行会、1928年）
『四河入海』1-4（清文堂出版、1971年）

■成績の評価基準

レポート（50%）と平常点（50%）による。平常点は出席、報告、受講態度である。

■オフィスアワー

金曜日・1限・中国文学研究室

■受講要件

特になし。

■備考

授業の計画は、受講生の研究テーマや関心を考慮して変更することもある

■科目名			
アジア社会史特論演習			
■英語名			
Social History of Asia (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
福永善隆	099(285)7561	fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

本演習では、中国古代、特に漢代に関する漢籍史料を講読し、史料分析に関して出席者とともに議論を行いながら、当該期の政治・制度に関する考察を進める。

■学修目標

・漢文講読のための基礎的技術を習得する
・歴史学の基礎的な史料操作方法・分析方法を身につける。

■授業計画

第１回：イントロダクション（オンデマンド型）
第２回：『史記』講読及び史料分析(1)―テキスト312-313頁―
第３回：『史記』講読及び史料分析(2)―テキスト314頁―
第４回：『史記』講読及び史料分析(3)―テキスト317-318頁―
第５回：『史記』講読及び史料分析(4)―テキスト321頁―
第６回：『史記』講読及び史料分析(5)―テキスト322頁―
第７回：『史記』講読及び史料分析(6)―テキスト324頁―
第８回：『史記』講読及び史料分析(7)―テキスト325頁―
第９回：『史記』講読及び史料分析(8)―テキスト326頁―
第10回：『史記』講読及び史料分析(9)―テキスト327頁―
第11回：『史記』講読及び史料分析(10)―テキスト328頁―
第12回：『史記』講読及び史料分析(11)―テキスト328-329頁―
第13回：『史記』講読及び史料分析(12)―テキスト331頁―
第14回：『史記』講読及び史料分析(13)―テキスト333頁―
第15回：総括

■教科書

瀧川資言『史記会注考証』（上海古籍出版社、2015年）
資料は演習中に配布する。

■参考書

演習中、適宜紹介する

■成績の評価基準

演習中における議論の参加（50%）及び理解度（50%）により、総合的に評価する。

■オフィスアワー

講義・会議以外の時間であればいつでも可

■受講要件

（予習）演習には前もって、テキストの指定箇所を予習してくることを求める〔180分〕。
（復習）関連論文を読むことを推奨する（60分）。

■備考

授業内容・方法については受講生との相談の上、変更する可能性もある

■科目名			
アジア社会史特論			
■英語名			
Social History of Asia			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
福永善隆	099(285)7561	fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

テーマ：中国古代史研究の現在

本講では、中国古代史研究、特に漢代に関する文献を取り上げ、この分野における現在の研究状況について講義・議論するとともに、中国古代史に関する専門知識の獲得を目指す。
ただし、受講生との相談のうえ、内容を変更することもありうる。

■学修目標

・中国古代史に関する基礎的な知識を身につける。
・中国古代史研究の現状と課題を理解する。

■授業計画

第１回　ガイダンス（オンライン型）
第２回　古典的中国古代史研究とその問題点：西嶋定生と時代区分論
第３回　古典的中国古代史研究とその問題点：増淵龍夫と任侠論
第４回　中国古代史研究と地域性の問題：地域の視点
第５回　中国古代史研究と地域性の問題：始皇帝の統一と地域性の問題
第６回　中国古代史研究と地域性の問題：漢代における地域性の克服
第７回　中国古代史研究と環境史研究：中国史における黄河
第８回　中国古代史研究と環境史研究：黄河と歴史的事件の関係
第９回　中国古代史研究と環境史研究：中国史と気候の変化
第１０回　中国古代の歴史展開と社会：地方行政と地域社会
第１１回　中国古代の歴史展開と社会：地域社会の変化
第１２回　中国古代史研究と思想史：諸思想と統治イデオロギーの展開
第１３回　中国古代史研究と思想史：礼制研究と思想史
第１４回　質疑応答
第１５回　まとめ

■教科書

特に指定しない

■参考書

授業中、適宜指示する。

■成績の評価基準

授業中における議論の参加により、評価する(100%)。

■オフィスアワー

講義・会議以外の時間であればいつでも可

■受講要件

（予習）演習には前もって、テキストの指定箇所を予習してくることを求める〔180分〕。
（復習）関連論文を読むことを推奨する（60分）。

■備考

受講生との相談により講義内容を変更することもある

■科目名			
アジア社会史特論演習			
■英語名			
Social History of Asia (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
福永善隆	099(285)7561	fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

本演習では、中国古代、特に漢代に関する漢籍史料を講読し、史料分析に関して出席者とともに議論を行いながら、当該期の政治・制度に関する考察を進める。

■学修目標

・漢文講読のための基礎的技術を習得する
・歴史学の基礎的な史料操作方法・分析方法を身につける。

■授業計画

第１回：イントロダクション
第２回：『史記』講読及び史料分析(1)―テキスト553頁―
第３回：『史記』講読及び史料分析(2)―テキスト554-555頁―
第４回：『史記』講読及び史料分析(3)―テキスト556頁―
第５回：『史記』講読及び史料分析(4)―テキスト557頁―
第６回：『史記』講読及び史料分析(5)―テキスト558頁―
第７回：『史記』講読及び史料分析(6)―テキスト559頁―
第８回：『史記』講読及び史料分析(7)―テキスト560頁―
第９回：『史記』講読及び史料分析(8)―テキスト561頁―
第10回：『史記』講読及び史料分析(9)―テキスト562-563頁―
第11回：『史記』講読及び史料分析(10)―テキスト565頁―
第12回：『史記』講読及び史料分析(11)-テキスト567頁―
第13回：『史記』講読及び史料分析(12)―テキスト568頁―
第14回：『史記』講読及び史料分析(13)―テキスト569頁―
第15回：総括

■教科書

瀧川資言『史記会注考証』（上海古籍出版社、2015年）
資料は演習中に配布する。

■参考書

演習中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

演習中における議論の参加により、総合的に評価する（100%）。

■オフィスアワー

講義・会議以外の時間であればいつでも可

■受講要件

（予習）演習には前もって、テキストの指定箇所を予習してくることを求める〔180分〕。
（復習）関連論文を読むことを推奨する（60分）。

■備考

特になし

■科目名			
日本語構造特論			
■英語名			
Linguistic Structure of Japanese			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
内山弘	099-285-8906	pon@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

テーマ：文献方言史研究

方言の研究＝フィールドワークと認識されがちであるが、それのみが唯一無二の研究方法かというと、必ずしもそうではない。豊富に残されている文献資料の中から方言を再構することもまた方言研究の方法として有効なのである。とりわけ、方言の歴史を絶対年代を用いて記述しようとする場合、事実上文献資料が唯一の拠り所となる。

本講義では、上代～近世の文献資料に現われた方言を、時間軸に沿って具体的に紹介しつつ、文献方言史研究の実際について解説していく。

■学修目標

・方言史の資料となる代表的な文献についての基礎的な知識が得られる。
・文献を使用した方言史研究の方法について学べる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回：はじめに――方言とは何か
第２回：方言の研究方法
第３回：文献方言史研究
第４回：上代方言資料としての東歌・防人歌
第５回：上代東国方言の語法
第６回：平安期の方言資料
第７回：院政・鎌倉・南北朝期の方言資料
第８回：室町時代の中央文献の方言資料
第９回：方言資料としてのキリシタン資料
第１０回：『日葡辞書』と『ロドリゲス日本大文典』
第１１回：室町時代の地方文献と方言（東日本）
第１２回：室町時代の地方文献と方言（西日本）
第１３回：江戸時代の方言資料（東日本）
第１４回：江戸時代の方言資料（西日本）
第１５回：総括

■教科書

適宜資料を配布する。

■参考書

特に定めない。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（100%）

■オフィスアワー

金曜５限（事前にメールでアポイントを取れば他の時間でも可能。）

■受講要件

1・2期または3・4期連続で受講することが望ましい。

■備考

受講生の研究テーマや関心を考慮して授業計画を変更することがある。

■科目名			
比較都市社会特論			
■英語名			
Comparative urban society and history			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中島大輔	099-285-8895	nakajima@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

全１５回の授業を遠隔形式で実施する。

国民国家の成立が遅れたドイツでは、中世から19世紀に至るまで都市が行政・司法・防衛などの分野で広範な自治権を保持し、強固な市民意識に基づく独自の都市社会と都市文化を展開した。この授業ではそのようなドイツの都市の様相を中世都市に遡って解説するとともに、かつての中世都市の区域である旧市街が現在どのように保全され、活用されているかを紹介し、都市計画ならびにまちづくりの観点から日本の都市との比較・考察を行う。

■学修目標

・ドイツの中世都市の成り立ちを理解する
・中世から近代に至るドイツの都市の自治を理解する
・旧市街の保全と活用に関する日本の都市とドイツの都市の相違を理解する

■授業計画

＊新型コロナ感染予防のため、基本的に遠隔授業（リアルタイム配信）の形式で実施する。授業ではあらかじめmanabaで配布した講義資料に関して、詳細な解説を行った後、質疑応答を行う。また随時manabaで課題レポートの提出を求める。
第１回：オリエンテーション、都市の定義：M.ウェーバーの定義。西洋の都市と日本の都市。（遠隔授業：Zoomによるリアルタイム配信授業）
第２回：中世における都市の成立：「成長都市」と「建設都市」（遠隔授業：Zoomによるリアルタイム配信授業）
第３回：自治都市への道のり（１）都市領主からの独立（遠隔授業：Zoomによるリアルタイム配信授業）
第４回：自治都市への道のり（２）ツンフト闘争（市民闘争）からツンフト市制（遠隔授業：Zoomによるリアルタイム配信授業）
第５回：自治都市への道のり（３）：ツンフト市制における行政と防衛（遠隔授業：講義資料・課題提示による授業）
第６回：自治都市への道のり（４）：ネルトリンゲンとロイトリンゲンのツンフト市制（遠隔授業：講義資料・課題提示による授業）
第７回：中世都市の治安維持と防衛体制（遠隔授業：講義資料・課題提示による授業）
第８回：中世ドイツの都市同盟（１）：シュヴァーベン都市同盟（遠隔授業：Zoomによるリアルタイム配信授業）
第９回：中世ドイツの都市同盟（２）ハンザ同盟（遠隔授業：講義資料・課題提示による授業）
第１０回：中世ドイツの都市同盟（３）ハンザ同盟（遠隔授業：Zoomによるリアルタイム配信授業）
第１１回：中世都市から近代都市へ：都市の要塞化から市域拡大・市壁撤去（遠隔授業：Zoomによるリアルタイム配信授業）
第１２回：日本に自治都市は存在したか？（1）都市の防衛体制を中心に（遠隔授業：Zoomによるリアルタイム配信授業）
第１３回：日本に自治都市は存在したか？（2）堺と今井町の例を中心に（遠隔授業：Zoomによるリアルタイム配信授業）
第１４回：ヨーロッパ諸都市の旧市街活用と公共交通（遠隔授業：Zoomによるリアルタイム配信授業）
第１５回：鹿児島の歴史的都市の活用とその可能性（遠隔授業：Zoomによるリアルタイム配信授業）

■教科書

特に指定しない。適宜下記の参考書を紹介する。

■参考書

H.Boockmann: Die Stadt im sp?ten Mittelalter (C.H.Beck) 1986
E.Engel: Die deutsche Stadt des Mittelalters (C.H.Beck)1993
H.Planitz: Die Deutsche Stadt im Mittelalter (VMA) 1996
鯖田豊之『ヨーロッパ封建都市』講談社学術文庫、1994年
水島信『ドイツ流　街づくり読本』鹿島出版会、2006年
片野優『ここが違う、ヨーロッパの交通政策』白水社、2011年
ヴァンソン藤井由美『ストラスブールのまちづくり』学芸出版社、2011年
斯波照雄『西洋の都市と日本の都市　どこが違うのかー比較都市史入門』学文社、2015年
カール・グルーバー『図説ドイツの都市造形史』西村書店、1999
H.J.ドレーガー『トーアシュトラーセ　街並みに見るハンザ都市の歴史』朝日出版社、2013年

■成績の評価基準

授業への取り組み（50%）と授業レポート（50%）の総合で評価する。

■オフィスアワー

火曜５限（これ以外の時間帯でも対応します。あらかじめメールで連絡してください。）

■受講要件

一定の独語の知識を有していることが望ましい。

■備考

特になし

■科目名			
比較都市社会特論演習			
■英語名			
Comparative urban society and history (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中島大輔	099－285-8895	nakajima@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

＊遠隔形式で行う予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業の際に通知する。

Philippe Dollinger ?Die Hanse"の第１部 Die Anf?nge(12.-14. Jahrhundert)第１章を精読し、ハンザの成立の環境と要因ならびに、とりわけ都市ハンザの前段階である商人ハンザを考察する。（ただし受講生と相談の上、授業で取り扱う章を変更する場合がある。）

また説明を補足するために適宜他の参考文献や映像資料なども使用し、受講者の理解を助ける。

■学修目標

・ドイツ・ハンザの始まり、とりわけ商人ハンザから都市ハンザへの展開を説明することができる
・修得したドイツの都市史に関する基本的語彙に基づき、一定のドイツ語文献の講読ができる

■授業計画

＊授業は基本的に遠隔形式（双方向型会議システムZoomを用いてのオンライン型授業）とし、別途manabaやメールを用いて資料を配布し、課題提出を求める。ただし状況によっては対面授業に変更する場合がある。
第１回：オリエンテーション、参考文献紹介
第２回：第１章 Nordeuropa in der ersten H?lfte des 12. Jahrhunderts.（12世紀前半の北ヨーロッパ）よりDie politischen, religi?sen und demografischen Faktoren（政治的、宗教的、人口的要因）
第３回：Die politischen, religi?sen und demografischen Faktoren（政治的、宗教的、人口的要因）
第４回：Die politischen, religi?sen und demografischen Faktoren（政治的、宗教的、人口的要因）
第５回：Der Aufstieg der St?dte（都市の興隆）
第６回：Der Aufstieg der St?dte（都市の興隆）
第７回：Der Aufstieg der St?dte（都市の興隆）
第８回：Der Aufstieg der St?dte（都市の興隆）
第９回：Der Aufstieg der St?dte（都市の興隆）
第１０回：Der Aufstieg der St?dte（都市の興隆）
第１１回：Der Aufstieg der St?dte（都市の興隆）
第１２回：第２章Die Gr?ndung deutscher St?dte im Osten und die Gotl?ndische Genossenschaft（東方におけるドイツの都市の建設とゴートランド渡航者団体）よりDie Gr?ndung L?becks.(リューベックの建設)
第１３回： Die Gr?ndung L?becks.(リューベックの建設)
第１４回：Die Gr?ndung L?becks.(リューベックの建設)
第１５回：Die Gr?ndung L?becks.(リューベックの建設)
第１６回：レポート課題

なお授業では邦訳フィリップ・ドランジェ『ハンザ　12－17世紀』も併せて参照するが、両者の間には若干の異同がある。

■教科書

Philippe Dollinger ?Die Hanse", Kr?ner, 2012(6.Auflage)

■参考書

フィリップ・ドランジェ『ハンザ　12－17世紀』みすず書房（2016年）
高橋理『ハンザ「同盟」の歴史』 創元社（2013年）
H.J.ドレーガー『中世ハンザ都市のすがた』朝日出版社（2016年）

■成績の評価基準
授業への取り組み（50%）と学期末のレポート（50%）の総合で評価する。
■オフィスアワー
火曜５限（これ以外の時間でも対応します。あらかじめメールで連絡してください。）
■受講要件
一定の独語の読解力を有していること。
■備考
特になし

■科目名			
比較都市社会特論演習			
■英語名			
Comparative urban society and history (Seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
中島大輔	099－285-8895	nakajiam@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

＊遠隔形式で行う予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業の際に通知する。

Philippe Dollinger ?Die Hanse"の第１部 Die Anf?nge(12.-14. Jahrhundert)第１章および第２章を精読し、ハンザの成立の環境と要因ならびに、とりわけ都市ハンザの前段階である商人ハンザを考察する。（ただし受講生と相談の上、授業で取り扱う章を変更する場合がある。）

また説明を補足するために適宜他の参考文献や映像資料なども使用し、受講者の理解を助ける。

■学修目標

・ドイツ・ハンザ、とりわけ商人ハンザから都市ハンザへの展開を理解する
・ドイツの都市史に関する基本的語彙を習得し、ドイツ語による文献講読の能力を高める
・日本の都市を考察するための比較の視点を獲得する

■授業計画

＊授業は基本的に遠隔形式（双方向型会議システムZoomを用いてのオンライン型授業）とし、別途manabaやメールを用いて資料を配布し、課題提出を求める。ただし状況によっては対面授業に変更する場合がある。
第１回：オリエンテーション、参考文献紹介
第２回：第１章 Nordeuropa in der ersten H?lfte des 12. Jahrhunderts.（12世紀前半の北ヨーロッパ）より　Der Handel im Norden（北方の交易）
第３回：Der Handel im Norden（北方の交易）
第４回：Der Handel im Norden　（北方の交易）
第５回：Der Handel im Nordenn（北方の交易）
第６回：Die politischen, religi?sen und demografischen Faktoren（政治的、宗教的、人口的要因）
第７回：Die politischen, religi?sen und demografischen Faktoren（政治的、宗教的、人口的要因）
第８回：Der Aufstieg der St?dte（都市の興隆）
第９回：Der Aufstieg der St?dte（都市の興隆）
第１０回：Der Aufstieg der St?dte（都市の興隆）
第１１回：Der Aufstieg der St?dte（都市の興隆）
第１２回：第２章Die Gr?ndung deutscher St?dte im Osten und die Gotl?ndische Genossenschaft（東方におけるドイツの都市の建設とゴートランド渡航者団体）よりDie Gr?ndung L?becks.(リューベックの建設)
第１３回： Die Gr?ndung L?becks.(リューベックの建設)
第１４回：Die Gr?ndung L?becks.(リューベックの建設)
第１５回：Die Gr?ndung L?becks.(リューベックの建設)
第１６回：レポート課題

なお授業では邦訳フィリップ・ドランジェ『ハンザ　12－17世紀』も併せて参照するが、両者の間には若干の異同がある。

■教科書

Philippe Dollinger ?Die Hanse", Kr?ner, 2012(6.Auflage)

■参考書

フィリップ・ドランジェ『ハンザ　12－17世紀』みすず書房（2016年）
高橋理『ハンザ「同盟」の歴史』 創元社（2013年）

H.J.ドレーガー『中世ハンザ都市のすがた』朝日出版社（2016年）

■成績の評価基準

授業への取り組み（50%）と学期末のレポート（50%）の総合で評価する。

■オフィスアワー

火曜５限（これ以外の時間も対応します。あらかじめメールで連絡してください。）

■受講要件

一定の独語の読解能力を有していること

■備考

特になし

■科目名			
ヨーロッパ・アメリカ比較社会史特論			
■英語名			
Comparative History of Western Society			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
藤内哲也	099-285-8863	ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

中世～近世のヨーロッパ史上の諸問題をとりあげ、その歴史的な意義や研究の視点・手法などについて考察します。具体的なテーマは受講者との相談により決定します。受講者による報告や討論などを中心として、より幅広い地域や時代に関心を向けることで、比較史的な視点を学んでいきましょう。

■学修目標

１．ヨーロッパ史研究におけるさまざまな問題についての理解を深める
２．歴史研究の視点や手法について理解する
３．比較史的な視点を身につける

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行います。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業中に通知します。

第１回　ガイダンス・テーマ決定
第２回　報告と討論（１）
第３回　報告と討論（２）
第４回　報告と討論（３）
第５回　報告と討論（４）
第６回　報告と討論（５）
第７回　報告と討論（６）
第８回　報告と討論（７）
第９回　報告と討論（８）
第１０回　報告と討論（９）
第１１回　報告と討論（１０）
第１２回　報告と討論（１１）
第１３回　報告と討論（１２）
第１４回　報告と討論（１３）
第１５回　まとめと展望

■教科書

受講者と相談のうえ、テキストを選定します。また、プリント等を配布することもあります。

■参考書

金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年
その他の文献は授業中に適宜紹介します

■成績の評価基準

報告、討論などにより総合的に判断します

■オフィスアワー

金曜４限（メールにてアポをとること）

■受講要件

とくになし

■備考

とくになし

■科目名			
外国語論文指導?			
■英語名			
Academic Writing in English ?			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
Steve Cother	285-7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
You will practice writing skills in English. Due to the university's restrictions concerning student discussion in the classroom, this class will be held on Zoom every week.			
■学修目標			
This class will help you improve and develop key skills in important areas of writing in English. Classes will include reading, discussion as well as writing. Students of any level can take this class.			
■授業計画			
Due to the university's restrictions concerning student discussion in the classroom, this class will be held on Zoom every week. 授業計画 Week 1 introduction Week 2 review of paragraph writing in English Week 3 review of paragraph writing in English Week 4 review of paragraph writing in English Week 5 essay writing practice Week 6 essay writing practice Week 7 essay writing practice Week 8 essay writing practice Week 9 essay writing practice Week 10 essay writing practice Week 11 essay writing practice Week 12 essay writing practice Week 13 essay writing practice Week 14 essay writing practice Week 15 essay writing practice			
■教科書			
Handouts will be given			
■参考書			
Bring your dictionaries!			
■成績の評価基準			
Classwork/Homework 100% (There will be no test)			
■オフィスアワー			
Anytime is ok, but to be sure you can mail me.			
■受講要件			
Students of any level can take this class.			
■備考			

You will be given regular homework that will include preparation for the following class or revision of what we have done in class. You should expect the homework to take over four hours to complete each week. This class will continue in the second semester as 外国語論文指導2, however you are not required to take both classes.

■科目名			
日本語構造特論演習			
■英語名			
Linguistic Structure of Japanese (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
内山弘	099-285-8906	pon@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

テーマ：日本語資料を読むⅠ
本演習では、いくつかの著名な文献資料を取り上げ、実際に本文を読解しつつ、さまざまな面からアプローチして日本語資料としての資料性を追究していく。

■学修目標

・文献日本語史の研究方法についての知識が得られる。
・様々な文献資料を読むことで資料性の違いを実地に学ぶことができる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回：ガイダンス
第２回：魏志倭人伝
第３回：後漢書東夷伝と宋書倭国伝
第４回：金石文と木簡資料
第５回：推古遺文
第６回：古事記その１
第７回：古事記その２
第８回：日本書紀
第９回：記紀歌謡
第１０回：万葉集その１
第１１回：万葉集その２
第１２回：訓点資料その１
第１３回：訓点資料その２
第１４回：古今和歌集・土左日記
第１５回：竹取物語

■教科書

適宜資料を配布する。

■参考書

特に定めない。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（100%）

■オフィスアワー

金曜４限（事前にメールでアポイントを取れば他の時間でも可能）

■受講要件

特に定めない。

■備考

受講生の研究テーマや関心を考慮して授業計画を変更することがある。

■科目名			
英語指導法特論演習			
■英語名			
Teaching English as a Second Language(seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
Steve Cother	285-7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			

■授業概要

This course will look at the basic theories of language and language teaching. It will cover the theories of TEFL and a review of the current issues in the area. It will also deal with practical teaching ideas and how to prepare teaching materials.

Unless there is a change in the current situation, this class will be online.

■学修目標

We will examine different teaching methods as well as look at example lessons and samples from current teaching materials. The course should provide you with the basic knowledge necessary for conducting English language classes. Each week a different chapter from the textbook will be examined.

The class will be held realtime on Zoom

■授業計画

Week 1 Introduction
Week 2 Chapter 1: The Changing World of English
Week 3 Chapter 2:
Week 4 Chapter 3: Background issues in Language Learning
Week 5 Chapter 4: Popular Methodology
Week 6 Chapter 5: Describing learners
Week 7 Chapter 6: Describing teachers
Week 8 Chapter 7: Describing learning contexts
Week 9 Chapter 8: Mistakes & Feedback
Week 10 Chapter 8: Mistakes & Feedback
Week 11 Chapter 9: Classroom management
Week 12 Chapter 10: Grouping students
Week 13 Chapter 11: Educational resources
Week 14 Chapter 11: Educational resources
Week 15 Application and review

■教科書

The Practice of English Language Teaching. (Longman)
(It will also be used in the second semester.)

■参考書

■成績の評価基準

Classwork/homework 30%
a final 3,000 word essay in English. 70%

■オフィスアワー

Anytime is ok, but to be sure you can mail me.

■受講要件

This class is taught entirely in English. The final paper will aslo be in English. As a rough guide,

English skills equivalent to 800 points on TOEIC

■備考

This class will continue in the second semester. This class will be conducted entirely in English.You may only register for this class if you have a TOEIC score of over 800 or you have spent at least 9 months in an English-speaking country.

■科目名			
日本政治宗教史特論			
■英語名			
Japanese Political and Sacred History			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
日隈正守	099-285-7847	kuma@edu.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

日本社会は、前近代政治権力と宗教勢力とが密接な関係を有していた。前近代の中で政治権力と宗教勢力とが車の両輪とでもいうべき関係を有していた中世前期(平安後期から鎌倉末期)前後の時期を取り上げ、地方政治を担った国司・守護と地方行政単位である国の中で序列第一位の神社である国一宮と国司が国司任国支配における宗教的支配拠点であった国鎮守との関係、また国一宮と国鎮守との関係について取り上げて日本中世前期における政治権力と宗教勢力との関係を解明していく。状況が許せば、夏季休暇中授業で取り上げた神社や史跡のフィールドワークも考えたい。

■学修目標

1.日本中世前期における政治権力と宗教勢力との関係について理解させるとともに歴史を学ぶ意義を押さえる。
2.当時の政治権力の具体例として薩摩、大隅国司や大宰府、宗教勢力の例として鎌倉末期以降薩摩国の国一宮であった現新田神社(鹿児島県薩摩川内市宮内町鎮座)や薩摩国の国鎮守であった現枚開神社(鹿児島県指宿市開聞十町鎮座)、大隅国の国一宮であり国鎮守を兼ねていたと考えられる鹿児島神宮(鹿児島県霧島市隼人町)等我々が現在生活している鹿児島県域や九州地方の神社を素材として取り上げ、政権所在地と身近な地域の歴史との関係について考察していく。
3.朝廷と幕府の政治上における力関係を理解させる。
4.当該期の国際関係が日本の歴史展開に与える影響を理解させる。

■授業計画

今回は対面授業で、教育学部文科研究棟６階社会科第２演習室で開講する。成績評価は、平素の状態を踏まえて学期末課題で評価する。

１.授業の概要、歴史を学ぶ意義。
２.日本中世前期における政治権力と宗教勢力との関係。
３.国鎮守について。
４.国一宮について。
５.肥前国における国鎮守。
６.肥前国における国一宮。
７.薩摩国における国鎮守。
８.薩摩国における国一宮。
９.大隅国における国鎮守。
10.大隅国における国一宮。
11.３か国の事例から見る国鎮守と国一宮との関係。
12.対馬嶋・筑前国における国鎮守と国一宮との関係。
13.肥後国における国鎮守と国一宮との関係(1)
14.肥後国における国鎮守と国一宮との関係(2)
15.全体の総括

■教科書

特になし。

■参考書

授業の中で、随時紹介する。

■成績の評価基準

毎回の課題提出状況約３割、学期末課題７割、但し学期末課題は毎回の課題の中から出題する。

■オフィスアワー

木曜日４限目

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
現代史特論演習			
■英語名			
Contemporary History (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
細川道久	7567（内線）	hos※leh.kagoshima-u.ac.jp ※はアットマーク	
■共同担当教員			

■授業概要

本授業は、遠隔リアルタイム型で行なう予定である。

近・現代のイギリス帝国史・カナダ史・大西洋関係史を扱う。研究文献（英語・日本語）の読解、レジュメ作成や報告、討論を行なう。

■学修目標

１．イギリス帝国＝コモンウェルス、および北大西洋世界の歴史的動態を理解する。
２．研究文献（英語・日本語）の読解能力を養う。
３．西洋史研究の方法論を理解する。
４．西洋史学の修士論文作成に必要な研究能力を養う。

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　研究文献読解、報告、討論
第３回　研究文献読解、報告、討論
第４回　研究文献読解、報告、討論
第４回　研究文献読解、報告、討論
第６回　研究文献読解、報告、討論
第７回　研究文献読解、報告、討論
第８回　研究文献読解、報告、討論
第９回　研究文献読解、報告、討論
第10回　研究文献読解、報告、討論
第12回　研究文献読解、報告、討論
第13回　研究文献読解、報告、討論
第14回　研究文献読解、報告、討論
第15回　総括討論

■教科書

受講生と相談して決める。

■参考書

授業時に適宜紹介する。

■成績の評価基準

報告・質疑応答など、授業への取り組み態度（100%）。

■オフィスアワー

金曜10時～11時　研究室

■受講要件

西洋史に関する知識を有する者、かつ、英語の十分な読解力を有する者の受講を望む。

■備考

■科目名			
現代史特論			
■英語名			
Contemporary History			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
細川道久	7567（内線）	hos※leh.kagoshima-u.ac.jp ※はアットマーク	
■共同担当教員			

■授業概要

本授業は、遠隔リアルタイム型で行なう予定である。

近・現代のイギリス帝国史・大西洋関係史、あるいは、西洋史研究の近年の動向をあつかう。受講者による報告・意見交換を行なうことで、自己の研究分野にとどまらず、できるかぎり関心対象を広げてもらう。

■学修目標

１．イギリス帝国＝コモンウェルス、および北大西洋世界の歴史的動態を理解する。
２．歴史研究の動向を理解する。
３．受講者の関心対象を広げることで、研究の多様化・学際化に対応できる能力を養う。

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　研究文献読解、報告、討論
第３回　研究文献読解、報告、討論
第４回　研究文献読解、報告、討論
第４回　研究文献読解、報告、討論
第６回　研究文献読解、報告、討論
第７回　研究文献読解、報告、討論
第８回　研究文献読解、報告、討論
第９回　研究文献読解、報告、討論
第10回　研究文献読解、報告、討論
第12回　研究文献読解、報告、討論
第13回　研究文献読解、報告、討論
第14回　研究文献読解、報告、討論
第15回　総括討論

■教科書

受講生と相談して決める。

■参考書

授業時に適宜紹介する。

■成績の評価基準

報告・質疑応答など、授業への取り組み態度（100%）。

■オフィスアワー

金曜10時～11時　研究室

■受講要件

西洋史に関する知識を有する者、かつ、英語の十分な読解力を有する者の受講を望む。

■備考

■科目名			
中国語学特論			
■英語名			
Chinese Linguistics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
三木夏華	0992857502	sanmu@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
■授業概要			
モダリティ、統語論、語用論などに関する文献、論文の講読をもとに、関連する諸問題について討論する。			
■学修目標			
１．モダリティ、統語論、語用論などの専門知識を習得する。 ２．日本語だけでなく、中国語などの外国語で書かれた資料を読むことにより、外国語の読解力を向上させる。			
■授業計画			
第１回　ガイダンス 第２回講読（対面） 第3回講読（対面） 第4回講読（対面） 第5回講読（対面） 第6回講読（対面） 第7回講読（対面） 第8回講読（対面） 第9回講読（対面） 第10回講読（対面） 第11回講読（対面） 第12回講読（対面） 第13回講読（対面） 第14回　講読（対面） 第15回　総括			
■教科書			
随時プリントを配布する。			
■参考書			
受講生の関心に応じて授業中に適宜紹介する。			
■成績の評価基準			
授業への取り組み態度（出席、発表など）100%			
■オフィスアワー			
木曜２限			
■受講要件			
ある程度の日本語能力（日本語での質疑応答、発表が可能）と中国語の運用能力（中国語の論文講読が可能）がある受講生に限る。			
■備考			

■科目名			
現代史特論演習			
■英語名			
Contemporary History (seminar)			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
国際総合文化論専攻	博士前期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
細川道久	7567（内線）	hos※leh.kagoshima-u.ac.jp ※はアットマーク	
■共同担当教員			

■授業概要

【zoomを使った遠隔リアルタイム型で行なう】

近・現代のイギリス帝国史・カナダ史・大西洋関係史を扱う。研究文献（英語・日本語）の読解、レジュメ作成や報告、討論を行なう。

■学修目標

１．イギリス帝国＝コモンウェルス、および北大西洋世界の歴史的動態を理解する。
２．研究文献（英語・日本語）の読解能力を養う。
３．西洋史研究の方法論を理解する。
４．西洋史学の修士論文作成に必要な研究能力を養う。

■授業計画

【zoomを使った遠隔リアルタイム型で行なう】

第１回　ガイダンス
第２回　研究文献読解、報告、討論
第３回　研究文献読解、報告、討論
第４回　研究文献読解、報告、討論
第４回　研究文献読解、報告、討論
第６回　研究文献読解、報告、討論
第７回　研究文献読解、報告、討論
第８回　研究文献読解、報告、討論
第９回　研究文献読解、報告、討論
第10回　研究文献読解、報告、討論
第12回　研究文献読解、報告、討論
第13回　研究文献読解、報告、討論
第14回　研究文献読解、報告、討論
第15回　総括討論

■教科書

■参考書

授業時に適宜紹介する。

■成績の評価基準

報告・質疑応答など、授業への取り組み態度（100%）。

■オフィスアワー

金曜10時～11時　研究室

■受講要件

西洋史に関する知識を有する者、かつ、英語の十分な読解力を有する者の受講を望む。

■備考

■科目名			
特別研究?			
■英語名			
Special Research?			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	講義	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
各指導教員	各指導教員のTel	各指導教員のMail	
■共同担当教員			
特になし。			

■授業概要

博士論文執筆までの研究活動を見据えて，適切な研究分野と研究方法を選択し，研究を遂行するための研究計画を立案する。先行研究の体系的な集約，論文の目的の明確化，資料収集の方法，論理の組み立て方等を学び，それらに基づいてレポートを書いてもらう。

■学修目標

1．自分の研究分野に適合した研究方法を身につける。
2．自分の研究を進める中で何を探究するのかのビジョンを明確にする。
3．自分の研究を進めるうえで、どのような資料が必要かを明確にする。
4．論文を執筆する際の様式や論理構造を修得する。

■授業計画

第１回　オリエンテーション　【対面形式】
第２回　研究の方向性に関するディスカッション(1)【対面形式】
第３回　研究の方向性に関するディスカッション(2)【対面形式】
第４回　研究方法の系統性と推移【対面形式】
第５回　先行研究となる論文の精読(1)【対面形式】
第６回　先行研究となる論文の精読(2)【対面形式】
第７回　先行研究となる論文の精読(3)【対面形式】
第８回　論文の構想(1)【対面形式】
第９回　論文の構想(2)【対面形式】
第１０回　資料の読解(1)【対面形式】
第１１回　資料の読解(2)【対面形式】
第１２回　資料の読解(3)【対面形式】
第１３回　プレゼンテーション【対面形式】
第１４回　論文執筆への準備(1)【対面形式】
第１５回　論文執筆への準備(2)【対面形式】

■教科書

各指導教員が指示する。

■参考書

各指導教員が指示する。

■成績の評価基準

各指導教員の評価に基づき，教務委員が100%認定する。

■オフィスアワー

各指導教員が指示する。

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
プロジェクト研究 I			
■英語名			
Project Research I			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	演習	2単位	1年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
平井一臣（地域政策コース）、三木夏華（文化政策コース）、萩野誠（島嶼政策コース）	285-8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

平井一臣（地域政策コース）、三木夏華（文化政策コース）、萩野誠（島嶼政策コース）

■授業概要

地域の問題を発見し、フィールド調査に基づいて政策提言をおこなう。

■学修目標

1. 地域の政策に関する基礎知識を理解する。
2. フィールド調査の基本を習得する。
3. プレゼンテーション能力を高める。

■授業計画

*遠隔授業により行います。
**状況によっては対面形式での授業に変更となる可能性があります。授業形態の変更の場合は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内で通知します。

1. 授業に関するオリエンテーション
2-5 授業における研究テーマの設定
6-13 フィールド調査の実施と中間報告
14 フィールド調査の結果報告および政策提言
15 総括（問題発見能力、フィールド調査、プレゼンテーションなどの方法）

■教科書

特になし。

■参考書

特になし。

■成績の評価基準

毎回の報告(80%)、最終報告(20%)。

■オフィスアワー

各コースの担当教員に連絡すること

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
プロジェクト研究 II			
■英語名			
Project Research II			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	演習	2単位	2年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
平井一臣（地域政策コース）、三木夏華（文化政策コース）、萩野誠（島嶼政策コース）	285-8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
平井一臣（地域政策コース）、三木夏華（文化政策コース）、萩野誠（島嶼政策コース）			
■授業概要			
地域の問題を発見し、フィールド調査によって問題解決のための政策を提言する。			
■学修目標			
1．地域の問題発見能力向上 2．フィールド調査能力 3．プレゼンテーション能力			
■授業計画			
*遠隔授業により行います。 **状況によっては対面形式での授業に変更となる可能性があります。授業形態の変更の場合は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内で通知します。 1 オリエンテーション 2-5 授業の調査研究テーマ設定 6-13 フィールド調査報告（もしくはＤ１の指導） 14 最終調査報告（もしくはＤ１の指導） 15 総括（問題発見、フィールド調査、プレゼンテーションの方法）			
■教科書			
特になし。			
■参考書			
特になし。			
■成績の評価基準			
報告（中間・最終）もしくはＤ１への指導(100%)。			
■オフィスアワー			
各コースの担当教員に連絡すること			
■受講要件			
プロジェクト研究Iの単位取得。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
特別研究			
■英語名			
Special Research			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	講義	2単位	3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
各指導教員	各指導教員のTel	各指導教員のMail	
■共同担当教員			
特になし。			
■授業概要			
学生が博士論文を作成するための授業である。学生は指導教員の指導のもと，各自研究テーマを立て，それを解決するためのプログラムを作成し，それに従って資料収集，論理構築，討論などを行ったのち，博士論文を完成させる。			
■学修目標			
1.博士論文のテーマ設定。 2.博士論文の資料収集。 3.博士論文の構成の完成。			
■授業計画			
第１回　導入【対面形式】 第２回　個別研究（１）【対面形式】 第３回　個別研究（２）【対面形式】 第４回　個別研究（３）【対面形式】 第５回　個別研究（４）【対面形式】 第６回　中間発表と指導（１）【対面形式】 第７回　中間発表と指導（２）【対面形式】 第８回　個別研究（５）【対面形式】 第９回　個別研究（６）【対面形式】 第１０回　個別研究（７）【対面形式】 第１１回　個別研究（８）【対面形式】 第１２回　個別研究（９）【対面形式】 第１３回　期末発表と指導（１）【対面形式】 第１４回　期末発表と指導（２）【対面形式】 第１５回　まとめ【対面形式】			
■教科書			
各指導教員が指示する。			
■参考書			
各指導教員が指示する。			
■成績の評価基準			
各指導教員の評価に基づき，教務委員が100%認定する。			
■オフィスアワー			
各指導教員が指示する。			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
特別研究?			
■英語名			
Special Research?			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	講義	2単位	3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
各指導教員	各指導教員のTel	各指導教員のMail	
■共同担当教員			
特になし。			
■授業概要			
学生が博士論文を作成するための授業である。学生は指導教員の指導のもと，各自研究テーマを立て，それを解決するためのプログラムを作成し，それに従って資料収集，論理構築，討論などを行ったのち，博士論文を完成させる。			
■学修目標			
1.博士論文のテーマ設定。 2.博士論文の資料収集。 3.博士論文の構成の完成。			
■授業計画			
第１回　導入【対面形式】 第２回　個別研究（１）【対面形式】 第３回　個別研究（２）【対面形式】 第４回　個別研究（３）【対面形式】 第５回　個別研究（４）【対面形式】 第６回　中間発表と指導（１）【対面形式】 第７回　中間発表と指導（２）【対面形式】 第８回　個別研究（５）【対面形式】 第９回　個別研究（６）【対面形式】 第１０回　個別研究（７）【対面形式】 第１１回　個別研究（８）【対面形式】 第１２回　個別研究（９）【対面形式】 第１３回　期末発表と指導（１）【対面形式】 第１４回　期末発表と指導（２）【対面形式】 第１５回　まとめ【対面形式】			
■教科書			
各指導教員が指示する。			
■参考書			
各指導教員が指示する。			
■成績の評価基準			
各指導教員の評価に基づき，教務委員が100%認定する。			
■オフィスアワー			
各指導教員が指示する。			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
特別研究?			
■英語名			
Special Research?			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	講義	2単位	3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
各指導教員	各指導教員のTel	各指導教員のMail	
■共同担当教員			
特になし。			
■授業概要			
学生が博士論文を作成するための授業である。学生は指導教員の指導のもと，各自研究テーマを立て，それを解決するためのプログラムを作成し，それに従って資料収集，論理構築，討論などを行ったのち，博士論文を完成させる。			
■学修目標			
1.博士論文のテーマ設定。 2.博士論文の資料収集。 3.博士論文の構成の完成。			
■授業計画			
第１回　導入【対面形式】 第２回　個別研究（１）【対面形式】 第３回　個別研究（２）【対面形式】 第４回　個別研究（３）【対面形式】 第５回　個別研究（４）【対面形式】 第６回　中間発表と指導（１）【対面形式】 第７回　中間発表と指導（２）【対面形式】 第８回　個別研究（５）【対面形式】 第９回　個別研究（６）【対面形式】 第１０回　個別研究（７）【対面形式】 第１１回　個別研究（８）【対面形式】 第１２回　個別研究（９）【対面形式】 第１３回　期末発表と指導（１）【対面形式】 第１４回　期末発表と指導（２）【対面形式】 第１５回　まとめ【対面形式】			
■教科書			
各指導教員が指示する。			
■参考書			
各指導教員が指示する。			
■成績の評価基準			
各指導教員の評価に基づき，教務委員が100%認定する。			
■オフィスアワー			
各指導教員が指示する。			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
特別研究			
■英語名			
Special Research			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程		
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
必修科目	講義	2単位	3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
各指導教員	各指導教員のTel	各指導教員のMail	
■共同担当教員			
特になし。			
■授業概要			
学生が博士論文を作成するための授業である。学生は指導教員の指導のもと，各自研究テーマを立て，それを解決するためのプログラムを作成し，それに従って資料収集，論理構築，討論などを行ったのち，博士論文を完成させる。			
■学修目標			
1.博士論文のテーマ設定。 2.博士論文の資料収集。 3.博士論文の構成の完成。			
■授業計画			
第１回　導入【対面形式】 第２回　個別研究（１）【対面形式】 第３回　個別研究（２）【対面形式】 第４回　個別研究（３）【対面形式】 第５回　個別研究（４）【対面形式】 第６回　中間発表と指導（１）【対面形式】 第７回　中間発表と指導（２）【対面形式】 第８回　個別研究（５）【対面形式】 第９回　個別研究（６）【対面形式】 第１０回　個別研究（７）【対面形式】 第１１回　個別研究（８）【対面形式】 第１２回　個別研究（９）【対面形式】 第１３回　期末発表と指導（１）【対面形式】 第１４回　期末発表と指導（２）【対面形式】 第１５回　まとめ【対面形式】			
■教科書			
各指導教員が指示する。			
■参考書			
各指導教員が指示する。			
■成績の評価基準			
各指導教員の評価に基づき，教務委員が100%認定する。			
■オフィスアワー			
各指導教員が指示する。			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
地域社会関係論			
■英語名			
Community Relations			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
櫻井芳生	099-285-7544	sakurai.yoshio@nifty.com	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

この授業では、地域社会における人間関係を実証的に探っていく方法について考察する。また、その際の分析枠組みとなる現代社会科学の処理論についても検討する。まず、社会関係についての既存の研究蓄積を検討し、それをふまえて受講者が各自の関心をもとに選んだテーマ等について、探求していく方法を考察する。探求方法によっては、社会調査などにかんして、他の課程の院生・学生などと共同作業をしていくこともある。また、英語文献を読む場合もある。
学部生と議論の機会を設けることもある。
本授業は、毎回オンデマンド形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

■学修目標

(1)地域における社会関係の実態についての知識と理解を得る。
(2)地域における社会関係の実態について、調査することができる

■授業計画

第１回ガイダンス（学修目標（１）、（２））
第２回報告と討論（学修目標（１）、（２））
第３回報告と討論（学修目標（１）、（２））
第４回報告と討論（学修目標（１）、（２））
第５回報告と討論（学修目標（１）、（２））
第６回報告と討論（学修目標（１）、（２））
第７回中間総括（学修目標（１）、（２））
第８回報告と討論（学修目標（１）、（２））
第９回報告と討論（学修目標（１）、（２））
第１０回報告と討論（学修目標（１）、（２））
第１１回報告と討論（学修目標（１）、（２））
第１２回報告と討論（学修目標（１）、（２））
第１３回報告と討論（学修目標（１）、（２））
第１４回総括討論（学修目標（１）、（２））
第１５回総括討論（学修目標（１）、（２））
学部生と議論の機会を設けることもある。

■教科書

適宜文献を指示する。

■参考書

適宜文献を指示する。

■成績の評価基準

レポート、平常点（出席、授業態度、発表、討論）100%

■オフィスアワー

木曜5限

■受講要件

特になし。

■備考

授業の内容については受講生の関心に合わせて追加・変更することがある。拙ウェブページもご覧ください。「

桜井芳生　鹿児島大学」で「検索」してください。http://homepage3.nifty.com/sakuraiyoshio/

■科目名

現代地域社会論

■英語名

Contemporary Regional Society

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
城戸秀之	099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

この授業では、社会の消費化・情報化という日本全体のマクロな変化と、それが地域社会に及ぼす影響について考察する。まず、全体的な日本社会の変化について検討し、それをふまえて受講者が各自の関心をもとに選んだ事例等の材料を検討してゆくことで、地域社会における現代性を理解することを目指す。
なお、この授業はリアルタイム配信による遠隔方式でおこなう。

■学修目標

(1)現代社会のマクロな変化についての知識と理解を得ることができる
(2)地域社会の現状について問題を発見し、全体釈社会との関連を見つけることができる

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　報告と討論（１）
第３回　報告と討論（２）
第４回　報告と討論（３）
第５回　報告と討論（４）
第６回　報告と討論（５）
第７回　中間討論１
第８回　報告と討論（６）
第９回　報告と討論（７）
第１０回　報告と討論（８）
第１１回　報告と討論（９）
第１２回　報告と討論（１０）
第１３回　報告と討論（１１）
第１４回　中間討論２
第１５回　総括討論

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

S. バウマン・T.メイ『社会学の考え方』筑摩書房、2016年。

■成績の評価基準

報告・討論の内容を評価する（100%）

■オフィスアワー

月曜４限（研究室）

■受講要件

なし

■備考

テキスト、講義生の関心を合わせて追加・変更します。

■科目名			
比較農業経営論			
■英語名			
Comparative Farming Theory			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
西村知	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし。			
■授業概要			
担当教員はフィリピンとフィジーの農村における土地制度と社会経済変化を現代制度学派やアマルティア・センの研究アプローチから研究している。本授業では、受講生のニーズに合わせて、農村や農業問題に関するテキストを選び、輪読する。希望がある場合には海外における調査の手法なども開設する。			
■学修目標			
・受講生の論文作成に役に立つ知識、技術を習得する。 ・ここでいう知識とは、例えば農村開発論や開発に関する諸社会科学、技術とは資料収集や調査手法などである。			
■授業計画			
1 オリエンテーション（輪読テキストの決定） 2-14 テキストの輪読および教員におる解説 15 総括（テキスト内容の再確認）			
■教科書			
授業開始後に決定する。			
■参考書			
授業開始後に指示する。			
■成績の評価基準			
授業におけるテキスト報告（50%）と議論の質（50%）（0-100点） The degree of understanding of the theories. (report:50%, discussion:50%)			
■オフィスアワー			
火曜日1時半から2時半			
■受講要件			
なし。			
■備考			
なし。			

■科目名			
経営財務論			
■英語名			
Corporate Finance			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
王鏡凱	7604	kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
各自の研究テーマに沿って指導する.			
■学修目標			
各自の研究テーマに沿って論文を書く.			
■授業計画			

授業形態：全授業は対面形式で実施する．
今後のコロナの感染状況やその他の理由により，授業形態を変更する場合がある．

第1回 ガイダンス
第2回 発表と討論(1)
第3回 発表と討論(2)
第4回 発表と討論(3)
第5回 発表と討論(4)
第6回 発表と討論(5)
第7回 発表と討論(6)
第8回 発表と討論(7)
第9回 発表と討論(8)
第10回 発表と討論(9)
第11回 発表と討論(10)
第12回 発表と討論(11)
第13回 発表と討論(12)
第14回 発表と討論(13)
第15回 総括

* 授業内容およびテキストについては、受講生研究上の必要性と関心に応じて追加・変更することがある。

*** コロナのため、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある.***

■教科書

特定の教科書は指定せず，受講生研究上の必要性と関心に応じて参考書を用いる.

■参考書

1．オリバー・ハート(著),鳥居昭夫(訳)，「企業 契約 金融構造」,慶應義塾大学出版会，2010年.
2．柳川範之，「契約と組織の経済学」，東洋経済新報社，2000年.
3．Jean Tirole, The Theory of Corporate Finance, Princeton University Press, 2006.
4．ポール・ミルグロム（著），ジョン・ロバーツ（著），奥野正寛(訳)，伊藤秀史(訳)，今井晴雄(訳)，西村理(訳)，八木甫(訳)『組織の経済学』NTT出版　1997年.
5．伊藤秀史(著),小林創(著),宮原泰之(著)、『組織の経済学』、有斐閣出版、2019年.

■成績の評価基準

発表・討論によって評価(100%)する.

■オフィスアワー

月曜日・3限目．MANABAの掲示板と電子メールにおいても随時受付しております.

■受講要件

特になし.

■備考

授業内容およびテキストについては，受講生研究上の必要性と関心に応じて追加・変更することがある.

■科目名			
経営財務論			
■英語名			
Corporate Finance			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
王鏡凱	7604	kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

各自の研究テーマに沿って指導する.

(授業形態：対面形式授業)

*** コロナのため、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。***

■学修目標

各自の研究テーマに沿って論文を書く.

■授業計画

***授業形態：全授業は対面形式で実施する. ***
***今後のコロナの感染状況やその他の理由により, 授業形態を変更する場合がある. ***

第1回 ガイダンス
第2回 発表と討論(1)
第3回 発表と討論(2)
第4回 発表と討論(3)
第5回 発表と討論(4)
第6回 発表と討論(5)
第7回 発表と討論(6)
第8回 発表と討論(7)
第9回 発表と討論(8)
第10回 発表と討論(9)
第11回 発表と討論(10)
第12回 発表と討論(11)
第13回 発表と討論(12)
第14回 発表と討論(13)
第15回 総括

* 授業内容およびテキストについては、受講生研究上の必要性と関心に応じて追加・変更することがある.

* 授業は対面形式である.

*** コロナのため、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある.***

■教科書

特定の教科書は指定せず, 受講生研究上の必要性と関心に応じて参考書を用いる.

■参考書

1. オリバー・ハート(著),鳥居昭夫(訳), 「企業 契約 金融構造」,慶應義塾大学出版会, 2010年.
2. 柳川範之, 「契約と組織の経済学」, 東洋経済新報社, 2000年.
3. Jean Tirole, The Theory of Corporate Finance, Princeton University Press, 2006.
4. ポール・ミルグロム（著）, ジョン・ロバーツ（著）, 奥野正寛(訳), 伊藤秀史(訳), 今井晴雄(訳), 西村

理(訳)，八木甫(訳)『組織の経済学』NTT出版　1997年.
5．伊藤秀史(著),小林創(著),宮原泰之(著)、『組織の経済学』、有斐閣出版、2019年.

■成績の評価基準

発表・討論によって評価(100%)する.

■オフィスアワー

月曜日・3限目．MANABAの掲示板と電子メールにおいても随時受付しております.

■受講要件

特になし.

■備考

授業内容およびテキストについては，受講生研究上の必要性と関心に応じて追加・変更することがある.

■科目名			
人間行動学			
■英語名			
Human Behavior			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
富原一哉	099-285-7536	tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

本授業では，人間行動の基本的原理である学習理論，脳・神経メカニズム等について，受講生の関心に応じて文献を講読し，内容に関して議論を行う。

■学修目標

さまざまな心理的・社会的状況下での人間行動の法則を理解し，人間行動に関連する諸問題の分析・解決能力を高める。

■授業計画

第1回　オリエンテーション(ZOOMによるオンライン型)
第2回　レジュメの作り方と発表について(ZOOMによるオンライン型)
第3回　発表と議論1(ZOOMによるオンライン型)
第4回　発表と議論2(ZOOMによるオンライン型)
第5回　発表と議論3(ZOOMによるオンライン型)
第6回　発表と議論4(ZOOMによるオンライン型)
第7回　発表と議論5(ZOOMによるオンライン型)
第8回　発表と議論6(ZOOMによるオンライン型)
第9回　発表と議論7(ZOOMによるオンライン型)
第10回　発表と議論8(ZOOMによるオンライン型)
第11回　発表と議論9(ZOOMによるオンライン型)
第12回　発表と議論10(ZOOMによるオンライン型)
第13回　発表と議論11(ZOOMによるオンライン型)
第14回　発表と議論12(ZOOMによるオンライン型)
第15回　まとめ(ZOOMによるオンライン型)

＊本授業は基本的に演習形式で行う。なお，受講生の興味・関心に応じてテーマ・内容を変更することもある。

■教科書

適宜文献を指示する。

■参考書

適宜文献を指示する。

■成績の評価基準

授業中の発表（70%）とレポート（30%）

■オフィスアワー

月曜２限（できるだけメールで事前に連絡のこと）

■受講要件

比較心理学，神経科学，動物行動学等のいずれかについての基礎知識を有することが望ましい。

■備考

なし

■科目名			
地域心理援助論			
■英語名			
Community Support in Psychology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
安部 幸志	099-285-7621	kojiabe@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
地域で必要な心理援助について、最新の研究について検討する授業である。履修者は自分で論文をまとめた上でレジメを作成し、発表することが求められる。基本的には英語の論文のみ、ここ10年以内に発表された論文の中から選択して発表し、批判的検討の後、各自の研究に知見を活用することを目指す。			
■学修目標			
（1）地域の心理支援に関する最新の研究手法を理解し、活用することが出来る。 （2）自らの研究計画と照らし合わせた問題設定と解決能力を身に付けることが出来る。			
■授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。 なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更すする際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。 第1回　オリエンテーション 第2回　研究論文の検索方法について 第3回　研究論文を読む際の注意点について 第4回　地域心理援助に関する論文発表 第5回　地域心理援助に関する論文データの批判的検討 第6回　地域心理援助に関する論文データの分析手法 第7回　中間まとめ 第8回　地域心理援助に関する論文発表 第9回　地域心理援助に関する論文データの批判的検討 第10回　地域心理援助に関する論文データの分析手法 第11回　新たな調査計画と分析方略の立案 第12回　予備調査データの分析 第13回　予備調査データの分析結果の批判的検討 第14回　本調査に向けた計画立案 第15回　まとめ			
■教科書			
使用しない			
■参考書			
授業内にて適宜指示する			
■成績の評価基準			
授業における貢献度：40% 最終レポートまたは調査計画：60%			
■オフィスアワー			
月、木の昼休み			
■受講要件			
特になし			
■備考			
授業は基本的に演習方式で実施する			

■科目名			
社会行動論			
■英語名			
Social Behavior			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大薗博記	099-285-7538	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

社会の中での人間行動について、主に「適応」と「マイクロマクロ過程」に焦点を当てる。具体的には、進化心理学と文化心理学について詳しく紹介した上で、議論を行う。複数のテキストを用いて講読、発表、討論を行い、それらを通して、人間の社会行動について考察する。ただし、具体的な内容については受講生との相談によって変更することもある。

■学修目標

人の心理と社会現象との関係を分析するために社会心理学の知識と研究法を習得すること、人間関係などの個人の問題から文化摩擦などの社会問題までを、多面的な視点から考察できるようになることを目標とする。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回：オリエンテーション
第２回：進化と自然淘汰
第３回：包括適応度
第４回：性・配偶行動
第５回：協力関係（１）囚人のジレンマ
第６回：協力関係（２）公共財供給問題
第７回：協力関係（３）集団間協力と競争
第８回：道徳感と進化
第９回：文化心理学という視点
第１０回：自己観と認知スタイルの文化差
第１１回：対人関係における文化差
第１２回：文化差の起源（１）自発的移住
第１３回：文化差の起源（２）社会的流動性
第１４回：文化差の起源（３）遺伝子と文化的多様性
第１５回：まとめ

■教科書

「複雑さに挑む社会心理学　改訂版（亀田達也・村田光二　有斐閣、2010）」

■参考書

「進化と人間行動（長谷川寿一・長谷川眞理子　東京大学出版会,2010）」「自己と感情（北山忍　共立出版,1998）」その他、適宜紹介する。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（発表(50%)、討論への参加(50%)）により評価する。

■オフィスアワー

火曜３限

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
地域政治論			
■英語名			
Regional Politics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
平井一臣	8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
地域政治の歴史と現状について検討する。授業はリアルタイム型で行う。			
■学修目標			
地域政治の歴史と現状に関する主要な論点を理解したうえで、地域政治の課題に関する問題意識を深める。			
■授業計画			
第1回：オリエンテーション 第2回：地方自治 第３回：二元代表制 第４回：首長 第５回：地方議会 第６回：住民 第７回：戦前の地方制度 第８回：戦後改革と地方自治 第９回：革新自治体 第１０回：地方分権改革 第１１回：平成の大合併 第１２回：地方消滅論 第１３回：地方創生 第14回：報告と討論			
■教科書			
なし			
■参考書			
適宜紹介する。			
■成績の評価基準			
出席(50%)及び平常点(50%)			
■オフィスアワー			
月曜2限			
■受講要件			
なし			
■備考			
特になし。			

■科目名			
地域情報論			
■英語名			
Regional Information			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
市川英孝	099-285-7525	ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

情報の重要性はこれまでにも増して高まっている。地方においては情報格差が都市と比較して大きなデメリットであると言われる。しかし、情報化社会においてインターネットの恩恵を都市以上に地方はメリットが得られているのではないか。
地域が情報をいかに取得し、活用していくのか当授業では鹿児島での実例を取り上げ、実習を考慮に入れながら授業を進めていく。

■学修目標

博士論文作成を主眼に置き、非常に大きい視点から情報の分析を行う。
受講生が主体性を持ち、各自の問題点を明確にすることを目標とする。

■授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　鹿児島に関するケーススタディ（1）
第3回　鹿児島に関するケーススタディ（2）
第4回　鹿児島に関するケーススタディ（3）
第5回　鹿児島に関するケーススタディ（4）
第6回　地域の情報の活用例（1）
第7回　地域の情報の活用例（2）
第8回　地域の情報の活用例（3）
第9回　地域の情報の活用例（4）
第10回　地域の情報の活用例（5）
第11回　地域の情報の活用例（6）
第12回　情報の操作性と地域への貢献（1）
第13回　情報の操作性と地域への貢献（2）
第14回　情報の操作性と地域への貢献（3）
第15回　情報の操作性と地域への貢献（4）

「今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある」

■教科書

Harvard Business Review　ダイヤモンド社

■参考書

一橋ビジネスレビュー　ダイヤモンド社

■成績の評価基準

授業における受講生レポートとプレゼンテーション100%

■オフィスアワー

必要に応じて随時

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
地域情報論			
■英語名			
Regional Information			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
市川英孝	099-285-7525	ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

情報の重要性はこれまでにも増して高まっている。地方においては情報格差が都市と比較して大きなデメリットであると言われる。しかし、情報化社会においてインターネットの恩恵を都市以上に地方はメリットが得られているのではないか。
地域が情報をいかに取得し、活用していくのか当授業では鹿児島での実例を取り上げ、実習を考慮に入れながら授業を進めていく。

■学修目標

博士論文作成を主眼に置き、非常に大きい視点から情報の分析を行う。
受講生が主体性を持ち、各自の問題点を明確にすることを目標とする。

■授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　鹿児島に関するケーススタディ（１）
第3回　鹿児島に関するケーススタディ（２）
第4回　鹿児島に関するケーススタディ（３）
第5回　鹿児島に関するケーススタディ（４）
第6回　地域の情報の活用例（１）
第7回　地域の情報の活用例（２）
第8回　地域の情報の活用例（３）
第9回　地域の情報の活用例（４）
第10回　地域の情報の活用例（５）
第11回　地域の情報の活用例（６）
第12回　情報の操作性と地域への貢献（１）
第13回　情報の操作性と地域への貢献（２）
第14回　情報の操作性と地域への貢献（３）
第15回　情報の操作性と地域への貢献（４）

■教科書

Harvard Business Review　ダイヤモンド社

■参考書

一橋ビジネスレビュー　ダイヤモンド社

■成績の評価基準

授業における受講生レポートならびにプレゼンテーション(100%)

■オフィスアワー

必要に応じて適宜

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
地域政治論			
■英語名			
Regional Politics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
平井一臣	8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
地域政治の歴史と現状を考察する。			
■学修目標			
地域政治の歴史と現状に関する基本的な知識を習得するとともに、政策的な発想を習得する。			
■授業計画			
第1回：オリエンテーション 第2回：地域政治のトピック（阿久根問題・選挙） 第３回：地域政治のトピック（阿久根問題・首長と議会） 第４回：地域政治のトピック（阿久根問題・議会の意義と役割） 第５回：地域政治のトピック（阿久根問題・リコール） 第６回：地域政治のトピック（名古屋問題・減税問題） 第７回：地域政治のトピック（名古屋問題・首長新党） 第８回：地域政治のトピック（名古屋問題・県との確執） 第９回：地域政治のトピック（大阪府問題・財政問題） 第１０回：地域政治のトピック（大阪府問題・大阪都構想） 第１１回：地域政治のトピック（大阪府問題・メディア） 第１２回：地域政治のトピック（二元代表制をどう考えるか） 第１３回：地域政治のトピック（地方自治をどう考えるか） 第14回：報告と討論 第15回：総括			
■教科書			
なし			
■参考書			
授業中に適宜紹介する			
■成績の評価基準			
出席(50%)及び平常点(50%)			
■オフィスアワー			
月曜２限			
■受講要件			
なし			
■備考			
特になし。			

■科目名			
比較農業経営論			
■英語名			
Comparative Farming Theory			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士前期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
西村知	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし。			
■授業概要			
農業経営に関するテキストを輪読する。 「＊ 遠隔形式でおこなう予定であるが、 状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。」			
■学修目標			
農業経営に関する理論，実証研究を理解する。			
■授業計画			
１　オリエンテーション ２　テキストの紹介 ３－１４　テキストの輪読 １５　総括 ＊Manabaで課題を出します。レポートを提出いただきます。			
■教科書			
授業開始後に紹介する。			
■参考書			
授業開始後に紹介する。			
■成績の評価基準			
授業におけるテキスト報告（50%）と議論の質（50%）（0-100点） The degree of understanding of the theories. (report:50%, discussion:50%)			
■オフィスアワー			
水曜日：121:00-13:00			
■受講要件			
なし。			
■備考			
なし。			

■科目名			
現代地域社会論			
■英語名			
Contemporary Regional Society			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
城戸秀之	099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

高度成長期以降、日本社会は大きく変化している。授業では1980年代以降に焦点を合わせて、消費とコミュニケーションの観点から現代日本社会の特徴についての考察をおこなう。授業は複数のテキストを手がかりに、受講生の報告と討論によって進めてゆく。
ただし、具体的な内容については受講生との相談によって変更することもある。
なお、この授業はリアルタイム配信による遠隔方式でおこなう。

■学修目標

1. 社会学の専門知識を習得できる
2. 現代社会の特徴をとらえて、その事例を示すことができる
3. 社会学の用語をもちいて現代社会を分析することができる
4. 現代社会が解決すべき課題を提示できる

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　報告と討論（１）
第３回　報告と討論（２）
第４回　報告と討論（３）
第５回　報告と討論（４）
第６回　報告と討論（５）
第７回　中間討論１
第８回　報告と討論（６）
第９回　報告と討論（７）
第１０回　報告と討論（８）
第１１回　報告と討論（９）
第１２回　報告と討論（１０）
第１３回　報告と討論（１１）
第１４回　中間討論２
第１５回　総括討論

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

Z.バウマン『コミュニティ』筑摩書房、2017年。
他に受講生の関心に応じて授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

報告・討論の内容を評価する（100%）

■オフィスアワー

月曜４限（研究室）

■受講要件

なし

■備考

使用するテキストについては、受講生の関心に合わせて追加・変更することがある。

■科目名			
国際経済論			
■英語名			
International Economics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
日野道啓	099-285-7525	hino@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

本講義の目的は、国際経済論の専門知識を学習しながら、グローバル化と地域化が同時に進展している現代世界経済のしくみと諸問題について考察することである。なお、具体的な事例・課題の選定は、受講者の関心事を踏まえて行い、国際経済に関する国内外の古典および最新の論文の輪読と各受講生の研究発表を行う。

■学修目標

1.国際経済論の専門知識を習得する。
2.現代世界経済のしくみと動向について理解・分析することができる。

■授業計画

第1回:ガイダンス　　【遠隔形式（Zoom）】
第2回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第3回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第4回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第5回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第6回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第7回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第8回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第9回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第10回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第11回:研究発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第12回:研究発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第13回:研究発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第14回:研究発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第15回:総括　　【遠隔形式（Zoom）】

■教科書

受講生と相談の上、決定する。

■参考書

日野道啓(2019)『環境物品交渉・貿易の経済分析』文眞堂

■成績の評価基準

報告内容(40%)、討論内容(40%)、授業の理解度（20%)

■オフィスアワー

月曜日の2限目。メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
国際経済論			
■英語名			
International Economics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
日野道啓	099-285-7525	hino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

本講義の目的は、前期に引き続き、国際経済論の専門知識を学習しながら、グローバル化と地域化が同時に進展している現代世界経済のしくみと諸問題について考察することである。なお、具体的な事例・課題の選定は、受講者の関心事を踏まえて行い、国際経済に関する国内外の古典および最新の論文の輪読と各受講生の研究発表を行う。

■学修目標

1.国際経済論の専門知識を習得する。
2.現代世界経済のしくみと動向について理解・分析することができる。

■授業計画

第1回:ガイダンス　　【遠隔形式（Zoom）】
第2回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第3回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第4回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第5回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第6回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第7回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第8回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第9回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第10回:テキストおよび既存研究論文の発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第11回:研究発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第12回:研究発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第13回:研究発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第14回:研究発表と討論【遠隔形式（Zoom）】
第15回:総括　　【遠隔形式（Zoom）】

■教科書

受講生と相談の上、決定する。

■参考書

授業時に適宜紹介する。

■成績の評価基準

報告内容(40%)、討論内容(40%)、授業の理解度（20%)

■オフィスアワー

月曜日の2限目。メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける。

■受講要件

特になし

■備考

特になし

■科目名			
海運の法システム			
■英語名			
Legal System on Carriage of Goods by Sea			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
松田忠大	099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

商法の中の「海商法」の分野について講義を行います。海商法は海上物品運送を中心とした海上活動を対象とする法分野です。あまり知られていない法分野かもしれませんが、わが国の経済は、国際貿易に支えられており、多くの企業が海上運送に頼って活動しています。したがって、海商法は、海上運送企業のみならず、様々な業種の企業実務に密接に関連しています。海商法の歴史は古く、また、海上運送を中心とする海上活動は、広い海をその舞台とし、諸外国との間で行われることが多いことから、国際性をも兼ね備えた法分野でもあります。この授業では、海商法の基本概念を理解するとともに、海上物品運送契約の内容、海上運送人の責任制度、その他海上航行に関する法制度等を学習します。

■学修目標

（１）海商法に関する基本的な知識を身につける。
（２）商取引法の基礎理論を理解する。
（３）商取引の観点からの法的思考能力を身につける。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。ただし、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

第1回　海上物品運送契約の履行（１）【対面形式】
第2回　海上物品運送契約の履行（２）【対面形式】
第3回　海上物品運送契約の履行（３）【対面形式】
第4回　海上物品運送契約の履行（４）【対面形式】
第5回　海上物品運送契約の履行（５）【対面形式】
第6回　海上運送人の責任（１）【対面形式】
第7回　海上運送人の責任（２）【対面形式】
第8回　海上運送人の責任（３）【対面形式】
第9回　海上運送人の責任（４）【対面形式】
第10回　海上運送人の責任（５）【対面形式】
第11回：傭船契約（１）【対面形式】
第12回：傭船契約（２）【対面形式】
第13回：傭船契約（３）【対面形式】
第14回：海上旅客運送契約【対面形式】
第15回：共同海損および船舶の衝突【対面形式】

■教科書

箱井崇史著『基本講義現代海商法』〔第4版〕（成文堂）

■参考書

授業中に適宜指示する。

■成績の評価基準

レポートおよび授業への取り組み態度を総合評価する(100%)。

■オフィスアワー

火曜3限（研究室）

■受講要件

特になし。

■備考

なし。

■科目名			
海運の法システム			
■英語名			
Legal System on Carriage of Goods by Sea			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
松田忠大	099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

商法の中の「海商法」の分野について講義を行います。海商法は海上物品運送を中心とした海上活動を対象とする法分野です。あまり知られていない法分野かもしれませんが、わが国の経済は、国際貿易に支えられており、多くの企業が海上運送に頼って活動しています。したがって、海商法は、海上運送企業のみならず、様々な業種の企業実務に密接に関連しています。海商法の歴史は古く、また、海上運送を中心とする海上活動は、広い海をその舞台とし、諸外国との間で行われることが多いことから、国際性をも兼ね備えた法分野でもあります。この授業では、海商法の基本概念を理解するとともに、海上物品運送契約の内容、海上運送人の責任制度、その他海上航行に関する法制度等を学習します。

■学修目標

（１）海商法に関する基本的な知識を身につける。
（２）商取引法の基礎理論を理解する。
（３）商取引の観点からの法的思考能力を身につける。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。ただし、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

第1回　講義の概要説明・海商法とはどのような法分野か。【対面形式】
第2回　海商法の意義と特異性【対面形式】
第3回　船舶の概念（１）【対面形式】
第4回　船舶の概念（２）【対面形式】
第5回　船舶運航の主体と補助者（１）【対面形式】
第6回　船舶運航の主体と補助者（２）【対面形式】
第7回　船舶運航の主体と補助者（３）【対面形式】
第8回　船舶所有者等の責任制限【対面形式】
第9回　海上物品運送契約の意義と種類（１）【対面形式】
第10回　海上物品運送契約の意義と種類（２）【対面形式】
第11回　船荷証券（１）【対面形式】
第12回　船荷証券（２）【対面形式】
第13回　船荷証券（３）【対面形式】
第14回　船荷証券（４）【対面形式】
第15回　船荷証券（５）【対面形式】

■教科書

箱井崇史著『基本講義海商法』〔第4版〕（成文堂）

■参考書

授業中に適宜評価する。

■成績の評価基準

レポートおよび授業への取り組み態度を総合的に評価する(100%)。

■オフィスアワー

毎週火曜２限

■受講要件

特になし。

■備考

なし。

■科目名			
地域経済論			
■英語名			
Regional Economics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
萩野　誠	７６０５	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
前期の講義に修得したツールをつかい 各自が研究対象とした地域経済を具体的に分析する。			
■学修目標			
博士後期課程の学生にふさわしい見識で地域を分析できるようになる			
■授業計画			
各自の報告をベースとするため、逐次計画を変更する。			
■教科書			
なし			
■参考書			
なし			
■成績の評価基準			
報告の深度(100%)			
■オフィスアワー			
講義終了後			
■受講要件			
前期に受講すること			
■備考			
なし			

■科目名			
地域経済論			
■英語名			
Regional Economics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
萩野　誠	7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
経済学が地域経済を本格的に分析しだしたのは、この５０年ほどである。これを分析するために必要なツールを修得する。			
■学修目標			
以下のツールをつかいこなせるようにする。 ?地域連関表 ?回帰分析 ?計量モデル ?立地モデル ?中心地モデル			
■授業計画			
あたえられたフィールドを分析する。 計画はツールを修得したのちに分析にはいることとする。			
■教科書			
なし			
■参考書			
なし			
■成績の評価基準			
研究の深度(100%)			
■オフィスアワー			
講義終了後			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
なし			

■科目名			
社会行動論			
■英語名			
Social Behavior			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大薗博記	099-285-7538	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

社会の中での人間行動について、主に「適応」と「マイクロマクロ過程」に焦点を当てる。具体的には、進化心理学と文化心理学について詳しく紹介した上で、議論を行う。複数のテキストを用いて講読、発表、討論を行い、それらを通して、人間の社会行動について考察する。ただし、具体的な内容については受講生との相談によって変更することもある。

■学修目標

人の心理と社会現象との関係を分析するために社会心理学の知識と研究法を習得すること、人間関係などの個人の問題から文化摩擦などの社会問題までを、多面的な視点から考察できるようになることを目標とする。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回：オリエンテーション
第２回：進化と自然淘汰
第３回：包括適応度
第４回：性・配偶行動
第５回：協力関係（１）囚人のジレンマ
第６回：協力関係（２）公共財供給問題
第７回：協力関係（３）集団間協力と競争
第８回：道徳感と進化
第９回：文化心理学という視点
第１０回：自己観と認知スタイルの文化差
第１１回：対人関係における文化差
第１２回：文化差の起源（１）自発的移住
第１３回：文化差の起源（２）社会的流動性
第１４回：文化差の起源（３）遺伝子と文化的多様性
第１５回：まとめ

■教科書

「複雑さに挑む社会心理学　改訂版（亀田達也・村田光二　有斐閣、2010）」

■参考書

「進化と人間行動（長谷川寿一・長谷川眞理子　東京大学出版会,2010）」「自己と感情（北山忍　共立出版,1998）」その他、適宜紹介する。

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（発表(50%)、討論への参加(50%)）により評価する。

■オフィスアワー

火曜３限

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
地域心理援助論			
■英語名			
Community Support in Psychology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
安部 幸志	099-285-7621	kojiabe@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
地域で必要な心理援助について、最新の研究について検討する授業である。履修者は自分で論文をまとめた上でレジメを作成し、発表することが求められる。基本的には英語の論文のみ、ここ10年以内に発表された論文の中から選択して発表し、批判的検討の後、各自の研究に知見を活用することを目指す。			
■学修目標			
（1）地域の心理支援に関する最新の研究手法を理解し、活用することが出来る。 （2）自らの研究計画と照らし合わせた問題設定と解決能力を身に付けることが出来る。			
■授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定である。 なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更すする際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。 第1回　オリエンテーション 第2回　研究論文の検索方法について 第3回　研究論文を読む際の注意点について 第4回　地域心理援助に関する論文発表 第5回　地域心理援助に関する論文データの批判的検討 第6回　地域心理援助に関する論文データの分析手法 第7回　中間まとめ 第8回　地域心理援助に関する論文発表 第9回　地域心理援助に関する論文データの批判的検討 第10回　地域心理援助に関する論文データの分析手法 第11回　実際の調査データに基づく分析 第12回　調査データの分析結果の解釈 第13回　データ分析結果に基づく考察 第14回　調査結果に基づいた新たな課題の検討 第15回　まとめ			
■教科書			
特になし			
■参考書			
授業内にて適宜指示する			
■成績の評価基準			
授業における貢献度：40% 調査に基づくレポート：60%			
■オフィスアワー			
月、木の昼休み			
■受講要件			
特になし			
■備考			
授業は基本的に演習方式で実施する			

■科目名			
人間行動学			
■英語名			
Human Behavior			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	地域政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
富原一哉	099-285-7536	tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
本授業では，人間行動の理解に重要である進化学的観点，認知的バイアス等について，受講生の関心に応じて文献を講読し，内容に関して議論を行う。			
■学修目標			
さまざまな心理的・社会的状況下での人間行動の法則を理解し，人間行動に関連する諸問題の分析・解決能力を高める。			
■授業計画			
第1回　オリエンテーション(ZOOMによるオンライン型) 第2回　レジュメの作り方と発表について(ZOOMによるオンライン型) 第3回　発表と議論1(ZOOMによるオンライン型) 第4回　発表と議論2(ZOOMによるオンライン型) 第5回　発表と議論3(ZOOMによるオンライン型) 第6回　発表と議論4(ZOOMによるオンライン型) 第7回　発表と議論5(ZOOMによるオンライン型) 第8回　発表と議論6(ZOOMによるオンライン型) 第9回　発表と議論7(ZOOMによるオンライン型) 第10回　発表と議論8(ZOOMによるオンライン型) 第11回　発表と議論9(ZOOMによるオンライン型) 第12回　発表と議論10(ZOOMによるオンライン型) 第13回　発表と議論11(ZOOMによるオンライン型) 第14回　発表と議論12(ZOOMによるオンライン型) 第15回　まとめ(ZOOMによるオンライン型) ＊本授業は基本的に演習形式で行う。なお，受講生の興味・関心に応じてテーマ・内容を変更することもある。			
■教科書			
適宜文献を指示する。			
■参考書			
適宜文献を指示する。			
■成績の評価基準			
発表（70%）とレポート（30%）による。			
■オフィスアワー			
月曜２限（できるだけメールにて事前に連絡のこと）			
■受講要件			
比較心理学，進化心理学，認知心理学等のいずれかの基礎知識を有することが望ましい。			
■備考			
なし			

■科目名			
考古資源論			
■英語名			
Archaeological Resources			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
石田智子	099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

特になし。

■授業概要

先史時代の考古資料の解析を基に、多様な地域や社会との比較を通じて、過去の人類社会の構造や変化を解明する視点や方法を論じる。学生の報告と合わせて講義を行い、出席者全員で議論することで、各自の研究対象や考古学的実践をより広い視野で相対化することを目指す。考古学の諸理論や調査方法、考古資料の活用方法についても考察する。

■学修目標

１）考古資料の解析を通じて、過去の人類社会の構造や変化を解明する方法を修得する。
２）現代考古学の諸理論や基本概念を理解するとともに、各自の研究対象や考古学的実践を相対化する能力を身につける。
３）博士論文執筆に必要な思考能力や技術を養う。

■授業計画

※授業は対面形式で実施予定。ただし、状況によっては遠隔形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　ガイダンス
第２回　研究発表と議論１
第３回　研究発表と議論２
第４回　研究発表と議論３
第５回　研究発表と議論４
第６回　研究発表と議論５
第７回　研究発表と議論６
第８回　研究発表と議論７
第９回　研究発表と議論８
第１０回　研究発表と議論９
第１１回　研究発表と議論１０
第１２回　研究発表と議論１１
第１３回　研究発表と議論１２
第１４回　研究発表と議論１３
第１５回　まとめ

■教科書

受講生と相談の上、決定する。

■参考書

授業中に適宜紹介し、資料を配付する。

■成績の評価基準

授業にのぞむ姿勢（事前学習、発表内容、授業中の発言など）　１００％

■オフィスアワー

授業終了後３０分。質問や相談等があれば、manabaの個別指導、E-mail、研究室でも随時受け付けます。

■受講要件

予習：自身の研究内容をまとめる。標準的時間は２時間。
復習：議論の内容を振り返り、学習内容を復習する。標準的時間は２時間。

■備考

特になし。

■科目名			
社会言語学			
■英語名			
Sociolinguistics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
太田一郎	099-285-7566	iota@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
言語変異，言語行動など言語の運用面に見られる問題を社会との関わりという点から考察する。また，言語に関する問題の調査・分析方法などについても検討する。ただし、内容は受講生との相談によって変更することもあり得る。			
■学修目標			
(1) 言語と社会の関係を言語学の理論に基づいてとらえることができる。 (2) 自ら問題点を見つけ出し，調査・分析を実施できる。 (3) 学術論文や報告書を執筆できる。			
■授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定であるが，受講生の事情に応じて遠隔授業とすることもある。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。 第１回　ガイダンス 第２回　テキスト研究・調査実習（１） 第３回　テキスト研究・調査実習（２） 第４回　テキスト研究・調査実習（３） 第５回　テキスト研究・調査実習（４） 第６回　テキスト研究・調査実習（５） 第７回　テキスト研究・調査実習（６） 第８回　中間考察と討論（１） 第９回　テキスト研究・調査実習（７） 第10回　テキスト研究・調査実習（８） 第11回　テキスト研究・調査実習（９） 第12回　テキスト研究・調査実習（10） 第13回　テキスト研究・調査実習（11） 第14回　期末考察と討論（２） 第15回　講義の総括 受講生との相談により変更することもある 授業はすべてオンライン（zoom）で行う			
■教科書			
指定しない			
■参考書			
適宜指示する			
■成績の評価基準			
授業への参加（発表，討論）(50%）調査報告または学期末レポート（50%)			
■オフィスアワー			
月曜3限（研究室）			
■受講要件			

なし

■備考

なし

■科目名			
物質文化論			
■英語名			
Material Culture Studies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
渡辺芳郎	099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
近世陶磁器の考古学的研究			
■学修目標			
近世陶磁器についての考古学的研究成果についての理解を深める			
■授業計画			
第１回　イントロダクション 第２回　近世陶磁器の考古学的研究の現状と課題(1)：陶磁器考古学の意義 第３回　近世陶磁器の考古学的研究の現状と課題(2)：研究史 第４回　近世陶磁器の考古学的研究の現状と課題(3)：肥前陶磁器の出現 第５回　近世陶磁器の考古学的研究の現状と課題(4)：肥前陶磁器の展開 第６回　近世陶磁器の考古学的研究の現状と課題(5)：磁器技術の拡散 第７回　近世陶磁器の考古学的研究の現状と課題(6)：陶器と磁器との関係 第８回　近世陶磁器の考古学的研究の現状と課題(7)：陶磁器生産技術（窯構造） 第９回　近世陶磁器の考古学的研究の現状と課題(8)：陶磁器生産技術（窯道具） 第10回　近世陶磁器の考古学的研究の現状と課題(9)：技術交流 第11回　近世陶磁器の考古学的研究の現状と課題(10)：陶磁器流通の諸類型 第12回　近世陶磁器の考古学的研究の現状と課題(11)：陶磁器流通の検討方法 第13回　近世陶磁器の考古学的研究の現状と課題(12)：商品としての陶磁器 第14回　近世陶磁器の考古学的研究の現状と課題(13)：政治的アイテムとしての陶磁器 第15回　まとめ （対面授業を予定しているが、状況次第では遠隔授業）			
■教科書			
なし			
■参考書			
授業中に適宜紹介する			
■成績の評価基準			
平常点（50%）・レポート（50%）			
■オフィスアワー			
月曜日３限目			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
文化テクスト論			
■英語名			
Studies on Cultural Texts			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
竹内勝徳	256-8874	takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
文学や映画、音楽について考えるための批評や小説作品を英語の原典で読み、文化圏の違いや時代、文脈との関連で特定の作品がどのような意味を持つのかを分析する。			
■学修目標			
文学や映画、音楽作品の意義を後半な視野と深い洞察により捉えなおす。			
■授業計画			
第1回オリエンテーション（ラインビデオ） 第2回課題設定（ラインビデオ） 第3回文献精読（ラインビデオ） 第4回文献精読（ラインビデオ） 第5回文献精読（ラインビデオ） 第6回プレゼンテーション（ラインビデオ） 第7回プレゼンテーション（ラインビデオ） 第8回プレゼンテーション（ラインビデオ） 第9回プレゼンテーション（ラインビデオ） 第10回論文指導（ラインビデオ） 第11回論文指導（ラインビデオ） 第12回論文指導（ラインビデオ） 第13回論文指導（ラインビデオ） 第14回論文指導（ラインビデオ） 第15回総括（ラインビデオ）			
■教科書			
授業中に決定する。			
■参考書			
授業中に決定する。			
■成績の評価基準			
授業中の発表50%とレポート50%。			
■オフィスアワー			
月曜昼休み			
■受講要件			
自分の研究課題について十分な準備を行なっていること。			
■備考			
授業外では４時間ほど課題資料やテキストを事前に読解し、授業での指摘について事後に再度確認することが望まれる。			

■科目名			
比較宗教論			
■英語名			
Comparative Religion			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
兼城糸絵	099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
本講義では、質的フォールドワーク論について実践的な知識を深めることを目標とする。受講生は教員が指定する本を精読し、自身のフィールドワーク経験を踏まえて発表・議論を行う。			
■学修目標			
・質的研究の方法論について理解を深める。 ・質的フィールドワークで得られたデータを文章化するプロセスを理解し、「文化を書く」という行為が持つ意味について考える。			
■授業計画			
第1回:オリエンテーション 第2回:論文の書き方・レジュメの作り方について 第3回:課題図書に関するレクチャー、分担決め 第4回: 発表と議論1 第5回:発表と議論2 第6回:発表と議論3 第7回:発表と議論4 第8回:発表と議論5 第9回:発表と議論6 第10回:発表と議論7 第11回:発表と議論8 第12回:発表と議論9 第13回:発表と議論10 第14回:発表と議論11 第15回:本講義のまとめ ※本講義では教員による講義も行うが、演習形式も併用して進めていく。なお、受講生の研究テーマや関心を考慮して、テーマ・内容を変更することもある。 ※本講義は基本的に対面形式で行うが、状況によっては遠隔形式に切り替えることもある。			
■教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
■参考書			
講義中に指示する。			
■成績の評価基準			
発表・議論への参加度にもとづいて評価する（100%）			
■オフィスアワー			
水曜日昼休み（12時-13時）			
■受講要件			
宗教学や文化人類学的な視点から博士論文を執筆しようとする者がのぞましい。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
比較宗教論			
■英語名			
Comparative Religion			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
兼城糸絵	099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
本講義では、宗教人類学および関連領域の諸理論および質的フィールドワーク論について知識を深めることを目標とする。受講生は教員が指定する本を精読し、自身のフィールドワーク経験を踏まえて発表・議論を行う。			
■学修目標			
人類学および近接分野の諸理論を踏まえた上で、具体的な事例を分析する能力を高める。			
■授業計画			
第1回:オリエンテーション 第2回:論文の書き方・レジュメの作り方について 第3回:課題図書に関するレクチャー 第4回: 発表と議論1 第5回:発表と議論2 第6回:発表と議論3 第7回:発表と議論4 第8回:発表と議論5 第9回:発表と議論6 第10回:発表と議論7 第11回:発表と議論8 第12回:発表と議論9 第13回:発表と議論10 第14回:発表と議論11 第15回:本講義のまとめ ※教員による講義も行うが、演習形式も併用する。 ※受講生の研究テーマや関心を考慮して、テーマ・内容を変更することもある。 ※本講義は基本的に対面形式で行うが、状況に応じてオンライン形式に変更することもある。			
■教科書			
本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。			
■参考書			
講義中に適宜提示する。			
■成績の評価基準			
発表・議論への参加度で評価する（100%）			
■オフィスアワー			
水曜日昼休み（12時-13時）			
■受講要件			
宗教学や文化人類学的な視点から博士論文を執筆しようとする者がのぞましい。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
考古資源論			
■英語名			
Archaeological Resources			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
石田智子	099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

特になし。

■授業概要

先史時代の考古資料の解析を基に、多様な地域や社会との比較を通じて、過去の人類社会の構造や変化を解明する視点や方法を論じる。学生の報告と合わせて講義を行い、出席者全員で議論することで、各自の研究対象や考古学的実践をより広い視野で相対化することを目指す。考古学の諸理論や調査方法、考古資料の活用方法についても考察する。

■学修目標

１）考古資料の解析を通じて、過去の人類社会の構造や変化を解明する方法を修得する。
２）現代考古学の諸理論や基本概念を理解するとともに、各自の研究対象や考古学的実践を相対化する能力を身につける。
３）博士論文執筆に必要な思考能力や技術を養う。

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　研究発表と議論１
第３回　研究発表と議論２
第４回　研究発表と議論３
第５回　研究発表と議論４
第６回　研究発表と議論５
第７回　研究発表と議論６
第８回　研究発表と議論７
第９回　研究発表と議論８
第１０回　研究発表と議論９
第１１回　研究発表と議論１０
第１２回　研究発表と議論１１
第１３回　研究発表と議論１２
第１４回　研究発表と議論１３
第１５回　まとめ

■教科書

受講生と相談の上、決定する。

■参考書

授業中に適宜紹介し、資料を配付する。

■成績の評価基準

授業にのぞむ姿勢（発表内容、質疑応答、授業中の発言など）　１００％

■オフィスアワー

授業終了後３０分。質問や相談等があれば、manabaの個別指導、E-mail、研究室でも随時受け付けます。

■受講要件

予習：自身の研究内容をまとめる。標準的時間は２時間。
復習：議論の内容を振り返り、学習内容を復習する。標準的時間は２時間。

■備考

特になし。

■科目名			
比較音楽文化論			
■英語名			
Comparative Musicology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
梁川英俊	099-285-8891	yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

●本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

本講では音楽を参照軸に東西の文化の比較を目指す。本年度は島唄と新民謡を中心とした奄美群島の民謡をとりあげ、それを取り巻く社会・文化・メディアとの関係を、韓国・全羅道の民謡やフランス・ブルターニュ地方の民謡の例と比較しながら、周縁地域の音楽文化について考察してみたい。

■学修目標

１）音楽を通じて東西の文化を理解できる
２）周縁地域の文化に目を向けることができる

■授業計画

第１回　イントロダクション
第２回　日本民謡（１）
第３回　日本民謡（２）
第４回　奄美島唄（１）
第５回　奄美島唄（２）
第６回　奄美新民謡（１）
第７回　奄美新民謡（２）
第８回　奄美新民謡（３）
第９回　奄美新民謡（４）
第10回　奄美新民謡（５）
第11回　韓国の民謡（１）
第12回　中国の民謡（２）
第13回　ヨーロッパの民謡（１）
第14回　ヨーロッパの民謡（２）
第15回　まとめ

■教科書

特に指定せず、適宜支持する

■参考書

特に指定せず、適宜支持する

■成績の評価基準

毎回の課題提出（100%）

■オフィスアワー

授業日の昼休み

■受講要件

なし

■備考

授業形式はコロナウイルス感染症の影響、その他の理由で変更することがある。

■科目名			
東アジア比較社会論			
■英語名			
Comparative Social History of East Asia			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大田由紀夫	099-285-7560	ota@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
近世東アジア経済史に関する文献・資料等の検討を通じて、その歴史的動態を考察していく。おもに受講者による報告とこれに関する討論を中心として授業を進める。			
■学修目標			
近世東アジア経済史についての基礎的知識を修得し、東アジア社会を歴史的に把握することができる。			
■授業計画			
第１回　　ガイダンス 第２回～第１５回　報告と討論 ※なお、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
■教科書			
特になし。			
■参考書			
授業で適宜指示する。			
■成績の評価基準			
授業理解度60%、発言評価点40%			
■オフィスアワー			
授業・会議等以外の平日午後であればいつでも可。			
■受講要件			
東アジア近世史に関する大学院前期課程レベルの知識と漢文史料読解能力を有すること。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
比較音楽文化論			
■英語名			
Comparative Musicology			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
梁川英俊	099-285-8891	yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
●本授業は、毎回対面形式で行う予定です。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内において通知します。 本講では音楽を参照軸に東西の文化の比較を目指す。本年度は日本の民謡の特徴とその採集の歴史について考察する。			
■学修目標			
日本の音楽の特徴を理解できる			
■授業計画			
第１回　イントロダクション（課題提出型授業） 第２回　日本の音楽の基本概念（１）（課題提出型授業） 第３回　日本の音楽の基本概念（２）（課題提出型授業） 第４回　日本の音楽の基本概念（３）（課題提出型授業） 第５回　日本の音楽の基本概念（４）（課題提出型授業） 第６回　日本の民謡（１）（課題提出型授業） 第７回　日本の民謡（２）（課題提出型授業） 第８回　日本の民謡（３）（課題提出型授業） 第９回　日本の民謡（４）（課題提出型授業） 第10回　日本の民謡（５）（課題提出型授業） 第11回　民謡採集の歴史（１）（課題提出型授業） 第12回　民謡採集の歴史（２）（課題提出型授業） 第13回　民謡採集の歴史（３）（課題提出型授業） 第14回　民謡採集の歴史（４）（課題提出型授業） 第15回　まとめ（課題提出型授業） なお、今後の状況によっては授業回数・授業内容の見直しもあり得る。			
■教科書			
特に指定せず、適宜指示する			
■参考書			
特に指定せず、適宜指示する			
■成績の評価基準			
毎回の課題提出（100%）			
■オフィスアワー			
授業日の昼休み			
■受講要件			
特になし			
■備考			
授業形態はコロナウイルス感染症の影響、その他の理由で変更することがある。			

■科目名			
ヨーロッパ近代文学論			
■英語名			
Modern European Literature			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大和高行	099-285-7570	yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

本授業では、近代初期から18世紀初頭までのイギリス演劇を軸としながら、劇場構造の変化、観客の嗜好の変化、演劇批評や道徳改善運動の影響によってもたらされたヨーロッパ近代文学の質的変化について、比較文学・演劇史的観点から考察する。また、文学テクストに見られる帝国主義のありようにも注目する。

■学修目標

近代初期から18世紀初頭までのイギリス演劇の諸要素とヨーロッパ近代文学の質的変化の関係について説明することができる。

■授業計画

第1回 ガイダンス(ZOOMによるオンライン型)
第2回 発表と討論(1)(ZOOMによるオンライン型)
第3回 発表と討論(2)(ZOOMによるオンライン型)
第4回 発表と討論(3)(ZOOMによるオンライン型)
第5回 発表と討論(4)(ZOOMによるオンライン型)
第6回 発表と討論(5)(ZOOMによるオンライン型)
第7回 発表と討論(6)(ZOOMによるオンライン型)
第8回 発表と討論(7)(ZOOMによるオンライン型)
第9回 発表と討論(8)(ZOOMによるオンライン型)
第10回 発表と討論(9)(ZOOMによるオンライン型)
第11回 発表と討論(10)(ZOOMによるオンライン型)
第12回 発表と討論(11)(ZOOMによるオンライン型)
第13回 発表と討論(12)(ZOOMによるオンライン型)
第14回 発表と討論(13)(ZOOMによるオンライン型)
第15回 総括(ZOOMによるオンライン型)

＊オンライン型講義は居室での通常授業に変更になる可能性がある。

■教科書

必要に応じて適宜、指定する。

■参考書

・井野瀬久美惠『興亡の世界史 大英帝国という経験』(講談社学術文庫)東京、講談社、2017年。
・鹿児島近代初期英国演劇研究会(訳)『王政復古期シェイクスピア改作戯曲選集』福岡、九州大学出版会、2018年。
・吉田徹夫(監修)『映画で楽しむイギリスの歴史』東京、金星堂、2010年。
その他、授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

レポート課題(80%程度)、授業中の討論等への積極的な参加態度等(20%程度)とし、総合的に評価する。

■オフィスアワー

水曜日、9:15-10:15、大和研究室

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名

東アジア比較文化論

■英語名

East Asia Cross Culture Theory

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
高津孝	099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

印刷技術の発祥の地は中国である。中国においては早くも唐代後期より、印刷文化の時代に入り、10世紀以降の宋代において、出版文化は華々しく展開する。その後、印刷技術は東アジア全域に広がることになるが、本講義においては、中国の出版文化の展開と、東アジア全域にわたる図書の出版、流通、所蔵について検討を加える。特に今学期は、中国出版史の概観を取り扱う。

■学修目標

1，中国出版文化の展開を理解する。
2，中国典籍の出版と流通を理解する。
3，出版文化の東アジア全域への展開を理解する。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　導入
第２回　印刷術の発明
第３回　唐代：勃興期
第４回　五代：官刻、家刻、坊刻の成立
第５回　宋代：黄金時代
第６回　遼、金、西夏：周辺諸民族への広がり
第７回　元代：多色刷りと封面の出現
第８回　明代：汲古閣本と多色刷印刷
第９回　清代：殿本と家刻本
第１０回　宋代の活字印刷
第１１回　元代の活字印刷
第１２回　明代の活字印刷
第１３回　清代の活字印刷
第１４回　印刷術の伝播
第１５回　まとめ

■教科書

張紹勲著、高津孝訳『中国の書物と印刷』（日本エディタースクール、1999年）。

■参考書

T・F・カーター『中国の印刷術1,2―その発明と西伝』（平凡社、東洋文庫、1977年）。
井上進『中国出版文化史：書物世界と知の風景』（名古屋大学出版会，2002年）。

■成績の評価基準

レポート（50%）と平常点（50%）による。平常点は出席、報告、受講態度である。

■オフィスアワー

金曜日・2限・中国文学研究室

■受講要件

特になし。

■備考

授業の計画は、受講生の研究テーマや関心を考慮して変更することもある。

■科目名

多文化社会史

■英語名

History of Multicultural Societies

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
細川道久	7567（内線）	hos※leh.kagoshima-u.ac.jp ※はアットマーク

■共同担当教員

なし

■授業概要

本授業は、遠隔リアルタイム型で行なう予定である。

本授業では、カナダに焦点を当て、移民社会の形成、移民政策の展開、移民と国民統合・社会統合など、移民社会にまつわる諸問題について歴史的に考察する。あわせて、他の社会との関係史・比較史的考察を行ない、多民族・多文化社会の歴史的展開に関する理解を深める。

■学修目標

１．カナダ史に関する専門的知識を修得する。
２．多文化社会の歴史的展開を関係史・比較史の視点から理解する。

■授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　研究文献読解、報告、討論
第３回　研究文献読解、報告、討論
第４回　研究文献読解、報告、討論
第４回　研究文献読解、報告、討論
第６回　研究文献読解、報告、討論
第７回　研究文献読解、報告、討論
第８回　研究文献読解、報告、討論
第９回　研究文献読解、報告、討論
第10回　研究文献読解、報告、討論
第12回　研究文献読解、報告、討論
第13回　研究文献読解、報告、討論
第14回　研究文献読解、報告、討論
第15回　総括討論

■教科書

英語および日本語のテキスト。受講生と相談して決めることがある。

■参考書

細川道久『カナダの自立と北大西洋世界――英米関係と民族問題』刀水書房、2014年
D・クレマン（細川道久訳）『カナダ人権史――多文化共生社会はこうして築かれた』明石書店、2018年
Ｖ・ノールズ（細川道久訳）『カナダ移民史――多民族社会の形成』明石書店、2014年
細川道久編著『カナダの歴史を知るための５０章』明石書店、2017年
細川道久『ニューファンドランド――いちばん古くていちばん新しいカナダ』彩流社、2017年
細川道久『「白人」支配のカナダ史――移民・先住民・優生学』彩流社、2012年
細川道久『カナダ・ナショナリズムとイギリス帝国』刀水書房、2007年
細川道久『カナダの歴史がわかる25話』明石書店、2007年
木村和男編『カナダ史』山川出版社、1999年
日本カナダ学会編『新版　史料が語るカナダ』有斐閣、2008年
藤川隆男編『白人とは何か――ホワイトネス・スタディーズ入門』刀水書房、2005年

■成績の評価基準

報告・質疑応答など、授業への取り組み態度（100%）。

■オフィスアワー

金曜日10時～11時　研究室

■受講要件

西洋史に関する十分な知識、かつ、英語の十分な読解力を有する者の受講を望む。

■備考

特になし。

■科目名			
ヨーロッパ現代文学論			
■英語名			
Contemporary European Literature			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
竹岡 健一	099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

目的：本授業の目的は、ヨーロッパの現代文学とその研究方法に関して理解を深めることにある。
内容：ドイツを中心に、現代ヨーロッパを代表する作家・作品、およびそれを理解する上で必要な分析方法や思想・歴史などについて詳しく考察する。
方法：資料を批判的に講読し、討論を行う。また、受講者は、授業で学んだ事柄について、学期末にレポートを作成する。

■学修目標

１．現代ヨーロッパ文学の代表的な作家・作品の特徴を述べることができる。
２．現代ヨーロッパ文学を研究するための方法論について、自らの考えを述べることができる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　ガイダンス：授業の概要と学修目標の確認
第２回　資料の講読と討論（１）　19世紀末から1945年までのドイツ語圏の文学
第３回　資料の講読と討論（２）　旧西ドイツの文学
第４回　資料の講読と討論（３）　旧東ドイツの文学
第５回　資料の講読と討論（４）　ドイツ再統一以後の文学
第６回　資料の講読と討論（５）　1945年以後のスイス・オーストリアの文学
第７回　資料の講読と討論（６）　19世紀末から現代のアメリカ文学
第８回　資料の講読と討論（７）　19世紀末から現代のイギリス文学
第９回　資料の講読と討論（８）　19世紀末から現代のフランス文学
第１０回　資料の講読と討論（９）　文学研究の方法論（１）　精神分析批評
第１１回　資料の講読と討論（１０）　文学研究の方法論（２）　フェミニズム批評
第１２回　資料の講読と討論（１１）　文学研究の方法論（３）　ロシア・フォルマリズム
第１３回　資料の講読と討論（１２）　文学研究の方法論（４）　構造主義
第１４回　資料の講読と討論（１３）　文学研究の方法論（５）　受容理論
第１５回　授業のまとめとふりかえり：身についた事柄の確認
期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

・宮下志朗・井口篤『ヨーロッパ文学の読み方』（放送大学教育振興会、2014年）
・中央大学人文科学研究所編『現代ヨーロッパ文学の動向：中心と周縁』（中央大学出版部、1996年）
・城眞一・吉川信『プラハとダブリン：20世紀ヨーロッパ文学における二つのトポス』（日本独文学会研究叢書066号、2009年）
・西脇順三郎（新倉俊一編）『ヨーロッパ文学』（慶応義塾大学出版会、2007年）
・黒田憲治・多田道太郎編『西洋文学事典』（筑摩書房、2012年）
・盛岡裕一編『西洋文学：理解と鑑賞』（大阪大学出版会、2011年）
・近藤耕人『ミメーシスを越えて：ヨーロッパにおける身体と言語』（水声社、2008年）
・三原芳秋・渡邊英理・鵜戸聡編『＜クリティカル・ワード＞文学理論：読み方を学び文学と出会いなおす』

（フィルムアート社、2020年）
・武田悠一『読むことの可能性：文学理論への招待』（彩流社、2017年）
・蓼沼正美『超入門！現代文学理論講座』（筑摩書房、2015年）
・西田谷洋『文学理論』（ひつじ書房、2014年）
・ピーター・バリー『文学理論講義・新しいスタンダード』（ミネルヴァ書房、2014年）

■成績の評価基準

資料の講読と討論を60%、期末レポートを40%とする。

■オフィスアワー

月曜2限

■受講要件

なし。

■備考

なし。

■科目名			
内陸アジア比較社会論			
■英語名			
Comparative Study of Inland Asian Society			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
尾崎孝宏	099-285-8878	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
主としてモンゴル系の移動牧畜民社会に関する文献を輪読し、内容に関する議論を行う。対象地域は東アジア内陸部を予定している。			
■学修目標			
移動牧畜民研究の最先端を理解する。 学術論文という文章ジャンルのフォーマットを理解し、体得する。			
■授業計画			
本授業は、毎回遠隔方式で行う予定である。 第1回：授業ガイダンス 第2回：リーディングリストの作成 第3回：文献購読とディスカッション（第1クルーその1） 第4回：文献購読とディスカッション（第1クルーその2） 第5回：文献購読とディスカッション（第1クルーその3） 第6回：文献購読とディスカッション（第2クルーその1） 第7回：文献購読とディスカッション（第2クルーその2） 第8回：文献購読とディスカッション（第2クルーその3） 第9回：文献購読とディスカッション（第3クルーその1） 第10回：文献購読とディスカッション（第3クルーその2） 第11回：文献購読とディスカッション（第3クルーその3） 第12回：文献購読とディスカッション（第4クルーその1） 第13回：文献購読とディスカッション（第4クルーその2） 第14回：文献購読とディスカッション（第4クルーその3） 第15回：まとめ			
■教科書			
受講者との相談で決定する。			
■参考書			
授業中に適宜紹介する。			
■成績の評価基準			
授業への貢献度（60%）、発表報告の質（40%）			
■オフィスアワー			
金曜日昼休み、研究室 それ以外の時間は事前予約のこと			
■受講要件			
特になし			
■備考			
特になし。			

■科目名			
応用倫理学			
■英語名			
Applied Ethics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
柴田健志	285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
応用倫理学の標準的な文献の読解と議論を行ないます。			
■学修目標			
応用倫理学の主要問題とその哲学的問題点の理解を目標にします。			
■授業計画			
指定した文献の要旨を学生が提出し、問題点を明らかにした上で、その意義、特質等を吟味していきます。 1　倫理とは 2　文化相対主義 3　主観主義 4　宗教対倫理 5　エゴイズム 6　功利主義 7　価値 8　人格 9　社会契約 10　徳の倫理 11　正義 12　公平 13　相互性 14　権利 15　法			
■教科書			
James Rachels, The Elements of Moral Philosophy			
■参考書			
授業の中で適宜紹介します。			
■成績の評価基準			
2,000字以上のレポートによります。評価のポイントは、（1）問題提起の的確さ30%（2）結論の妥当性30%（3）論理の整合性40%、以上3点です。			
■オフィスアワー			
月曜・３限			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
地域言語文化史			
■英語名			
Regional Language and Cultural History			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
丹羽謙治	099－285－8904	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
地域に根ざした文学・芸能・文化に関する言語表現資料の掘り起こしを通して、従来の学問分野を越境して総合的に文化を捉えなおす。言語文化資料の読解はもとより、資料の保存や資料紹介のありかたについても考察する。今期は昨年度に引き続き、近代公立図書館の成立史の諸問題をさまざまな角度から分析する。また集積したデータベースや分析結果を原稿化することをめざす。			
■学修目標			
１）地域文化史の知識を得ることができる。 ２）図書および資料に関する問題について深く理解することができる。			
■授業計画			
【すべて対面方式で実施する】ただし、コロナ感染症拡大状況によっては遠隔方式に切り替える。 第１回　イントロダクション 第２回　鹿児島の人物データベースの構築 第３回　データベース構築についての準備と議論 第４回　データベース構築についての試行 第５回　データベース構築作業 第６回　絵画資料のデータベースの構築 第７回　木脇家文書の絵画資料の見学 第８回　木脇家文書の絵画資料分析 第９回　木脇家文書の絵画資料のデータベース方法の議論 第１０回　絵画データベースの計画立案 第１１回　学生の研究発表 第１２回　学生の研究発表 第１３回　絵画データベースの構築実践 第１４回　人名データベースの構築実践 第１５回　総括			
■教科書			
プリントを配布			
■参考書			
必要に応じて授業中に紹介する。			
■成績の評価基準			
発表態度（２０％）およびレポート（データベース作成、８０％）。			
■オフィスアワー			
月曜日13時30分～14時20分			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
受講者によってテーマを変更することがある。			

■科目名

東アジア比較文化論

■英語名

East Asia Cross Culture Theory

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
高津孝	099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

印刷技術の発祥の地は中国である。中国においては早くも唐代後期より、印刷文化の時代に入り、10世紀以降の宋代において、出版文化は華々しく展開する。その後、印刷技術は東アジア全域に広がることになるが、本講義においては、中国の出版文化の展開と、東アジア全域にわたる図書の出版、流通、所蔵について検討を加える。特に今学期は、仏教典籍一般の出版、流通を取り扱う。

■学修目標

1，中国出版文化の展開を理解する。
2，仏教典籍の出版と流通を理解する。
3，出版文化の東アジア全域への展開と仏教文化との関係を理解する。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　導入
第２回　大蔵経とは何か
第３回　刻本大蔵経の３系統
第４回　開宝蔵
第５回　崇寧蔵
第６回　?盧蔵
第７回　思渓蔵
第８回　契丹蔵
第９回　金蔵
第１０回　磧砂蔵
第１１回　普寧蔵
第１２回　洪武南蔵、永楽南蔵と北蔵
第１３回　嘉興蔵
第１４回　龍蔵
第１５回　　まとめ

■教科書

李際寧『中国版本文化叢書　仏経版本』（江蘇古籍出版社、2002年）を使用する。

■参考書

張紹勲著、高津孝訳『中国の書物と印刷』（日本エディタースクール、1999年）。
T・F・カーター『中国の印刷術1,2―その発明と西伝』（平凡社、東洋文庫、1977年）。
井上進『中国出版文化史：書物世界と知の風景』（名古屋大学出版会，2002年）。

■成績の評価基準

レポート（50%）と平常点（50%）による。平常点は出席、報告、受講態度である。

■オフィスアワー

金曜日１限・中国文学研究室

■受講要件

特になし。

■備考

授業の計画は、受講生の研究テーマや関心を考慮して変更することもある。

■科目名			
内陸アジア比較社会論			
■英語名			
Comparative Study of Inland Asian Society			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
尾崎孝宏	099-285-8878	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
主としてモンゴル系の移動牧畜民社会に関する文献を輪読し、内容に関する議論を行う。対象地域は東アジア内陸部を予定している。			
■学修目標			
移動牧畜民研究の最先端を理解する。 学術論文という文章ジャンルのフォーマットをを理解し、体得する。			
■授業計画			
本授業は、毎回遠隔方式で行う予定である。 第1回：授業ガイダンス 第2回：リーディングリストの作成 第3回：文献購読とディスカッション（第1クルーその1） 第4回：文献購読とディスカッション（第1クルーその2） 第5回：文献購読とディスカッション（第1クルーその3） 第6回：文献購読とディスカッション（第2クルーその1） 第7回：文献購読とディスカッション（第2クルーその2） 第8回：文献購読とディスカッション（第2クルーその3） 第9回：文献購読とディスカッション（第3クルーその1） 第10回：文献購読とディスカッション（第3クルーその2） 第11回：文献購読とディスカッション（第3クルーその3） 第12回：文献購読とディスカッション（第4クルーその1） 第13回：文献購読とディスカッション（第4クルーその2） 第14回：文献購読とディスカッション（第4クルーその3） 第15回：まとめ			
■教科書			
受講者との相談で決定する。			
■参考書			
授業中に適宜紹介する。			
■成績の評価基準			
授業への取り組み態度（60%）、発表報告の質（40%）			
■オフィスアワー			
金曜日昼休み、研究室 それ以外の時間は事前予約のこと			
■受講要件			
特になし			
■備考			
特になし。			

■科目名			
社会言語学			
■英語名			
Sociolinguistics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
太田一郎	099-285-7566	iota@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

言語変異，言語行動など言語の運用面に見られる問題を社会との関わりという点から考察する。また，言語に関する問題の調査・分析方法などについても検討する。ただし、内容は受講生との相談によって変更することもあり得る。

■学修目標

(1) 言語と社会の関係を言語学の理論に基づいてとらえることができる。
(2) 自ら問題点を見つけ出し，調査・分析を実施できる。
(3) 学術論文や報告書を執筆できる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定であるが，受講生の事情に応じて遠隔授業とすることもある。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　ガイダンス
第２回　テキスト研究・調査実習（１）
第３回　テキスト研究・調査実習（２）
第４回　テキスト研究・調査実習（３）
第５回　テキスト研究・調査実習（４）
第６回　テキスト研究・調査実習（５）
第７回　テキスト研究・調査実習（６）
第８回　中間考察と討論（１）
第９回　テキスト研究・調査実習（７）
第10回　テキスト研究・調査実習（８）
第11回　テキスト研究・調査実習（９）
第12回　テキスト研究・調査実習（10）
第13回　テキスト研究・調査実習（11）
第14回　期末考察と討論（２）
第15回　講義の総括

受講生との相談により変更することもある

■教科書

指定しない

■参考書

適宜指示する

■成績の評価基準

授業への参加（発表，討論）(50%）調査報告または学期末レポート（50%)

■オフィスアワー

月曜5限（研究室）

■受講要件

なし

■備考

特になし。

■科目名			
物質文化論			
■英語名			
Material Culture Studies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
渡辺芳郎	099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
近世考古学の諸問題について			
■学修目標			
考古学的研究成果についての理解を深める			
■授業計画			
第１回　イントロダクション 第２回　近世の考古学的研究の現状と課題(1)：近世城郭 第３回　近世の考古学的研究の現状と課題(2)；都市と農村 第４回　近世の考古学的研究の現状と課題(3)：城下町の遺構 第５回　近世の考古学的研究の現状と課題(4)：城下町の遺物 第６回　近世の考古学的研究の現状と課題(5)：町屋の遺構 第７回　近世の考古学的研究の現状と課題(6)；町屋の遺物 第８回　近世の考古学的研究の現状と課題(7)：農村の遺構 第９回　近世の考古学的研究の現状と課題(8)：農村の遺物 第10回　近世の考古学的研究の現状と課題(9)：社会格差と遺物 第11回　近世の考古学的研究の現状と課題(10)：経済活動と考古学 第12回　近世の考古学的研究の現状と課題(11)：墓地遺跡 第13回　近世の考古学的研究の現状と課題(12)：生産遺跡（窯跡など） 第14回　近世の考古学的研究の現状と課題(13)：寺社跡 第15回　まとめ （対面授業を予定しているが、状況次第では遠隔授業）			
■教科書			
なし			
■参考書			
なし			
■成績の評価基準			
平常点（50%）・レポート（50%）			
■オフィスアワー			
月曜日３限目			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
平成29年度後期は開講しません。			

■科目名			
ヨーロッパ近代文学論			
■英語名			
Modern European Literature			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大和高行	099-285-7570	yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp	

■共同担当教員

なし

■授業概要

本授業では、近代初期から18世紀初頭までのイギリス演劇を軸としながら、劇場構造の変化、観客の嗜好の変化、演劇批評や道徳改善運動の影響によってもたらされたヨーロッパ近代文学の質的変化について、比較文学・演劇史的観点から考察する。また、文学テクストに見られる帝国主義のありようにも注目する。

■学修目標

近代初期から18世紀初頭までのイギリス演劇の諸要素とヨーロッパ近代文学の質的変化の関係についてせつめいすることができる。

■授業計画

第1回 ガイダンス(ZOOMによるオンライン型)
第2回 発表と討論(1)(ZOOMによるオンライン型)
第3回 発表と討論(2)(ZOOMによるオンライン型)
第4回 発表と討論(3)(ZOOMによるオンライン型)
第5回 発表と討論(4)(ZOOMによるオンライン型)
第6回 発表と討論(5)(ZOOMによるオンライン型)
第7回 発表と討論(6)(ZOOMによるオンライン型)
第8回 発表と討論(7)(ZOOMによるオンライン型)
第9回 発表と討論(8)(ZOOMによるオンライン型)
第10回 発表と討論(9)(ZOOMによるオンライン型)
第11回 発表と討論(10)(ZOOMによるオンライン型)
第12回 発表と討論(11)(ZOOMによるオンライン型)
第13回 発表と討論(12)(ZOOMによるオンライン型)
第14回 発表と討論(13)(ZOOMによるオンライン型)
第15回 総括(ZOOMによるオンライン型)

＊オンライン型講義は教室での通常講義に変更になる可能性がある。

■教科書

必要に応じて適宜、指定する。

■参考書

・井野瀬久美惠『興亡の世界史 大英帝国という経験』(講談社学術文庫)東京、講談社、2017年。
・鹿児島近代初期英国演劇研究会(訳)『王政復古期シェイクスピア改作戯曲選集』福岡、九州大学出版会、2018年。
・吉田徹夫(監修)『映画で楽しむイギリスの歴史』東京、金星堂、2010年。
その他、授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

レポート課題(80%程度)、授業中の討論等への積極的な参加態度等(20%程度)とし、総合的に評価する。

■オフィスアワー

水曜日、9:15-10:15、大和研究室

■受講要件

特になし。

■備考

特になし。

■科目名			
ヨーロッパ社会史			
■英語名			
History of European Society			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
藤内哲也	099-285-8863	ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
中世～近世のヨーロッパ史上の諸問題をとりあげ、その歴史的な意義や研究の視点・手法などについて考察します。具体的なテーマは受講者との相談により決定します。受講者による報告や討論などを中心として、より幅広い地域や時代に関心を向けることで、比較史的な視点を学んでいきたいと考えています。			
■学修目標			
１．ヨーロッパ史研究におけるさまざまな問題についての理解を深める ２．歴史研究の視点や手法について理解する ３．比較史的な視点を身につける			
■授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行います。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業中に通知します。 第１回　ガイダンス・テーマ決定 第２回　文献読解・報告・討論(1) 第３回　文献読解・報告・討論(2) 第４回　文献読解・報告・討論(3) 第５回　文献読解・報告・討論(4) 第６回　文献読解・報告・討論(5) 第７回　文献読解・報告・討論(6) 第８回　文献読解・報告・討論(7) 第９回　文献読解・報告・討論(8) 第１０回　文献読解・報告・討論(9) 第１１回　文献読解・報告・討論(10) 第１２回　文献読解・報告・討論(11) 第１３回　文献読解・報告・討論(12) 第１４回　文献読解・報告・討論(13) 第１５回 まとめと展望			
■教科書			
とくに指定しません（受講生と相談のうえ、テキストを選定します）			
■参考書			
金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年 その他の文献は授業中に適宜紹介します			
■成績の評価基準			
報告や討論の内容により総合的に判断します(100%)			
■オフィスアワー			
金曜４限（メールにてアポを取ること）			
■受講要件			
とくになし			
■備考			
とくになし			

■科目名			
東アジア言語文化論			
■英語名			
Language and Culture of East Asia			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
三木夏華	0992857502	sanmu@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
本授業では中国語の歴史文法に関する文献、論文の講読をもとに、関連する諸問題について討論する。			
■学修目標			
１．近代漢語の語法について専門知識を習得する。 ２．中国語などの外国語で書かれた資料を読むことにより、外国語の読解力を向上させる。			
■授業計画			
第１回　ガイダンス 第２回講読（内容は受講者により対応する） 第3回講読（内容は受講者により対応する） 第4回講読（内容は受講者により対応する） 第5回解説・講義 第6回講読（内容は受講者により対応する） 第7回講読（内容は受講者により対応する） 第8回講読（内容は受講者により対応する） 第9回解説・講義 第10回講読（内容は受講者により対応する） 第11回講読（内容は受講者により対応する） 第12回講読（内容は受講者により対応する） 第13回講読（内容は受講者により対応する） 第14回解説・講義 第15回総括			
■教科書			
ガイダンス時に紹介する。			
■参考書			
適宜紹介する。			
■成績の評価基準			
授業への取り組み態度（出席、発表）100%			
■オフィスアワー			
木曜日2限			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
東アジア言語文化論			
■英語名			
Language and Culture of East Asia			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
三木夏華	0992857502	sanmu@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
本授業では、中国方言学に関する論文、著作、資料文献の講読をもとに、関連する諸問題について討論する。（内容は受講者により対応する）。			
■学修目標			
１．中国方言学についての専門知識を習得する。 ２．日本語だけでなく、中国語などの外国語で書かれた資料を読むことにより、外国語の読解力を向上させる。			
■授業計画			
第１回　ガイダンス 第２回講読（内容は受講者により対応する） 第3回講読（内容は受講者により対応する） 第4回講読（内容は受講者により対応する） 第5回解説・講義 第6回講読（内容は受講者により対応する） 第7回講読（内容は受講者により対応する） 第8回講読（内容は受講者により対応する） 第9回解説・講義 第10回講読（内容は受講者により対応する） 第11回講読（内容は受講者により対応する） 第12回講読（内容は受講者により対応する） 第13回講読（内容は受講者により対応する） 第14回解説・講義 第15回総括			
■教科書			
講義にて紹介する。			
■参考書			
講義中に適宜紹介する。			
■成績の評価基準			
平常点（出席、発表、受講態度）100%			
■オフィスアワー			
木曜日2限			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
ヨーロッパ社会史			
■英語名			
History of European Society			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
藤内哲也	099-285-8863	ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
中世～近世のヨーロッパ史上の諸問題をとりあげ、その歴史的な意義や研究の視点・手法などについて考察します。具体的なテーマは受講者との相談により決定します。受講者による報告や討論などを中心として、より幅広い地域や時代に関心を向けることで、比較史的な視点を学んでいきたいと考えています。			
■学修目標			
１．ヨーロッパ史研究におけるさまざまな問題についての理解を深める ２．歴史研究の視点や手法について理解する ３．比較史的な視点を身につける			
■授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行います。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業中に通知します。 第１回　ガイダンス 第２回　文献読解の方法 第３回　文献読解（１） 第４回　報告・討論（１） 第５回　文献読解（２） 第６回　報告・討論（２） 第７回　文献読解（３） 第８回　報告・討論（３） 第９回　文献読解（４） 第１０回　報告・討論（４） 第１１回　文献読解（５） 第１２回　報告・討論（５） 第１３回　文献読解（６） 第１４回　報告・討論（６） 第１５回 まとめと展望			
■教科書			
受講者と相談してテキストを選定します。また、プリント等を配布することもあります。			
■参考書			
金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年 その他の文献は授業中に適宜紹介します			
■成績の評価基準			
報告や討論の内容により総合的に判断します(100%)			
■オフィスアワー			
金曜４限（メールでアポを取ること）			
■受講要件			
とくになし			
■備考			
とくになし			

■科目名			
多文化社会史			
■英語名			
History of Multicultural Societies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
細川道久	7567（内線）	hos※leh.kagoshima-u.ac.jp ※はアットマーク	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

【zoomを使った遠隔リアルタイム型で行なう】

本授業では、カナダに焦点を当て、移民社会の形成、移民政策の展開、移民と国民統合・社会統合など、移民社会にまつわる諸問題について歴史的に考察する。あわせて、他の社会との関係史・比較史的考察を行ない、多民族・多文化社会の歴史的展開に関する理解を深める。

■学修目標

１．カナダ史に関する専門的知識を修得する。
２．多文化社会の歴史的展開を関係史・比較史の視点から理解する。

■授業計画

【zoomを使った遠隔リアルタイム型で行なう】

第１回　ガイダンス
第２回　研究文献読解、報告、討論
第３回　研究文献読解、報告、討論
第４回　研究文献読解、報告、討論
第４回　研究文献読解、報告、討論
第６回　研究文献読解、報告、討論
第７回　研究文献読解、報告、討論
第８回　研究文献読解、報告、討論
第９回　研究文献読解、報告、討論
第10回　研究文献読解、報告、討論
第12回　研究文献読解、報告、討論
第13回　研究文献読解、報告、討論
第14回　研究文献読解、報告、討論
第15回　総括討論

■教科書

英語および日本語のテキスト。受講生と相談して決めることがある。

■参考書

細川道久『カナダの自立と北大西洋世界――英米関係と民族問題』刀水書房、2014年
D・クレマン（細川道久訳）『カナダ人権史――多文化共生社会はこうして築かれた』明石書店、2018年
Ｖ・ノールズ（細川道久訳）『カナダ移民史――多民族社会の形成』明石書店、2014年
細川道久編著『カナダ史を知るための５０章』明石書店、2017年
細川道久『ニューファンドランド――いちばん古くていちばん新しいカナダ』彩流社、2017年
細川道久『「白人」支配のカナダ史――移民・先住民・優生学』彩流社、2012年
細川道久『カナダ・ナショナリズムとイギリス帝国』刀水書房、2007年
細川道久『カナダの歴史がわかる25話』明石書店、2007年
木村和男編『カナダ史』山川出版社、1999年
日本カナダ学会編『新版　史料が語るカナダ』有斐閣、2008年

藤川隆男編『白人とは何かーーホワイトネス・スタディーズ入門』刀水書房、2005年

■成績の評価基準

報告・質疑応答など、授業への取り組み態度（100%）。

■オフィスアワー

金曜日10時～11時　研究室

■受講要件

西洋史に関する十分な知識、かつ、英語の十分な読解力を有する者の受講を望む。

■備考

特になし。

■科目名

地域言語文化史

■英語名

Regional Language and Cultural History

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
丹羽謙治	099－285－8904	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

地域に根ざした文学・芸能・文化に関する言語表現資料の掘り起こしを通して、従来の学問分野を越境して総合的に文化を捉えなおす。言語文化資料の読解はもとより、資料の保存や資料紹介のありかたについても考察する。今期は江戸期に鹿児島を訪問した文人の文章を読み解き、文人の交友関係や描写するものとしないものについての議論を行う。

■学修目標

１）地域文化史の知識を得ることができる。
２）漢文資料を正しく読解し注釈を施すことができる。

■授業計画

対面で実施する。コロナ感染症拡大に伴って遠隔（オンライン）方式に切り替えることある。

第１回　イントロダクション
第２回　テキストの検討（諸本異同）
第３回　亀井南冥『南遊紀行』読解
第４回　亀井南冥『南遊紀行』読解
第５回　亀井南冥『南遊紀行』読解
第６回　亀井南冥『南遊紀行』読解
第７回　薮孤山『孤山文集』読解
第８回　薮孤山『孤山文集』読解
第９回　薮孤山『孤山文集』読解
第10回　薮孤山『孤山文集』読解
第11回　薮孤山『孤山文集』読解
第12回　薮孤山『孤山文集』読解
第13回　薮孤山『孤山文集』読解
第14回　薮孤山『孤山文集』読解
第15回　　総括

■教科書

プリント配布

■参考書

授業中に適宜紹介する。

■成績の評価基準

発表態度とレポート(100%)

■オフィスアワー

月曜日３限

■受講要件

なし。

■備考

特になし。

■科目名			
文化テクスト論			
■英語名			
Studies on Cultural Texts			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
竹内勝徳	256-8874	takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
文学や映画、音楽について考えるための批評や小説作品を英語の原典で読み、文化圏の違いや時代、文脈との関連で特定の作品がどのような意味を持つのかを分析する。			
■学修目標			
文学や映画、音楽作品の意義を後半な視野と深い洞察により捉えなおす。			
■授業計画			
第1回オリエンテーション(online) 第2回課題設定(online) 第3回文献精読(online) 第4回文献精読(online) 第5回文献精読(online) 第6回プレゼンテーション(online) 第7回プレゼンテーション(online) 第8回プレゼンテーション(online) 第9回プレゼンテーション(online) 第10回論文指導(online) 第11回論文指導(online) 第12回論文指導(online) 第13回論文指導(online) 第14回論文指導(online) 第15回総括(online)			
■教科書			
授業中に決定する。			
■参考書			
授業中に決定する。			
■成績の評価基準			
授業中の発表50%とレポート50%。			
■オフィスアワー			
月曜昼休み			
■受講要件			
自分の研究課題について十分な準備をしていること。			
■備考			
授業外では４時間ほど課題資料やテキストを事前に読解し、授業での指摘について事後に再度確認することが望まれる。			

■科目名			
応用倫理学			
■英語名			
Applied Ethics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
柴田健志	285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
応用倫理学の標準的な文献の読解と議論を行ないます。			
■学修目標			
応用倫理学の主要問題とその哲学的問題点の理解を目標にします。			
■授業計画			
指指定した文献の要旨を学生が提出し、問題点を明らかにした上で、その意義、特質等を吟味していきます。 1　倫理とは 2　文化相対主義 3　主観主義 4　宗教対倫理 5　エゴイズム 6　功利主義 7　価値 8　人格 9　社会契約 10　徳の倫理 11　正義 12　公平 13　相互性 14　権利 15　法			
■教科書			
James Rachels, The Elements of Moral Philosophy			
■参考書			
授業の中で適宜紹介します。			
■成績の評価基準			
2,000字以上のレポートによります。評価のポイントは、（1）問題提起の的確さ30%（2）結論の妥当性30%（3）論理の整合性40%、以上3点です。			
■オフィスアワー			
月曜・３限			
■受講要件			
なし			
■備考			
特になし。			

■科目名
ヨーロッパ現代文学論

■英語名
Contemporary European Literature

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
竹岡健一	099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp

■共同担当教員
なし

■授業概要

目的：本授業の目的は、ヨーロッパの現代文学とその研究方法に関して理解を深めることにある。
内容：ドイツを中心に、現代ヨーロッパを代表する作家・作品、およびそれを理解する上で必要な分析方法や思想・歴史などについて詳しく考察する。
方法：資料を批判的に講読し、討論を行う。また、受講者は、授業で学んだ事柄について、学期末にレポートを作成する。

■学修目標

１．現代ヨーロッパ文学の代表的な作家・作品の特徴を述べることができる。
２．現代ヨーロッパ文学を研究するための方法論について、自らの考えを述べることができる。

■授業計画

本授業は、毎回対面形式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第１回　ガイダンス：授業の概要と学修目標の確認
第２回　資料の講読と討論（１）　19世紀末から1945年までのドイツ語圏の文学
第３回　資料の講読と討論（２）　旧西ドイツの文学
第４回　資料の講読と討論（３）　旧東ドイツの文学
第５回　資料の講読と討論（４）　ドイツ再統一以後の文学
第６回　資料の講読と討論（５）　1945年以後のスイス・オーストリアの文学
第７回　資料の講読と討論（６）　19世紀末から現代のアメリカ文学
第８回　資料の講読と討論（７）　19世紀末から現代のイギリス文学
第９回　資料の講読と討論（８）　19世紀末から現代のフランス文学
第１０回　資料の講読と討論（９）　文学研究の方法論（１）　精神分析批評
第１１回　資料の講読と討論（１０）　文学研究の方法論（２）　フェミニズム批評
第１２回　資料の講読と討論（１１）　文学研究の方法論（３）　ロシア・フォルマリズム
第１３回　資料の講読と討論（１２）　文学研究の方法論（４）　構造主義
第１４回　資料の講読と討論（１３）　文学研究の方法論（５）　受容理論
第１５回　授業のまとめとふりかえり：身についた事柄の確認
期末試験は行わず、指定期日までにレポート提出を求める。

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

・宮下志朗・井口篤『ヨーロッパ文学の読み方』（放送大学教育振興会、2014年）
・中央大学人文科学研究所編『現代ヨーロッパ文学の動向：中心と周縁』（中央大学出版部、1996年）
・城眞一・吉川信『プラハとダブリン：20世紀ヨーロッパ文学における二つのトポス』（日本独文学会研究叢書066号、2009年）
・西脇順三郎（新倉俊一編）『ヨーロッパ文学』（慶応義塾大学出版会、2007年）
・黒田憲治・多田道太郎編『西洋文学事典』（筑摩書房、2012年）
・盛岡裕一編『西洋文学：理解と鑑賞』（大阪大学出版会、2011年）
・近藤耕人『ミメーシスを越えて：ヨーロッパにおける身体と言語』（水声社、2008年）
・三原芳秋・渡邊英理・鵜戸聡編『＜クリティカル・ワード＞文学理論：読み方を学び文学と出会いなおす』

（フィルムアート社、2020年）
・武田悠一『読むことの可能性：文学理論への招待』（彩流社、2017年）
・蓼沼正美『超入門！現代文学理論講座』（筑摩書房、2015年）
・西田谷洋『文学理論』（ひつじ書房、2014年）
・ピーター・バリー『文学理論講義・新しいスタンダード』（ミネルヴァ書房、2014年）

■成績の評価基準

資料の講読と討論を60%、期末レポートを40%とする。

■オフィスアワー

月曜2限

■受講要件

なし。

■備考

なし。

■科目名			
東アジア比較社会論			
■英語名			
Comparative Social History of East Asia			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
大田由紀夫	099-285-7560	ota@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
近世東アジア経済史に関する文献・資料等の検討を通じて、その歴史的動態を考察していく。おもに受講者による報告とこれに関する討論を中心として授業を進める。			
■学修目標			
近世東アジア経済史についての基礎的知識を修得し、東アジア社会を歴史的に把握することができる。			
■授業計画			
第１回　　ガイダンス 第２回～第１５回　報告と討論 ※なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知する。			
■教科書			
特になし。			
■参考書			
授業で適宜指示する。			
■成績の評価基準			
授業理解度60%、発言評価点40%			
■オフィスアワー			
授業・会議等以外の平日午後であればいつでも可。			
■受講要件			
東アジア近世史に関する大学院前期課程レベルの知識と漢文史料読解能力を有すること。			
■備考			
特になし。			

■科目名

文化政策特論

■英語名

Cultural Policy Intensive Studies

■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)
地域政策科学専攻	博士後期課程	文化政策コース

■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	集中講義	2単位	集中講義

■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
堀川　貴司	099-285-7525	horikawa@sido.keio.ac.jp

■共同担当教員

なし

■授業概要

「五山文学の諸問題」と題して、日本文学のジャンルのなかでもまだまだ馴染みのない五山文学について、時代を追って作品を概観しつつ、その制作の場である五山、作者である五山僧、形式や文体、宗教や学問との関係、中世文学の他のジャンルとの関係などについて考察する。

■学修目標

五山文学の始発から終焉まで、代表的な作者や作品について説明することができる。また、作品が生み出される背景となる宗教や学問との関係についても理解し、五山文学を中世文学・中世文化の中に正しく位置づけることができる。

■授業計画

本授業は対面で行う予定であるが、状況によってそれができない場合は、オンデマンド形式（授業資料と音声付きスライドの提示）に変更する。変更についてはあらかじめmanabaで通知する。

１．五山とは何か
２．五山僧の生活と読書
３．五山文学概観（１）鎌倉時代
４．五山文学概観（２）南北朝時代
５．五山文学概観（３）室町時代前半（15世紀）
６．五山文学概観（４）室町時代後半（16世紀）
７．五山文学概観（５）安土桃山・江戸時代（16世紀末・17世紀初）
８．五山文学の文体（１）疏
９．五山文学の文体（２）法語
10. 五山文学の文体（３）賛
11. 五山文学の文体（４）記
12. 詩と偈頌
13. 抄物（１）種類と対象
14. 抄物（２）注釈の方法
15. 中世文学のなかの位置づけ

■教科書

プリントを配布する。

■参考書

島尾新編『東アジアに漕ぎだす４　東アジアのなかの五山文化』（東京大学出版会、2014年）
玉村竹二『五山文学』（至文堂、1966年）
今泉淑夫『東語西話　室町文化寸描』（吉川弘文館、1994年）

■成績の評価基準

平常点（授業中の参加態度等）20パーセント、レポート80パーセント

■オフィスアワー

講義の前後

■受講要件

特になし。

■備考

図書館の五山文学に関する古典籍資料の閲覧を授業時間内に行う予定。

■科目名			
島の先史学			
■英語名			
Prehistory of Islands			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	島嶼政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
髙宮広土	099-285-7393	takamiya@cpi.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

地球上には星の数ほどの島々が点在しているが、ヒトはいつ頃から島という環境で生活をしはじめたのであろうか。本講義では先史時代におけるヒトと島嶼環境について考察する。世界に関しても講義をする予定であるが、主に奄美・沖縄諸島に焦点を当てる。また、このテーマを理解する上で、狩猟採集民族などの文化人類学的情報も必要であるので、このようなテーマも紹介したい。

■学修目標

日本では「島」という空間を考慮することなしに考古学・先史学がなされてきたが、島の先史学や考古学を行う際、その空間の特徴を吟味して学習・研究できることを目指す。

■授業計画

第１回　講義の紹介
第２回　ヒトの歴史１
第３回　ヒトの歴史2
第４回　ヒトと島嶼環境１
第５回　ヒトと島嶼環境2
第６回　狩猟採集民について１
第７回　狩猟採集民について２
第８回　琉球列島の先史時代
第９回　奄美・沖縄諸島の先史時代１
第１０回　奄美・沖縄諸島の先史時代２
第１１回　奄美・沖縄諸島の先史時代３
第１２回　奄美・沖縄諸島の先史時代４
第１３回　奄美・沖縄諸島の先史時代５
第１４回　結び
第１５回　質疑応答

■教科書

必要な資料は講義で配布する。

■参考書

『島の先史学』高宮広土

■成績の評価基準

レポートと講義への参加(100%)

■オフィスアワー

授業日の昼休み

■受講要件

先史学・考古学・人類学（形質人類学、文化人類学）に興味のある学生。

■備考

特になし

■科目名			
島嶼自然論			
■英語名			
Island Nature Study			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	島嶼政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
山本宗立	099-285-7391	sotayama@cpi.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
隔絶した小島嶼においては、島内での食糧・薬・工芸作物の確保が非常に重要である。自然災害や社会変化によって、島外からの資源に長期間頼ることができない状況がよく発生するにも関わらず、輸入資源に依存した生活に変化した島が多い。フードセキュリティーの観点から、島嶼部における有用植物を知ることは非常に重要となる。そこで、まず島嶼部における作物の特徴を理解するために、私たちが日常食べている作物の起源地を学ぶとともに、島嶼部の「根菜農耕文化複合」を理解する。次に、植物（だけではなく生物）が資源としてどのように利用されているかを民族植物学的視点から学ぶ。			
■学修目標			
日本からアジア・太平洋に至る島々に関して、人々の生活と社会の特徴や、植物とのかかわりあいについて考察し、島嶼域の自然について理解する。			
■授業計画			
1:概要・オリエンテーション 2:島の自然1 3:島の自然2 4:島の自然3 5:島の自然4 6:島の自然5 7:島の自然に関する討論 8:島の作物1 9:島の作物2 10:島の作物3 11:島の作物4 12:島の作物5 13:島の作物に関する討論 14:総合討論 15:総合討論			
■教科書			
必要に応じて指定する。			
■参考書			
『栽培植物と農耕の起源』 『民族植物学』 『イモとヒト』			
■成績の評価基準			
出席・受講態度・レポートから評価する(100%)。			
■オフィスアワー			
授業日の昼休み			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
島嶼社会論			
■英語名			
Island Societies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	島嶼政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
尾崎孝宏	099-285-8878	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
海洋という人類の居住不可能な地域に囲まれた可住地、という島嶼の持つ立地特性は、必ずしも島嶼に限られたものではなく、たとえば砂漠に囲まれたオアシス都市なども、同様の条件を有する。すなわち、「島嶼的」な社会は島嶼に限られたものではない。 この授業では、こうした「島嶼的」な諸社会のあり方を比較することで、自らのフィールド空間である、いわば「私の島」を、島嶼という文脈を離れて世界の諸社会の中に的確に位置づけるための視座の獲得を目指す。			
■学修目標			
島嶼社会の持つ特性を、島嶼という物理的な存在に頼らずに概念化できるようになる。 自らの調査対象とするフィールド空間を、類似の諸社会の中で的確に位置づけられるようになる。			
■授業計画			
本授業は、毎回遠隔方式で行う予定である。 第1回：授業ガイダンス 第2回：リーディングリストの作成 第3回：文献購読とディスカッション（第1クルーその1） 第4回：文献購読とディスカッション（第1クルーその2） 第5回：文献購読とディスカッション（第1クルーその3） 第6回：文献購読とディスカッション（第2クルーその1） 第7回：文献購読とディスカッション（第2クルーその2） 第8回：文献購読とディスカッション（第2クルーその3） 第9回：文献購読とディスカッション（第3クルーその1） 第10回：文献購読とディスカッション（第3クルーその2） 第11回：文献購読とディスカッション（第3クルーその3） 第12回：文献購読とディスカッション（第4クルーその1） 第13回：文献購読とディスカッション（第4クルーその2） 第14回：文献購読とディスカッション（第4クルーその3） 第15回：まとめ			
■教科書			
事前には指定せず、受講者との相談によって決定する。			
■参考書			
授業中に適宜紹介する。			
■成績の評価基準			
授業への取り組み態度（60%）、発表報告の質（40%）			
■オフィスアワー			
金曜日昼休み、研究室 それ以外の時間は事前予約のこと			
■受講要件			
特になし			
■備考			
特になし。			

■科目名			
島嶼社会論			
■英語名			
Island Societies			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	島嶼政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	演習	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
尾崎孝宏	099-285-8878	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			

■授業概要

海洋という人類の居住不可能な地域に囲まれた可住地、という島嶼の持つ立地特性は、必ずしも島嶼に限られたものではなく、たとえば砂漠に囲まれたオアシス都市なども、同様の条件を有する。すなわち、「島嶼的」な社会は島嶼に限られたものではない。
この授業では、こうした「島嶼的」な諸社会のあり方を比較することで、自らのフィールド空間である、いわば「私の島」を、島嶼という文脈を離れて世界の諸社会の中に的確に位置づけるための視座の獲得を目指す。

■学修目標

島嶼社会の持つ特性を、島嶼という物理的な存在に頼らずに概念化できるようになる。
自らの調査対象とするフィールド空間を、類似の諸社会の中で的確に位置づけられるようになる。

■授業計画

本授業は、毎回遠隔方式で行う予定である。
第1回：授業ガイダンス
第2回：リーディングリストの作成
第3回：文献購読とディスカッション（第1クルーその1）
第4回：文献購読とディスカッション（第1クルーその2）
第5回：文献購読とディスカッション（第1クルーその3）
第6回：文献購読とディスカッション（第2クルーその1）
第7回：文献購読とディスカッション（第2クルーその2）
第8回：文献購読とディスカッション（第2クルーその3）
第9回：文献購読とディスカッション（第3クルーその1）
第10回：文献購読とディスカッション（第3クルーその2）
第11回：文献購読とディスカッション（第3クルーその3）
第12回：文献購読とディスカッション（第4クルーその1）
第13回：文献購読とディスカッション（第4クルーその2）
第14回：文献購読とディスカッション（第4クルーその3）
第15回：まとめ

■教科書

事前には指定せず、受講者との相談によって決定する

■参考書

授業中に適宜紹介する

■成績の評価基準

授業への取り組み態度（60%）、発表報告の質（40%）

■オフィスアワー

金曜日昼休み、研究室
それ以外の時間は事前予約のこと

■受講要件

特になし

■備考

特になし。

■科目名			
島嶼経営論			
■英語名			
Island Business Administration			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	島嶼政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
萩野誠	7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
島嶼経営には二つの意味がある。 一つが島嶼地域に存在する産業のマネジメントである。 もう一つが、島嶼地域の経営という意味での行政的な側面である。 本講義では、 この両面について再認識をおこなわせ、両者を結合する方策について、分析を加える。			
■学修目標			
?島嶼地域の企業経営について理解する ?島嶼地域の行政の役割について理解する ?島嶼経営を総合的な側面から考察する能力をつける			
■授業計画			
第１回　講義概要 第２～６回　島嶼地域の企業経営に関する各自の報告討論 第７～１１回　島嶼地域の行政経営に関する各自の報告討論 第１２～１６回　統合した観点による報告			
■教科書			
なし			
■参考書			
なし			
■成績の評価基準			
報告と討論能力(100%)			
■オフィスアワー			
講義終了後			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
なし			

■科目名			
島嶼経済論			
■英語名			
Island Economics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	島嶼政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
西村知	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
受講生の研究目的に合わせて、重要文献の輪読をおこなう。また、個人研究報告もおこなっていただく			
■学修目標			
1．文献の収集方法を身につける 2．文献をたくさん読む 3．研究の方向性を明確にする			
■授業計画			
1．オリエンテーション（授業の進め方） 2．受講生の研究内容の確認 3．文献収集の方法（教師による解説） 4．研究文献の報告（受講生による収集結果の報告） 5-14 文献の輪読（7回）、個人報告（3回） 15．総括（受講生による今後の研究方向の報告と教師のアドバイス）			
■教科書			
授業の開始後に指示する。			
■参考書			
授業の開始後に指示する。			
■成績の評価基準			
50点：提出物（文献リスト、発表レジュメ） 50点：授業中の議論			
■オフィスアワー			
水曜日　13:00-14:00（事前にメールなどで連絡すること）			
■受講要件			
なし			
■備考			
なし			

■科目名			
島嶼経済論			
■英語名			
Island Economics			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	島嶼政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
西村知	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
受講生の研究目的に合わせて、重要文献の輪読をおこなう。また、個人研究報告もおこなっていただく。 「＊ 遠隔形式でおこなう予定であるが、 状況によっては対面形式に変 更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。 」			
■学修目標			
1．文献の収集方法を身につける 2．文献をたくさん読む 3．研究の方向性を明確にする			
■授業計画			
1．オリエンテーション（授業の進め方） 2．受講生の研究内容の確認 3．文献収集の方法（教師による解説） 4．研究文献の報告（受講生による収集結果の報告） 5-14 文献の輪読（7回）、個人報告（3回） 15．総括（受講生による今後の研究方向の報告と教師のアドバイス） ＊manabaで課題を出します。レポートを提出していただきます。			
■教科書			
授業の開始後に指示する			
■参考書			
授業の開始後に指示する			
■成績の評価基準			
50点：提出物（文献リスト、発表レジュメ） 50点：授業中の議論			
■オフィスアワー			
水曜日：１２：００－１３：００（事前にメール等で連絡すること）			
■受講要件			
なし			
■備考			
なし			

■科目名			
島嶼経営論			
■英語名			
Island Business Administration			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	島嶼政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
萩野誠	7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
講義の島嶼経営論は、個別の島嶼を対象とする。 受講生は、自分の転倒する島嶼を選択し、フィールド調査をもとにした 報告をおこなう。 前期で培った分析能力をもとにして、島嶼に関する総合政策提言をおこなう。			
■学修目標			
?フィールド調査能力をつける ?島嶼に関する総合研究のノウハウを習得する ?政策提言の手法を身につける			
■授業計画			
第１回　講義概要 第２～１０回　島嶼実態調査報告 第１０～１６回　政策提言			
■教科書			
なし			
■参考書			
なし			
■成績の評価基準			
報告による(100%)			
■オフィスアワー			
講義終了後			
■受講要件			
島嶼に関する調査ができるもの			
■備考			
なし			

■科目名			
島嶼産業論			
■英語名			
Island Industries			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	島嶼政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
西村　知	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
受講生の専門に合わせて島嶼の産業に関する文献をテキストとして選定し解読する。			
■学修目標			
島嶼産業の問題を理解する。 島嶼産業の分析視角を養う。			
■授業計画			
1 オリエンテーション 2 テキストの選定と解説 3-15 テキスト解読			
■教科書			
開講後お知らせする。			
■参考書			
開講後お知らせする。			
■成績の評価基準			
報告内容(100%)。			
■オフィスアワー			
金曜日5:30-6:00pm			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
島嶼産業論			
■英語名			
Island Industries			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	島嶼政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
西村　知	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
島嶼の産業に関する文献を受講生の専門領域に合わせて解読する。 「＊ 遠隔形式でおこなう予定であるが、 状況によっては対面形式に変 更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。 」			
■学修目標			
受講生の専門にとって重要な島嶼の産業に関する基本的な知識と分析視角を養う。			
■授業計画			
1 オリエンテーション 2 テキストの選択および解説 3-15 テキストの解読 ＊課題をmanabaで出します。レポートを提出していただきます。			
■教科書			
開講後に知らせる。			
■参考書			
開講後に知らせる。			
■成績の評価基準			
授業におけるテキスト報告（50%）と議論の質（50%）（0-100点） The degree of understanding of the theories. (report:50%, discussion:50%)			
■オフィスアワー			
金曜日　5:30-6:00pm			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			

■科目名			
島嶼自然論			
■英語名			
Island Nature Study			
■開講専攻	■課程	■コース(博士後期課程のみ)	
地域政策科学専攻	博士後期課程	島嶼政策コース	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
選択科目	講義	2単位	1～3年
■担当教員	■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）	
山本宗立	099-285-7391	sotayama@cpi.kagoshima-u.ac.jp	
■共同担当教員			
なし			
■授業概要			
隔絶した小島嶼においては、島内での食糧・薬・工芸作物の確保が非常に重要である。自然災害や社会変化によって、島外からの資源に長期間頼ることができない状況がよく発生するにも関わらず、輸入資源に依存した生活に変化した島が多い。フードセキュリティーの観点から、島嶼部における有用植物を知ることは非常に重要となる。そこで、まず島嶼部における作物の特徴を理解するために、私たちが日常食べている作物の起源地を学ぶとともに、島嶼部の「根菜農耕文化複合」を理解する。次に、植物（だけではなく生物）が資源としてどのように利用されているかを民族植物学的視点から学ぶ。			
■学修目標			
日本からアジア・太平洋に至る島々に関して、人々の生活と社会の特徴や、植物とのかかわりあいについて考察し、島嶼域の自然について理解する。			
■授業計画			
1:概要・オリエンテーション 2:島の食用資源1 3:島の食用資源2 4:島の食用資源3 5:島の食用資源4 6:島の食用資源5 7:島の食用資源に関する討論 8:島の食文化1 9:島の食文化2 10:島の食文化3 11:島の食文化4 12:島の食文化5 13:島の食文化に関する討論 14:総合討論 15:総合討論			
■教科書			
必要に応じて指定する。			
■参考書			
『栽培植物と農耕の起源』 『民族植物学』 『イモとヒト』			
■成績の評価基準			
出席・受講態度・レポートから評価する(100%)。			
■オフィスアワー			
授業日の昼休み			
■受講要件			
特になし。			
■備考			
特になし。			